

はじめに

1.本書の構成

はじめに

1.本書の性格と構成

「ハイパー長文読解とはどんな本ですか?」

と聞かれたら、一言で言えば、短文の構造理解から始まり、最終的にはパラグラフリーディングまでに至る英文読解の手法を、一貫したメソッドで体系的に紹介した、今までにない全く新しいタイプの参考書兼問題集と答えることができるでしょう。

まず全体は以下の4部構成になっています。

- (1)第一章：「構造理解・完成編」
- (2)第二章：「長文読解・発展編」
- (3)第三章：「読解で役立つその他のルール」
- (4)第四章：「実践演習」

簡単にそれぞれの概要を説明しましょう。

(1)第一章：「構造理解・完成編」

本書には「HYPER LESSON BOOK REVIEW パーフェクトルール90」という別冊のルール集がついています。

☞HYPER LESSON BOOK REVIEW は、本ホームページからダウンロードしてください。このルール集は、受験生が必要とする大学受験の英文を読みこなす上で不可欠なほぼ全てのルールが網羅されています。ただその中では語りきれなかったルールもいくつかあ

ります。そしてそれが本章で全て解説されています。ですから「LESSON BOOK REVIEW パーフェクトルール⁷⁰」をベースに、本章をきちんとマスターすれば、構造分析[理解]レベルの英文読解は卒業と言っていいでしょう。

(2)第二章：「長文読解・発展編」

この章では、構造分析的[理解]レベルの英文読解をマスターした人が、その次のステップに飛躍するためのメソッドが紹介されています。一文一文は構造も取れるようになった。(単語さえわかれば)だいたい意味はつかめるようになった。でもそれが長い文章になると、

- ①前に書いてあったことを忘れてしまう。
- ②文と文のつながりが見えなくなってしまう。
- ③(長文総合問題の)効率の良い読み方の手順や答えの見つけ方がわからない。

本章はそんな悩みを全て解消してくれます。そして「評論文」「エッセイ」「説明文」「小説・物語文」といったジャンル別の読解法、更に要約問題への対処法、最終的にはパラグラフリーディングまでを無理なく段階を追ってマスターできる構成になっています。

(3)第三章：「読解で役立つその他のルール」

ここでは、ちょっとマニアックだけど、多くの人が知らない裏技的ルールが13項目に渡って紹介されています。たとえば

Jim reasonably refused their offer.

That explains his absence.

It was so silent there that a pin drop might have been heard.

といった英文も難なく理解できるようになります。これらをマスターすれば未知語の類推力はもちろん、ライバルに差をつけるもうワンランク上の英文和訳力に更に磨きをかけることができるでしょう。

(4)第四章：「実践演習」

この章では、ここまで学習した内容・ルールの全てを、実際の受験問題を用いて「英文読解編」「長文総合問題編」の2段階に分けて演習・実践します。特に「長文総合問題編」では、ただ(ここまで培った知識を)アウトプットするだけでなく、

- ①「内容一致問題」
- ②「内容説明問題」
- ③「指示語説明問題」
- ④「タイトル選択問題」
- ⑤「下線部言い換え問題」
- ⑥「空欄穴埋め問題」

といった、様々な設問に対する対処法・攻略の仕方を新しく学ぶことができるようになっています。

2.メインは「第二章」と「実践演習」。

本書のメインはなんといっても長文の読み方・解き方を学ぶ「第二章」とそれをアウトプットする「実践演習」です。

たとえば次の英文の下線部の意味がわかりますか？

In my opinion, Galileo's most important contribution to the advancement of science was to integrate three branches of knowledge previously separated - namely, mathematics, physics and astronomy. There was a feeling before then that astronomy dealt with the heavens, and therefore belonged to a domain outside normal natural laws. Yet Galileo turned the telescope on the heavens, and was able to deduce that the heavens were other worlds.

意見 貢献 進歩
科学 ~を統合する 分野 知識 それ以前は (ばらばらに) 別れていた
すなわち 数学 物理学 天文学 考え(方) それ(ガリレオ)以前には
天文学 ~を扱う 天(の領域) それ故 ~に属している 領域 ~の外側の
普通の 自然法則 しかし 向ける 望遠鏡 ~に 天
~だと推論する

正解は「天(の領域)もまた(地球と)同じ(ような)世界である」です。

でもなぜ other が「同じ(ような)」なのでしょう。文法的にはこう説明できます。

other worlds は another world の複数形です。実は another には「(〜と同じ)同類(の)」という意味があるのです。

(ex) If I'm a liar, you are another (liar).

ぼくがうそつきなら君だって僕と同じ同類(のうそつき)だ

つまり other worlds とは「(地球と)同類の世界」という意味になるわけです。ですが、これは another の語法を知っているから得られる解答の導き出し方であって、それを知らなければどうしたらいいのでしょうか？ 実際、そんな another の語法など知らない人がほとんどのはずです。

実は、another の語法など知らなくても、下線部の意味を読み取ってしまう方法があるのです。第二章にはこんな読解法が紹介されています。

5. 「字面として書かれていることの裏側の意味を予測してみる」。

たとえばこんな文章があったとします。

「ワーカホリックとはなんですか？ 15年前はそのような言葉はありませんでした。私の職場でもそのような言葉を使う人は誰一人いませんでした…」

こう書いてあった場合、「ということは今では、巷(ちまた)でよくその言葉を耳にするということか…」といったふうに、語られていることの裏側の意味を予測しながら読み進めてみることで、それが読みを深め、更に展開を素早くつかむことにつながる人が多いのです…

先程の英文では、この一文が大きなヒントになっていたのです。

There was a feeling before then that astronomy dealt with the heavens, and therefore belonged to a domain outside normal natural laws.

それ以前(ガリレオ以前)には、天文学は天(の領域)を扱うものであり、それ故、普通の自然法則の外側にある領域に属していると考えられていた

「ガリレオ以前は…と考えられていた」ということは、じゃあ「ガリレオはそうは考えなかった[その逆の考え方をした]のでは…」と字面の裏側の意味を予測し、

「ガリレオは、天文学もまた、普通の自然法則の内側にある領域に属している。つまり普通の自然法則が適用されうる領域(を扱うもの)だと考えた」

という展開がこの後にくるのではないかと頭を働かせるわけです。そこでその結果、そのあとの

(Galileo) was able to deduce that the heavens were other worlds.

「ガリレオは、天(の領域)は other worlds だと推論することができた」

という英文に、「ガリレオは、天(の領域)もまた、普通の自然法則が適用されうる領域(つまり地球と同じような世界)であると推論する(要するに「考える」)ことができた」という訳を与えることができる、即ち模範解答と内容的に同じ理解が得られてしまうわけです。

☞ Yet という「逆接」の論理マーカーもヒントになっている。論理マーカーについては、本書の後半で詳述している。また deduce の意味の類推法については LESSON BOOK REVIEW RULE-21 2. (1) を参照せよ。

【全訳】「私の考えでは、ガリレオの科学の進歩に対する最も重要な貢献は、それ以前はバラバラであった3つの学問—即ち数学、物理学、天文学—を1つに統合したことだ。それ以前(ガリレオ以前)には、天文学は天(の領域)を扱うものであり、それ故普通の自然法則の外側にある領域に属していると考えられていた。しかしガリレオは望遠鏡を天に向け、そして天(の領域)もまた、(地球と)同じような世界だと推論することができたのだ」

この一例のように、単語の知識がたとえなくても、内容を理解し、正解を導き出すルールが第二章には満載されています。

3. ホームページには本書をサポートするファイル群・動画講義が満載。

ボクのホームページ(「山下りょうとくのホームページ」)には、以下のような英語力向上に役立つ情報が多数収められています。

※ホームページは、パソコン・スマホから「山下りょうとく」で検索すればすぐヒットする。

①英単語・英熟語・英文法・英文読解・英作文・センター英語・発音アクセント・会話文に至るまで、総ページ数5000ページ超のファイル群。

愈々文法・語法・熟語・発音関連の演習問題だけでも1300題超。解説も市販の問題集のレベルを超える丁寧さ・わかりやすさ。

②本書で扱った全ての問題の音声ファイル。

愈々リスニングやシャドウイングの教材として活用してください。

③無料で視聴できる山下りょうとくの動画講義。

特に③はオススメ。河合塾で行うクオリティそのままの生講義を、ホームページ上で全て無料で読者は視聴できるようになっています。

4. LESSON BOOK REVIEW の併用。

最初に紹介したように、本書には「HYPER LESSON BOOK REVIEW パーフェクトルール90」という読解ルール集が付いています。

これまでの英語学習は、受験生がとにかくたくさんの英文を読み、その中で出会った未知の読解ルールを一つ一つ自分で覚え、整理していかなければなりません(それは途方もない労力のいる作業でした)。

「とにかく読めるようになりたければ、たくさん読め」

とよく言われますが「読めない」のに「読め」ってのは、よく考えればそれもなんだかおかしい話です。

そしてボクにも受験生時代経験があるのですが、ある英文が読めなくて先生のところに質問に行くと「あ〜、これはまだ教えてなかったんだけど、こんなルールがあつてね…」。でまた違う英文がわからなくて質問に行くと「あ〜、これもまだ教えてなかった

んだけど、こんなルールがあってね…」。

こんなことの繰り返しの中で

「いったいどれだけ英文読まなきゃいけないんだろ…(T_T)」

と、言いようのない不安と絶望感にうちひしがれたものでした。

しかしもうそんな不安を感じる必要を受験生はなくなりました。なぜなら「HYPER LESSON BOOK REVIEW パーフェクトルール90」には、(先程も紹介したように)受験生が必要とする大学受験の英文を読みこなす上で不可欠なほぼ全てのルールが網羅されているからです。つまり(もう何百という英文をコツコツ読まなくても)これをマスターすることで幾百幾千の英文を読む以上に速い「大学受験制覇の読解力獲得の最短・最速ルート」を一気に駆け上がることができるのです。

またこの「パーフェクトルール90」は切り離して使えるので、本書の解説を読むときに便利だけでなく、これだけを持ち歩いて学校や塾の勉強に活用することもできます。

5. 本書で用いる読解記号について。

①主節の主語…㊸ ㊸主節とは、接続詞等のついていない、文の骨組みとなる「S+V」。

②主節の動詞…㊹

③従属節中の主語…S ㊸従属節とは、簡単に言うと「接続詞(疑問詞・関係詞)+S+V」の構造をしたもの。
ただし、接続詞といっても「等位接続詞」と呼ばれるand, but, or等は除く。

④従属節中の動詞…V

(ex) He thought that he loved her.
 ㊸ ㊹ S V O

⑤目的語…O 接続詞…(接) 過去分詞…p.p.

補語……C 準動詞の目的語や補語…〈O〉, 〈C〉

関係代名詞…関・代 仮主語、真主語…[仮・主], [真・主]

関係副詞…関・副 仮目的語、真目的語…[仮・目], [真・目]

(ex) The movie made the people feel impressed.
 ㊸ ㊹ O C 〈C〉

- ・ make O C: OをCにする
- ・ feel C: Cの感じがする

④上の英文で、feel は make O C のC(補語)になっている。そしてこの feelも自身のC(補語)として impressedをとっている(feel C で「Cの感じがする」)。故にimpressed の下には<O>という記号が振ってある。英文の意味は「その映画は人々を(して)感動せしめた → その映画に人々は感動した」。

⑥副詞(句・節)と主節の切れ目… //

④つまり、「さあ、ここから主節がはじまりますよ!」というところは//で区切ってある、ということ。

主節は文の骨組みを作るものなので、主節が始まるところは二重の / (スラッシュ)を引く。

(ex) When he arrived there// he called her.

⑤+⑥

To tell the truth// he is married.

⑤+⑥

⑦場合によって文の主要素にならない箇所等は()でくくることもある。

⑧後置修飾やその他の記号に関して。

1.基本的に「節」の後置修飾については、それらを[] や四角枠で囲って、(修飾する語に向かって)矢印を引いている。

2.基本的に「句」の後置修飾については、それらに波線を引いて(修飾する語に向かって)矢印を引いている。

(ex) The fact [that he made a mistake] is clear.

⑤ ↑

⑥ C

The baby sleeping in the bed is cute.

⑤ ↑

⑥ C

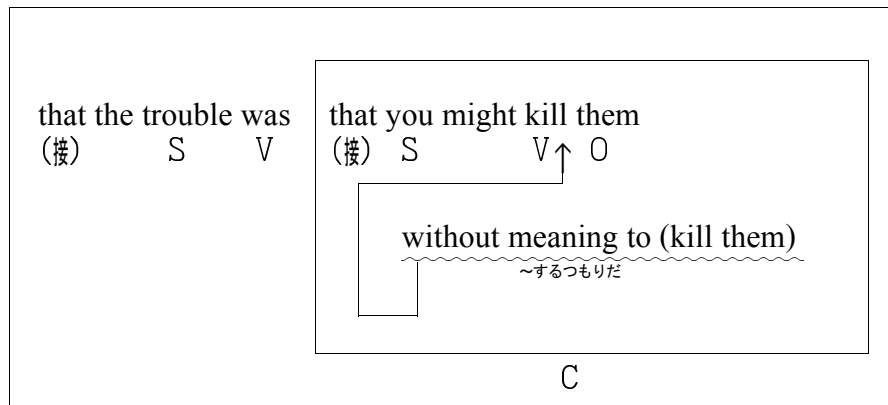
Linda (, one of the other children,) commented

Ⓢ



Ⓥ

発言した



○

會節の範囲があまりに大きい場合、上例のようにその節を四角枠で
囲んで表したりすることもある。

上例では四角枠で囲んだ that ~ them までが commented の○
(目的語)になっている。

目次

第一章 構造理解 完成編

1. 原形不定詞のマスター
 1. 1つの節に動詞は1つだけ
 2. 原形不定詞を用いた重要構文
2. that のマスター
 1. 指示代名詞の that
 2. (従位)接続詞の that
 3. 関係代名詞の that
 4. 強調構文を作る that
 5. その他の that
3. as のマスター
 1. 「as + A(名詞)」
 2. 「as + S+V～」

《課外授業1》～ 一瞬で単語を数百個覚えてしまう方法
4. with のマスター
 1. 「～と一緒に」「～と共に」
 2. 「～を持った」「～を身につけて」
 3. 「～で(もって)」「～のおかげで」
 4. 「動詞 + A with B」型。
 5. with+O+C 構文。
 6. 「～に関して」「～に対して」
 7. 「もし～があれば」
 8. 「with+抽象名詞」は副詞化する
 9. その他
5. クジラ構文 のマスター
 1. 「クジラ構文」って？
 2. 基本ルール
 3. A is no more ~ than B.
 4. A is no more ~ than B is C.
 5. A is no less ~ than B.
 6. no more than と no less than
 7. not more than と not less than
 8. no+比較級+than A

6. 名詞の訳し方

1. 名詞の動詞的・形容詞的な訳出
2. 抽象名詞には受動態もある
3. 「A of B」のうまい訳し方
4. 所有格が「所有」の意味にならない場合のうまい訳し方
5. 無生物主語構文のうまい訳し方

《課外授業2》～ otherwise に注意せよ!

第二章 長文読解 発展編

1. 「深く、正確に読む」ための10のアドバイス。

1. 英文同士の関係を意識して読む
2. 英文のジャンルを見分ける
3. 全体を貫いているテーマ・筆者の主張・論理展開を的確にとらえる
4. 予想(anticipation)しながら読む。心情を追う
5. 字面の裏側の意味を予測して読む
6. 筆者の主張と社会通念(あるいは時代背景)とを照合してみる
7. 抽象的内容の後に具体的説明あり
8. 具体例を通じて筆者は何を言いたいのかを考えてみる
9. パラグラフごとにメモを取って読み進めていく
10. 状況や流れがよくつかめなくてもあわてない

2. パラグラフの展開と評論文[論説文]系の英文の読み方。

1. 文章は「メイン」と「サポート」によって構成されている
2. トピックセンテンスの見極め方
3. サポート部分の見極め方
4. まとめ

3. 要約問題への応用。

1. 要約の基本手順。
2. 要約の中に入れるべきもの
3. 要約の際に削る[捨てる]べきもの

4. 論理マーカー

1. 前後を「逆(又は対照的)の関係」で結びつける論理マーカー
2. 前後を「イコールの関係」で結びつける論理マーカー
3. 前後を「原因[理由]と結果の関係」で結びつける論理マーカー
4. その他の頻出の論理マーカー。

5. 実際の長文総合問題の解き方の手順

1. 基本的な手順
2. 内容一致問題の解き方
3. その他の設問の解き方
4. 本文[問題文]を読み進めていく手順

第三章 読解で役立つその他のルール

1.品詞編

- 1.「一般の人」を表す one, we, you, they の対処法。
- 2.文修飾の副詞のうまい対処法
- 3.名詞にかかる形容詞をうまく訳せないときの対処法
- 4.「S=原因」「O=結果」の関係になる動詞達
- 5.depend on[upon] A / be dependent on[upon] A のうまい訳出法
- 6.this[these], such (a) のついた名詞について

2.構文編

- 1.比較で大切なこと
- 2.形式目的語[仮目的語]構文
- 3.否定の落とし穴
- 4.if節のない仮定法
- 5.when, where の意外な意味
- 6.「理由」「条件」を表す意外な接続詞

3.その他

- 1.「(a/the)+名詞+of」の形で1つの形容詞の働きをするもの
- 2.いろいろな「～について」とそのニュアンスの違い

第四章 実践演習

第一章

構造理解 完成編

ここでは、英文読解を更に飛躍させる秘伝とも言える内容・ルール・手法が"てんこもり"で紹介されています。

本章をマスターすれば、英文読解のファーストステージはクリア(完了)できたと言って過言でないでしょう。

とがあるはずです。上の英文でそれが使われていたのですがわかりましたか？

Seeing her husband ~ look at himself in the mirror, Nancy asked ...
O C[原形] ㊸ ㊹

「夫が鏡に映った自分の姿を見る」が前半部の骨組みになっています。every~fail までの挿入句がこの骨組みを分かりにくくしています。ちなみに文頭の Seeing は分詞構文で「時」もしくは「理由」を表しているとみればいいでしょう。without failは「必ず」という意味の熟語。Nancy asked... がこの英文の主節です。全体の訳は「夫が毎朝必ず仕事に出かけるときに鏡に映った自分の姿を見るのを見て、ついにナンシーはその理由を彼にたずねた」となります。

2.原形不定詞を用いた重要構文。

(1)「S+V+O+do[原形]~」型。

数ある動詞の中で「S+V+O+do[原形]~」となるのは以下の5パターンしかありません。それだけに超頻出です。しっかりおさえましょう。

㊸「do[原形]」が原形不定詞

①make+O+do[原形]~ 「Oに(強制的に)~させる」

(ex) My mother made me study hard. 母は私に猛勉強をさせた

②let+O+do[原形]~ 「Oに(許可して)~させる(てやる・おく)」

「Oが~するのを許す」

(ex) My parents finally let me travel abroad alone.

ついに両親は私が一人で海外旅行をするのを許してくれた

③have+O+do[原形]~ 「Oに~させる(してもらう)」

(ex) I had my husband post the letter for me.

私は自分の代わりに夫にその手紙を投函してもらった

④知覚動詞+O+do[原形]～ 「Oが～するのを見る(聞く・感じるなど)」

(ex) I saw him go into the store. 私は彼がその店に入るのを見た

⑤help+O+(to) do[原形]～ 「O(人)が～するのを手伝う」

「O(人)が～するのに一役買う」

(ex) Help me (to) find my umbrella. 傘を探すのを手伝ってくれ

上の①～③は、いわゆる「使役動詞」の作るSVOCの「C」に原形不定詞がくるパターンで、超頻出です。

また⑤の help の場合、「to do[原形]～」 「do[原形]～」 どちらを用いてもかまいません。

下の「(2)その他型」の④の help も同様です。

(2)その他型(特に①～⑥は文法・作文問題で頻出)。

①had better do[原形]～ 「～した方が良い」

(ex) You had better take an umbrella with you. 傘を持っていった方がいい

Ⓢhad best do[原形]～となることもあるが、これは had better の強調形。

②do nothing but do[原形]～ 「～ばかりしている」

(ex) The baby did nothing but cry. その赤ん坊は泣いてばかりいた

Ⓢこの but は「～以外(に)」という意味。

③would rather do[原形]～ (than do[原形]…) 「(…するより)むしろ～したい」

=had rather do[原形]～

(ex) I would rather stay here. むしろここに残っていたい

I would rather be killed than live without you.

君がいない中で生きるより殺されたほうがましだ

④help (to) do[原形]～ 「～するのを手伝う」「～するのに一役買う」

(ex) I helped (to) paint the house. 家のペンキ塗りを手伝った

⑤All S have to do is (to) do[原形]～ 「Sは～しさえすれば良い」

=S have only to do[原形]～

(ex) All you have to do is (to) study hard. 一生懸命勉強しさえすればいい
=You have only to study hard.

⑥All S can do is (to) do[原形]～ 「Sができるのは～することだけだ」

「Sは～する(より)他ない」

(ex) All we could do was (to) wait for him.

私たちは彼を待つより他なかった

會⑤⑥の to の省略について。

All S can[have to] do is to do[原形]～. の場合、can[have to] の直後の動詞が do であれば、is の後の to は省略できる。逆に do 以外の動詞が can[have to] の直後にきたときには to は省略できない。

⑦make do with A 「Aで間に合わせる、済ます」

(ex) We have to make do with what's available.

手に入るもので何とかしなければなりません

⑧let go (of) A 「Aから手を放す」

(ex) Let go (of) my shoulder, you're hurting me.

肩から手を離せよ。痛いじゃないか

⑨let drop A 「Aをうっかり漏らす、さりげなく言う」

=let fall A

《ポイント》

①英文中に「動詞の原形(原形不定詞)」が使われている場合、

(1)原形不定詞を用いた構文を知らない

(2)知っていても文構造が複雑

といった理由から、それをV(動詞)と読みまちがえやすいので注意。

②「動詞の原形(原形不定詞)」を用いた重要構文をおさえよう。

③あくまでも「1つの節に動詞は1つだけ」である。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

1. Go and help wash up at the sink for your mother.
2. I let the boy watch his mother go out of the gate.
3. I don't like to have somebody else tell me I ought to do this thing or that.
4. ①To read the right books will be to develop your ideas and increase your knowledge ②; to read the wrong ones will be to have the opposite of all this happen, to the ruin of the quality of your mind.

the opposite of A: Aと(は)正反対のこと ruin: 墮落、破滅、崩壊

5. ①When you are having an argument with someone, you are usually not trying to understand what the other person is saying, or what in their experience leads them to say it. ②Instead, you are thinking about your response ③: listening for weakness in logic to leap on, points you can twist to make the other person look bad and yourself look good.

argument: 議論 instead: その代わり response: 返答 weakness: 弱点、弱み
logic: 論理 leap on: ～に飛びかかる twist: ～をねじ曲げる look C(形・分): Cのように見える

【解答&解説】

1. 「流しでお母さんが洗い物をするのを手伝ってきなさい」

【解説】 Go and help という④からはじまる命令文になっている。wash は原形不定詞。
「help+do[原形]」で「～するのを手伝う」。

2. 「私は、母親が門から出て行くのをその少年が見ることを許した」

【解説】 文全体の骨組みは let が作る「SVOC」で「Oが～するのを許す」。
watch(以降)はCで、watch は原形不定詞。

I let the boy watch~.
⑤ ④ O C[原形]

更にそのCである watch が、「watch+C+C[原形]:OがCするのを見る」という形
をとり、go が原形不定詞としてそのCになっている。

I let the boy watch his mother go out of the gate .
⑤ ④ O [原形] <O> <C>
C

3. 「私は、誰か他の人にああしろこうしろと言われるのが好きではない」

【解説】 have は使役動詞の have で、somebody else をO、tell(以降)をCにとっている。したがってこの tell は原形不定詞であって、動詞ではない。直後の me の後には、接続詞の that が省略されている。me が tell のO₁であり、(that) I ought to do this and that がO₂。

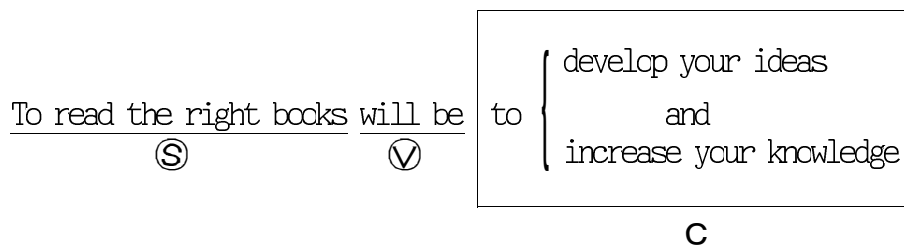
~ have somebody else tell me (that) I ought to do this or that
④ O [原形] <O>₁ <O>₂
C

4. 「適切な本を読むと思考が発達し、知識が増える。しかし、間違った本を読むと、これと全く反対のことが起き、頭の質(精神)が墮落することになる」

【解説】

①

全体は、以下のようなSVCの構造になっている。

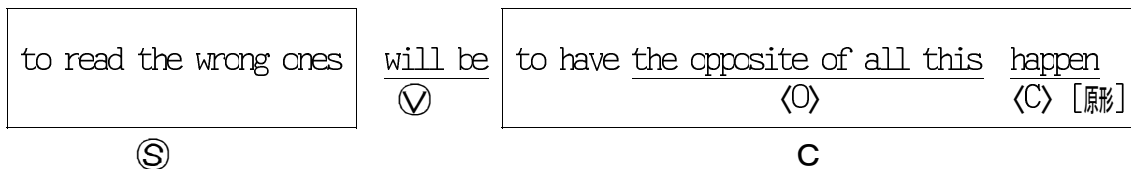


②

先頭のセミコロン(;)は接続詞(but)の代用で「しかし」と訳せばいい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-63 を参照せよ。

文全体の骨組みは直前の文と同じSVC。問題は「C」部分の構造。happen が動詞のように見えるが、この happen は、使役動詞の have のCになっている原形不定詞。the opposite (of all this) がO。



この部分の直訳は「間違った本を読むことは、これとは全く正反対のことを起こらしめることである」。

happen の直後の to についてだが、前置詞の to の基本は「到着点」に向かったの「(時間・距離・性質等における)方向性(または変化)」を表す。「→」の記号で表せる。そして「to A」の A は「到着点・目標・終点・結果」を表す。たとえば、I went to school. という場合の school はまさに到着点だ。A が「結果」を表す例として、以下のような表現がある。

(ex) freeze to death 凍死する

2.that のマスター。

英文を読んでいる中で、最も数多く見かける語のうちの1つが that です。「あれ、それ」という代名詞の that にはじまり、接続詞、関係代名詞…と、その用法は多種多様です。ここで that についての知識もきちんと整理してみましょう。

that には大きく分けて以下の5つがあります。

- 1.指示代名詞の that。
- 2.(従位)接続詞の that。
- 3.関係代名詞の that。
- 4.強調構文をつくる that。
- 5.その他の that。

◎指示代名詞が形容詞的に用いられるものも含めると6つになる。

ザックリとその一覧表を作ると、以下のようになります。

①代名詞の that。☞ that は単独で用いる。「あれ、それ」と訳す。

(ex) That is my house. あれがうちの家です。◎代名詞のthatは「the+既出の単数名詞」を指している。

②形容詞の that。☞ 「that+名詞」の形で用いる。「あの、その」と訳す。

(ex) That song is my favorite. あの歌は私のお気に入りです

③接続詞の that。☞ 「that+完全な文」の形で用いる。詳細は81ページを参照せよ。

(ex) That he is trustworthy is true. 彼が信用できるというのは本当だ

④関係代名詞の that。☞ 「that+不完全な文」の形で用いる。訳さない。

(ex) This is the man that helped me. こちらが私を助けてくれた方です

⑤強調構文の that。☞ It is ~ that ... の形で用いる。訳さない。

(ex) It is the book that I want. 私が欲しいのはその本です

⑥副詞の that。 ☞ 「that+形容詞[副詞]」の形で用いる。「そんなに(も)」と訳す。

(ex) It isn't that important. それはそんなに重要でない

では、それぞれその that の使い方を確認していきましょう。

1.指示代名詞の that 。

(1)「あれ」「それ」と訳す that。

指示代名詞の that とは

- ① 「(空間的・心理的に話してから遠いものを指して)それ、あれ」。
- ② 「既出の内容」の代用。「それ、あれ」と訳す。
- ③ 「the+既出の単数名詞」の代用。「それ」と訳す。

として用いられる that で、みなさん一番おなじみの that です。

(ex) What is that? あれは何ですか

I don't want to do that. 僕はそれをしたくない

The population of Tokyo is larger than that of Osaka.

東京の人口は大阪のそれ(人口)より多い

最後の例文の that は「the population」(つまり「the+既出の単数名詞」)の代用です。

(2)名詞の前に付いて形容詞的にその名詞を修飾する that。

☞このようなthatを「指示形容詞」とも言う。

また that は、名詞の前について形容詞的にその名詞を修飾し、「その」「あの」という意味で使われることもありますね。

(ex) I don't like that song. 僕はその歌は好きではない

彼は4日後つまり次の土曜日に日本を去るのです

②like that: そのように[な]、そんなふうに

(ex) Don't talk like that. そういう話し方をするな

③and all that: などなど =and so on

(ex) We can get cabbages and carrots and all that at the store.

その店でキャベツやニンジンなどを買うことができる

④with that: それと共に、そう言ってから

(ex) With that she left the house. そう言って彼女はその家を出た

⑤That's it.: 1.[同意して] ああそれだ、その通りだ、それが問題だ

(ex) A: "Isn't this the book you're looking for?"

これが君の捜している本ではありませんか

B: "That's it, thanks."

あっ、そうです。ありがとう

2.そこまで、それでおしまいだ

(ex) That's (about) it for tonight. 今夜はそこまで

⑥That is all (there is to it).: それだけのこと[話]だ、それでおわり

⑤や⑥は会話の決まり文句。会話で良く使われる that を用いた他の表現をいくつか紹介しておこう。

That will do. ①それで結構です ②もう十分だ[もうやめろ]

That's going too far. それはやり[言い]過ぎだよ

That explains it. それでわけがわかった

④この explain は「(物事が)~の原因を説明する」という意味。

That's the way.

①[人を慰めて] そんな(ことはよくある)ものさ、それが運命だ

②それは良かった[結構]

That's that. それだけのことさ、それでおしまい

それはそれで決まり、それはそれで仕方のないこと

You can say that again! [相手に同意して]まさに君の言う通り!

《ポイント》

- ①指示代名詞の **that** は「それ、あれ」が基本。形容詞的に名詞を修飾しているときは「その、あの」と訳す。
- ②**that which** は、関係代名詞の **what** と同じ。「こと、もの」と訳せばいい。
- ③**that which** が **There is** 構文で用いられたときには **that** と **which** が離ればなれになることがあるので注意。
- ④**That is (to say)**等の決まり文句をおさえる。

2.(従位)接続詞の **that**。

これは「**that S+V~**」という形で用いられる **that**。この接続詞の **that** の後の「**S+V~**」は「完全な文」がきます。この接続詞の **that** が導く「**that S+V~**」(いわゆる **that**節)は、文中で

- ①名詞の働きをする(名詞節という)
- ②副詞の働きをする(副詞節という)

の2つの働きをします。以下にその具体的な働きを見てみましょう。

1.名詞節を作る **that**。

(1)「**S(主語)**」「**O(目的語)**」「**C(補語)**」になる。

that節が文の「**主語(S)**」「**目的語(O)**」「**補語(C)**」になるというのは、名詞節を作る**that**節の最も代表的な用法です。この場合、訳し方は「**~(する)こと**」となります。以下に例文を挙げてみましょう。

(ex) That he said so is true. 彼がそう言ったことは本当だ
主語

It is true that he said so. 彼がそう言ったことは本当だ
[仮主語] [真主語]

主語となるthat節が長すぎる場合に、そのthat節は文後半に置かれ、空いた文頭の主語の位置に仮の主語、It が置かれる。これを「仮主語構文(形式主語構文)」という。

I thought that he was rich. 僕は彼は金持ちだと思った
目的語

目的語になる節を導く接続詞の that は、よく省略される (LESSON BOOK REVIEW Rule-50 を参照せよ)。

(ex) He said (that) I was wrong[間違っている].

The trouble is that I have no money. 問題は、金が無いということだ
補語

I found it strange that she wasn't there.
[仮・目] C [真・目]

私は彼女がそこにいないのが変だと思った

仮目的語[形式目的語]構文については「形式目的語[仮目的語]構文」は後述。実際の英文では「 $\textcircled{S} + \textcircled{V} + \text{it} + \text{形} \cdot \text{名} + \text{that } S + V \sim$ 」という形をみたら、「it=仮目的語」「that節=真目的語」と見ていい。

(2) 「同格節」になる。

これは

名詞 + that S + V ~

という形で、that節が直前の名詞の内容を具体的に説明する用法です。このような節を導く that のことを、「同格」の that といいます(内容的に同じことを言っているからと考えればいい)。訳し方は「 \sim というA(名詞)」です。

(ex) I heard the news that he had passed the exam.

名詞 ↑

彼が試験に合格したという知らせを聞いた

上の英文では that節全体が the news を修飾し、その中身を説明しています。

(ex) The suggestion was made that English teaching should be improved.

名詞 ↑ 英語教育を改善すべきだという提案が出された

上の英文でも that節全体が the suggestion を修飾し、その中身を説明しています。ただこの英文のように、先行する名詞とthat節は離れ離れになる場合もあるので、その場合は注意が必要です(下線部和訳問題等では頻出)。

また、that節を同格節としてとれる名詞は、以下の2種類しかありません。

1. 「思考・感覚[情]」「認識」「発言」を表す名詞。 要するに「言う」「思う」「知る(わかる)」から派生した名詞。

thought	「考え」	feeling	「感情」	notion	「意見・考え」
belief	「信念」	impression	「印象」	argument	「主張」
knowledge	「知識」	idea	「考え」	realization	「自覚」

2. 「事実(真実・証拠等)」「機会・可能性」「情報(報告・うわさ等)」「命令(要求・提案等)」を表す名詞。

fact	「事実」	news	「知らせ」	order	「命令」	proof	「証拠」	notice	「通告」
chance	「チャンス」	possibility	「可能性」	evidence	「証拠」	rumor	「うわさ」		
remark	「意見」								

実際、文中で「思考・感覚[情]」「発言」「事実(真実・証拠等)」「機会・可能性」「情報(報告・うわさ等)」「命令(要求・提案等)」等を表す名詞の(直)後にthat節を発見したら、まず「同格の that」であることがほとんどです。ただし、最終的な確認は、that 直後に「完全な文」がきているかどうか(「不完全な文」がきていればその that は関係代名詞になる)で判断します(詳しくは〇〇ページを参照せよ)。

- (3) 「前置詞の目的語」になる。

that節が前置詞の目的語になるのは珍しく、以下の2種類しかありません。特に

①は頻出で要注意です(②は that はたいてい省略され、「except S+V～」という形で用いられることが多い)。

- ① in that S+V～: 1.～の点で

2.～であるが故に、～なので =because

(ex) I was fortunate in that I was able to study under Dr. Smith.

スミス博士のもとで研究できた点で私は幸運だった

Television is very harmful in that it makes your mind passive.

テレビは精神を受動的にするのでとても有害だ

②except (that) S+V～:①もし～ということがなければ

②～(という点)を除いて =but[save] (that) S+V～

(ex) This wouldn't have happened except (that) we were all too tired.

我々みんなが疲れ切っていなかったらこんな事にはならなかっただろう

I'd like to buy the house, except (that) it's too expensive.

その家は買いたいのだが高すぎる

(4)名詞節を作る that節で、決まり文句的なもの。

①It ~ that型。

1.It seems[appears] that S+V～:～のように見える、思われる

(ex) It seems (to me) that Jesse is the key person.

=It appears (to me) that Jesse is the key person.

(私には)ジェシーが鍵を握っている人物のように見える

2.It happened[chanced] that S+V～:たまたま～した

(ex) It happened that I met him on my way to the station.

=It chanced that I met him on my way to the station.

駅に行く途中で偶然(たまたま)彼に会った

3.It turns out that S+V～:結果として～だとわかる

(ex) It turned out (that) I couldn't do so.

わたしにはそうすることができないことがわかった

④上例のように、thatは省略されることもある。

4. It occurs to A(人) that S + V ~ : ~がAの頭(心)に浮かぶ [strikes]

④「A(物事) occur to B(人): AがBの頭に浮かぶ」が下敷きとなっている仮主語構文。
occur to は strike で言い換えられる。strike の活用は strike -
struck - struck。真主語には、that節以外に、to不定詞や疑問詞節がくることもある。

- (ex) It occurred to me that she might be the criminal.
=It struck me that she might be the criminal.
=It flashed across my mind that she might be the criminal.
彼女がひよっとすると犯人かもしれないという考えが私の心に浮かんだ

5. It dawn on A(人) that S + V ~ : ~がAに次第にわかってくる

- (ex) It dawned on us that we had been deceived by him.
彼にだまされていたということが徐々にわかってきた
It dawned on me where I had seen the old woman before.
そのお年寄りの女性と以前どこで会ったのかが次第にわかってきた

④「A(物事) dawn on B(人): AがBの頭に次第にわかってくる」が下敷きとなっている仮主語構文。
上例のように真主語に疑問詞節が来ることもある。

6. It follows that S + V ~ : ~ということになる

- (ex) It follows from what she has said that Mr. James is innocent.
彼女の言ったことから判断すると、ジェームズ氏は無罪ということになる

7. It is not too much to say that S + V ~ : ~だといっても過言ではない

- (ex) It is not too much to say that Tiger Woods is a genius at golf.
=It is safe to say that Tiger Woods is a genius at golf.
タイガー・ウッズはゴルフの天才だといっても過言ではない(差し支えない)

8. It goes without saying that S + V ~ : ~なのは言うまでもない

- (ex) It goes without saying that he succeeded in the entrance exam.
=Needless to say, he succeeded in the entrance exam.
彼が入学試験に合格したのは言うまでもない

9. It is likely[unlikely] that S + V ~ : ~の可能性はある[ない]

- (ex) It is likely that he will succeed. 彼は成功しそうだ
=He is likely to succeed.
It is unlikely that she misunderstood you.
彼女が君のことを誤解したとは考えられない

②その他

1. It is that S + V ~ : それは[実情は・実は]~ということである

- (ex) It is that I have my own business to attend to.
実は私には自分の用事があるのです

☞この構文の応用形として

- ①It must be that S + V ~ : ~であるにちがいない
 - ②It may[might] be that S + V ~ : ~かもしれない
 - ③It might well be that S + V ~ : きっと(おそらく)~だろう
 - ④It cannot be that S + V ~ : ~であるはずがない
- などがある。

2. (It is) not that S + V ~ : (前文を受けて)だからといって~というわけではない

- (ex) I agreed. Not that I am satisfied.
私は同意した。だからといって私が満足しているわけではない

3. Not that S + V ~ but (that) S + V ... : ~ではないけれど、…だ

- (ex) Not that it really matters, but how did you know his name ?
たいして重要なことではないけど、君はなぜ彼の名前を知っているの

2.副詞節を作る that。

接続詞の that の導く、いわゆる that節が、文中で「主語(S)」「目的語(O)」「補語(C)」「同格の that節」のどれにもなっていない場合(つまり名詞節になっていない場合)、その that節は副詞節になっているとみます。副詞節を導く that節の意味は、基本的に次の3つと見ていいでしょう。

- (1)so that S+may[will/can]+V～ : 1.「Sが～するために(できるように)」 [目的]
 2.「その結果Sは～する」 [結果]

(ex) I got up early so that I could catch the first train.

一番列車に乗れるように私は早起きをした

His mother removed his brushes so that he couldn't paint.

母親が画筆を片付けてしまい、(その結果)彼は絵をかけなかった

會上例は「彼が絵をかけないように母親が画筆を片付けた」と

[目的]で解することも可能。後半を , so that he wasn't able to paint とすれば結果の意味のみ。

- (2)
- ①S+V so $\left\{ \begin{array}{l} \text{形容詞・副詞} \\ \text{形容詞+a+単数名詞} \end{array} \right\}$ that S+(can)+V…
 : Sはとても～なので…する(できる) [程度・様態]

(ex) He was so kind that he showed me the way to the station.

彼はとても親切だったので、駅までの道を教えてくれた

The letter is so written that it gives a wrong idea of the facts.

その手紙は事実をわざと誤解させるように書かれている

He was not so busy that he was not able to write to his parents.

彼は両親に手紙を書くことができないほど忙しいわけではなかった

會上の英文のように、

①soとthatの間に「動詞」や「過去分詞」が入っている。

②否定の so～that構文。

場合は、後ろから訳しあげるのがポイント。

(ex) No man is so old that he cannot learn.

(物を)学ぶことができないほど年をとった人間はいない
→人間いくつになっても学ぶことはできるものである

② S + V such { a+形容詞+単数名詞
(形容詞+) 複数名詞 [又は不可算名詞] } that S+(can)+V...

: 「Sはととも～なので…する(できる)」 程度・様態

(ex) He was such a good boy that he was loved by everybody.

彼はとてもいい少年だったので、みんなから愛された

③ S + V~, so that S+V...: 「Sは～だ。その結果…だ」 [結果]

(ex) He misjudged the situation, so that his company went bankrupt.

彼は状況判断を誤り、その結果、彼の会社は倒産した

④ S + be動詞 + such that S + V... : 「Sは大変なものなので…する」 程度・様態

(ex) Her anger [怒り] was such that she became ill.

彼女の怒りは大変なものだったので彼女は病気になってしまった

(3) S + V (be動詞等) + 形容詞 [分詞] + that S + V...

① 「S(人) + be動詞 + 形容詞 [分詞] + that S + V」の構文の「be動詞 + 形容詞 [分詞]」の部分は「think(思っている)」や「know(知っている)」で言い換えられることが多いのです。

(ex) Are you sure that you locked the door?

確かにドアにカギをかけましたか

上の英文でも「あなたはドアに鍵をかけたと思ってますか」で訳せてしまいます。

② that節の(直)前に「感情を表す形容詞・分詞」があった場合、そのthat節は「～して」「～できて」と訳します。これは副詞用法の不定詞の場合と同じです。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-30 を参照せよ。

(ex) She was **angry** that he had not won the race.

彼が競争に勝てなくて彼女は怒った

I am **glad** that I could see you again.

あなたに再会できてうれしいです

③that節の(直)前に「人の性格[質]を表す名詞・形容詞[分詞]」「good/bad型の形容詞[分詞]」があった場合、そのthat節は「～なんて」「～とは」と訳します。これについても副詞用法の不定詞の場合と同じです。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-31 を参照せよ。

(ex) Is he **mad** that he should say such a silly thing?

そんなバカなことを言うなんて彼は気がおかしいのか

《ポイント》

- ①接続詞の that が導く、いわゆる that節の働きは「名詞節」になるか「副詞節」になるかのどちらか。
- ②that節が「名詞節」になるのは、以下の2つの場合。
 - (1)that節が「主語(S)」「目的語(O)」「補語(C)」のどれかになる。
 - (2)that節が(直)前の名詞を説明する「同格節」になる。
- ③副詞節が「副詞節」になるのは、so ~ that構文など、決まり文句的なものが多い。

3.関係代名詞の that 。

1.関係代名詞の that とは。

that には関係代名詞の that もあります。関係代名詞の that は、**主格の関係代名詞 (who, which)**や**目的格の関係代名詞 (whom, which)**の代用として用いられます。

(ex) Baseball is a sport that boys like.

野球は少年達が好むスポーツです

上の英文では that が目的格の関係代名詞として用いられ、that節全体が a sport を修飾しています。

Baseball is a sport [that boys like].
↑

そして、関係代名詞の that が導く節の働きは1つしかありません。それは(直)前の名詞[先行詞]を修飾することだけです。

2.関係代名詞のthatか? 接続詞のthatか? その見極め方。

名詞の直後に置かれるという点で、関係代名詞のthatと、同格のthat(接続詞)は見分けが付きにくいですね。簡単な見極め方法は、

(1)関係代名詞の後には「不完全な文」が来る。

會「不完全な文」とは、S、O、C又は所有格のどれかが欠けた文のこと。

(2)接続詞の後には「完全な文」な文が来る。

という点です。

(ex) This is a fact that is known to everybody.
名詞 [不完全な文]

上の英文の that の後ろの波線部は主語が欠けた不完全な文。したがって that は「関係代名詞」と分かります。訳は「これはみんなに知られている事実です」。

(ex) Most people denied the fact that the earth is round.
名詞 [完全な文]

上の英文の that の後ろの波線部は「地球は丸い(the earth is round)」という完全な文。したがって that は同格の「接続詞」と分かります。訳は「ほとんどの人々は地球が丸いという事実を否定した」。

《ポイント》

- ①thatの直後に「完全な文」がきていれば、その that は「接続詞」。
- ②thatの直後に「不完全な文」がきていれば、その that は「関係代名詞」。
関係代名詞の that(の導く節)の役割は1つだけ。それは(直)前の名詞を修飾することしかない。

演習問題:下の英文中のそれぞれの that の役割を、選択肢から選べ。

- 1.The news that he told us was a big surprise to us.
- 2.There is no evidence that she is guilty.
- 3.That he is still there is certain.
- 4.The population of China is larger than that of India.
- 5.They demanded that the thread should be deleted.
- 6.I'm surprised that you are so bold.
- 7.The truth is that I am married.
- 8.I gave him a key so that he could enter the room any time.

ア.名詞節の that

エ.同格の that

イ.関係代名詞の that

オ.代名詞の that

ウ.副詞節の that

【解答&解説】

1.イ。「彼が私達に語ってくれた知らせ[ニュース]は私達にとって大きな驚きだった」

【解説】 that の直後に「不完全な文」があるので that は関係代名詞とみる。tell はふつう「tell O₁ (人) O₂ (物):O₁にO₂について語る」という形をとる。そうなるとO₂が that節内の文には欠けていることになるのだ。

The news [that he told us] was a big surprise to us.
⑤ ↑ S V O₁ ④ C

2.エ。「彼女が有罪であるという証拠は全くない」

【解説】 that の直後に she is guilty(彼女は有罪だ)という「完全な文」がある。これは同格の that。接続詞である。that節は evidence にかかる。

There is no evidence [that she is guilty].
④ ⑤ ↑

3.ア。「彼がまだそこにいることは確かだ」

【解説】 That の後ろに(he is still there という)「完全な文」が続いている。したがって That は接続詞で、文頭の that節全体が⑤になっている。つまり名詞節を作っている。

That he is still there is certain.
⑤ ④ C

4.オ。「中国の人口はインドの人口より多い」

【解説】 この that は「the population」の代用をしている。つまり代名詞の that。

5.ア。「彼らはそのスレッドが削除されることを要求した」

【解説】 that節全体が④(demand)の目的語になっている。名詞節を作る that だ。もちろん接続詞。

They demanded that the thread should be deleted.
⑤ ④ ○

6.ウ。「私はあなたがすごくずうずうしくてビックリしている」

【解説】 that の後ろに「完全な文」があるから接続詞なのだが、この that節は文の骨組みからははずれている(I'm surprised で「SVC」)。これは副詞節を作る that で、直前に surprised という「感情を表す分詞」があるので、「～して」「～できて」と訳す(that節が「感情の原因」を表している)。

7.ア。「実は僕は結婚しています」

【解説】 SVCのCに that節全体がなっている。

④ LESSON BOOK REVIEW Rule-19 を参照せよ。

つまり名詞節を作る that だ。もちろん接続詞。

The truth is that I am married.
 ⑤ ⑥ C

8.ウ。「彼がいつでもその部屋に入れるように私は彼に鍵を渡した」

【解説】 「so that S can V～:Sが～できるように」という構文。副詞節を作る that だ。もちろん接続詞。

4.強調構文をつくる that。

1.強調構文とは。

強調構文とは、It is □ that～ の形で、□の部分に自分が強調したい語(句・節)を入れるというものです。この強調構文をつくる that については、品詞は考えなくて結構です(関係詞だ、接続詞だ…と言い切れないので)。

たとえば下記の英文を強調構文にせよという場合、それぞれ以下ようになります。

I saw Jack at the party a week ago.

一週間前私はパーティでジャックを見た

①Jack を強調したければ

☞ It was Jack that I saw at the party a week ago.

②I を強調したければ

☞ It was I that saw Jack at the party a week ago.

③at the party を強調したければ

☞ It was at the party that I saw Jack a week ago.

④a week ago を強調したければ

☞ It was a week ago that I saw Jack at the party.

2.強調構文か? 仮主語構文か? その見極め方。

It is ～ that … となるという点では、強調構文と仮主語構文は区別がつきにくいですね。そんな区別のつきにくい両者を、一瞬で見極める方法を紹介しましょう。

(1)It is と that の間に「形容詞・分詞」や「副詞(句・節)」がある場合。

It is と that の間に「形容詞」や「分詞」があったら、それは仮主語構文だとみて間違いありません。

It is と that の間に「副詞(の仲間)」があったらそれは強調構文だとみて間違いありません。

- ① It is **形容詞・分詞** that **完全な文** . 🗨️ 仮主語構文
- ② It is **副詞(句・節)** that **完全な文** . 🗨️ 強調構文

副詞(の仲間)とは、具体的には以下の3つです。

①副詞一語

🗨️ 副詞が～lyで終わることが多い。あるいは'yesterday'のような時を表す名詞も副詞として用いられることが多い(LESSON BOOK REVIEW Rule- 1 を参照せよ)。

- (ex) It was recently that the accident happened.
It was yesterday that I finished this work.

②前置詞+名詞

- (ex) It was at nine thirty that I came home.

③接続詞+S+V～

- (ex) It was since I was ill that I couldn't come here.

ただし「前置詞+名詞」が形容詞句になっている場合は例外。仮主語構文とみなし「前置詞+名詞」がC(補語)になっているとみる。そのような代表例としては「of+抽象名詞」や「beyond+範囲・限界を表す名詞」などがある。特に「of+抽象名詞」は形容詞化するというルールは頻出。以下はすべて仮主語構文(that節が真主語)。

- (ex) It is of importance that you should study hard.
=important

君が一所懸命勉強することが大事だ

- It is beyond belief that he was killed in the accident.
=unbelievable

彼がその事故で死んだということが信じられない

It was beyond a joke that you said such a thing in public.
人前でそんなことを言ったのは冗談の域を超えている

(2)It is と that の間に「名詞(句・節)」がある場合。

It is と that の間に「名詞(の仲間)」があった場合、that の後ろの英文が「完全な文」なら仮主語構文、「不完全な文」なら強調構文とみていいでしょう。

1. It is

名詞

 that

完全な文

 . 🗉 仮主語構文
2. It is

名詞

 that

不完全な文

 . 🗉 強調構文

(3)注意すべきポイント。

①「不完全な文」とは、S(主語)・O(目的語)・C(補語)のどれかが欠けた文のこと。

②It is~thatの構文で、thatの後ろが「不完全な文」であれば、それは強調構文と見てほぼ間違いない

🗉もちろん文頭のItが直前の単数名詞や直前の内容を指す代名詞、その後のthatが直前の名詞にかかる関係代名詞という英文中にもあるので、先頭のItが文中で役割を持っているかどうかを確認する必要がある。つまりそのItが「それ」と訳せるなら強調構文ではない。逆にそのItが訳がつかない(文中での役割を持っていない)のなら強調構文ということになる。下の英文は強調構文のように見えるが、Itは「それ」と訳せ、またthatは単なる関係代名詞で、強調構文ではない。

(ex) It rained suddenly. It was a problem that we had been worried about.
[関・代]

突然雨が降ってきた。それは私たちが心配をしていた問題だった

③強調構文だとわかったら、It is と that をカッコでくくってしまうといい。すると文の骨組みが浮かび上がってくる。

④強調したい語(句)が「人」の場合は、that の代わりに who, whom が使われることもある。

(ex) It is Tom **who** broke the window. 窓を壊したのはトムなんです
It is Nancy **whom** Jack loves. ジャックが好きなのはナンシーです

⑤また強調したい語(句)が「物(事)」の場合は、that の代わりに which が使われることもある。

(ex) It is the dog **which** bit me yesterday. 昨日私を噛んだのはその犬です
bite-bit-bitten:かむ
It is the PC **which** I want to buy. 私が買いたいのはそのパソコンです

⑥場合によっては(副詞句を強調した強調構文において)that の代わりに関係副詞が使われることもある。

(ex) It was at that time **when** I first met him.
私が彼に最初に出会ったのはその時でした

⑦強調構文が下線部訳問題になっていた場合、うまく和訳するポイントは、上記の例文の訳し方のように、**強調されている語句を和訳の最後にもってくる**ことである。ただし、以下のように強調されている語句が「only+語(句・節)」の場合は、「～してはじめて[ようやく]…した」と、前から普通に訳せばいい。

(ex) It was **only** through their help that we coped with the crisis.
彼らの助けによってようやく私たちその危機を乗り切ることができた

⑧イディオム的な強調構文として以下の構文は頻出。

It is[was] not until～ that S+V… 「～してはじめて…する[した]」

(ex) It is not until we lose our health that we realize its value.
健康を失ってみてはじめてその価値が分かる

⑧疑問詞付き疑問文の強調構文。

疑問詞付き疑問文の強調構文の公式は以下の通りです。

疑問詞 is[was] it that+平叙文の語順？

要するに、疑問詞の後ろに「is[was] it that」を置き、その後を「平叙文の語順」に戻すわけです。たとえば以下のような普通の疑問文の場合、

(ex) What do you want to know? 君が知りたいのは何ですか

これを強調構文にすると以下ようになります。

What is it that you want to know?
[平叙文の語順]

和訳の際には is[was] it that の部分を()でくくってしまい、「一体全体」といった訳を付け足すと良いでしょう。

⑨not A but B(AではなくてB) を強調する場合、

1. It is not A but B that V~.
2. It is not A that V~ but B.

どちらも可能性としてはありうるので、公式としてこれらは覚えておきましょう。それから not A but B のイコール表現に B not A (BであってAではない)がある。これを使った場合も、以下の2パターンが考えられます。

1. It is B not A that V~.
2. It is B that V~ not A.

《ポイント》

- ① It is と that の間に「形容詞」「分詞」があったらそれは仮主語構文。
- ② It is と that の間に「副詞(の仲間)」があったらそれは強調構文。
「副詞(の仲間)」とは、具体的には「副詞一語」「前置詞+名詞」「接続詞+S+V~」の3つ。

③ It is と that の間に「名詞」があったら、

(1)that の後ろの英文が「完全な文」なら仮主語構文。

(2)that の後ろの英文が「不完全な文」なら強調構文。 ☞例外もたまにあるので注意。

④強調構文だとわかったら、It is と that をカッコでくくってしまうといい。

⑤It is[was] not until～ that S+V… は「～してはじめて…する」と訳す、
イディオム的な強調構文。

⑥疑問詞付き疑問文の強調構文の公式を覚えよう。

疑問詞 is[was] it that+平叙文の語順？

演習問題:英文は強調構文か、それとも仮主語構文か(⑦は下線部のみ)。

- 1.It is impossible that he did the work by himself.
- 2.It is because I lost my way that I was late for the meeting.
- 3.It is often thinking of so many things and consideration of so many problems after marriage that result in the difficulty of reaching a simple decision.
- 4.It is one of the ironies[皮肉] of life that most of us realize[悟る] how precious[貴重な] time is after we grow rather[かなり] old.
- 5.It is because the choices they must make are determined less by convention or tradition and more by their own judgment, that the young people of today face a more difficult world than did those of twenty years ago.
- 6.It is more than probable that any proverb found in Shakespeare's works had a previous existence.
- 7.Here is a great argument in favor of foreign travel and learning foreign languages. It is only by traveling in, or living in, a country and getting to know its inhabitants[住んでいる人] and their languages that one can find out what a country and its people are really like.

これは仮主語構文とみていい。訳は「どれほど時間が貴重であるのかということ
を、私達のほとんどがかなり年をとった後で気がつくというのは、人生の皮肉の
うちのひとつである」。

5.強調構文

【解説】 It is と that の間に下記に示したように「接続詞+S+V～」があるのが見極め
のポイント。

because	the choices	[they must make]	are determined	}	less by	{	convention	}
[接]	S	↑	S		V	and	or	
						more by	tradition	
							their own judgment	

訳は「今日の若者たちが20年前の若者たちよりも困難な世界に直面しているのは、
彼らがなすべき決断は、しきたりや伝統によってというよりむしろ、自分自身の
判断によってなされなければならないからである」。

than の後の those は the young people、つまり「the+既出の複数名詞」の代
用をしている。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-55 を参照せよ。

更に did は faced の繰り返しを避ける代動詞。than以下は「V+S」の構造にな
っている。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-45 を参照せよ。

6.仮主語構文

【解説】 It is と that の間に more than probable という「形容詞」があるのが見極め
のポイント。

📖 語尾が -able で終わる語は「形容詞」。LESSON BOOK REVIEW Rule-1の3.を
参照せよ。

訳は「シェークスピアの作品の中に見られるいかなる諺も、それ以前に存在して
いたことはおそらく確かである」。

5. その他の that。

1. 先行詞を明示する that。

「that[those] のついた名詞が先行詞ですよ」と読者に明示するという用法が that [those]にはあります。

(ex) My father had **that** love for truth which made him hate every lie.

父は真実を愛するがゆえにあらゆるうそを憎んだ

上の例文の that がまさにそれで、which節の先行詞は truth ではなく、love であることを、that love とすることで示しています。このような that[those] は、日本語に訳出する必要はありません。

④この that[those] は、冠詞の the とほぼ同じと考えていい。

2. 副詞の that。

副詞の that は会話などで用いられることが多いです。通例、疑問文や否定文で用います。副詞の so とほぼ同じ意味。用法も同じです。

① 「そんなに」「それほど」

(ex) Don't go **that** far. そんなに遠くへ行くな

He isn't all **that** rich. 彼はあまり裕福ではない

④上例のように、否定文では allが強調の意味で前につくことがある。

If you are **that** rich, why do you need my money?

そんなに金持ちなら、なぜ私の金が必要なの

② [結果を表す節を伴って] 「とても」「それほど」

(ex) I failed the exam ; it was **that** difficult.

その試験はとても難しくて私は落ちました

③ that much で「それだけ」「そんなに(大して)」といった用法もある。

(ex) Peter has spent **that** much. ピーターはそれだけ使ってしまった

I don't like tennis **that** much. テニスはそれほど好きではない

《ポイント》

- ①先行詞を明示する that [those]がある。このようなthat [those]は和訳の必要なし。
 定冠詞の the とほぼ同じと考えていい。
- ②副詞の that がある。副詞の so と意味・用法共におなじ。「そんなに」「それほど」等と訳す。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

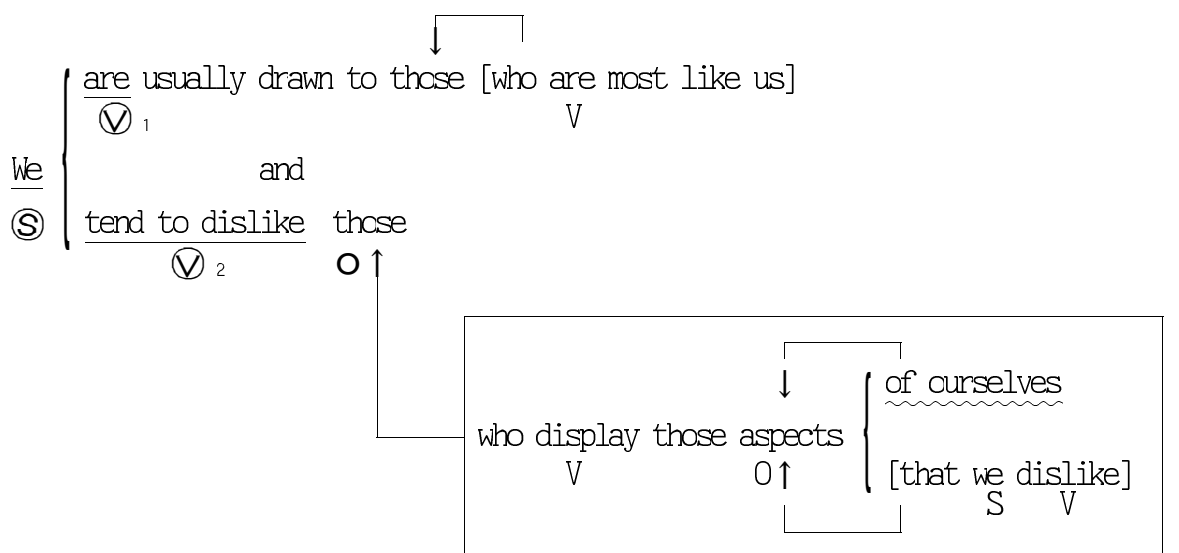
We are usually drawn to those who are most like us and tend to dislike those who display those aspects of ourselves that we dislike.

A is drawn to B: AはBに引かれる aspect: 側面
 display A: Aを(外に)出す、表す

【解答&解説】

【解答】 「私達はたいていの場合、最も自分に似ている人にひかれ、嫌だと思ふ自分の側面を表に出している人を嫌う傾向がある」

【解説】 全体は以下のような構造になっている。



like us の like は前置詞。「~と似ている」「~のような」。それから those who V~は「~する人々」という意味。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-55 を参照せよ。

those aspects の those は「先行詞を明示する that」。後ろの that節(この that は関係代名詞。後続の we dislike が、Oの欠けた「不完全な文」であることから

判断する)の先行詞が aspects であることを文字通り明示しているのみ。このような those は和訳に出す必要はない이었다。those aspects~dislike までは「私達が嫌だと思っている私達自身の側面」が直訳。

3.as のマスター。

英文中では、that と同じように as もいろいろな意味、用法で使われています。それらの as を素早く読み取ることができれば、読解は更にスピードと正確さを増します。ここではそんな as について知識を整理し、その意味を一瞬で読み取る「裏技」を紹介することにしましょう。

1. 「as+A(名詞)」。

「as+A(名詞)」という場合の as は前置詞で、基本的に「Aとして(の・は)」と訳せばいいのです。ただ例外として以下のようなものがあります。

①such A as B: BのようなA =A such as B

(ex) I like such beautiful flowers as lilies, roses, and tulips.
ユリやバラやチューリップのようなきれいな花が好きです

②the same A as B: Bと同じA

(ex) This is the same PC as mine. これは私と同じパソコンです

③as + A(人生の(過去の)成長段階): Aの頃、Aの時(になって)

(ex) As a child, he was happy. 子供の頃、彼は幸せだった

特に③は要注意。as の後ろに「人生の(過去の)成長段階」を表す名詞がきていたら「Aの頃」「Aの時(になって)」と訳す。しっかり頭に入れておきましょう。

それから「S+V A as B」となる場合、Bの部分に「形容詞」が入ることもあります。

(ex) We regard the situation as serious. 我々は事態を重大視している
(形)

ちなみに「S+V A as B」型の構文は「AをBとみなす[言う]」という意味になることがほとんどです。

2. 「as S+V～」。

「as S+V～」、つまり後ろに節をとる as の見極め法は以下の通りです。

- (1) 「as S+V～」の as は、70%は「時(～の時、～ながら)」か「理由(～ので)」。
だからまず「時」「理由」で訳して、みておかしかったら(このあと説明する)それ以外の可能性を考えてみる。

(ex) As I entered the room, they ignored me.

私が部屋へ入っていったとき、彼らは私を無視した

She was crying as she ran. 彼女は走りながら泣いていた

As I didn't have any change, I couldn't call him.

小銭がなかったので、彼に電話できなかった

ただ、「時」の as が文章後半に現れた「S₁+V～, as S₂+V…」の場合、「S₁は～した。とそのときS₂は…した」と訳す場合があるので注意が必要です。

(ex) They were chatting happily, as the hall door opened.

彼らは楽しげにおしゃべりをしていた。とそのとき玄関のドアが開いた

- (2) 「as S+V～」の「V」が「変化」「進行」を表す動詞(又は節内で比較級が使われている)の場合には「～につれて」「～と共に[に伴って]」と訳せばいい。

(ex) As it grew darker, it became colder around the lake.

暗くなるにつれて湖のあたりはいっそう寒くなっていった

「変化」「進行」を表す動詞とは以下のようなものです。

(ex) get [become/grow等] C(形・分):「Cになる」 go :「行く」
grow up :「成長する」 pass:「すぎる」
increase:「増える」
decrease:「減る」

(3)上記以外の as の意味は、「～のように[の通りに・と同様に]」「～のだが」「～とは違って」。

ただし、このような意味になる場合、as の後ろの形には、以下のような特徴が見られます。

- ①直前と同じ形の繰り返しになっている。
- ②「(繰り返しを避けるための省略などによって)不完全な文」になっている。

(ex) You must do the work as I do.

君はわたしがするようにその仕事をしなければならない

上の英文でも、as の前後で動詞の do が繰り返されており、更に左側の do の後ろにはあった目的語(the work)が、右側の do の後ろにはなく、as の後ろは「不完全な文」になっているのがわかります。

それから、特に「～とは違って」という意味になる場合、as の前後で「肯定」と「否定」が入れ代わることが多いのもおさえておきたいポイントです。

(ex) Men usually like baseball as women do not.

女性とは違って、男性はたいてい野球が好きだ

上の英文でも、as の後ろに「不完全な文」がある(women do not)のはカンタンにわかりますが、「ように」「だが」ではうまく訳がつながりません。そこで as の前後で like baseball に対する do not (like baseball) と、肯否定が入れ代わっている点に着目し、as を「～とは違って」と訳すといい和訳になりますね。

(4)また、以下のような直前の名詞を修飾する「as S + V～」もおさえておきたい。

(ex) Language as we know it is a human invention.

われわれの知っているような言語は人間の創り出したものである

上の英文では、as we know it が直前の Language を修飾しています。

直前の名詞を修飾する場合、「as+形容詞・分詞」という形で使われることもあります。「as+形容詞・分詞」という形をみたら、直前の名詞を修飾しているとみたらいいでしょう。

(ex) I like Mt. Fuji as seen from Shizuoka prefecture.

静岡県から見た(場合の)富士山が私は好きだ

上の英文では、「as+過去分詞」の形をした as~prefecture が、直前の Mt. Fuji を修飾しています。

(5) 「□ as S+V, 」という構造になっている場合は「Sは□ だけれど」と訳せばいい。

この構文の特徴をいくつかあげてみましょう。

① □の部分には名詞、形容詞、副詞が入る。

(ex) Young as he was, he was so brave. 彼は若かったけれど、勇敢だった
(形) as S+V

②この構文は「Though S+V+□」言い換えることができる。

また「□ though S+V」という言い方をすることもある。

Young as he was, he was so brave.

=Though he was young, he was so brave.

=Young though he was, he was so brave.

特に「□ though S+V」は、受験では「□ as S+V」同様、頻出。

(ex) Unacceptable though it may be for elderly people, young women today believe they can become happy by marrying rich men.

年配の人たちには受け入れがたいことかもしれないけれど、今の若い女性は金持ちと結婚することによって幸せになれると信じている

【解説】 Unacceptable though it may be~ が「□ though S+V」の構造になっている。この it は、後半の主節の内容を指している。

③場合によっては「Sは□なので」と、「理由」を表すこともある。どちらになるかは文脈で判断する。

④□の部分に動詞(の原形)が入って「(たとえ) どんなに～しても」という意味になることもある。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-48 を参照せよ。

(ex) Try as she does[will/ may/ might], she will never be able to do the work well.

どんなにやっても彼女は決してうまくその仕事ができないだろう

(6)これ以外に「as ~ as A:Aと同じくらい～」といった原級比較で用いられる as があることは言うまでもない。

(ex) I am as tall as he. 私は彼と同じくらいの背の高さだ

(7)あとは as を用いた決まり文句的なものを押さえればいい。

①as is often the case with A:Aにはよくあることだが

(ex) As is often the case with him, John was late for school.

ジョンにはよくあることだが、彼は学校に遅刻した

②as is usual with A:Aにはたいていの[いつもの]ことだが

(ex) Jack came home drunk, as is usual with him.

ジャックは酔っ払って帰宅したが、それは彼にはいつものことだった

📖①②の as は、品詞的には関係代名詞。

③as it (so) happens:たまたま、折よく、あいにく

(ex) As it happened, he was at home. たまたま彼は家にいた

④[Just] as S+V~, so S+V…:[ちょうど] ~なように、…

(ex) Just as the Russian enjoy their vodka, so the Japanese enjoy their sake.

ロシア人がウォッカをたしなむように日本人は酒をたしなむ

📖 Just as S+V~ は「ちょうど～するときに」という意味になる場合もある。見極め方法は、「ちょうど～なように」と訳す場合には、上例のようにJust asが結ぶ「S+V」同士と同じ(又は対照的な)語句の繰り返しがおきやすい点。「ちょうど～するときに」と訳す場合にはそのような同語反復はみられない。

(ex) Just as I finished the work, she called me up.

ちょうど私が仕事を終えた時に彼女が電話をかけてきた

⑤as for A: Aに関する限りでは、Aはどうかということ =as far as S+V~

(ex) As for me, I'm not interested in such trivial matters.

僕としてはそんなくだらないことには関心がない

㊦文(節)頭で用いる

⑥as if [though] S+V~:まるで~かのように

(ex) Tim acts as if he were a king.

ティムは王様のようなふるまいをする

⑦as A goes: [as の前に通例カンマを置いて] (世間並みの) Aとしては

(ex) He is a good teacher, as teachers go these days.

今の教師としては、彼はよい教師だ

㊦「平均してみれば」という意味を含む。

⑧as it is:

1.[文頭で](だが)実情は(そうでないので)、実際のところは

(ex) I'd like to have seen you today. As it is, I will wait until next Sunday.

今日お会いしたかったのですが、お会いできませんでしたので、
来週の日曜まで待ちます

㊦直前に仮定の事柄がくる。

2.[文中・文尾で] 現状は、実際問題として、もうすでに

(ex) We become better off, but, as it is, we still can't afford to buy a house.

暮らし向きはよくなったが、現状ではまだ家を買うだけの余裕はない

3.[文尾・目的語の後で] そのままにして、そのままの

(ex) Please leave the book as it is.

どうか本はそのままにしておいてください

Come as you are. そのままで[ふだん着で]きてくださいね

㊦3.の as it is が受験では最も出やすい。指すものによって it が他の人

称代名詞に、is が are や were に変わりうる。

⑨as it turned out, S+V~:結局のところ、~

(ex) As it[things] turned out, she was never there.

結局のところ彼女はそこにはいなかった

⑩as it were:いわば

(ex) He is, as it were, a walking dictionary.

彼は、いわば歩く辞書だ[生き字引だ]

Ⓜas it wasとは言わない。so to speak より堅い表現。

⑪as of A:Aの時点で、A現在で(の)

A(日時)から =as from A

(ex) as of now 現在のところ =right now, now, at present

The population of our city is about one million as of Jan.1, 2008.

2008年1月1日現在我が市の人口は約100万人である

⑫as such:

1.そういうものとして、それなりに Ⓜ1.が最も頻出。

(ex) She is a lawyer and should be treated as such.

彼女は弁護士だから、そのように取り扱われるべきである

2.[主に否定文で] それ自体で(は)

(ex) Money, as such, does not always bring happiness.

金はそれ自体では必ずしも幸福をもたらすとは限らない

3.[主に否定文で] 厳密な意味での しろもの
というようなご大層な代物

(ex) My room isn't a study as such.

私の部屋は書斎などというご大層な代物なんかではありません

⑬such as it is:こんな[そんな]程度のものだが、つまらぬものだが

(ex) Nancy gave me her advice, such as it was.

あまり役にもたたなかったが、ナンシーは私にアドバイスをしてくれた

Ⓜ複数のものを指す場合は it is は they are となる。

⑭as with A:Aの場合と同様に

(ex) As with humans, animals should be treated properly.

人間と同様に動物も適切に扱われるべきだ

⑮as opposed to A: Aに対するものとしての

(ex) expenditure as opposed to income 収入に対しての支出

⑯go so far as to do[原形]～ :～しさえする

(ex) She went so far as to say I was a loser.

彼女は私が負け犬だとさえ言った

⑰as compared to[with] A: Aと比べて[比較して]

(ex) This PC is expensive as compared to that one.

このパソコンはあれと比べて値段が高い

⑱A is to B as[what] C is to D: AとBの関係はCとDの関係と同じだ

(ex) Reading is to the mind as[what] food is to the body.

読書の精神に対する関係は食物の身体に対する関係に同じである

⑲as yet: 今までのところ、まだ

會通例否定文で用いられる。「先のことはわからないが」という含みを持つ。

(ex) As yet we have not succeeded in making contact with the ship.

今までのところ、その船と連絡をとることに成功していない

⑳would[had] just as soon do[原形]～ (as do[原形]…): (…するより)むしろ～したい

=would rather do[原形]～ (than do[原形]…)

(ex) I'd just as soon stay home (as go out).

(出かけるより)むしろ家にいたい

may[might] as well do[原形]～ (as do[原形]…): (…するくらいなら)～した方が

ました

(ex) You may as well come with me. 私と一緒に来た方がいい

You might as well throw your money away as lend it to him.

彼に金を貸すくらいなら、捨てた方がまだよ

會might を用いると、実際[現実]にはしないことが後に続く。

as soon as S+V～, S+V…: ~するとすぐに…する

as ~ as possible: ~するとすぐに =as ~ as S can

as a matter of fact:実際、実を言うと =in fact

as things are[go/ stand]:現状で(は)、目下のところ

as against A:Aに比べて、Aに対して

① 「as+名詞」となる場合、基本的に as は前置詞。「〇〇として(の・は)」と訳せばいい。

⚠例外もあるので注意。

② 「as S+V～」となる場合、

(1)70%は「時」か「理由」。まずこのどちらかで訳してみる。

(2)「V」が「変化」や「進行」を表すものだった場合(又は節内で比較級が使われている場合)、as は「～につれて[～と共に]」と訳すといふことが多い。

(3)そのどちらでもなければ、as は「～のように[の通りに・と同様に]」「～だが」「～とは違って」と訳してみる。ただこの意味になる場合、as の後ろは

1.直前と同じ形の繰り返しになっている。

2.「(繰り返しを避けるための省略などによって)不完全な文」になっている。

ことが多い。特に「～とは違って」となる場合、as の前後で肯否定が入れ替わっていることが多い。

③直前の名詞を修飾する「as S+V～」 「as+形容詞(分詞)」に注意。

④「□ as S+V,」となる場合、「Sは□だけれど」と訳す。□には「形容詞」「名詞」「副詞」等が入る。言い換え表現の「□ though S+V」も頻出。

⑤あとは as を用いた決まり文句をおさえる。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

1. I remember being puzzled as a child by the question of the extent of the universe.

be puzzled: 当惑した extent: ①広さ、大きさ ②範囲

2. As the Japanese language is closely tied to human relations and living customs, I believe it is impossible to communicate effectively without knowledge about Japan.

A is tied to B: AはBと結びついている effectively: 効果的に

3. ①English is now very international. ②So it is not a possession which English people lease out to others, while still retaining ownership as their mother tongue.

lease out to A: Aに貸し与える

retain A: Aを保持する

ownership: 所有権

while ~ing: ~しながら、~しつつ

mother tongue: 母語(子供のときに初めて習得する言語のこと)

4. As the world's human population increases, the number of fish has been decreasing because of over-fishing.

over-fishing: (魚の)乱獲

5. Roads are to the city as blood vessels are to the body.

blood vessel: 血管

6. In the eighteenth century, as in the fifteenth, great social changes took place.

take place:起る

7. John was smoking as he walked.

8. As he predicted, the sky cleared up.

predict A:Aを予測する

9. In Japanese, many words, as in English, have been borrowed from other languages.

10. Much as I admire him as a politician, I do not like him as a man.

admire A:Aを高く評価する、賞賛する

11. Change his policy as he will, the candidate will not be supported by voters.

candidate:候補者 voter:有権者

12. He had completely misjudged the situation, as he later discovered.

misjudge A:Aを誤って判断する

13. As a young man, Jiro had taught Japanese in Germany.

14. As more and more Americans eat fast food, more and more Americans also become concerned about it.

become concerned about A:Aについて心配するようになる

15. Some young people believe that the English language as spoken in New York is very cool.

cool:かっこいい

【解答&解説】

1. 「子供の頃[とき]、宇宙の大きさについての問題に当惑したのを覚えている」

【解説】 as の後ろに「人生の(過去の)成長段階」を表す名詞(a child)がきているので、as は「~の頃」と訳す。

2. 「日本語は人間関係や生活習慣と密接に結びついているので、日本に関する知識がなければ、能率よく意思を通じ合うことはできないと私は信じる[思う]」

【解説】 文頭の As の後ろに「S+V~」の構造が見つかるので、まずは「時」か「理由」の可能性を考えてみる。主節との意味関係から「~ので」という「理由」の意味で訳すとうまくつながる。

3. 「①英語は今や非常に国際的である。②それ故英語は、イギリス人がいまだ母語としての所有権を保持しつつ、他人に貸し与えるような所有物ではない」

【解説】 ①は解説の必要はないはず。

②について。it は English を指している。which は関係代名詞で、which~tongue までが先行詞の a possession を修飾している。while の後ろには English people are つまり「主語+be動詞」が省略されている。

☛ LESSON BOOK REVIEW Rule-53 を参照せよ。

文章後半の as は、後ろに their mother tongue という名詞のみをとっているので、「~として(の)」と訳せばいい。

4. 「世界の人口が増えるにつれて、乱獲が原因となって魚の数が減ってきている」

【解説】 as節内の動詞が increase(増える) という「変化」を表す動詞なので、as を「~につれて」と訳す。

5. 「道路と都市の関係は、血液と肉体の関係と同じだ」

【解説】 「A is to B as[what] C is to D: AとBの関係はCとDの関係と同じだ」という決まり文句。

6. 「15世紀と同様に、18世紀において大きな社会変革が起きた」

【解説】 as の前後で「in+名詞」という同じ形の繰り返しがみられるので、as は「～のように(と同様に)」と訳せばいい。

7. 「ジョンは歩きながらたばこを吸っていた」

【解説】 「as S+V」型。asは「時」を表しているとみなし、「～ながら」と訳す。

8. 「彼が予測したように、空は晴れ上がった」

【解説】 predict は「～を予測する」という意味で、基本的に他動詞。にもかかわらず後ろに目的語がない。つまり as の後ろに「不完全な文」がきていると判断し「～のように」と as を訳す。

9. 「英語におけるのと同様、日本語の多くの言葉は、他の言語から拝借された」

【解説】 as の後ろには、SもVもない、文としては「不完全な形」がきている。その場合、「～ように」「～だが」で訳せることが多い。「英語におけるのと同様に」あるいは「英語においてもそうなのだが」くらいの訳でいい。

10. 「政治家としては彼のことを非常に高く評価するけれど、人間としては(彼のことは)嫌いだ」

【解説】 3つある as のうち、先頭の as は「□ as S+V,」型で「～けれど」と訳す。2つ目、3つ目の as は共に直後に名詞のみをとっているので「～として」と訳せばいい。

11. 「たとえどんなに自身の政策を変えようとも、その候補者は有権者から支持されないだろう」

【解説】 「□ as S+V,」の□の部分に動詞が入ると「(たとえ)どんなに～しても」という意味になる。

Change his policy as he will, ~
[動詞] S V

一瞬で単語を数百個覚えてしまう方法。

それは接頭辞・接尾辞を利用した英単語のおぼえ方です。接頭辞・接尾辞とは、単語の先頭や末尾に付けて、意味を加えたり品詞を変化させたりするものことです。たとえば「en」という接頭辞・接尾辞があります。

※m, p, b で始まる語の前で用いる時は「em」となることもある。

「en」は「～の状態[中に]に引き入れる」がその基本イメージなのですが、具体的には以下のような意味を作ります。

(1)名詞・形容詞に付けて

- ① 「…にする」(又は「…を与える」)という意味の他動詞をつくる。
- ② 「…になる」という意味の自動詞をつくる。

つまり、en+OO、OO+en という動詞に出会ったら、その(語の)後ろに目的語になれそうな名詞があれば(他動詞とわかるので)「…にする」(又は「…を与える」)と訳せばいい。逆に目的語になれそうな名詞がなければ、(自動詞とわかるので)「…になる」と訳せばいいと、その意味を類推できるわけです。以下にそんな en型の動詞の例をあげてみました。

enjoy	en+joy(喜び)	→ 喜んだ状態にする	⇨ 楽しませる
encourage	en+courage(勇氣)	→ 勇氣ある状態にする 勇氣を与える	⇨ 勇氣づける
endanger	en+danger(危険)	→ 危険な状態にする	⇨ 危険にさらす
enable	en+able(可能)	→ 可能な状態にする	⇨ 可能にする
enrich	en+rich(豊かな)	→ 豊かな状態にする	⇨ 豊かにする
enlarge	en+large(大きい)	→ 大きい状態にする	⇨ 拡大する
enlighten	en+light(光)+en	→ 光を当てた状態にする	⇨ 啓発する
enact	en+act(法律)	→ 法律の状態にする	⇨ 制定する
widen	wid(=wide)+en	→ 広くする	⇨ 広げる
deepen	deep(深い)+en	→ 深い状態にする	⇨ 深くする

weaken	weak(弱い)+en	→ 弱い状態にする	⇨ 弱くする
hasten	haste(急ぐ)+en	→ 急いだ状態にする	⇨ 急いで～する
fasten	fast(しっかりした)+en	→ しっかりした状態にする	⇨ 固定する
embody	em+body(体)	→ 体を与える	⇨ 具体化する
empower	em+power(力)	→ 力を与える	⇨ (資格・権限等を) 与える
enforce	en+force(力)	→ 力を与える	⇨ (法を)施行する 守らせる
entitle	en+title(題目・称号)	→ 題目(称号)を与える	⇨ ①資格(権利)を与える ②(～という)題を与える

※entitle は be entitledと受身で使われることが多く、その場合「資格[権利]を持っている」「(～という)題が付いている」という意味になる。

(2)名詞・動詞に付けて「Aの中に(入れる)」の意味の他動詞をつくることもある。

embark	em+bark(船)	→ 船の中に	⇨ 乗船する
enroll	en+roll(名簿)	→ 名簿の中に(入れる)	⇨ 登録する
embrace	em+brace(腕)	→ 腕の中に(入れる)	⇨ 抱擁する
enclose A:	en+close(閉じる)	→ 閉じた中に(入れる)	⇨ Aを囲む
enlighten	enlight(光を照らす・明るくなる)+en	→ (知的に)明るくなった中に(入れる)	⇨ 啓発する

※en は上記以外に、物質名詞に付けて「…の性質を持った」「…製の」という意味の形容詞をつくることもある。

(ex) wooden 木製の

また、不規則動詞の過去分詞をつくることもある。

(ex) fallen ← fall の過去分詞

この方法なら単純なルール一つで、一度も見たことのないものを含めて何百という単語が一瞬で(enlargeは「大きくする」sharpenは「鋭くする」といったように)覚えられてしまいます。

4.with のマスター。

英和辞典で with を調べると20数個もの意味が書かれていて、英文中で現れた with がそのうちのどの意味になるのか見極めるのに本当に苦労します。それに第一それだけの with を頭に入れることは不可能に近いですね。そこで、解釈で必要なものを中心に with の用法を頻度順に5つにまとめてみました。実際1.~3.の with が、英文中の with の意味の 70%以上を占めるといってもいいでしょう(ボクはこの3つを「with ベスト3」と呼んでいます)。ですからまずこの3つを覚えるところからはじめてください。

1.「~といっしょに」「~と共に」

これはみなさん一番おなじみの with です。

(ex) Jack works with his father. ジャックは彼の父と一緒に働いている

ただ、おなじみだけにいろいろな応用形があります。たとえば「時間的な同伴」を表して「~につれて[と共に・ごとに・に伴って]」という意味になることもあります。

(ex) My father rises with the sun. 父は日の出と共に起きる

My husband got kind with age. 夫は年と共に親切になった

また「意見・考え等が一緒」というところから、「~に賛成して」という意味にもなります。

(ex) I am [=agree] with you all the way. 私は全くあなたの案に賛成である

更に「共にある[いる]」というところから、「合っている」「調和している」「一致している」という意味にもなります。

(ex) The green curtains don't go with the red carpet.

その緑のカーテンは赤のカーペットと合わない

2. 「～を持った」「～を身につけて」【所有・携帯】

これはカンタンに言うと「having～(～を持っている)」で言い換えられる with です。

(ex) I prefer the dress with the collar.

私はえりのあるドレスのほうが好きである

上の英文でも the dress with the collar は「えりを持ったドレス → えりのあるドレス」となるわけです。

(ex) I saw a girl with blue eyes 青い目の少女を私は見た

上の英文でも「青い目を持った少女 → 青い目の少女」となります。

3. 「～で(もって)」「～のおかげで」【手段・原因】

次に頻度が高いのがこの「～で(もって)」「～のおかげで」と訳す with です。

(ex) Bess tied the package with a yellow ribbon.

ベスはその包みを黄色いリボンで(もって)結んだ

His hands froze with the cold. 彼の手は寒さで凍った

4. 「動詞 + A with B」型。

ある動詞の後に「A with B」という形が続く場合、その動詞の意味は次の2つに分類することができます。

① 「AにBを与える」

(ex) provide A with B 「AにBを与える」

furnish A with B 「AにBを与える」

② 「AをBと結びつける」

(ex) combine A with B 「AをBと結び付ける」

associate A with B 「AをBと結びつける、関連させる」

with the tape recorder **on** テープレコーダーがオンになっている状態で
【副詞】 ⇨ テープレコーダーで録音しながら

with O C の文中でのうまい訳し方については **LESSON BOOK REVIEW Rule-37 5.** を参照してください。

余裕のある人は更にあと4つの意味を覚えてしまえばもう鬼に金棒です。

6. 「～に関して」「～に対して」【関係・関連】

(ex) Something is wrong with this machine.

この機械(に関して)はどこか具合が悪い

The problem with computers is that they can cause health problems.

コンピュータに関する問題は、それらが健康問題を引き起こす可能性があることだ

7. 「もし～があれば」【条件】 ⇨ without～「～がなければ」

主節に「推量の助動詞(will[would], may[might], can[could])」があることが多いのが、この意味になる with の特徴です。

(ex) I would be able to move the stone with this machine.

もしこの機械があれば、その石を移動させられるのだが

8. 「with+抽象名詞」は副詞化する。

たとえば with に「カンタンさ、容易さ」という抽象名詞 ease がくっついて with ease となると、これは easily つまり「カンタンに」という副詞と同じ意味になります。以下にそんな、副詞1語と同じ意味になる「with+抽象名詞」の例をあげてみましょう。

①with ease	= easily	「たやすく、カンタンに」
②with difficulty	= barely	「やっとのことで、かろうじて」
③with success	= successfully	「首尾よく」
④with diligence	= diligently	「勤勉に」
⑤with kindness	= kindly	「親切にも」
⑥with care	= carefully	「注意深く」
⑦with rapidity	= rapidly	「素早く」
⑧with fluency	= fluently	「流暢に」
⑨with calmness	= calmly	「落ち着いて」
⑩with energy	= energetically	「精力的に」
⑪with reserve	= reservedly	「遠慮して」
⑫with warmth	= warmly	「暖かく」
⑬with vigor	= vigorously	「勢いよく」

9.その他

- ①with all A: Aにもかかわらず =in spite of A
 =despite A
 =for all A

(ex) With all his faults, I love him still.

欠点はあるけれど私はまだ彼を愛しています

With all his wealth, Mr. Brown is not happy at all.

あれだけの富がありながらブラウン氏は全く幸福でない

④ただし、「原因・手段」を表す with に「all+名詞」がくっついただけの with all～もあるので、そのあたりは区別ができるようにしておかないといけない。

(ex) With all this work to do, I have no idea when I will leave the office.

こんなにすることがたくさんあるので、いつ会社を出るかわからない

②with that:こう[そう]言って, こう[そう]やって

(ex) With that, my father left the room. 父はこう言って部屋を出て行った

③start [begin] with A: Aから始める

(ex) For background, you'd better start with the newspaper files.

背景を知るために新聞のファイルから(調査を)始めた方がいい

英文中の with の70~80%は、以下の3つのいずれかで訳せる。

- ① 「~と一緒に[共]に」 「~につれて」
- ② 「~を持っている」 「~を身につけている」 「所有・携帯」
💡 having で言い換えられる with。
- ③ 「~で(もって)」 「手段」
「~のおかげで」 「原因」

つまり英文中の with を①で訳して意味が取れない場合、②か③の可能性が高い。
with 征服のための第一歩は、この3つの意味を覚えるところから始めよう。

演習問題:次の英文を和訳せよ。

1.With the dense fog to help him, there was no danger that he was seen by anyone.

2.The lady greeted me with a smile.

3.During the operation, they had to communicate constantly with their eyes.

operation:(軍事)作戦

4.During my first stay in Japan, I was fascinated by the country, with all its undiscovered riches of language, literature, and tradition.

undiscovered:未知の

5.We adults are often surprised at the rapidity with which children master a foreign language.

rapidity:素早さ、迅速さ

6.Twenty years later, many people still thought of her as the little girl that America had always loved in the movies, but she had grown up to be an intelligent woman with knowledge of world problems.

【解答&解説】

1. 「濃い霧が助けてくれたおかげで、彼は誰かに見られる危険は全くなかった」

【解説】 文頭の with は「原因」を表しているとみて、「～のおかげで」と訳せばいい。
to help him は the dense fog を修飾している。文末の that節は同格節で、
danger を修飾している。

2. 「微笑みながらその女性は私に挨拶をした」

【解説】 with a smile の with は「微笑みと共に」と考えればいい。

3. 「その作戦の間、彼らは絶えず目でもって意思を伝え合わなければならなかった」

【解説】 with their eyes の with は「手段」と判断し、「～でもって」と訳すといい。

4. 「最初の日本滞在期間中、私は言語や文学や伝統というこんなにも未知なる豊かさを持ったその国(日本)に魅了されたのだった」

【解説】 with all its ~ の with は having で言い換え可能な「～を持った」という意味。
with ~ tradition 全体が the country を修飾している。「with all A:Aにもか
かわらず」と勘違いしてはいけない。

5. 「私達大人は、子供たちが外国語を習得する速さにしばしば驚く」

【解説】 和訳する際には、普通に関係詞節を先行詞(the rapidity)にかけて訳せばいい
(withを和訳に出す必要はない)のだが、なぜ with which となっているかという
と、関係詞節は元々、下のような英文だったのだ。

Children master a foreign language with rapidity.

子供たちは素早く外国語を修得する

with rapidity は「with+抽象名詞」で、副詞の rapidly(素早く、迅速に)と同じ
意味。この rapidity が関係代名詞の which となり、with と一緒に節頭に移動し
たのが、問題文の with which だったのだ。同じ用例をもう1つあげてみよう。

(ex) Many Japanese tend to envy the ease with which bilingual people can switch from one language to the other.

上の英文の関係詞節は元々以下のような英文だった。

bilingual people can switch from one language to the other with ease.
バイリンガルの人はある言語から別の言語へとカンタンに切り替えることができる

with ease(カンタンに)の ease が which となって直前の with と一緒に節頭に飛び出したのだ。全体の訳は「多くの日本人は、バイリンガルの人がある言語から別の言語へとカンタンに切り替えることができるのをうらやましく思う傾向がある」となる。

6. 「20年後、多くの人たちは依然として彼女のことをアメリカ人が映画の中でずっと愛していた少女だと思っていた。しかし彼女は成長し、そして世界の様々な問題についての知識を身につけた聡明な女性になっていた」

【解説】 think of A as B は「AをBとみなす」。

☞ LESSON BOOK REVIEW Rule-26 8. を参照せよ。

grow up to be~(成長して、そして~になる) の to は結果の不定詞。

☞ LESSON BOOK REVIEW Rule-29 を参照せよ。

with knowledge~ の with は having で言い換えられる。「~を持った」と考えればいい。with ~ problems は woman を修飾している。

5.クジラ構文のマスター。

1.「クジラ構文」って？

これまで長年の間受験生を悩ませてきたややこしい、覚えにくい、それでいてよく狙われる構文に、いわゆる「クジラ構文」というのがあります。「クジラ構文」という名前は、

「クジラが魚でないのは、馬が魚でないのと同じだ」

といったように、なぜだか例文にやたらクジラが登場することに由来します。誰しも受験生なら一度はみたことはある、「A is no more ~ than B」「A is no less ~ than B」といったあの構文です。

このクジラ構文、文法書を読んでもなかなか理解しにくい。覚えにくい。そこで、要は訳せること、意味が取れることが先決なのだから、文法書的な解説は少々離れて、でもこの悩ましい、覚えづらい構文を、いともカンタンに攻略してしまう方法を伝授しましょう。

2.基本ルール。

まずこの構文をマスターするための3つの基本ルールを覚えましょう。とはいってもそのうちの2つは、とっても単純です。

(1)ルールその1

ルールその1

- ① no = - 「~でない」
- ② less = - 「~でない」
- ③ more = + 「~だ」

このように no は、「～(で)ない」という否定的な意味を持つので「マイナス(-)」の記号、less も「(より)～ない」という否定的な意味をこれまた持つので「マイナス(-)」の記号だとイメージするようにして下さい。逆に more は「(より)～だ」と肯定的な意味を持つので「プラス(+)」の記号だとイメージして下さい。

愈あくまでイメージとして。

(2)ルールその2

ルールその2

(1) $- \times - = +$ (「～だ」 [肯定的])

(2) $- \times + = -$ (「～でない」 [否定的])

これは中学1年生の数学の公式です。「マイナス×マイナス」は「プラス」つまり「肯定(～だ)」の意味になる。また「マイナス×プラス」は「マイナス」つまり「否定(～でない)」の意味になると覚えてください。

(3)ルールその3

ルールその3

「no+比較級」と共に用いられる than は、as ... asと同じで「～と同様(に)」という意味。前と後ろをイコールの関係で結ぶ記号だと考えよ。

このルールだけが目新しいでしょう。ただ、一度覚えてしまえばそんなに難しいものでもありませんね。

さあ、この基本ルールが頭に入れば「クジラ構文」なんて後はもうカンタンです。

3. A is no more ~ than B.

(1)まず、このような「クジラ構文」では大前提として、必ず **than** の手前で／を引いてそこで区切って意味を考えます。

A is no more ~ / than B

上のように、まず「A is no more ~」までの意味を整理します。

(2)「no more」は「マイナス×プラス」、即ち全体で「マイナス(～でない)」となります。つまり「A is no more ~」の意味は「Aは～でない」という意味になる。

(3)次に than は、先程も「ルールその3」で言ったように「～と同様に」。ということはこのつなげると

A is no more ~ / than B

「Aは～でない」 「Bと同様に」

となる。つまり「AもBも両方とも～でない」ということを言ってるに過ぎないとわかります。カンタンですね。全く暗記など必要ありません。実際の例文で使ってみましょう。

(ex) I am no more able to speak Spanish than you.

【解説】 ①まず than の手前で／を引き、そこまでの意味をとる。

I am no more able to speak Spanish

②「no more」だから「- × +」でトータル「-」、つまり「～でない」。全体は「私はスペイン語を話せない」となるはず。

③than は「～と同様に」だから、than you は「君と同様に」。

④前後半をつなげれば「私はスペイン語が話せない+君と同様に」 ⇨ 「私は君同様(つまり私も君も)、スペイン語を話せない」となる。

(4)「no」は「not ~any」で書き換えられることから、上記の構文の no の部分に not~any を代入すると以下ようになります。

A is no more ~ than B ⇨ A is not ~ any more than B

両者は意味は同じ。例題もこのルールを使って以下のように表現することも可能です。

⇨ I am **not** able to speak Spanish **any more** than you.

これは以下のように、ひとつの公式として覚えてしまいましょう。

A is no more ~ than B =A is not ~ any more than B
--

応用形として次のような形にも慣れましょう。つまり「no more」が「no+(more以外の)比較級」になる場合です。

(ex) Hellen is good at skiing. She goes skiing in Hokkaido every year.

She can go down a slope at high speeds in no greater danger than others on their bicycles in city streets.

上の英文の後半の no greater danger than~ の部分ですが、(「no+比較級」なので)まず no greater danger までで区切って、そこまでの訳をまとめます。そうすると「大きな[大した]危険はない」となります。次に than~ ですが、than は(これまで通り)「~と同じように[くらい]」なので「他の人が町の通りで自転車で走るのと同じくらい」となります。全体を訳すと「ヘレンはスキーがうまい。毎年北海道にスキーに行っている。彼女は、他の人が町の通りで自転車で走るのと同じくらい大した危険もなく、速く斜面を滑り降りることができる」となります。

4. A is no more ~ than B is C.

(1)今度は than の後ろに「S+V」構造が続く、先程の応用形。

これもまず **than** の手前で / を引いて、そこで区切って意味を考えます。

A is no more ~ / than B is C

上のように、まず「A is no more ~」までの意味を整理します。

(2) 「no more」は「マイナス×プラス」、即ち全体で「マイナス(～でない)」となる。つまり「A is no more ~」の意味は「Aは～でない」という意味になります。ここまではさっきと同じです。

(3) さあ次に「than B is C」の部分をどう考えるか。ここが問題です。

正しい考え方はこうです。「ルールその3」で言ったように **than** は「**～と同様に**」という意味で、前後を「**イコール関係**」で結ぶ記号だと考えます。今回の場合、than の結ぶ一方(thanの左側)が no more、つまり「～でない」というマイナス(否定)であるなら、もう一方(thanの右側)も「～でない(マイナス)」になると考えるのです。than 以下に not 等の否定語がついていなくても、です。そうすると、前後半をつなげると以下ようになります。

A is no more ~ / than B is C

「Aは～でない」 「BがCでないと同様に」

これも実際の例文でうまく使えるかどうか試してみましょう。

(ex) A home without love is no more a home than a body without a soul[魂] is a man.

【解説】①まずこれも手順は同じで than の手前で/を引いて、そこまでの訳をまとめてみる。

A home without love is no more a home
no more なので、「-×+」になり、トータルで「マイナス」つまり「～でない」となるはず。そうすると前半部の訳は、

「愛のない家庭は家庭ではない」

となる。

②次に後半。

than a body without a soul[魂] is a man.

の部分。どこにも否定語はついていないが、than の左側が「マイ

ナス(～でない)」だったので、この部分も「マイナス(～でない)」
となると考える。とすると訳は

「魂のない肉体が人間でないのと同様に」
となる。で全体は
「愛のない家庭は家庭ではない。魂のない肉体が人間でないのと
同様に」
楽勝だ(^_^)v。

ただ、「A is no more～ than B」に関しては、場合によっては「AはBよりも
～ということはまったくない」と、ふつうの(否定の)比較構文(単なる「A is
not more～ than B」の強調形)として訳す場合もあるので、注意は必要です。
クシラ構文なのか、ふつうの比較構文なのかはこれは文脈判断ということになり
ます。以下は普通の比較構文として訳した方事例です。

(ex) This question is no more difficult to solve than that one.
この問題が、あれよりも解くのが難しいということは全くない

5. A is no less ~ than B.

(1)ここまでわかってしまうと後はもう「芋づる式」に、つまり同じ要領でカンタンに
意味が見極められてしまいます。

今回は more が less に変わったただけの話。これも同じようにまず **than** の手前で
／を引いてそこで区切って意味を考えます。

A is no less ~ / than B

上のように、まず「A is no less ~」までの意味を整理します。

(2) 「no less」は「マイナス×マイナス」、即ち全体で「プラス(～だ)」となる。

つまり「A is no less ~」の意味は「Aは～だ」という意味になります。

(3)次に than は、先程も「ルールその3」で言ったように「～と同様に」。ということはこのつなげると

A is no less ~ / than B

「Aは～だ」 「Bと同様に」

となる。つまり「AもBも両方とも～だ」ということを言ってるに過ぎないとわかります。これも実際の例文で使ってみましょう。

(ex) Money is no less important than love (is).

【解説】①まず than の手前で / を引き、そこまでの意味をとる。

Money is no less important

②「no less」だから「- × -」でトータル「+」、つまり「～だ」。全体は「お金は大事だ」となるはず。

③than は「～と同様に」だから、than loveは「愛と同様に」。

④前後半をつなげれば「お金は大事だ+愛と同様に」 ⇨ 「お金は愛と同様に(つまりお金も愛も)大事だ」となる。

(ex) I can no less speak German than you can speak French.

【解説】①まずこれも手順は同じで than の手前で / を引いて、そこまでの訳をまとめてみる。

I can no less speak German

no less なので、トータルで「プラス」、つまり「～だ」となるはず。そうすると前半部の訳は、

「私はドイツ語を話せる」

となる。

②次に後半。

than you can speak French.

の部分。今回は than の左側が「プラス」だったので、than 以下(thanの右側)も「プラス(～だ)」になると考える。

とすると訳は

「あなたがフランス語を話せるのと同様に」

となる。で全体は

「私はドイツ語を話せる。あなたがフランス語を話せるのと同様に」

これまた楽勝だ(^_^)v。

6. no more than と no less than。

これは例文で考えた方がわかりやすいでしょう。

(ex) He has no less than 100 dollars.

この英文、no less の後ろにある than はこれまで通り、「前後をイコールで結ぶ記号」だと考えます。ということは

He has	=	100 dollars
--------	---	-------------

「彼が持っているもの[額]」

「100ドル」

と、「彼が持っているもの[額]は100ドルだ」という意味が成り立ちます。あとはそこに no less というニュアンスがつけ加わったとみるのです。no less は「マイナス×マイナス」だから、トータル「プラス」。つまり「肯定的」なニュアンスを持つことになります。つまり肯定的なニュアンスをもって(あるいはその「数・量・程度の多さ[高さ]」を強調して)「彼は100ドル持っている」と言っているわけです。そうするとこんな日本語訳が成り立ちますね。

「彼は100ドルも(たくさん)持っている」

結果的にこの no less than は「as much[many] as…」で言い換えられることになります。

(ex) I have no more than 100 yen.

この英文の than も同じように「前後をイコールで結ぶ記号」だと考えます。ということは

I have	=	100 yen
「私が持っているもの[額]」		「100円」

と、「私が持っているもの[額]は100円だ」という意味が成り立ちます。あとはそこに no more というニュアンスがつけ加わったとみるのです。no more は「マイナス×プラス」だから、トータル「マイナス」。「否定的」なニュアンスを持つことになります。つまり否定的なニュアンスをもって(あるいはその「数・量・程度の少なさ[低さ]」を強調して)「私は100円持っている」と言っているわけです。とするとこんな日本語訳が成り立ちますね。

「私は100円しか持っていない」
「私が持っているのは100円に過ぎない」

結果的にこの no more than は「as little[few] as…」 「only…」で言い換えられることになります。また、**nothing more than** も **no more than** の変形と考えてかまいません。

(ex) I can't respect my brother. He is nothing more than a dreamer[夢家].

上の英文では nothing more than の部分を only で読み替えばいいでしょう。訳は「私は兄を尊敬できない。彼は夢家に過ぎない」。

nothing less than の場合は、(良い意味でも悪い意味でも)完全なイコール関係で前後を結びます。「まさしく～に他ならない[同然だ]」等と訳します。

(ex) Mr. Brown is nothing less than a genius. ブラウン氏は天才に他ならない

What you did is nothing less than murder.

君がやったことはまさに殺人も[と]同じだ

上の2つの英文ではそれぞれ「Mr. Brown(ブラウン氏) = a genius(天才)」、「What you did(君がやったこと) = murder(殺人)」となります。

7. not more than と not less than.

これについては「プラス」だの「マイナス」だのといったことはやらないで語呂合わせ、^{ちからわざ}というか力技で覚えてしまいましょう。

not more than は at most(多くとも、せいぜい)と同じ意味になる。これは、not more の「t m」と「at most」の「t m」が、同じ t m(ティーエム)つながりになっているのを引っ掛かりにして覚えてしまう(than はこれまで通り「イコール記号」と考えて結構です)。

そして not less than は at least(少なくとも)と同じ意味になる。これは not less の「t l」と「at least」の「t l」が、同じ t l(ティーエル)つながりになっているのを引っ掛かりにして覚えてしまうわけです。

not more than = at most 「多くとも」「せいぜい」

not less than = at least 「少なくとも」

(ex) ① There are not more than ten persons in the room.

② I have not less than five hundreds dollars.

【訳】①部屋にいるのはせいぜい10人である。

②私は少なくとも500ドル持っている。

not と more[less]が離ればなれになることもあります。

(ex) My wife does not weigh less than 90 kilograms.

訳し方は同じように not less を「少なくとも」、全体は「うちの家内は少なくとも体重が90キロはある」と訳します。

応用形として「A is not less ~ than B」というのがあります。これについては

(1)これはまた初心に戻って than の手前で/を引いて、まずそこまでの意味をまとめてしまいます。

A is not less ~ / than B

上のように、まず「A is not less ~」までの意味を整理します。

「not less～」は、to(ティーエル)つながりで at least と同じ、つまり「少なくとも」と考える。とすると前半部の意味はこうなります。

「Aは少なくとも～だ」

(2)次に than は、これまでと同じで「〇〇と同様に」。ということはこれをつなげると

A is not less ~ / than B

「Aは少なくとも～だ」 「Bと同様に」

となります。つまり「Aは少なくともBと同じくらい～だ」という意味になります。この構文は参考書には「AはBに勝るとも劣らず～だ」なんて訳がついていて、これまでならそれを丸暗記するしかなかったのですが、もうこれでそんな苦労はしなくてもよくなりましたね。

(ex) Tom is not less diligent than his big brother.

上の英文も上記のルールをつかって「トムは少なくともお兄さんと同じくらい勤勉だ」と訳せばいいでしょう。

8. no+比較級+than A。

よく参考書などに以下のように書いてあるのを見かけます。

① no easier than A = as difficult[hard] as A : 「Aと同じくらい難しい」

② no bigger than A = as small as A : 「Aと同じくらい小さい」

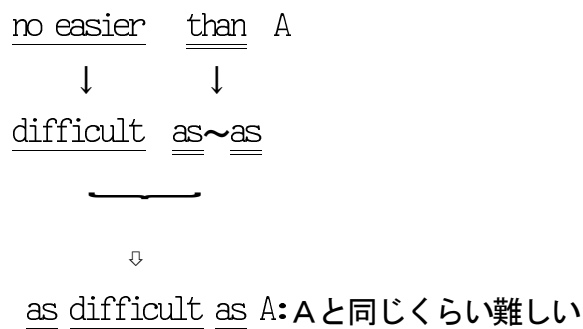
③ no better than A = as bad as A : 「Aと同じくらい悪い」

これも以前なら丸暗記するしかなかったかもしれませんが、今ならこれらも暗記不要で頭に入れられてしまいます。その考え方はこうです。

no easier, no bigger, no better は、共に「no+比較級」ですね。「no+比較級」の後ろの than は「…と同様に」、つまり「as~as…」で言い換えられるはず。

で、①の no easier は「カンタンではない」つまり「難しい(difficult)」ということなのだから、結果として「as difficult as A」と同じ意味になるんだ、と考えればいい

わけです。



そうすると同じ要領で、②の no bigger は「大きくない」つまり「小さい」ということなのだから、結果として②は「as small as A」と同じ意味になる。

③の no better は「良くない」つまり「悪い」ということなのだから、結果として③は「as bad as A」と同じ意味になるわけです。

この考え方で、今後どんな「no+比較級+than A」が文中に現れても、その意味を(「これは『as+原級+as』で言い換えてしまえばいい」と)カンタンにとることができるようになったわけです。

「クジラ構文」の補足

「続・英語語法大辞典」(204ページ)にこうあります。

He can no more do it than he can fly. これは彼は「それができない」ことを強調するために、それと対比するのに「飛べない」ことを(例えとして)持ち出したのです。than 以下は付け足し(としての例え)に過ぎません。要するに「彼はそれがどうしてもできないのだ」と言おうとしているのです…than 以下はあまり重要性はありません。

ということは

①S+V no more ~ than…の場合

- 1.要するに話者が伝えたい本質は「SはVしない[できない]」という強い否定。
- 2.than 以下は、いかに「SはVしない[できない]か」ということを強調するための例え(ということは than をはさんで両者はイコールの関係)。

②S+V no less ~ than … の場合

- 1.要するに話者が伝えたい本質は「SはVする [できる] 」という強い肯定。
- 2.than 以下は、いかに「SはVする[できる]か」ということを強調するための例え(ということは than をはさんでこちらも両者はイコールの関係)。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

1. Even the brightest chimpanzee can no more speak than it can fly.
chimpanzees can be taught to communicate simple ideas, but by only signs and gestures.

bright: 頭がいい by sign and gestures: 身ぶり手ぶりで

2. She stands out even among actresses for her beauty. A beauty like her can no more help being outstanding among ordinary people than a diamond in a pile of stones.

stand out: 目立つ actress: 女優 beauty: ①美しさ ②美人 outstanding: 目立った ordinary: 普通の
a pile of A: -山のA

3. My boss is very obstinate, and will not listen to me. It is not possible to make him change his mind any more than it is to pull a donkey up a hill against its will.

obstinate: 頑固な donkey: ロバ against one's will: 意志に反して

4. Hakuho is very good at Japanese. It is said that many foreign sumo wrestlers acquire sufficient ability in daily conversation in Japanese in no more than a year.

acquire: ~を身につける、獲得する sufficient: 十分な daily conversation: 日常会話

5. She came across a strange dog in a pet shop. It was no bigger than a roll of bread.

come across: ~に偶然出会う、見つける a roll of bread: ロールパン

【解答&解説】

1. 「どんなに頭のいいチンパンジーでも言葉を話すことができないのは、(彼らが)空を飛べないのと同じだ。チンパンジーは簡単な考えを伝えるよう教えられることはできるが、しかしそれは身ぶり手振りをを用いてのみである」

【解説】 第一文が、典型的な「A is no more ~ than B is C」型。まず基本通り than の手前で区切って、そこまでの訳をまとめてみる。

Even the brightest chimpanzee can no more speak

no が「マイナス」、more が「プラス」なので「マイナス×プラス」でトータル「マイナス」。つまりここは否定的に訳せばいい。「どんな頭のいいチンパンジーでも言葉を話すことはできない」。

次に than 以下だが、than の左側が「マイナス」つまり否定的な意味だったのでここも否定的な意味でまとめる。「それ(チンパンジー)は空を飛べないのと同じように」。2つの訳ををつなげれば模範解答になる。

2. 「彼女はその美しさの故に女優の中でさえ目立っている。彼女のような美人は一山の小石の中のダイヤモンドと同じように、普通の人の中では目立たずにはいられない」

【解説】 第二文がクジラ構文だとわかってはなかなか難しい。これは「A is no more ~ than B」 と「can not help ~ing:~せずにはいられない」がドッキングした形になっている。つまり no more はマイナス、つまり否定語に相当するので、「~ can not help being outstanding:目立たずにはいられない」と読み替えることができたかがポイントになる。なお、問題文には2つの beauty が使われているが、最初の beauty は「美しさ」、2つ目の beauty は「美人」の意味で用いられている。than a diamond in a pile of stones は「一山の中の石の中でダイヤモンドと同様に」だが、省略を補えば than a diamond can help being outstanding in a pile of stones。「一山の石の中でダイヤモンドが目立たずにはいられないのと同じように」ということ。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-49 を参照せよ。

3. 「うちの上司は大変頑固で私の話を聞こうとしない。ロバをその意志に反して丘の上へと引っ張り上げることができないのと同じように、彼[上司]の決心を変えることは不可能だ」

【解説】 第一文の will は「(どうしても)~しようとする」という「現在の意思」を表す。第二文がクジラ構文。「A is not ~ any more than B is C」型だ。これは「A is no more ~ than B is C」と同じように、つまり「Aが~でないのはBがCでないのと同じだ」と訳せばいいんだった。

than 以下はもともと、

it is possible to pull a donkey up a hill against its will.

だったのが、繰り返しを避けるために possible が省略されてしまっている。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-49 を参照せよ。

4. 「朝昇龍はとても日本語がうまい。多くの外国人力士は、たった一年で日本語での十分な日常会話能力を身につけてしまうそうだ」

【解説】 第二文後半に no more than がある。これは as little as、又は only で言い換えられる。

5. 「彼女はあるペットショップで、変わった犬に出会った。その犬はロールパンと同じくらい小さかった」

【解説】 第二文がクジラ構文の応用形、「no+比較級+than A」型になっている。no bigger than なら as small as で言い換えられるんだった。

6.名詞の訳し方。

1.名詞の動詞的・形容詞的な訳出。

英文読解の高等テクニックとして、「(抽象的な)名詞はできるだけ、動詞化できる場合には動詞化して、形容詞化できる場合には形容詞化して訳出した方がいい日本語になることが多い」というルールがあります。和訳にはとても重宝するルールなのに、これを臨機応変に使っている受験生がとても少ないんですね。

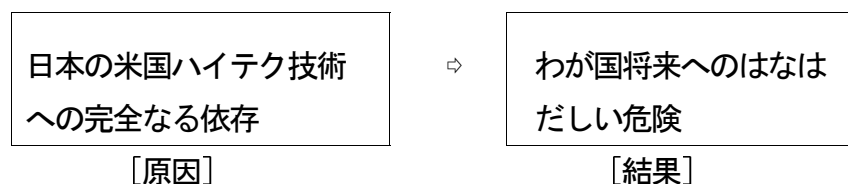
(ex) Japan's total dependance on U.S. high technology can cause extreme danger to the future of our country.

dependance:依存 extreme:はなはだしい

上の英文の主語の Japan's total dependance (on U.S. high technology) ですが、「日本のアメリカのハイテク技術への完全なる依存」と訳したのではなんともさまになりません。そこで dependance という抽象名詞が depend という動詞に変化させられることに着目し、以下のように主語全体を書き換えてみるわけです。

⇒ Japan depends totally on U.S. high technology.
S V

total は depend という動詞を修飾することになるので、副詞の totally に変え、depend の後ろに置きました。訳は「日本は(が)アメリカのハイテク技術に完全に依存している」となりますね。主語をこのように日本語に訳すわけです。そうするとあとは問題文の動詞の cause は「～を引き起こす・もたらす」ですから、全体は、「日本がアメリカのハイテク技術に完全に依存していることが将来のわが国にはなはだしい危険をもたらす可能性がある」となり、自然な日本語に仕上がりました。それから問題文の動詞の cause ですが、〇〇ページでも説明しているように、この動詞は「S＝原因」、「O＝結果」の意味関係でSとOを結びます。



もう一つあげてみましょう。

I felt uneasy at the mere thought of my wife's anger about my forgetfulness.

uneasy:不安 mere:単なる、たったの forgetfulness:ものわすれ

I felt uneasy が「私は不安を感じた」と訳すのはいいとして、問題はまず the mere thought。「たったの考え」では意味不明です。そこで thought を動詞の think として訳を考えてみるわけです。at the mere thought of~ を「~のことを考えただけで」と訳すわけです(同じ要領でたとえば at the mere sight of~は「~を見ただけで」と訳せばいい)。次に anger と forgetfulness ですが、これらはそれぞれ angry, forgetful と形容詞化できますね。そこで以下のように文の形に直してみるのです。

my wife's anger ⇨ My wife was angry. 妻が腹を立てる

my forgetfulness ⇨ I was forgetful. 私が(ものを)忘れっぽい

これをつなげると問題文全体は「私がものを忘れっぽいことに妻が腹を立てるのを考えただけで不安になった」となり、自然な和訳ができあがりました。

2.抽象名詞には受動態もある。

次の英文の意味がわかりますか？

Vincent van Gogh had no country-wide recognition in France in his day.

Vincent van Gogh:ゴッホ country-wide:全国的な recognition:認識

問題は抽象名詞の recognition。辞書を開くと「認識」と出ています。動詞形は recognize で「認識する」。動詞的に訳すといいたすと、「全国的な認識をすることは全くなかった」となるのでしょうか？しかしそれでは意味が通りません。

実は、抽象名詞は「~すること」という能動的な意味はもちろん、「~されること」という受動的な意味も持ちうるのです(どちらの意味になるかは文脈次第となります)。

本問の recognition がまさにそれで「認識されること(=being recognized)」という意味で使われていたのです。動詞的に上の英文を書き直せば以下ようになります。

- ⇒ Vincent van Gogh was not recognized country-wide at all in France in his day.
ヴィンセント・ヴァン・ゴッホは当時フランスでは全国的にまったく認められて
いなかった

もう1つ例をあげてみましょう。

The president's brave speech that required the people to be patient commanded
universal applause.

brave: 勇気ある require O to do[原形] ~: Oが~することを求める patient: 忍耐強い
command: ~を集める applause: 喝采

この英文中のapplauseも「喝采されること(=being applauded)」の意味で使われて
います。動詞的に書き直せば以下のように書き換えられます。

- ⇒ The president's brave speech that required the people to be patient was
universally applauded.

国民に忍耐(強くあること)を求めた大統領の勇気ある演説は広く喝采された[を
浴びた]

①(抽象的な)名詞をうまく訳せないときは、その名詞を動詞化できる場合には動詞化
して、形容詞化できる場合には形容詞化して訳出してみるといい。

②抽象名詞には受動的な意味もあるので要注意。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

1. I have been a steady TV watcher since my childhood.

steady: 安定した、揺るがない、習慣になった

2. When I gave a strong wrench to the handle, it came off.

wrench: ぐいとねじること came off: はずれる

3. Luke's rapid response to the question surprised us.

4. The Japanese pop idol made her first appearance in a rock concert in Budokan.

pop idol: アイドル歌手 Budokan: 武道館

5. Mike's preference for his only daughter is very obvious.

preference: 好み obvious: 明らかな、わかりやすい

6. We cannot help being struck with her close resemblance with her twin sister.

be struck with A: Aに驚嘆する close: 近い、緊密な resemblance: 類似

7. Everybody has in his or her mind the desire for praise and the fear of criticism.

8. The king was so seriously ill that he needed constant attention.

【解答&解説】

1. 「私は子供の頃からずっとテレビを見ている」

【解説】 *watcher* を動詞化し、*I have watched TV steadily.* と読み替えてみる。

2. 「私が強くひねると、取っ手ははずれてしまった」

【解説】 *wrench* を動詞化し、*I wrenched the handle strongly.* と読み替えてみる。

3. 「ルークがすぐその問題に答えたので、私達はビックリした」

【解説】 *response* を動詞化し、*Luke responded to the question rapidly.* と読み替えてみる。

4. 「その日本人アイドル歌手は武道館でのロックコンサートでデビューした」

【解説】 *appearance* を動詞化し、*The Japanese pop idol first appeared in~.* と読み替えてみる。

5. 「マイクが一人娘を好きだというのはわかりやすい」

【解説】 *preference* を動詞化し *Mike prefers his only daughter.* と読み替えてみる。

6. 「彼女が双子の姉ととてもよく似ているのには驚嘆せずにはいられない」

【解説】 *resemblance* を動詞化し、*She resembles her twin sister closely.* と読み替えてみる。

7. 「誰しも心の中では(人に)ほめてもらいたいという気持ちと、(人に)非難されるのが恐ろしいという気持ちを持っている」

【解説】 *the desire for praise* を「賞賛の願望」、*the fear of criticism* を「非難の恐怖」ではチンプンカンプン。実は *praise*、*criticism* は受動的に訳出しないとうまい和訳にならない抽象名詞だったのだ。それぞれ *the desire to be praised (by others)*、*the fear of being criticized (by others)*、つまり「(人から)ほめら

れたいという気持ち」「(人から)非難されるのを恐れる(恐ろしいと思う)気持ち」と訳すといい。

ちなみに the desire と the fear は共通して has の目的語になっている。in~mind を()でくくってみるとわかりやすい。

④ LESSON BOOK REVIEW Rule-5 を参照せよ。

Everybody has (in his or her mind) { the desire for praise
○ ↑
and
the fear of criticism.
○' ↑

⑤ ⑥

8. 「王様は大変病状が深刻だったので、たえず付き添ってもらう(看護をされる)必要があった」

【解説】 attention は attend(付き添う・看護する) の名詞形。だからといって(王様自身が病気なのだから)能動的に訳しても意味をなさない。ここは constant attention を be constantly attended(たえず付き添ってもらう、看護してもらう)と受動的に訳してみるといいのだ。

3. 「A of B」のうまい訳し方。

次の英文を見てください。

the legs of the table

誰でも「テーブルの脚」と訳せますね。このように「A of B」という構造をみたらふつう「BのA」と訳します。このような of を「所有[所属]の of」といいます。2、3例をあげてみましょう。

(ex) a friend of the doctor's その医者(の)の友人(の)1人

the name of the flower その花の名前

the children of my family 私の家の子供たち

「所有[所属]」以外でも、「BのA」で訳せる場合はそう訳して全くかまいません。

(ex) the works of Yukio Mishima 三島由紀夫の(全)作品

a house (built) of brick レンガ(造り)の家

the king of England イングランドの王様

the time of arrival 到着時刻

しかし「A of B」には、「BのA」ではうまい訳にならない場合があります。次の英文を見てください。

<u>The critic's bitter criticism</u> <u>of the CD</u>	<u>influenced</u>	<u>its sales.</u>	
A	B	V	O
S			

⑤になっている「A of B」の部分「BのA」と訳すと「そのCDの、その評論家の手厳しい批評」となってしまう、全く意味不明ですね。このような「A of B」の訳出に威力を発揮するのが、これから紹介するとおきの裏技です。

(1)主格(関係)の of。

「A of B」の「A」の方を「自動詞化」又は「形容詞化」できる場合があります。その場合、「B」がその「(自動詞・形容詞化したAの)主語」になります。そして両者は主語(B)と述語(A)の意味関係(「BはAする[である・になる]」)になる。そして、このような意味関係を導く of のことを、主格(関係)の of といいます。例をあげてみましょう。

(ex) the existence of ghosts

「A of B」の「A」にあたる existence は「存在する」という意味の exist に換えることができる、つまり自動詞化することができます。その場合「B」にあたる ghosts が主語になって、全体を以下のように書き換えることができます。

⇨ $\frac{\text{Ghosts exist.}}{\text{S} \quad \text{V}}$

「幽霊が存在する」。したがって the existence of ghosts は「幽霊が存在すること」と訳したらいいとわかります。終止形に「こと・もの」をつけて名詞の意味にします。もう1つ、今度は「A」を形容詞化できる例を見てみましょう。

(ex) the popularity of the movie

「A of B」の「A」にあたる popularity は「人気がある」という意味の popularに、つまり形容詞化することができます。その場合も「B」にあたる the movie がその主語になって、be動詞をはさんで全体を以下のように書き換えることができます。

⇨ $\frac{\text{The movie is[was] popular.}}{\text{S} \quad \text{(形)}}$

「その映画は人気がある[あった]」。したがって the popularity of the movie は「その映画は人気がある[あった]ということ」と訳せばいいでしょう(もちろんこの場合には「その映画の人気」と直訳しても十分ではありますが)。

(2)目的格(関係)の of。

「A of B」の「A」の方を、今度は「他動詞化」できる場合があります。その場合「B」がその「目的語」になります。つまり「他動詞+目的語」の形で書き換えられるわけです。

このような of のことを目的格(関係)の of といいます。例をあげてみましょう。

(ex) the education of children

「A of B」の「A」にあたる education は「～を教育する」という意味の educate に換えることができる、つまり他動詞化することができます。その場合「B」にあたる children はその目的語になって、全体を以下のように書き換えることができます。

⇨ educate children
V O

こうして「子供を教育すること」、つまり「児童教育」と訳したらいいとわかります。もう1つカンタンな例をあげてみましょう。

(ex) the discovery of the island

これも「A of B」の「A」にあたる discovery は「～を発見する」という意味の discover、つまり他動詞化できます。その場合「B」にあたる the island はその目的語になって、以下のように書き換えることができます。

⇨ discover[ed] the island
V O

「その島を発見する[した]」。したがって the discovery of the island は「その島を発見する[した]こと」と訳せばいいとわかります(この場合も「その島の発見」と直訳でも十分ではありますが)。

ただし注意したいのは「A」に「自動詞化」することも「他動詞化」することもできるような名詞がくることもあるということです。以下の例を見てください。

(ex) the love of mother

「A」にあたる love を自動詞化するとみれば「Mother loves:母が愛する ⇨ 母の愛」。他動詞化すると見れば「love mother:母を愛する ⇨ 母への[に対する]愛」。可能性としてどちらもあり得ます。このような場合は、前後の文脈でどちらにするかを判断することになります。

(3)同格(関係)の of。

これは後ろのB(又はdoing~)が、前のAの内容を説明する[言い換える]もので、「A of B/doing~」が「A=B」「A=doing~」の意味関係になるのが特徴です。

例「A=抽象的」、「B/doing~=具体的」のイコール関係になる。

B/doing~の後に「という」を付け足し、「Bという/~するというA」と訳すといいでしょう。以下にいくつか例をあげてみましょう。

(ex) the news of the team's victory チーム勝利という知らせ

his habit of smoking 喫煙という彼の習慣

実際、上の例のように「A of doing~」という形に文中で出会ったら、「~するというA」型の同格と見なしていいことが大半です。

(4)その他。

①「A of+抽象名詞」型。

「『of+抽象名詞』は形容詞化する」というルールがあります。たとえば of importance は、形容詞の important と同じです。したがって

a man of importance

は an important man、つまり「重要な人」という意味になります。以下に同じような例をいくつかあげてみましょう。

a machine of great use:とても役に立つ機械

=a very useful machine

a man of sense:分別のある人

=a sensible man

a man of courage:勇気のある人

=a courageous man

②「BについてのA」。

(ex) knowledge of the current situation:現在の状況についての知識(認識)

understanding[comprehension] of world economy:世界経済についての理解

③ 「Bのうち(中)のA」。

(ex) three of the girls 少女たちのうちの3人

④ 「(a/the)+名詞+of」で一つの形容詞の働きをするもの。☎243ページを参照せよ。

「A of B」の訳出の手順。

① 「BのA」で訳す。

② それでうまく訳せない場合は以下のどれかの可能性が高い。

1.主格(関係)の of。

「A」を自動詞化・形容詞化できる → 「B」をその主語にして「S+V」の形で書き換えてみる。

☎「A」を形容詞化できる場合は、be動詞をはさんで「S+V」の形に書き換えてみる。

2.目的格(関係)の of。

「A」を他動詞化できる → 「B」をその目的語にして「他動詞+目的語」の形で書き換えてみる。

3.同格(関係)の of。

4.その他。

(1) 「A of+抽象名詞」型。

(2) 「BについてのA」。

(3) 「Bのうちの[中の]A」

(4) 「(a/the)+名詞+of」で1つの形容詞の働きをするもの。

4.所有格が「所有」の意味にならない場合のうまい訳し方。

たとえば Tom's book といった場合、「トムの本」と訳せばいいのは当たり前です。Tom's という所有格は、まさに文字通り"所有"の意味で用いられています。ところが以下の例はどうでしょう？

My father's sudden death

この場合、「父が所有している突然の死」では意味が成り立ちません。この例のような所有格が"所有"の意味にならない場合の意味の可能性をここでは紹介します。

(1)「主格」関係。

所有格の後ろの名詞を「自動詞化」又は「形容詞化」できる場合があります。その場合、その所有格の部分が(その名詞の表す動作や状態・性質の)意味上の主語になっています。いくつか例をあげてみましょう。

(ex) my mother's death

death は「死ぬ」という die、つまり自動詞化できます。その場合、所有格の my mother's はその主語になって以下のように書き換えることができます。

⇨ My mother dies[died]. 母が死ぬ[死んだ]
S V

したがって my mother's death は「母が死ぬ[死んだ]こと」と訳せます。先程の My father's sudden death も

⇨ My father dies[died] suddenly. 父が突然死ぬ[死んだ]
S V

と読み直して、「父が突然死ぬ[死んだ]こと」と訳せますね。

次は所有格の後ろの名詞を形容詞化できる例をあげてみましょう。

(ex) the man's innocence

innocence は「無実の」という innocent、つまり形容詞化できます。すると同じよう

に the man's はその主語となって、以下のようにbe動詞をはさんで書き換えることができます。

⇨ The man is[was] innocent. その人は無実だ[った]

したがって the man's innocence は「その人は無実だ[った]ということ」と訳せます。

(2)目的格関係。

所有格の後ろの名詞を、今度は「他動詞化」できる場合があります。その場合、その所有格の部分が(その名詞の表す動作の)意味上の目的語になっています。いくつか例をあげてみましょう。

(ex) the criminal's release

release は、「解放する」という意味の他動詞にもなります。その場合、所有格の the criminal's はその目的語になって、以下のように書き換えることができます。

⇨ $\frac{\text{release[d]}}{\text{V}} \frac{\text{the criminal}}{\text{O}}$ その犯人を解放する[した]

したがって the criminal's release は「その犯人を解放した[する]こと」と訳せます。ただし、文脈が特定できない場合、たとえば my mother's education といった場合、「母親が教育すること」なのか「母親を教育する」ことなのかハッキリしないこともあります(可能性として両方ありうる)。このような場合は前後関係から判断することになります。

ただし「所有格+A of B」という構造の場合は、「所有格」の部分で「S(主語)」、「A」を「V(他動詞)」、「B」を「O(目的語)」にして、文の形に書き直してしまうといのです。

所有格 A of B
↓ ↓ ↓
(S) (V) (O)

これもカンタンな例をひとつあげてみましょう。

(ex) his discovery of the theory[理論]

上の例文の構造は「所有格+A of B」。したがって以下のようにSVOで書き換えることができます。

⇨ He discovered the theory. 彼がその理論を発見した
S V O

そこで his discovery of the theory は「彼がその理論を発見したこと」と訳せるわけです。

このルールは104ページの最初の英文で使えます。

<u>The critic's bitter criticism of the CD</u>	<u>influenced</u>	<u>its sales.</u>
[所有格] A B	V	O
S		

「所有格+A of B」となっているSの部分に「SVO」に書き直してみると以下のようにになります。

The critic criticized the CD bitterly.
S V O

その評論家はそのCDを手厳しく批評した

☞bitter は動詞化したcriticizedを修飾することになるので、bitterlyと副詞に置き換えた。

この訳に「こと」をつけて名詞化し、全体はこのように訳せます。

「その評論家はそのCDを手厳しく批評したことが、その売り上げに影響した」

これ以上ない模範的な和訳ができあがりました。

「所有」の意味にならない所有格のうまい訳し方。

①所有格の後ろの名詞を自動詞化・形容詞化できる

→ 所有格の部分を主語にして「S+V」の形で書き換えてみる。

☞その名詞を形容詞化できる場合は、be動詞をはさんで「S+V」の形に書き換えてみる。

②所有格の後ろの名詞を他動詞化できる

→ 所有格の部分を目的語にして「他動詞+目的語」の形で書き換えてみる。

③「所有格+A+of+B」型

→ 「所有格 ⇨ S」「A ⇨ V」「B ⇨ O」にして書き換えてみる。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

1. The rapid construction of the railroad network stimulated Japan's economic development.

rapid: 迅速な railroad network: 鉄道網 stimulate A: Aを刺激する

2. The teacher's absence pleased the students who had not done their homework.

please A: Aを喜ばせる

3. The goal of education is the acquisition of knowledge and the awakening of curiosity in the mind of students.

curiosity: 好奇心

4. The inspector's careful investigation of the accident revealed the real facts of the case.

inspector: 検査官 real facts of the case: 事の真相 reveal A: Aを明らかにする

5. Tom was resolute in his belief in democracy.

resolute: 決心の固い、確固とした

6. We must consider the inability of the handicapped to do it.

the handicapped: 障害者 =handicapped people

7. You can be infected with the new type of influenza through contact with birds.

be infected: 感染する

【解答&解説】

1. 「鉄道網を迅速に構築したことが日本の経済発展を刺激した」

【解説】 construction は「～を構築[建設]する」という意味の construct、つまり他動詞化できる。そうすると the network はその目的語として訳にしてみるといい。

⇨ constructed the railroad network rapidly: 迅速に鉄道網を構築した
V O

2. 「その先生が欠席したことが宿題をやっていなかった生徒たちを喜ばせた」

「その先生が休んだので宿題をやっていなかった生徒たちは喜んだ」

【解説】 absence は「欠席の(した)」という意味の absent、つまり形容詞化できる。そうすると直前の所有格である The teacher's はその主語として訳してみるといい。

⇨ The teacher was absent: その先生が欠席した[お休みした]
S (形)

3. 「教育の目標とは、知識を身につけることと、生徒の心に好奇心を目覚めさせることだ」

【解説】 「the acquisition of knowledge」は「acquire knowledge: 知識を身につける」、
「the awakening of curiosity」は「awaken curiosity: 好奇心を目覚めさせる」と、それぞれ「他動詞+目的語」の形で書き直すことができる。

4. 「その検査官が慎重にその事故を調査したことが事の真相を明らかにした」

「その検査官が慎重にその事故を調査したおかげで事の真相が明らかになった」

【解説】 「所有格+A of B」の構造になっている The inspector's careful investigation of the accident の部分を「SVO」の形に書き直してみる。

⇨ The inspector investigated the accident carefully.
S V O

その検査官は慎重にその事故を調査した

5. 「トムは決然として[確固として]民主主義を信じていた」(主格関係の所有格)

【解説】 his belief in democracy の部分は、belief を自動詞化し、his をその主語にして以下のよに書き直してみるといい。

⇨ He believed in democracy. 彼は民主主義を信じていた

これに Tom was resolute in ~. つまり「トムは~において決然としていた」をドッキングさせる。「トムは民主主義を信じているという点において決然としていた → トムは決然として[確固として]民主主義を信じていた」となる。

6. 「私達は障害者がそれを(することが)できないということを考慮しなければならない」

【解説】 the inability of the handicapped to do it の部分の訳出がポイントになる。inability は「~できない」という意味の unable (to do~)、つまり形容詞化できる。全体を以下のように書き直してみるといい。

⇨ The handicapped are unable to do it. 障害者はそれをすることができない
S (形)

7. 「鳥と接触することによって新型のインフルエンザは感染する可能性がある」

【解説】 contact with birds の部分の訳出がポイントになる。contact は「~に接触する」という意味の他動詞になれる。とすると birds はその目的語として書き直してみるといい。contact は of ではなく with という前置詞を使って意味上の目的語をとる。それから、can には大きく分けて

- ① 「許可 (～してもいい)」
- ② 「能力・可能 (～できる)」
- ③ 「可能性・推量 (～する可能性がある・～だろう)」

の3つの意味があるが、英文(特に評論系)中の can は、この文におけるように「可能性(～する可能性がある)」を表していることが多い点に注意しよう。

⇨ contact birds:鳥に[と]接触する
V O

5.無生物主語構文のうまい訳し方。

☞「物主語構文」とも言う。

英語では、人間以外の物（つまり無生物）を主語にした構文をよく見かけます。次の英文を見てください。

(ex) These photographs will give you a very good idea of life in Africa.

主語が These photographs(これらの写真)と、「物」つまり「無生物」ですね。このような文の構成は、日本語にはない形なので、和訳の際には、ちょっとしたテクニックが必要です。上の英文でも「これらの写真は、あなたにアフリカでの暮らしについてのとてもよいイメージを与えるだろう」と、直訳では今一ついい和訳とは言えませんね。そこで紹介したいのが「無生物主語[物主語]構文をうまい日本語にするための裏技」です。「裏技」といっても結構カンタンで、以下の3つのルールがそれです。

(1)主語(＝無生物)は副詞的に訳出する。具体的には以下のいずれかの意味で和訳するとよい。

- ①原因[理由・手段]…「～なので、～により、～のおかげで」
- ②条件…「もし～なら」
- ③譲歩…「～けれど、(たとえ)～としても」
- ④時……「～の時」

☞このうち「原因」「条件」で訳出するとよい場合が最も多い。

(2)目的語(多くは「人」)を和訳の主語にして訳出する。

(3)動詞も直訳するより、和訳の主語に応じて、文脈に則した訳語を適宜(つまり自分の判断で)当てはめる。

☞自動詞的に訳すといいことも多い。

このルールを使って先程の英文も、主語の These photographs を「条件」として、そして目的語の you を和訳の主語にして(動詞の give も主語に合わせ「わかる」と読み換え)訳出すると以下のような解答ができあがります。

「これらの写真を見れば、あなたはアフリカの生活がよくわかるだろう」

無生物主語[物主語]構文のうまい訳し方

- ①主語(＝無生物)は副詞的に訳出する。具体的には「原因」「条件」「時」「譲歩」のどれかで訳す。
 會このうち「原因」「条件」で訳出するとよい場合が最も多い。
- ②目的語(多くは「人」)を和訳の主語にして訳出する。
- ③動詞も直訳するより、和訳の主語に応じて、文脈に則した訳語を当てはめる。

演習問題: 次の英文を和訳せよ。

1. Coming across the book led Kenny to reflect on his past life.

come across A: Aと出くわす reflect on A: Aをふりかえる

2. No amount of wealth can make us happy in the true sense of the word.

in the true sense of the word: 真の意味で

3. The statesman's morals would not allow him to accept the bribe.

morals: モラル statesman: 政治家 bribe: かいり

4. The next morning found my grandfather dead.

5. Careless driving cost him his life.

cost A(人) B(犠牲など): AにBを強いる

6. At the moment, business is very ineffective in our company. Internet technology will save us all this trouble.

save A(人) B(労力): AのBを省く

7. Television and newspapers keep us informed of what is going on in the world.

【解答&解説】

1. 「その本との出会ったことで、ケニーは自らの過去の人生をふりかえってみた」

【解説】㊦の Coming across the book を「原因」、○の Kenny を和訳の主語にして訳すといい。

2. 「たとえどんなに富があっても私達は真の意味で幸せにはなれない」

【解説】㊦の No amount of wealth を「譲歩」、○の us を和訳の主語にして訳すといい。
No amount of ㊦+㊧〜は「たとえどんな㊦(…して)も〜ない」と訳すといい構文。

(ex) No amount of talk seems to change the situation.

どんなに話しても状況は変わらないようにみえる

3. 「その政治家は自尊心が高かったので、彼はわいろを受けとらなかった」

【解説】㊦の The statesman's pride を「原因」、○の him を和訳の主語にして訳すといい。

4. 「翌日(にやってみると)、祖父は亡くなっていた」

【解説】㊦の The next morning を「時」、○の my grandfather を和訳の主語にして訳すといい。

5. 「不注意な運転によって彼は命を失った」

【解説】直訳は「不注意な運転は、彼に、自分自身の命という犠牲を強いた」となる。

うまい和訳を作るには㊦の Careless driving を「原因」、○の him を和訳の主語にして訳すといい。

6. 「目下、わが社は仕事がとても非効率的だ。インターネット技術を取り入れれば、我々
はこうした問題を一掃できるだろう」

【解説】第二文の訳出がカギになる。㊦の Internet technology を「条件」、○の us を

和訳の主語にして訳すといい。

7. 「テレビと新聞によって私達は世界で何が起きているかを常に知ることができる」

【解説】㊦の Television and Newspaper を「原因」、〇の us を和訳の主語にして訳す
といい。

otherwise に注意せよ!

この英文、君達ならカンタンに訳せますね。

(ex) Make haste, otherwise you will be late for school.

急ぎなさい。さもないと学校に遅刻しますよ

しかし、副詞の otherwise は「さもなければ」という意味しかないと思っている人は要注意です。なぜならそれでは意味が通じない otherwise が受験ではよく問われるからです。

(ex) Judy thought otherwise.

この英文、「ジュディはさもなければ考えた」では全く意味不明ですね。しかも実際には(特に難関大学では)このような otherwise が問われることの方が多いんです。

実は、副詞の otherwise は、「in other ways / in a different way」と考えると見えてくる英文があるのですね。

會ただし、(in と共に用いる) way には「方法」以外に「点」という意味もあるので注意。

具体的には以下のように otherwise を訳します。

(1) 「他[別]の方法で、違ったふうに」

(ex) Judy thought otherwise. 彼女はそうは考えなかった

※「ジュディは違ったふうに[別のやり方で]考えた」ということ。

You should have done otherwise. 君は他の方法ですべきだったのに

You would not have done it otherwise than your parents did.

あなたも両親がしたようにするほかなかっただろう

※otherwise than Aで「Aとは違った方法で(は)」。

(2) 「その他の点で(は)」

(ex) Nancy has a freckled face, but otherwise she is a very cute girl.

ナンシーは顔にそばかすがあるがその他の点ではとてもかわいい子だ

The bedroom is a bit too small, but otherwise the house is satisfactory.

寝室がちょっと狭いが、それを別にすればこの家は満足できる

After she retired, she was leading an otherwise happy and uneventful life in the country.

引退後、彼女はその他の点では幸せで平穏無事な田舎暮らしをしていた

上記以外に形容詞の otherwise もあります。これは different とほぼ同じ意味と考えればいいでしょう。

(ex) Some are wise and some are otherwise in the world.

世の中には、賢い人もいればそうでない人もいる

第二章

長文読解 発展編

本書のメイン。文字通り英文読解のAdvanced(上級)なルールが紹介されています。この発展編で、構造分析的な英文読解から脱皮、飛躍することが可能になります。まさに英文読解のファイナルステージと言ってもいいでしょう。

1. 「深く、正確に読む」ための10のアドバイス。

1. 英文同士の関係を意識して読む。

よく学生たちからこんな声を聞きます。

「一文一文はなんとかわかるんですけど、読んでいるうちに前の段落とかに書いてあったこと、よく忘れちゃうんですヨ～(ë_ë)」。

こんな経験は、君達のほとんどの人が一度は(下手をすると毎度)経験したことがあるのではないのでしょうか。君がもし日本語、たとえば新聞や雑誌(マンガでもいい)を読んでいたとしたら、こんなことはまずありえない話ですね。

ところがこと英語になると、多くの人がこのような現象に陥ってしまう。それはなぜなのでしょうか？

それは文と文のつながりを考えずに(もしくはわからずに)読んでいるからなのです。ある単語の意味は、他の単語との結びつき、すなわち「関係」によって決まります。例えば、term という単語は、the spring[fall] term と言った場合、「春[秋]の学期」、つまり「学期、期間」という意味になり、a technical term と言った場合、「専門用語」、つまり「言葉、用語」という意味になります。要するに term だけ見てもその意味を決定することはできないのです。一緒に用いられている語句[表現]が、それぞれの term の意味に影響を与えているわけです。

これと同じように、ある1つの文は他の文と密接な関係にあり、お互いに関連しあっています。例えば「天気予報では明日は雨だ。明日のピクニックは中止だ」という文で、「天気予報では～」の文は「明日の～」の文に対して「原因[理由]」、つまり両者は「原因[理由]と結果」の関係となっていますね。

「天気予報では明日は雨だ」 「明日のピクニックは中止だ」

[原因] ⇨ [結果]

このように、たとえ But だ、Therefore だといった、いわゆる「つなぎ語(「論理マーカー」という)」がなくても、連続する2つの文同士は、大抵はある種の論理(例えば「抽象とその具体例」「つけ加え(添加)」「原因と結果」「逆接」「譲歩」「言い換え」といったような)によって結びついているのです。そのような連続する英文同士の「論理」「関係」を意識しながら(場合によってはそれを補い

ながら)読むことが、いわゆる「構造分析」レベルの読解から飛躍するための第一歩となるのです。

「でも、先生～そんなこと言ったって、どんなつなぎ語を補えばいいのかわかりませんヨ～(>_<)」

という人。大丈夫です。文と文の間に補ってあげるような「つなぎ語」の可能性というは大きくわけて3種類しかないのです。それは以下の3つです。

- ① $A \leftrightarrow B$ ← 前後が内容的に「逆(又は対照的)」の関係になる論理。
そのような場合には、「しかしながら」「その一方」「対照的に」「それどころか」等の日本語を間に補ってやる。
- ② $A = B$ ← 前後が内容的に「イコール」の関係になる論理。
具体的には以下の三種類。
 - (1) $A = B$ (Aの具体例・裏付け)
☞ 「例えば」「実際」等の日本語を間に補ってやる。
 - (2) $A = B$ (Aの言い換え・説明)
☞ 「すなわち」「つまり」等の日本語を間に補ってやる。
 - (3) $A = B$ (Aの付け加え)
☞ 「おまけに」「更に加えて」等の日本語を間に補ってやる。
- ③ 1. A (原因) \rightarrow B (結果)
☞ 前後が内容的に「原因とその結果」の関係になる論理。そのような場合には「それゆえ」「そこで」等の日本語を間に補ってやる。
2. B (結果) \rightarrow A (原因・理由)
☞ 前後が内容的に「結果とその原因 理由」の関係になる論理。そのような場合には「というのは～だからだ」等の日本語を間に補ってやる。
3. A (問題提起) \rightarrow B (解答) ☞ この場合は論理関係が明白なので特につなぎ語を補う必要はない。

特に英文と英文が論理マーカ(「接続詞」「論理接続の副詞(however, therefore等)」等)なしで直接連続しているような場合、上記のいずれかの「つなぎ語」を間に補いながら読んでいくようにするといいでしょう。

それからまた、段落冒頭文の後、論理マーカークなしで第二文が続く場合、その第二文は

- ①第一文とはイコール関係(具体例・言い換えなど)になっている
- ②第一文とは因果関係(多くは因、つまり論拠)になっている

可能性が高いのです。これも覚えておくといいでしょう。

①連続する英文同士の「論理」「関係」を意識しながら読むことが、いわゆる「構造分析」レベルの読解から飛躍するための第一歩。

②英文同士の中に補ってあげるような「つなぎ語」の可能性というは大きく分けて3種類。

英文と英文が論理マーカーク(「接続詞」「論理接続の副詞(however, therefore等)等)なしで直接連続しているような場合、下記の3種類のいずれかの「つなぎ語」を英文同士の中に補いながら読んでいくようにするといい。

1.英文同士が内容的に「逆(又は対照的)」の論理関係でつながっていると判断できれば、

「しかしながら」

「その一方」

「対照的に」

「それどころか」

等の日本語を(両者の間に)補ってやる。

2.英文同士が内容的に「イコール」の論理関係でつながっていると判断できれば

「例えば」「実際」 (「B=Aの具体例・裏付け」の場合)

「すなわち」「つまり」 (「B=Aの言い換え・説明」の場合)

「おまけに」「更に加えて」(「B=Aの付け加え」の場合)

等の日本語を(両者の間に)補ってやる。

3.英文同士が内容的に「原因 ⇨ 結果」「結果 ⇨ 原因[その理由]」の論理関係

でつながっていると判断できれば

「それゆえ」「そこで」(「A(願) ⇨ B(結)」の場合)

「というのは～だからだ」(「B(結) ⇨ A(願・理)」の場合)

等の日本語を(両者の間に)補ってやる。

③段落冒頭文の後、論理マーカークなしで第二文が続く場合、その第二文は

- 1.第一文とはイコール関係(具体例・言い換えなど)になっている
- 2.第一文とは因果関係(多くは因、つまり論拠)になっている

可能性が高い。

演習問題:以下を、それぞれの英文同士の間にもうまいつなぎ語を補って和訳せよ。

1. Conversation requires you to exhibit a considerable trust in others.

Life would be extremely difficult, even impossible, without such trust.

require A to do[原形]～:Aが～することを要求する exhibit:～を示す considerable:かなりの
trust:信頼 extremely:非常に

2. English is much more regular in spelling than the traditional criticisms would have us believe. A major American study, published in the early 1970's, carried out a computer analysis of 17,000 words and showed that as many as 84 percent of the words were spelled according to a regular pattern.

English:英語 regular:規則的な spelling:つづり traditional:伝統的な、従来の
criticism:批判 study:研究 publish:～を発表する carry out A:Aを行う
analysis:分析 spell:(語を)つづる according to A:Aに従って

3. There's nothing surprising about the fact that men and women have different views of things. Men typically remember events in a very factual manner. Women remember things in an interconnected way.

view:見方 typically:概して、一般的に =generally factual:事実に基づいた manner:やり方 =way
interconnected:相互関連的な

4. The world is running out of its supply of oil, and energy experts believe that there could be a serious shortage in ten years' time. The governments of developed countries and various international organizations are now trying very hard to discover alternative sources of energy.

run out of A:Aを使い果たす supply:供給 shortage:不足 various:様々な
organization:機関 alternative source of energy:代替エネルギー源

【解答&解説】

1. 「会話は他人をかなり信頼していることを示す必要がある。というのは もしそのような信頼がなければ、生活(していくの)は非常に困難、ことによると不可能にさえなるだろうからだ」

【解説】 第一文と第二文の間に「結果 ⇨ 原因[理由]」の論理関係が成立している点に着目して「というのは～だからだ」というつなぎ語を補ってやるといい。

2. 「英語は、従来の批判のおかげで私達が信じ込んでいたよりも、はるかにその綴りが規則的なのである。たとえば(実際)1970年代初頭に発表されたアメリカのある主要な研究は17,000語のコンピュータによる分析を行い、その単語の実に84%もが規則的なパターンに従っていることを示した」

【解説】 第二文は、第一文の具体例[裏付け]となっているので「例えば」「実際」といったつなぎ語を補ってやるといい。実際、英文中に以下のような語(句・文)が現れたら、大半は直前の内容の具体例[理由・裏付け]と見ていい。

1.固有名詞

2.数詞

3.(直前の内容とは一見)無関係に見える内容。つまり突然の関係ない話。

本問では、第二文の中の数詞に着目して両者の論理関係を類推することができた。

3. 「男性と女性が異なった物の見方をするという事実に関してはなんら驚くべきことはない。というのは、男性は概して事実に基づいたやり方で物事を記憶しているからだ。ところが[その一方]女性は相互関連的なやり方で物事を記憶している」

【解説】 第一文と第二文以降の間に「結果 ⇨ 原因[理由]」の論理関係が成立している点に着目し、「というのは～だからだ」というつなぎ語を補ってやるといい。第二文と第三文の間には「逆接[対照的]」の論理関係が成立している点に着目し「ところが(その一方)」というつなぎ語を補ってやる。すると3つの英文の流れが、よりスムーズに頭に入ってくる。

なお余談だが、manner は単数形では「やり方、方法(=way)」 「物腰」。manners となって初めて「マナー、礼儀」という意味になる点に注意せよ。

4. 「世界は石油の供給を切らしつつあり、エネルギーの専門家たちは10年後には深刻な石油不足に陥るだろうと確信している。それゆえ [そこで] 先進国の政府や様々な国際機関は、今や代替エネルギー源の発見にやっきになっている」

【解説】 第一文と第二文の間に「原因 ⇨ 結果」の論理関係が成立している点に着目して、「それゆえ」「そこで」といったつなぎ語を補ってやる。するとよりスムーズに2文がつながる。

◎第四章の「実践演習」を終えたら、以下を確認しましょう。

まず 13.。後半部の模範訳は以下のようになっていました。

「③我々は、誰かが嘘をついているときにはわかると考えているため、この危険を受け入れる。④問題は誰かが嘘をついてもわからないことなのだ」

この③と④の文同士の意味のつながり、いまひとつはっきりしないと思いませんか？そこで間に「しかし」を補ってあげるとどうでしょう。うまくつながりますね。

もうひとつ、14.。前半部の模範訳は以下のようになっていました。

「①世界は現代の交通手段や通信技術のおかげで昔(以前)より狭くなってきているとよく言われる。②それは部分的な真実でしかないかもしれない」

ここも①と②の間に「しかし(ながら)」を補ってあげると、もっとスムーズに流れが見えてきますね。

2.英文のジャンルを見分ける

大学受験に出題される英文のジャンルには大きく分けて以下の4種類があります。

- (1)評論文[論説文]…「テーマ」「主張」「サポート(具体例・論拠)」を持つ文。選挙演説や(新聞の)社説もこれにあたる。
現代入試英文の約90%はこのタイプ。
- (2)説明文……………「主張」がない。ある事物[現象・人物など]について淡々と(時系列などに沿って)説明をする文。
- (3)エッセイ…………… 個人的な体験[見聞したこと]について書きながら、それについての筆者の思いを語る文。
- (4)小説・物語
- (5)その他(会話文など)

自分がこれからどのジャンルの英文を読もうとしているのかがわかれば、それぞれのジャンルの英文を読む際に注意すべき点を事前に頭に整理することができ、その分読解も容易になることは言うまでもありません。

「評論文[論説文]」の読み方については203ページ以降で詳しく説明している通りです。

「説明文」とは、事件、史実、現状[実情]、人物[団体]などについて、筆者の意見・主張などを盛り込むことなく、事実のみを淡々と説明する文章です。したがって「説明文」には「トピック(話題)」とその「事実」についての説明[記述]はありますが、筆者の「主張」などというものはありません。この「説明文」と「評論文」を混同しないように気をつけましょう。「説明文」の場合、書かれている事実・情報を頭に整理し、それを正確に読み取るつもりで読解を進めていくことが大切になります。

「エッセイ」の読み方については136ページで説明しています。「小説(物語文)」の読み方についても153ページで説明していますが、更に付け加えるとすれば、「小説[物語文]」の場合、「ストーリーライン(話の筋・展開を語っている部分)」と「心情表現(登場人物の心情を語っている部分)」をしっかりと区別して読むことです。特に「心情表現」に関しては、注意しないと読み落とししたり、「ストーリーライン」とごっちゃになりやすいのです。なぜなら、エッセイについても言えることですが、「〇〇は△△と感じた」「〇〇はうれしかった」「私は悲しかった」と書いてくれていれば、「ここは心情表現だな」とわかりやすいのですが、その心情を「動作[行動]」「視点」「風景」などで(代弁させて、あるいは比喩的に)表現することが時としてあるからです。以下はそんな

心情表現の例です。

「受話器を置いたテッドの手は小刻みに震えていた」

「キャシーに再会するため自転車を走らせるテッドの目に映る街の風景は輝いていた」

それから、「小説(物語文)」「エッセイ」特有の、以下のような心情表現の手法にも注意しましょう。

(ex) They refused her request for an interview again. Lucy sighed.

What else can I do? She felt entirely lost.

彼らは再び彼女の面会の申し入れを拒絶した。ルーシーはため息をついた。他に何ができるのだろうか。彼女は途方に暮れた

What can I do? の部分は、本来なら Lucy thought what else she could do. あるいは、She said to herself, "what else can I do?" とすべきところを、心の中で思ったこと[言ったこと]をそのまま文字にしています。このような表現方法を描出話法といいます。和訳の際には「〇〇と思った」「〇〇と言った」という言葉を補ってあげるといいでしょう。

3.全体を貫いているテーマ・筆者の主張・論理展開を的確にとらえる。

(1)パラグラフ間の関連性を意識して読む。

ある1つの文は、他の文と密接な関係にあり、お互いに関連しあっている、と言いましたが、その密接に関連しあった1文1文の集合体がパラグラフ[段落]です。

評論文[論説文]では、普通ある1つのパラグラフには、一貫した1つの「テーマ」と「主張(そのテーマに関して筆者が最も言いたいこと。それが書いてある文のことを「トピックセンテンス」と言ったりもする)」があり、この「テーマ」と「主張」に基づいてそのパラグラフ内の1文1文は密接に関連しあっています。

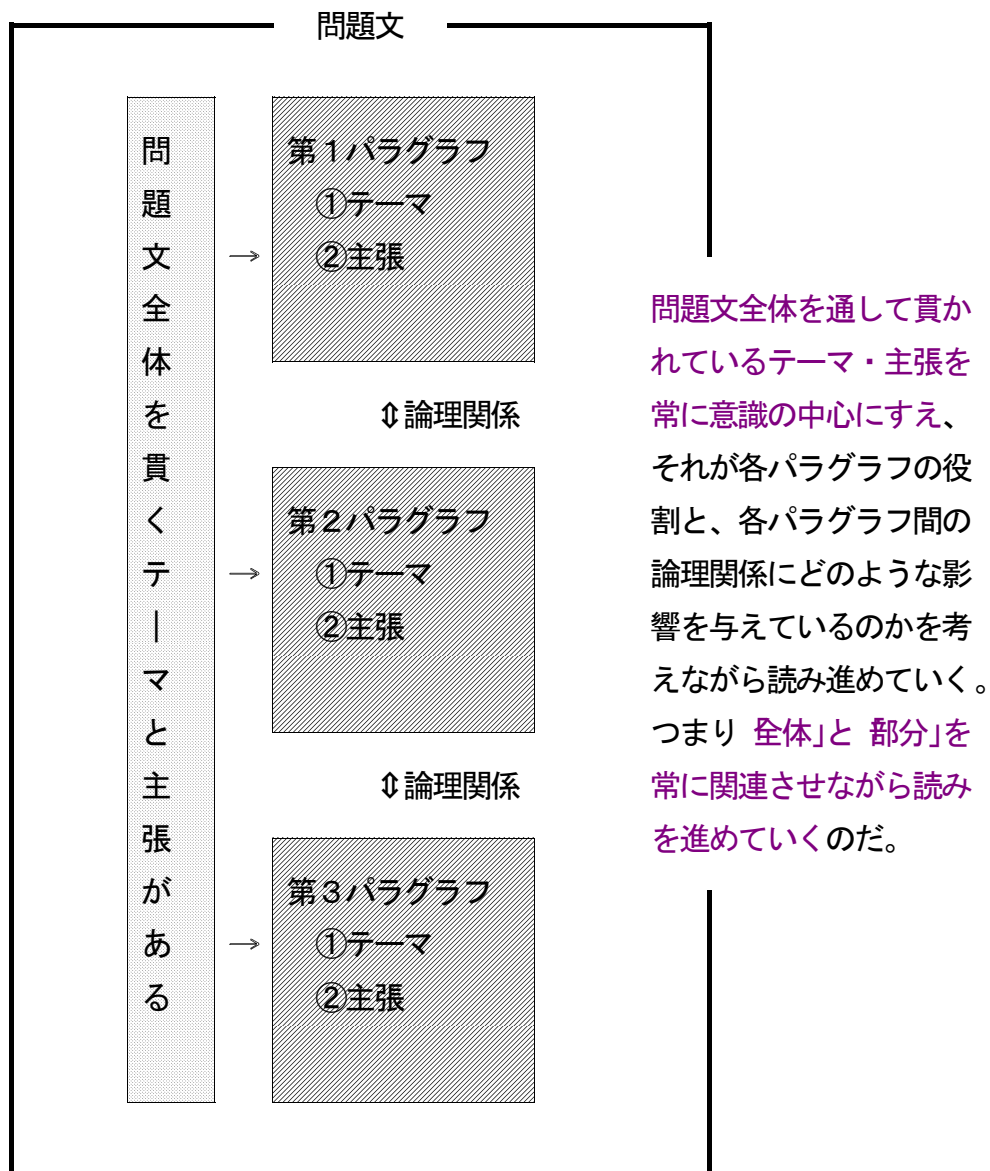
そして更に各パラグラフは、問題文[本文]全体を貫いている「テーマ」と「(筆者の)主張」に基づいて、密接な関係を持って結びついているのです。

したがって複数のパラグラフで構成されている英文(特に評論文等)を読む場合、本文[問題文]全体を貫いている「テーマ」と「(筆者の)主張」を的確にとらえ、本文[問題文]全体の構成と各パラグラフ間の関連(論理関係)に注目しながら読み進めていくこ

とが重要となります。

本文[問題文]全体の「テーマ」は多くの場合（必ずではない）その冒頭部（第1パラグラフの冒頭）に述べられています。各パラグラフの「テーマ」もそれぞれのパラグラフの冒頭部に述べられていることが多いものです。したがってこの冒頭部をしっかりと読み、そこからできるだけ多くの情報を得ると同時に次の展開を予想することが大切となります。

特に評論文などで、まず各パラグラフの冒頭文の先読み[拾い読み]をすることで、本文[問題文]全体の流れが見えてくることが多いのはこのためです。



(2)パラグラフの展開パターン

代表的なパラグラフの展開の仕方として、以下のようなパターンがあります。

①(「テーマ」⇨)「主張」⇨「具体例」や「理由」(⇨「主張の再提示」)

② 「一般論」(又は「譲歩」)⇨
⇨「主張」⇨「具体例」や「理由」
⇨ [逆接] ⇨「主張」⇨「具体例」等
⊕「一般論」→「それに反する筆者の主張」パターンの方が多い。

③ 「定義(「～とは何か？」等)」⇨
⇨「主張」⇨「具体例」や「理由」
⇨ [事実] や「一般論」⇨「主張」

④「分類[比較]」⇨「主張」

⊕「分類[比較]」の仕方には2種類ある。

1.両者の類似点を列挙していくやり方

2.両者の相違点を列挙していくやり方 ⊕2のパターンの方が多い。

⑤「分類[比較]」

⑥

1.「疑問」⇨「解答」

(ex)「なぜ未成年者に喫煙と飲酒が許されていないのだろうか。それにはわけがある。つまり…」

2.「問題提示」⇨「解決」

(ex)「大都市は様々な問題を抱えている。まず第一に…。これらの抜本的な解決策とは…」

⑦

1.「事実[(結果)]」⇨「その原因」

(ex) 「現在のアフリカは飢餓問題に苦しんでいる。そしてその原因は大きく分けて2つある。第1の原因は…。第二の原因は…」

2. 「事実[原因]」⇨「その結果」

(ex) 「現代の若い女性の過激なダイエットが問題となっている。この種のダイエットにより、結果として将来、女性たちに健康上の大きな障害が出る可能性が高いという指摘がある。具体的には、例えば…」

①本文[問題文]全体を貫いている「テーマ」と「(筆者の)主張」を的確にとらえ、本文[問題文]全体の構成と各パラグラフ間の関連[論理関係]に注目しながら読み進めていくことが大切。

②全体を通して貫かれているテーマ・主張を常に意識し、それが各パラグラフとどのような関連性を持ち、またそれにどのような影響を与えているのかを考えながら読み進めていく。つまり全体と部分を常に関連させながら読むことが大切。

4. 予想(anticipation)しながら読む。心情を追う。

評論文[論説文]の場合、論理を構成する語句等に注意しながら、文と文、パラグラフとパラグラフの論理展開を予想し、そこに込められた筆者のトーン[筆調]やテーマ、主張を的確に理解することが大切になります。そして更にそれをベースにして、「ということはこの先こんな展開になるのでは…?」「筆者は〇〇を肯定[否定]する立場に立っているな…」といったように、**これから先の展開を予想しながら読み進める**ことがまた大切になります。物語文でも、登場人物の置かれた立場や問題の状況がつかめれば、その人物の反応や話の展開を予想することが可能となります。

しかし、特に物語などの場合は、自分が立てた予想に反する展開がなされることも実際

大いにあり得ます。なぜなら物語というのは、読者の予想を裏切るように書くことが、読者の心を引きつけるからです(ある意味その裏切り方が大きければ大きいほど、読者に強いインパクトを与える良い作品だといえるかもしれませんが)。しかし、予想が当たるか外れるかは重要な問題ではありません。目にする文章を、自分の頭の中でどれだけ想像力をふくらませながら次の展開を思い描くことができるかが大切なのです。

自分が思い描いた予想や展開を頭の一方に置きながら、英文中の登場人物の行動、態度、台詞から少しでも多くの情報を得ようという気持ちで読み進めていくといいでしょう。そして仮に自分の常識、知識に基づく予想に反した展開が起こった場合、それを修正すると共に、

「自分(の中の常識・知識)と筆者の考え方や登場人物の気持ちにどのくらいの温度差があるか」

「なぜこの人はこう考えるのだろうか? その根拠になっているのはなんなのだろうか?」

ということを探る気持ちで読むこともまたとても大切な作業です。

それから特にエッセイ(筆者が日常生活で見聞きしたこと、過去・現在に体験したこと感じたことを心の赴くままに書き綴った文)では、書き手[作者]の心の内面に入り込み書き手の気持ちになりきって、つまり書き手と一体化して、その心情(の変化・展開)を理解し、それ追いかけて読むことが大切になります。

- ①特に評論文の場合、論理を構成する語句等に注意しながら、その先に続く内容や論理展開を予想しながら読み進めることが大切。
- ②物語の場合、予想を覆す展開になることも多いが、外れたと分かればその時点で修正をすればいい。またそれ(修正する)と同時に、「自分(の中の常識・知識)と筆者の考え方や登場人物の気持ちにどのくらいの温度差があるか」、「なぜこの人はこう考えるのだろうか? その根拠になっているのはなんなのだろうか?」ということを探る気持ちで読むことも大切。
- ③エッセイでは、書き手(作者)の心の内面に入り込み、書き手の気持ちになりきって(書き手と一体化して)、その心情(の変化・展開)を理解し、それ追いかけて

ら読むことが大切。

5.字面の裏側の意味を予測して読む。

(1)二項対立主義。

たとえばこんな文章があったとします。

「ワーカホリックとはなんでしょうか？ 15年前はそのような言葉はありませんでした。
私の職場でもそのような言葉を使う人は誰一人いませんでした…」

こう書いてあった場合、「^{ちまた}ということは今では、巷でよくその言葉を耳にするということか…」といったふうに、**語られていることの裏側の意味を予測しながら読み進めてみる**こと、**それが読みを深め、更に展開を素早くつかむことにつながる**ことが多いのです。

もちろん、裏の意味の可能性として複数考えられる場合もあります。

「西洋においては、実用主義第一で、古着で服をそろえたり、傍目から見てこんな物でいいのかと思うくらい質素な服装をする若い女性が多い。無用に若いうちから外見にお金を使うことになにか抵抗感でもあるのかと思ってしまうくらいです…」

このような文章の場合、

- ①東洋(日本)の若い女性は逆に、外見に金をかけることをいとわないということをお願いしたいのか？
- ②西洋の若い女性は、外見以外にもっと大切にする価値観があるとお願いしたいのか？

など、裏の意味の可能性はいろいろ考えられますね。

ただ一般的に言えることとして、「西洋(アメリカ等)と東洋(日本等)」が、1つの英文で語られる場合、**対比的・逆の関係として扱われる**ことがほとんどです。たとえば以下の文章を見てください。

「アメリカでは、親は年をとっても子供たちとは同居しないことが多い。これは自

立自由を愛するお国柄のゆえなのであろうか。また、アメリカ人は『〇〇は好きだ』『〇〇はいやだ』と、本当にはっきりとものを言う。これは自己を主張することを幼いころから教育されてきたからであろう。ただ、その反面"差別"を表す(あるいは"差別"につながる)表現には非常に敏感である」

もしこのようなパラグラフの後に、「日本では…」という書き出しのパラグラフがあったとしたら、「日本ではその逆だ」という内容になるのではないのか?つまり

- ①親は年をとると子供たちと同居することが多い
- ②はっきりと自己を主張することがない(ものを言わない)
- ③"差別"(あるいは"差別につながる表現")に鈍感である

といった内容が予測できます。

同じように対比的・逆の関係で扱われやすいテーマ[概念]としては、以下のようなものがあります。覚えておくといいでしょう

- | | |
|---------------|-------------------|
| 「過去と現在[代]」 | 「人間と動物」 |
| 「精神[心]と物質[体]」 | 「大人[老人]と子供[若者]」 |
| 「科学と宗教[哲学]」 | 「文明[開発]と自然[環境保護]」 |
| 「男と女」 | 「理想と現実」 |
| 「理論と実践」 | 「権力を持つ者と持たない者」 |
| 「先進国と途上国」 | 「富める者と富まざる者」 |
| 「都会と田舎」 | 「生と死」 |
| 「個[自己]と全体[他]」 | 「東洋[日本]と西洋[アメリカ]」 |
| 「一般論と(筆者の)主張」 | |

このように二者を対立[対比]的にとらえる思考・分析の仕方を「二項対立主義(binarity)」といい、欧米人の論理的な思考(パターン)のベースになっています。

(2)英語は否定して終わることはない。

「〇〇政権は駄目だ」「××はやめなければならない」「△△は違う」

といったような、あるものを否定した形で文が終わってしまうことは(特に評論文では)英語ではほとんどありません。そのような英文を見かけたら、

「ということは、それに代わる(筆者なりの)代案・主張がこの後展開されるはず。
それをしっかり押さえて読もう」

という気持ち大切です。これもある種、字面の裏側を予測して読むことにつながりますね。

ただ英語の場合、あるものを否定して、それに代わる筆者自身の主張を述べ、それでおしまいということもありません。なぜなら英語は「論証責任」を要求する言語だからです。あるもの否定し、それに代わる(筆者なりの)代案・主張を述べたなら、

- ①なぜそれが駄目なのか
- ②なぜ自身の代案・主張が何が正しいのか

ということを、論理的、客観的に証明することが求められるのです。

言い方を変えれば「英語は言いつ放しは許されない」のです(読者の「なぜ(そう言えるの)?」に必ず論理的な証拠を提示しなければならない)。

ですから別にあるものを否定する・しないに限らず、

「私は～だと思う」「～だと信じる」「○○は～すべきだ」

といった「主観(=主張)」を述べただけで英文が終わることも(同様に)ありません。それをサポート(論証)する、「客観(=論拠・具体例)」が必ず必要になるのです。したがって読者の側は、英文中で筆者の「主観」を表す内容が現れたら、その後に「論拠[理由]」「具体例」といった「客観」が続くことを予想してその後を読まなければなりません。「主観」と「客観」は常にセットで現れる。そうしておくといいでしょう。英語、特に評論文というのは、このように主観と客観の繰り返しで成り立っているといっても過言ではありません。

- ①語られていることの裏側の意味を予測しながら読み進めてみる。それが読みを深め、更に展開を素早くつかむことにつながるが多い。
- ②「西洋と東洋」等、対比的・逆の関係で扱われやすいテーマ[概念]を覚えておくといい。

③英語は言いつばなしは許されない。特に評論文は、主観と客観の繰り返しで成り立っている

6.筆者の主張と社会通念（あるいは時代背景）とを照合してみる。

評論文[論説文]において、たとえば「環境破壊」「殺人」は「悪」。「温暖化防止」「人助け」は「善」といったように、社会通念上、善悪の価値判断が示されている[世間で一致している]ような「テーマ」「問題」があったとします。そのような題材を筆者があえて「テーマ」とする[として書く]場合、その展開の仕方には2つの可能性が考えられます。それは

- ①「社会の大勢的意見に同調する」
- ②「(社会の大勢的意見に)同調しない」

この2つです。もし筆者が、社会の大勢的意見に同調する方向へ話を展開しようとしている態度がうかがえるなら、単に同調するだけでなく筆者独自の根拠があるのかどうか(単に同調するだけでは読者の知的好奇心をかき立てたり、引きつけたりすることはできないでしょう)?あるいは逆に大勢的意見に反する方向へ話を展開させようとしている筆者の態度がうかがえるなら、それは社会の通念を意識した上でのことなのか?、もし意識しているとするなら、大勢的意見を跳ね退けてまで強く訴えようとするその根拠あるいは意図は何なのか…。「それを知りたい」という気持ちが、読者である私達とつととても大切な姿勢になります。

特に評論文などでは、まず一般的な内容、誰もが認めるような内容を書き、その後で前文の内容をひっくり返してそれとは相反する筆者の独自の主張、視点を持ってくるといふ展開が多いことに注意しましょう。

- ・ 一般的な内容
- ・ 誰もが認めるような内容

↓
それをひっくり返して

筆者独自の主張・視点

このような展開が好まれるのは、以下の理由からです。

- ①まず世間一般の物の考え方を筆者自ら煎じ詰めて述べることにより、
 - 1.これから語る議論のための土台[前提]作りができる。
 - 2.「自分は世間の人(あるいは大勢的な)物の考え方を理解していますよ」ということを読者にアピールできる。
- ②特に2により、決して一方的[独断的]な視点から筆者が主張を展開しようとしているわけではないことを読者にアピールする。
- ③結果、その後の自身の主張に「客観性」や「説得力」を持たすことができる。

(ex)「人を殺すのは「悪」だ。どんな人間にも生きる権利があるのであり、それを他の人間が奪うことなど許されない。が、**しかし**それが許されるべき場合がある。更に言えば、それが「善」だとみなされる場合が存在する。例えば…」

上の文でも、筆者の主張・論点は「人を殺すのは悪だ」ではなく、「それ(人を殺すこと)が許される場合がある」という方にあることが容易にわかりますね。

「ひっくり返る」という点では、英文(特に評論文系)を読んでいると、以下のような展開もあります。

「主観(=主張)」
↓
「それとは真逆の内容」

このような展開に出会ったら、その(真逆の)部分は、主張に客観性を増すために付け加えられた「譲歩」だと思っただらいいでしょう。理解しやすいように日本語で例を挙げてみましょう。

「原発は即時撤廃すべきだ。原発は我々に便利さ、豊かさを与えてくれている。
原発の与えてくれる恵みが無くなることは、ある意味現代の豊かさの終わりを意味するかもしれない。しかし、それでも今回の震災に絡んだ原発事故の影響の大きさ

を考えると、原発の即時撤廃こそが、我々にとって正しい選択であると思うのだ」

この例でも、波線を引いた「譲歩」部分は「原発は即時撤廃すべきだ」という「主観(=主張)」に(原発がもたらしてくれる恩恵、そしてそれを撤廃した際に我々が払わなければならない代償がどんなものかは、筆者は重々承知していますよという)客観性を増す効果を出しています。そしてこの例のように、「譲歩」が終わって再び「主観(=主張)」に戻る際には、往々にして「逆接の論理マーカ―」がそこに置かれるものです。したがって読者の側は、「逆接の論理マーカ―」が現れたら、「これで譲歩は終了。ここから主観(=主張)に戻るのだろう」と予測を立てることができるのです。

①社会通念上、善悪の価値判断が示されている[世間で一致している]ような「テーマ」「問題」を筆者があえて「テーマ」とする[として書く]場合、その展開の仕方は以下の2つ。

- ①「社会の大勢的意見に同調する」
- ②「(社会の大勢的意見に)同調しない」

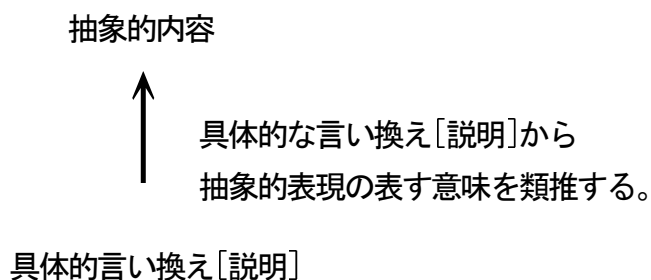
「同調する」展開の場合、単に同調するだけでなく筆者独自の根拠があるのかどうか「同調しない」展開の場合、それは社会の通念を意識した上でのことなのか?、もし意識しているとするなら、大勢的意見を跳ね退けてまで強く訴えようとするその根拠あるいは意図は何なのか…?。「それを知りたい」という気持ち(で読み進めること)が大切。

②評論文などでは、まず一般的な内容、誰もが認めるような内容を書き、その後で前文の内容をひっくり返して、それとは相反する筆者の独自の主張、視点を持つてくるという展開が多い。

③「主観(=主張)」を述べた直後にそれとは真逆の内容が表れたら、それは「譲歩」。そして「譲歩」が終わって再び「主観(=主張)」に戻る際には、往々にして「逆接の論理マーカ―」がそこに置かれるもの。

7. 抽象的内容の後に具体的説明あり。

評論文[論説文]などの場合、あまりに抽象的な内容[表現]で、それが何を言いたいのかわからない文章に出くわすことがあります。しかしそのような内容[表現]の後には、多くの場合、その内容を具体的に言い換えたり説明したりする文が続くのが普通です。ということは、その具体的な言い換え[説明]部分を正確によ読み取ることができれば、そこから「抽象的内容[表現]」の表す意味を、なんとか類推することができるのです。



パラグラフ内の展開としては「第一文」が抽象的で、パラグラフ内のそれ以降の英文が(抽象的な)第一文の内容を具体的に説明していくことが多いです。

以下の英文もそのような展開になっています。

Our respect for individuality is a two-edged sword. We want to be free and independent, and a sense of being independent of others satisfies such our desire. Yet we know there's another side to this. Something in each of us longs for a sense of oneness. Consequently, individuality can turn into isolation; and isolation into loneliness.

individuality: 個、個であるということ
long for A: Aを切望する、心から求める
turn into A: Aに変わる
loneliness: 孤独

independent: 自立(独立)した
a sense of oneness: 一体感
isolation: 孤立

上の英文で難しいのは第一文。特に a two-edged sword ですね。「2つの刃の剣」という文字通りの意味ではないでしょう(主語が「我々が個であることを尊重する

こと」なのですから)。どうやら抽象的な[比喩的な]意味を持っていそうです。そこで、それを具体的に言い換えてくれている後続の内容をヒントに、a two-edged sword (を含む第一文)が言わんとしている内容を読み取るわけです。後続の英文はこんなふう

「私達は自由になり、自立[独立]したいと思っている。そして他者から独立しているという感覚は、そのような私達の欲求を満たしてくれる。が、これには別の一面があることも私達は知っている。私達のそれぞれ一人一人の中にある何か、一つであるという感覚(一体感)を心から求めている。その結果、個であるということは孤立に変わり、孤立は孤独に変わることがありうるのだ」

ここから「我々が個であることを尊重することが、自由で、独立した存在でありたいという感覚を満たしてくれる一方で、我々に孤立、孤独をもたらす可能性がある」ということなのではないか、と a two-edged sword (を含む第一文)が言わんとしている内容を類推できます。実際、a two-edged sword とは「両刃の剣」という意味で、これは辞書によれば、『(両側に刃のついた剣は振り上げた時に自分をも傷つける危険があることから)一方では非常に役に立つが、使い方を誤ったりすると害になる危険性も持っているというもの』とあり、先程の類推が正しかったことがわかります。

なお、抽象的内容[表現]を具体的に言い換えたり、説明したりする際には、「抽象 ⇒ 具体」を示す論理マーカが入ることも多いので、これを類推の際のヒントにすることも覚えておくといいでしょう(〇〇ページを参照せよ)。

また、英文中に、

- ①固有名詞
- ②数詞
- ③(直前の内容とは一見)無関係に見える内容。つまり突然の関係ない話。

を含む文が現れたら、それらは直前の内容の具体例(理由)であることがほとんどです。ただ、万が一具体的説明を示す文が見つからない場合、その抽象的内容をできるだけ自分の身近で具体的にありそうな例で置き換えて考えてみるといいでしょう。

しかし、問題文の冒頭が(いきなり)「固有名詞」や「個別的な事例」で始まっていた場合には、どう考えればいいのでしょうか? その可能性は以下の2つと見ればいいでしょ

う。

①その「固有名詞」「個別的な事例」は、その文章の「テーマ」と密接な関係を持っており(あるいは「テーマ」そのものであり)、それらについてこの後更に具体的に掘り下げられていく可能性。

②その「固有名詞」「個別的な事例」は、単なる「枕詞」「前置き」「(本当の「テーマ」への)呼び水」のようなもので、その後に筆者が語りたい「テーマ」が現れる可能性。

このうち、特に評論文系においては、②のパターンが圧倒的に多いと言えるでしょう。それから、「several, different, various, a variety of, some など、「いくつかの(いろいろな・様々な)」「ある」といった形容詞のついた(複数)名詞は、直後で詳しく(具体的に)言い換えられる[説明し治される]可能性が高いものです。これも覚えておくといいでしょう。

①抽象的な内容[表現]の後には、その内容を具体的に言い換えたり説明したりする文が続くことが多い。その具体的な言い換え[説明]部分を正確に読み取ることができれば、そこから「抽象的内容(表現)」の表す意味を、なんとか類推することができる。

②英文中に、「固有名詞」「数詞」「(直前の内容とは一見)無関係に見える内容。つまり突然の関係ない話」(のいずれか)が現れたら、それらは直前の内容の具体例(理由)であることがほとんど。

③万が一具体的説明を示す文が見つからない場合、その抽象的内容をできるだけ自分の身近で具体的にあるような例で置き換えて考えてみる。

④「いくつかの(いろいろな・様々な)」「ある」といった形容詞。

「several, different, various, a variety of, some など、「いくつかの(いろいろな・様々な)」「ある」といった形容詞のついた(複数)名詞は、直後で詳しく

く(具体的に)言い換えられる[説明し治される]可能性が高い。

8.具体例を通じて筆者は何を言いたいのかを考えてみる。

抽象的表現とは逆に、あまり具体例が長かったりたくさんあったりすると、それに振り回されてしまうことがあります。具体例とは、読者の理解を助けるために与えられているものです。したがって、具体例に終始するような展開に出会ったときには、与えられたそれらの具体例を大きな枠[くくり・範疇]でとらえ直したときに明らかになる共通した特徴を見だし、そこから筆者の言おうとしている主張の輪郭を浮かび上がらせることが大切です。

「毎夜、星々は北極星を中心に円を描いて空を動く。季節は春→夏→秋→冬と流れていく。そしてそれを、365日を一年として繰り返している。雪の結晶は2つとして同じ形をしたものはないが、しかしそれらは全て六角形をしている。水は摂氏0度で氷となり、100度で沸騰し、蒸気となる。光は一秒間に地球を7周半する。トラやシマウマにはシマ模様があり、ヒョウやハイエナには斑点がある。動物達は生殖を通して、植物達は受粉を通してその種を保っている…」

上の文章は、具体例に終始しています。それらを大きな枠でとらえ直して見えてくる共通した特徴を考えてみるわけです。すると「自然界に(見られる様々な事象に)は一定の法則性が存在する」という特徴が見えてきますね。

具体例に終始するような展開に出会ったときには、与えられたそれらの具体例を大きな枠でとらえ直したときに明らかになる共通した特徴を見だし、そこから筆者が言おうとしている主張の輪郭を浮かび上がらせる。

9.パラグラフごとにメモを取って読み進めていく。

読んでいて前の内容を忘れないためのもう一つの方法として、パラグラフごとにメモを取りながら読むことをお勧めします。そのパラグラフで述べられている重要だと思われる個所を問題文の(そのパラグラフの)右端にメモ書きするわけです。

ただ、そのパラグラフのどの個所が重要なのか判断できない、という人も中に入ると思います。その場合、各パラグラフの第一文(又は最終文)をメモ書きしてみるといいでしょう。そのパラグラフのどこが重要なのか? 筆者の主張はどこにあるのか? を読み取るより正確なルールについては次章で詳しく説明します。

それではメモを取る練習を次の英文で実践してみましょう。これは中央大学で実際に出題された英文です。

①第一パラグラフ

Today, as you begin college, you may not realize how often you will be represented by your writing. But you will be known, evaluated, admitted, awarded jobs, promoted - achieve success or not - on the basis of how well you write. Professors, registrars, deans, award and admissions committees, personnel managers, and others ordinarily cannot take the time to become well acquainted with you in person. You must make yourself known in writing. What you say is you.

先程第一文といいましたが、あるパラグラフの第二文が逆接語で始まっている場合、第二文の方に筆者の主張があるものです(〇〇ページを参照せよ)。そこで、ここでは(逆接語である But を含む)その第二文をメモ書きします。

「どれくらいうまく書けるかを基にして、人に知られ、評価され、認められ、仕事を与えられ、昇級(成功を達成するか否か)させてもらえる」

それから最終文。

「あなたが語る言葉があなただ」

以下はこのパラグラフの全訳です。

「今日皆さんは大学で学び始めるとき、どれくらい自分の書くものによって自分が表現されて[表されて]いくかに気づいていないだろう。しかし、皆さんは、どれくらいうまく書けるかを基にして、人に知られ、評価され、認められ、仕事を与えられ、昇級（成功を達成するか否か）させてもらえるのである。教授や大学の事務局長や学部長、賞や入学の審査委員会、人事部長などの人たちには、通常あなたと直接よく知り合う時間はない。あなたは、書面で自分のことを知ってもらわなければならない。あなたが語る言葉があなたなのだ」

②第二パラグラフ

There are other reasons for learning to write - less practical, perhaps, but no less meaningful. Writing is one of the best ways for you to discover who you are and what you think. What, exactly, are your views on the appropriate response to terrorism, on abortion, on compulsory drug tests, or the death penalty? Committing yourself on paper about such subjects - even if you are to be the only reader, as in a diary or journal - requires you to probe your mind, reexamine your assumptions, reach into your subconscious to find out what you really think and why. As you write out your thoughts, their appearance on paper often stimulates other ideas that have been vague in your mind. In this process, you may very well change your opinions, and you may even decide to take action on them. At the least, you will discover what you know, what you think, what you believe, what you feel.

ここも、まずは第一文をメモ書きしてみましょう。

「書くことを学ぶのには他にも大切な理由がある」

その「理由」が第二文に語られているので、そこもメモ書きします。

「書くということは自分が何者なのか、そして何を考えているのかを発見する最善の方法の1つだ」

最後に最終文です。

「(書くことで)自分の知識、考え、信念、感情を発見できる」

以下はこのパラグラフの全訳です。

「書くことを学ぶのには、そのほかに——おそらくそれほど実用的ではないが、それに劣らず有意義な——理由がある。書くということは、自分が何者なのか、そして何を考えているのかを発見する最善の方法の1つである。テロリズムに対する適切な対応について、妊娠中絶について、強制的な薬物検査について、また死刑に関して、厳密にはどう考えているのか。そのようなテーマについての自分の意見を紙に記すことは——日記や日誌など、自分しか読む者がいない場合でも——自分の心を探り、自分の仮説を調べ直し、自分の潜在意識の中にまで入り込んで、自分が本当は何を考えているのか、そしてなぜそう考えるのかを発見することを皆さんに要求する。自分の考えを書き出していると、紙の上で見える形になった考えが心の中では漫然としていた別のアイデアを刺激することがよくある。この過程で自分の意見が変わることも多々あるだろうし、そこから行動を起こそうと決心することさえあるだろう。少なくとも、自分の知識、考え、信念、感情を発見するであろう」

③第三パラグラフ

Of course, you can discover much about yourself and your knowledge, understanding, and values in talking about them. But speech is slippery, words disappearing in air. Writing, because it stays right there on the page where you put it, allows you to see your thoughts, grasp them, clarify them, and check and recheck them, working out contradictions, adding qualifications, making distinctions. Only writing enables you to discover yourself fully and accurately. E. M. Forster the novelist, stated it well when he said, "How can I know what I think till I see what I say?"

このパラグラフも第二文が逆接語で始まっています。したがってその第二文をメモ書きします。

「話し言葉はつかみどころがなく、言葉は空中に消えてしまう」

ということは裏を返せば、「書いたものは、自分が書いたページに(記録として)残る」ということですね。

最終文ですが、E. M. Forster という固有名詞が含まれています。「**固有名詞**を含む文」が現れたら、それらは直前の内容の具体例[理由]であることがほとんどなんでしたね。ですからここはメモ書きする必要はありません。

以下はこのパラグラフの全訳です。

「もちろん、話すことによって、自分自身や自分の知識、理解力、価値について多くのことを発見できる。しかし、話し言葉はつかみどころがなく、言葉は空中に消えてしまう。書いたものは、あなたが書いたページのまさにそこにとどまっているのだから、矛盾を解決したり、修正を加えたり、区別したりしながら、自分の思考を見、把握し、明確にし、調べ、そして調べ直すことができる。書くことだけが、自分自身を完全にそして正確に発見することを可能にする。小説家の E. M. フォースターは、『自分の言っている言葉を見るまでは、自分が何を考えているのかがどうしてわかるだろう』と語り、このことをうまく言い当てている」

④第四パラグラフ

You also learn better as a result of writing. Remember that high school report you wrote about the Civil War or Hamlet or the possibility of life on Mars? Whatever your subject was, you probably understand and remember that subject much better today than any others you studied at the same time. One reason for this is that, while writing, you were actively participating in the learning process instead of passively reading about a subject or listening to your teacher talk about it. Thus, writing is a learning tool, helping you to understand and remember.

ここも第一文をメモ書きしてみましょう。

「ものを書くと、その結果学習効果も上がる」

更に最終文をメモ書きします。

「書くことは1つの学習の手段であり、理解と記憶を助けてくれる」

以下はこのパラグラフの全訳です。

「ものを書くと、その結果学習効果もまた上がる。『南北戦争』とか『ハムレット』とか火星に生命が存在する可能性について書いた、あの高校のときのレポートを覚えているだろうか。テーマは何であれ、今では同じ時代に学んだ他の何よりも、そのテーマをずっとよく理解しているし、また覚えてもいるだろう。その理由の1つは、受動的にあるテーマについて読んだり、先生がそのことについて話しているのを聞くのとは違って、書いている間に、能動的にその学習過程に参加したからだ。こうして、書くことは1つの学習の手段であり、理解と記憶を助けてくれるのである」

⑤第五パラグラフ

Still another reason for learning to write is that writing can be a pleasure — a means of self — expression comparable to painting, sculpting, or composing music. As an effective vehicle for sounding off, writing may furnish emotional relief or ego satisfaction. There is something fulfilling about expressing your ideas and feelings on a subject. Writing may be compared to other creative acts: cooking a meal, taking photographs, designing a house, making pottery — all contain the signature of your personality. If the result is something that will interest and appeal to others, so much the better.

まずここも第一文をメモ書きしてみましょう

「書くことを学ぶもう一つの理由は、書くことが絵や彫刻や作曲に匹敵する自己表現の手段、つまり喜びにもなるということだ」

そして最終文です。

「(書いたものの)結果が他人の関心を引き、魅力を感じさせるものであるなら、それはますます結構だ」

以下はこのパラグラフの全訳です。

「書くことを学ぶ、まだもう1つの理由があるが、それは、書くことが絵や彫刻や作曲に匹敵する自己表現の手段、つまり喜びにもなるということだ。自分の言いたいことをまくし立てるための効果的手段として、書くことは感情的な息抜きや自己満足を与えてくれる。あるテーマについて自分の考えや感情を表現することには、何か自己実現的なものがある。書くことは、すべて自分の個性という署名がされた、料理をするとか、写真を撮るとか、家を設計するとか、焼物を作るなどの創造的な活動と比較できる。その結果が他人の関心を引き、魅力を感じさせるものであるなら、それはますます結構なことだ。

どうでしょうか。このようにメモ書きをして読むことによって、前に書いてあった内容を忘れないだけでなく、全体の論旨[話の展開]がよりスムーズに理解できることがわかるはずです。

読んでいて前の内容を忘れないために、パラグラフごとに重要と思われる個所を、メモを取りながら読むといい。
そのパラグラフのどの個所が重要なのか判断できない場合、各パラグラフの第一文(又は最終文)をメモ書きしてみるといい。

10. 状況や流れがよくつかめなくてもあわてない。

特に物語文等に多いのですが、読者の興味を引くためにわざと不明瞭な書き出しで始まっていることがあります。

そのような英文に出くわした場合、まずは、現状で「分かっていること(情報・状況)」と、「分かっていること」を整理することです。そして「分かっていること」を探しつつもそれ以降の文章を読んでいくのです。ほしい情報が得られるまで忍耐強く冷静に読み進めることです。大切なのは「必要な情報はこの先にきっと書いてあるはず」と信じる気持ちです。

また小説などでは、バリエーションとあって、同じ内容(人・物)なのに、出てくるたびに毎回その表現を変えることがあったりします(同じ言葉を繰り返すのを嫌う)。

(ex) ジェイソン ⇨ 殺人鬼 ⇨ ヤツ ⇨ あの悪魔 ⇨ 死に神

あるいは、文中のほんのちょっとした言葉(あるいは時制等)に意外な意味が込められていたりすることもあります。

そういった物語(小説)攻略の基本は以下の通りです。

- ①まず設問が本文の内容を類推するのに役立つものなら、先に設問を読んでメモ書きしておく。そして登場人物や場所、出来事など、読み進める際の助けになりそうなキーワードを整理しておく。
- ②「5W1H」をメモにとりながら読み進める。特に
 1. 「時と場所 (when と where) 」そしてその中で「事件とその動機[原因]、展開 (what と why と how) 」が、どのように主人公の心理との関連の中で進み、結末へと向かっていくのかに着目する。
 2. 登場人物同士の間関係も整理してみる(関係図をメモ書きするのもいい)。
 3. セリフ等も、一体それが誰のセリフなのか毎度確認する。
 4. he, she, they, it といった代名詞が指すものは誰[何]なのかも確認しながら読み進める。
 5. 登場人物のセリフ、行動などから、その性格、思考、心理を読み取る。
- ③語り手は誰なのか?
ストーリーの語り手(Narrator)は、「作者自身」なのか「登場人物の一人」なのかそれとも「主人公自身」なのか。要するに誰の、どんな視点でストーリーが語られ

ているのかを読み取る。

- ④会話が早い場合には、繰り返しになる部分が省略されてしまっていることが多い。文法的に不完全な箇所に出会ったら、省略の可能性を考慮して、もし省かれているものがあるならそれを補ってみる。

④ LESSON BOOK REVIEW Rule-49 を参照せよ。

また会話の決まり文句[慣用句]などを日頃から増やす努力も必要。それらも設問として問われやすい。それについては、ホームページの「頻出会話表現のまとめ」をしつかり読み込んでおくこと。

- ①書き出しが不明瞭な英文に出会ったら、

- 1.現状で「分かっていること(情報・状況)」と、「分かっていないこと」を整理する。
- 2.そしてその「分かっていないこと」を探すつもりでそれ以降の文章を読んでいく。

ほしい情報が得られるまで忍耐強く冷静に読み進めること。大切なのは「必要な情報はこの先にきっと書いてあるはず」と信じる気持ち。

- ②物語[小説]攻略の基本。

- 1.まず設問が本文の内容を類推するのに役立つものなら、先に設問を読んでメモ書きしておく。そして登場人物や場所、出来事など、読み進める際の助けになりそうなキーワードを整理しておく。
- 2.「5W1H」をメモにとりながら読み進める。そのポイントは以下の通り。
 - (1)「時と場所 (when と where) 」そしてその中で「事件とその動機[原因]、展開 (what と why と how) 」がどう主人公の心理との関連の中で進み、結末へと向かっていくのかに着目する。
 - (2)登場人物同士の間関係も整理してみる(関係図をメモ書きするのもいい)。
 - (3)セリフ等も、一体それが誰のセリフなのか毎度確認する。
 - (4)he, she, they, it といった代名詞が指すものは誰[何]なのかも確認しな

から読み進める。

(5)登場人物のセリフ、行動などから、その性格、思考、心理を読み取る。

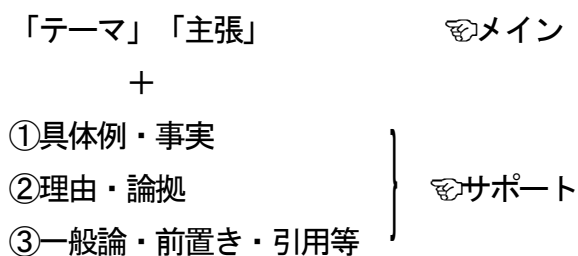
3.ストーリーの語り手(Narrator)は、「作者自身」なのか「登場人物の一人」なのかそれとも「主人公自身」なのか。要するに誰の、どんな視点からストーリーが語られているのかを読み取る。

4.会話が多い場合には、繰り返しになる部分が省略されてしまっていることが多い。文法的に不完全な個所に出会ったら、省略の可能性を考慮して、もし省かれているものがあるならそれを補ってみる。

2.パラグラフの展開と評論文[論説文]系の英文の読み方。

1.文章は「メイン」と「サポート」によって構成されている。

人はなぜ文章を書くのでしょうか？ その動機(行動の本質)は、書く側の人間が、ある「テーマ」について自分なりの「主張」を読み手の側に伝えたい(そして「理解[共感]」してもらいたい)から、と言えますね。したがってそのような動機をもって書かれた文章(特に評論文[論説文])には、「テーマ」と「筆者の主張」が存在するものなのです。ただし、ある「テーマ」について、自分の言いたいことを書くだけ書いてそれでおしまい、では説得力のある文章にはなりません。そこでほとんどの文章には、「主張」に説得力を持たせるための「具体例」「理由」「譲歩」といった内容が付け加えられるものです。つまり「テーマ」「主張」をその英文のメインとするなら、「具体例」「理由」「譲歩」といった個所は、サポートと見ることができます。この「メイン」と「サポート」によってほとんどの文章は構成されているのです。



(ex) 「原子力発電と我々の暮らしについて論じてみたい。 私は原子力発電に賛成だ。
なぜなら、原子力なしに現代の生活水準を維持することは不可能だからだ…」

「テーマ」：「原子力と我々の暮らし」

「主張」：「原子力発電に賛成だ」

「理由」：「原子力なしに現代の生活水準維持は不可能だから」

上記の日本語は非常に明快な例ですが、基本的に英文においては「1つのパラグラフで扱っているテーマは1つだけであり、それに関する筆者の主張も1パラグラフに1つのみ」という暗黙のルールがあります(サポートは複数のことは十分ありうる)。

「テーマ」は書かれないことも多いですが、「テーマ」のない(つまり何について書くわけでもなくただダラダラと書いただけのような)英文は、受験英語では存在しないとい
っていいでしょう。

そのパラグラフの「主張」を述べている文のことをトピックセンテンス(topic sentence)といいます(トピックセンテンスは1文のこともあれば、2、3文にわたる場合もある)。トピックセンテンスを読めば、極端な話、サポート部分を読まなくてもそのパラグラフ全体の内容はつかめてしまいます。

(ex) 「僕は、NATO軍のユーゴ空爆に賛成だ。 なぜなら、ユーゴは国際社会のル
ールに反しているからだ。国連の調停案にも頑として応じず、非人道的な
コソボでのアルバニア人虐殺を続けている…」

上記の例文では、下線部がトピックセンテンスになっており、そこから先は単なるそのサポートでしかありません。

英文の読解において一番大事なのは、このメイン(つまりトピックセンテンス)がどれ
なのかを見抜く目を養うことだと言っていいでしょう。

①評論文[論説文]は、基本的にメイン(「テーマ」「主張」とサポート(「具体例」「理由」「譲歩」など)の2種類で構成されている。

②パラグラフの「主張」を述べている文のことをトピックセンテンス(topic sentence)と言う。トピックセンテンスを読めば、極端な話、サポート部分を読まなくてもそのパラグラフ全体の内容はつかめてしまう。

③英文の読解において一番大事なのは、このメイン(つまりトピックセンテンス)がどれなのかを見抜く目を養うこと。

2. トピックセンテンスの見極め方。

(1) トピックセンテンスが示されやすい場所。

最も示されやすいのは**パラグラフの冒頭[第1文]**です。その次に多いのが**パラグラフの最終文**。数は少ないが**パラグラフの中間部**にくることもあります。

したがって、

パラグラフの冒頭[第1文]

↓

パラグラフの最終文

↓

パラグラフの中間部

の順にまずパラグラフにざっと目を通して、トピックセンテンスを探してみるといいでしょう。

(2) トピックセンテンスを見抜くヒントになる語句。

① 筆者の「主観」を表現する語句。

(a) I think : 「私は思う」 I believe: 「私は信じる」 I wish: 「私は望む」
I suppose: 「私は思う」 I claim : 「私は主張する」 I mean: 「つまり」
I hope : 「私は望む」 I insist : 「私は主張する」

(b) In my opinion : 「私の意見では」
As for me : 「私に関して言えば」
As[So] far as I'm concerned: 「私に関するかぎり」

(c) appear (to be) C : 「Cのように見える[のようだ]」
seem (to be) C : 「Cのように見える[のようだ]」
look C : 「Cのように見える[のようだ]」

(d) (特に強制力の強い)助動詞
愈強調の do などにもこれに含まれる。

(e) 主観的な判断を表す形容詞

(ex) 「良い」「悪い」等

(f)強調構文

- ②「例えば」「なぜならば」「第一に」等、サポート部分を示す語句を含む文の直前の英文は、トピックセンテンスであることが多い。

(ex) 「最近の女子高生は態度が悪い。例えば、この前電車に乗っていたときもおばあさんが荷物を持って立っているのに席を譲ろうともしない。また、公園でたばこを吸っているのを見かけたりもしたことがある」

上記の例文では「例えば」の直前、つまり「最近の女子高生は態度が悪い」の部分がトピックセンテンスになっています。

もちろんこれらの語句があるからと言って100パーセントそれがトピックセンテンスだと軽率に決めてかかるのは危険ではあります。が、これらが1つの目安になることは間違いありません。

- (3)トピックセンテンスを探す手がかりが見つからない場合。

英文を読んでいても、中にはトピックセンテンスを探す手がかりがないようなものもあります。あるいはあるいはトピックセンテンス自体がないパラグラフというの中にもあつたりします。その場合は、以下の2つの考え方をしてみるといいでしょう。

(1)パラグラフ内で一番一般的[抽象的]な内容を述べている英文がトピックセンテンスである。

(2)明確な1文としてトピックセンテンスが示されていない場合は、全体を読んで、個々の事象を大きな枠でとらえ直したきに、そこに現れる共通した特徴、概念を見だし、そこから筆者の言わんとする主張を浮かび上がらせる。

(ex) 「東京は物価が高い。もちろん地価もだ。1ルームマンションが7～8万すると聞いた。空気も悪い。ベランダに洗濯物を干したら、夕方には灰が積もっていた。犯罪も多いそうだ。特に独り暮らしのお年寄りが

狙われやすいらしい」

上記の例文は、明確なトピックセンテンスを持っていませんが、全体から得られる共通した特徴から、「東京は住むには適さない」という主張が浮かび上がってきます。

(4)「トピックセンテンス」を探す際のその他の注意点。

①過去形は原則として筆者の主張とはみなさない。つまり、トピックセンテンスは基本的に「現在時制」(又は will 等の助動詞など)を用いて述べられる。

②現在完了を主節に用いて筆者の主張が述べられることもまずない。特に現在完了進行形を用いた英文があったら、その逆の内容が筆者の主張であることが多い。

會現在完了進行形とは have been+doing~(これまで~し(続け)てきた)。

たとえば以下のような英文があった場合

(ex) Our country has been persisting in the principle of equality.

わが国はこれまで平等の原則に固執し続けてきた

この内容の逆、つまり「わが国は、今後は平等の原則に固執し続けるべきではない(し続けることはないだろう)」というのが筆者の言わんとしたいことではないのか?と予測できる。

③あるパラグラフの第2文に逆接語(But, However, Yet 等)が含まれていた場合、第2文の方がトピックセンテンスである可能性が高い。

逆接語を含む英文(特に逆接語から始まる英文)は、第2文でなくてもトピックセンテンスが含まれてれていることがあるので、そのような英文がパラグラフ内にあったら注意が必要。

④「一般化」や「譲歩」を表わす論理マーカ―は「逆接」「対比」を表わす論理マーカ―とセットで用いられ、その(「逆接」「対比」を表す論理マーカ―の)後に筆者の「主張(つまりトピックセンテンス)」がくることが多い。

(ex) 「一般的に言って老人は記憶力が悪い。しかし、昔のこととなると彼らの記憶力は頼りになる。何十年も前のことを、まるで昨日のこと

のように覚えている。先日もうちの祖父は…」

「なるほど、最近の若者は頼りない。昔なら男は12歳にでもなれば、侍なら元服、つまり一人前の大人とみなされた。女も15～16歳で嫁に行くのは当たり前だった。しかし、現代という時代性を考慮に入ると、一概にそうとも言えないのではだろうか。価値観の多様化 高度情報化、国際化等、現代の若者を取り巻く情勢は過去に例を見ないほど複雑だ」

上記の2つの例文の場合、「しかし」という逆接語の前までは、単なる「(譲歩の)一般論」であり、「しかし」の後に「主張」が述べられています。

1. 「一般化」を表す論理マーカー

on the whole	: 「一般的に言って」
in general	: 「 ” 」
by and large	: 「 ” 」
as a rule	: 「 ” 」
generally speaking	: 「 ” 」
all in all	: 「だいたい」「概して」
in most cases	: 「たいていの場合には」
in almost all cases	: 「 ” 」
in many cases	: 「多くの場合」
broadly speaking	: 「大雑把に言って」
to some extent[degree]	: 「ある程度は」
mostly	: 「大部分は」
most people	: 「大抵の人々は」

2. 「譲歩」を表す論理マーカー

(It is) True (that) S+V~	: 「なるほど～だ」
Of course, S+V~	: 「なるほど～だ」
Indeed, S+V~	: 「なるほど～だ」
No doubt, S+V~	: 「なるほど～だ」
At first, S+V~	: 「はじめのうちは～だ」
S+may[might]+V~	: 「～かもしれない」

Certainly, S+V～ : 「確かに～だ」

Surely, S+V～ : 「確かに～だ」

To be sure, S+V～ : 「確かに～だ」

☞ 「確かに～だ」という表現の場合、「譲歩」を示す場合と、(それとは逆に)筆者の主張を補足する際に用いられることもある。

may[might]なども単なる推量を意味することもあるが、段落冒頭のこれらの語句、それから接続の論理マーカ―と共に

用いられている場合は、100%「譲歩」を表すと思ってい。

- ⑤ 「主張」の再提示を導く論理マーカ―がある。パラグラフ末において、筆者は自分の「主張」を最後にもう一度読者に提示することがある。その際によく使われる論理マーカ―である。

thus	: 「このように」	in short	: 「要するに」
(and) so	: 「だから」「それ故」	in a word	: 「要するに」
therefore	: 「それ故」	in brief	: 「要するに」
consequently	: 「それ故」	to summarize:	: 「要するに」
in consequence:	: 「それ故」	to sum up	: 「要するに」
in conclusion	: 「結論として」		

- ⑥ パラグラフ冒頭の疑問文は、そのパラグラフの論証すべき「テーマ」を表していることが多い。又、パラグラフ末尾の疑問文は、次パラグラフの論証すべき「テーマ」を表わしていることが多い。

(ex) 「平和とは何であろうか。ある人が『平和とは戦争と戦争の間の期間』と言ったのを聞いたことがあるが、この表現は極めて、政治的
というか、皮肉的な言い方で私は好きになれないし、人類が求めるべき真の平和とはそのようなものではないはずだ…」

「"愛"と"恋"の違いは何だろう。ものの本によれば"愛"とは…」

上記の例文では、冒頭の疑問文が「テーマ」となっています。

(ex) 「第二次大戦後の日本を表して、『日本は今だ独立国ではない』『日本はアメリカの属国である』などと言う人々がいる。彼らは、日本は真の独立を果たさねばならないと言う。では彼らの言う『真の独立』とは何であろうか?」

上記の例文では、末尾の疑問文が次のパラグラフの「テーマ」を暗示しています。

それから複数のパラグラフからなる英文においては、第一パラグラフ冒頭(あるいは末尾)の疑問文は、その文章全体を貫く「テーマ」を示していることが多いということも覚えておくといいでしょう。

- ①トピックセンテンスが示されやすいのはパラグラフ冒頭[第一文]。
- ②トピックセンテンスを見抜くヒントになる語句を覚える。
- ③「例えば」「なぜならば」「第一に」等、サポート部分を示す語句を含む文の直前の英文は、トピックセンテンスであることが多い。
- ④トピックセンテンスを探す手がかりが見つからない(あるいはトピックセンテンス自体がないパラグラフというも中にはある)場合。
 - 1.パラグラフ内で一番一般的[抽象的]な内容を述べている英文がトピックセンテンス。
 - 2.明確な1文としてトピックセンテンスが示されていない場合は、全体を読んで、個々の事象を大きな枠でとらえ直したきに、そこに現れる共通した特徴、概念を見だし、そこから筆者の言わんとする主張を浮かび上がらせる。
- ⑤「トピックセンテンス」を探す際のその他の注意点。
 - 1.トピックセンテンスは基本的に「現在時制」(又は will 等の助動詞)を用いて述べられる(「過去形」は原則として筆者の主張とはみなさない)。
 - 2.現在完了を主節に用いて筆者の主張が述べられることもまずない。特に現在完了進行形(have been+doing~:これまで~し(続け)てきた)を用いた英文があったら、その逆の内容が筆者の主張であることが多い。

- 3.あるパラグラフの第2文に逆接語(But, However, Yet 等)が含まれていた場合、第2文の方がトピックセンテンスである可能性が高い。
逆接語を含む英文(特に逆接語から始まる英文)は、第2文でなくてもトピックセンテンスが含まれてれていることがあるので、逆接語を含む英文がパラグラフ内にあったら注意が必要。
- 4.「一般化」や「譲歩」を表わす論理マーカ―は「逆接」「対比」を表わす論理マーカ―とセットで用いられ、その(「逆接」「対比」を表す論理マーカ―の)後に筆者の「主張(つまりトピックセンテンス)」がくることが多い。
- 5.パラグラフ末において、筆者は自分の「主張」を最後に再提示することがある。そのような「主張」の再提示を導く論理マーカ―を覚えておくといい。
- 6.パラグラフ冒頭の疑問文は、そのパラグラフの論証すべき「テーマ」を表していることが多い(又、パラグラフ末尾の疑問文は次パラグラフの論証すべき「テーマ」を表わしていることが多い)。
複数のパラグラフからなる英文においては、第一パラグラフ冒頭(あるいは末尾)の疑問文は、その文章全体を貫く「テーマ」を示していることが多い。
- 7.パラグラフの「テーマ」「トピックセンテンス」を見抜くこれらのルールは、本文全体の「テーマ」「トピックセンテンス」を見抜く際に、拡大適用される。

3.サポート部分の見極め方。

実は、サポート部分を見抜くヒントになる語句があるのです。その一覧をあげてみましょう。

①「具体例」を導く論理マーカ―

for example	: 「例えば」
for instance	: 「例えば」

to take[give] an example : 「例えば」
 Let us take an example : 「一例をあげよう」
 as an example of A : 「Aの一例として」
 An illustration will make this point clear.: 「例えば」
 in illustration of A : 「Aの例証として」
 by way of illustration : 「実例として」
 Let us take an illustration: 「例証してみよう」
 This is seen in A : 「このことはAに見受けられる」

④特に、これらの論理マーカ―がパラグラフの冒頭にあつた場合、そのパラグラフ全体が前のパラグラフの「具体例」になっているとみていい。

② 「理由」を導く論理マーカ―

The reason is that S+V~: 「その理由は~である」

③ 「具体例[事実]」を列挙[記]する際によく用いられる論理マーカ―

first A. second B. third C. then D. at last[finally/lastly] E.

「まず第一にA。第二にB。第三にC。その次にD。最後にE」

firstly[to begin with] A. secondly B. thirdly C.

「まず第一にA。第二にB。第三にC」

for one thing A. for another thing B.

「一つにはA。もう一つにはB」

in the first place A. in the second place B.

「第一にA。第二にB」

moreover : 「更に加えて」

furthermore: 「更に加えて」

besides : 「更に加えて」

in addition: 「更に加えて」

also : 「~もまた」

④ 「固有名詞」「数詞」「(直前の内容とは一見)無関係に見える内容。つまり突然の関係ない話」。

「主張(トピックセンテンス)」には、より抽象的な表現が使われるのに対して、「具体例」や「理由」といったサポートには、より具体的な名詞(固有名詞)や事件・事実を表わす名詞が使われることが多い。つまり、英文を読んでいて

1.固有名詞

2.数詞

3.(直前の内容とは一見)無関係に見える内容。つまり突然の関係ない話(のいずれか)を含む英文が現れたら、それは、直前の内容の具体例[理由]だとみてほぼ間違いない。

では次の英文を見てみてください。上記のような考え方ができるようになると、英文の見方が変わってくるはずですよ。

New York is full of charm and scenic beauty, so visitors from around the world come to enjoy its famous theaters, museums, countless ethnic restaurants, and scenic wonders. Although New York seems like a paradise, it isn't, for the city has several serious problems.

5 **The first and most important problem** is this city's inadequate public transportation system. Thousands of residents rely on the city's buses and streetcars to travel throughout this large city, but the transportation system's daily schedules are totally unreliable. A bus or streetcar that should arrive at 7:45 A.M. may not arrive until eight o'clock or even later. Sometimes three
10 buses or streetcars will arrive in bunches one after another. Moreover, it is not unusual for a bus driver or a streetcar conductor to pass up groups of people anxiously waiting in the snow in freezing weather because he is behind schedule and he wants to make up for lost time. Unfortunately, passengers become unhappy victims of the waiting game. For instance, once I waited so long in below zero
15 weather that I caught a bad cold. Then on the day of my economics exam, the streetcar was thirty minutes late. In order to get to our destination on time, we must allow for waiting time at the bus and streetcar stops.

The second serious problem is the extremely crowded condition of the city streets. There are simply too many cars everywhere. Besides the heavy traffic
20 caused by city residents, many commuters drive on the freeways and bridges leading into the city from the suburbs. This added traffic causes even greater traffic

jams. To clear up the crowded streets, city officials want city residents to leave their cars at home and use public transportation. They have pleaded with out-of-towners to use the transit systems coming into this huge metropolis.
25 However, their requests have been ignored because residents know that the city's public transportation is poor. Moreover, suburbanites like the convenience of driving, which gives them the freedom to come and go as they please.

The final problem is the lack of reasonable housing in New York. This is a fascinating city that offers an exciting lifestyle for young, ambitious business
30 and professional people. Also, immigrants are attracted to this city because it offers many unskilled job opportunities. All of these would-be residents need affordable rentals like apartments, flats, and single-family houses. But, unfortunately, because there is a tremendous shortage of rental units, rents soar, and so people leave the city. For example, Kathleen and Suzy's rent for a
35 two-bedroom flat was recently rising from \$750.00 to \$1,000.00 per month, so Suzy moved to Winston, where she teaches. Kathleen has been looking for a studio apartment, and, so far, she has found that rents range from \$550.00 to \$750.00 per month, depending on the location.

In conclusion, New York must improve its public transit system, clear up the
40 massive traffic jams caused by slow-moving traffic in the downtown areas, and keep rentals down to affordable levels. **In other words**, New York must improve its image, or it will soon become just another ordinary city due to the lack of administrative responsibility to solve these unfortunate problems.

(法政大)

第一パラグラフの冒頭文は、ニューヨークの「良い」側面について記述されているので、一見この都市に対する肯定的な評価をする英文のように見えますが、着目したいのは、第二パラグラフ、第三パラグラフ、第四パラグラフそれぞれの冒頭文です。first, second, final と、具体例を列挙する際に用いる(論理)語句が使われています。しかも全てその具体例は「問題(problem)」です。

「具体例を表す表現の前には筆者の主張があることが多い」

というルールから、第一パラグラフ最終文を読んでみると、「その街(ニューヨーク)に

はいくつかの深刻な問題がある(the city has several serious problems)」と確かに筆者の「主張」が見て取れます。どうやらこの英文が Topic sentence のようです。第一パラグラフで筆者は「ニューヨークには深刻な問題が(いくつか)ある」と「主張」をまず提示し、後に続くパラグラフで具体的に個々の問題を列挙しているのではないかと類推できます。そして最終段落は、「主張の再提示」をする際に用いる In conclusion という論理マーカが使われています。筆者はここで第一パラグラフの自身の「主張」を繰り返しているのだらうとわかります。更に最終段落内には In other words という「言い換え」を表す(論理)語句が使われています。直前の筆者の「主張の再提示」が更にこの語句の後ろで(別の言葉で)簡潔にまとめられていることが類推できます。

第一パラグラフ(the city has several serious problems.)

↓ 「ニューヨークにはいくつかの深刻な問題がある」

第二パラグラフ(The first and most important problem…)

「最初の、そして最も重要な問題は…」

↓

第三パラグラフ(The second serious problem…)

「第二の深刻な問題は…」

↓

第四パラグラフ(The final problem…)

「最後の問題は…」

↓

第五パラグラフ(In conclusion, New York must…)

「結論としてニューヨークは…しなければならない」

||

(In other words, New York must…)

「言い換えればニューヨークは…しなければならない」

このように各パラグラフの冒頭部(と論理マーカ)を見ただけで、文章全体の流れ、構成が見えてしまったわけです。全ての評論系の英文がこのように明快な構造になっているとは限りませんが、このような(大きな全体の)流れをつかむ読み方を知っておくこと

は今後の読解に、また具体的な設問を解く際に大いに役立ちます。

【全訳】

ニューヨークは魅力と景観美に満ちているので、世界中からの訪問者が、この市の有名な劇場、美術館や無数のエスニック・レストランやすばらしい景観を楽しみにやってくる。ニューヨークは天国のように思われるが、実際はそうではない。この市は深刻な問題をいくつか抱えているからである。

第1の、そして最大の問題は、ニューヨークの不十分な公共交通システムである。数多くの住民がこの大都市を移動するのに市バスと市電に頼っている。ニューヨークの交通システムの毎日の時刻表はまったくあてにならないのだ。午前7時45分に到着するはずのバスや電車が、8時、あるいは更に遅くになってやっと到着することもあるのだ。時には、3台のバスや路面電車が次々に群れをなして到着することもある。その上、バスの運転手や路面電車の車掌が遅延していて遅れた時間を取り戻したいという理由で、凍りつくような天気や雪の降る中でバスや電車がくるのを待ち望んでいる人々を乗せないことも珍しいことではない。不幸にも乗客たちはこの持久戦の犠牲者になってしまう。例えば、あるとき私は、0度以下の天候であまりに長く待たなければならなかったので、ひどい風邪をひいた。それから、経済学の試験の当日に、電車は30分遅れてやってきたことがあった。私たちはバスや電車の停留所での待ち時間を考慮に入れておかなければならぬのだ。

第2の深刻な問題は、市の道路の極端に混雑した状況である。どこへ行ってもまったく車が多すぎる。市内居住者が引き起こす交通渋滞に加えて、多くの通勤者が郊外から市内に通じる高速道路や橋を通過して車でやってくる。こうした交通量の増加が交通渋滞をさらにひどいものにする。道路の混雑を解消するために、市の職員たちは住民に、車を自宅に置いて公共交通機関を利用してほしいと思っている。ニューヨーク市は、この巨大都市に入ってくるのに、市の輸送システムを利用するように郊外住居者に訴えかけた。しかし、住民は市の公共交通機関が貧弱であることを知っているのだから、この要請は無視されている。更に、郊外居住者は車を運転する便利さを好んでいる。車を運転すれば好きなように自由に行ったり来たりができるからである。

最後の問題はニューヨークにおける合理的な住宅供給の欠如である。この市は、若くて野望のある実業家や専門職の人々にとって、刺激的なライフスタイルを提供する魅力的な都市である。また、この市は専門的訓練を要しない仕事を得る機会が多くあるので、移民たちも

引きつけられる。この街の住民になりたいと思っているこれらの人は皆、アパートやフラットや一人暮らし用の家のような、家賃の手頃な賃貸住宅を必要している。しかし、不幸にして賃貸物件がひどく不足しているために、家賃が高騰し、そこで人々は市を離れていくのである。例えば、キャスリーンとスージーの寝室が2つあるフラットの家賃は、最近750ドルから1,000ドルに上げられたため、スージーはウインストンへ移り、そこで教師をしている。キャスリーンの方は、ワンルームマンションを探していて、今のところ、家賃は場所次第で月に550ドルから750ドルであることがわかっている。

要するに、ニューヨークは、公共輸送システムを改善し、都心部ののろのろ運転によって引き起こされる大渋滞を解消し、家賃を、支払いのできる水準まで引き下げておかなければならないのである。言い換えれば、ニューヨークはイメージアップをしなければならない。さもないと、この市はこれらの嘆かわしい問題を解決する行政責任の欠如のために、単なる当たり前の1都市に、まもなくなくなってしまおうことだろう。

①サポート部分を見抜くヒントになる語句がある。

1. 「具体例」を導く論理マーカがある。
2. 「理由」を導く論理マーカがある。
3. 「具体例（事実）」を列記する際によく用いられる論理マーカがある。

②「主張(トピックセンテンス)」には、より抽象的な表現が使われるのに対して、「具体例」や「理由」といったサポートには、より具体的な名詞（固有名詞）や事件（事実）を表わす名詞が使われる。

つまり、英文を読んでいて、

1. 固有名詞
2. 数詞
3. (直前の内容とは一見)無関係に見える内容。つまり突然の関係ない話

を含む英文が現れたら、それは、直前の内容の具体例[理由]だとみてほぼ間違いない。

4.まとめ

ここまでの内容から、(特に評論文系の)英文を読む際に、読み手の側が注意すべきことは以下の通りです。

(1)メインとサポートを見極める。特にメイン、つまりトピックセンテンスがどれなのかを見極める。

それがすぐに分からなくても、少なくとも何について筆者は語っているのか(つまり「テーマ」)を理解する。そしてその「テーマ」について、筆者はどんな判断をしているのか(肯定的・批判的・中立的等)といった点に注意しながら読み進める。

(2)サポート部分はメイン[トピックセンテンス]に対して、どんな役割(「具体例」「理由」「(譲歩の)一般論」…)を果たしているのかを理解して読み進める。

(3)サポート部分が複数ある場合、サポート部分同士の関係(「具体例の列挙」「理由の列挙」「具体例+理由」…)についても考えてみる。

場合によっては、サポートのサポート(「具体例」「理由」等)になるようなパラグラフもあったりする。

これらのことをする場合、先にあげたような論理マーカ―に注意を払うことによって、その作業がより素早く、正確にできるようになることでしょう。

3.要約問題への応用。

1.要約の基本手順。

ある英文を要約する際、まず以下の4つのことを頭に整理することが大切です。

- (1)問題文全体を貫いている「テーマ」は何か？
- (2)筆者はその「テーマ」に対して、どのような話の組み立ててで読者に、その「テーマ」に対する自身の考え、つまり「主張」を伝えようとしているのか？
- (3)筆者の「主張(結論といってもいい)」は何なのか？
- (4)サポート部分(具体例・理由等)はどこか？
- (5)30字を超える要約は「〇〇が……すること[から]」とまとめる。それ以下の字数で要約する場合は「〇〇の + 体言止め」でまとめる。
④「体言止め」とは、語尾を名詞・代名詞などで止める使い方のこと。

2.要約の中に入れるべきもの。

- (1)トピックセンテンス(筆者の主張を一言で述べている文)があればそれを入れる。
- (2)トピックセンテンスがなければ、それを自分で作って入れる。
④指定字数が少ない場合は、「テーマ」と「主張」に的をしぼってまとめる。
- (3)「キーワード」を入れる。
キーワードとは、その語がなければ要約にはなり得ないまさに「鍵」となる語のこと。
キーワードはトピックセンテンスの中にある場合もあるし、それ以外に書かれている場合もあります。
- (4)指定字数が多い場合は、具体例等、サポート部分も入れる。
具体例というものは、筆者が自らの主張を読者により明確に、説得力をもって伝える

ための手段、味付けであり、あくまでもサポートでしかありません。したがって本文を要約する際には、基本的には「削るべき部分」となります。

ただし、制限字数が多く具体例も書かなければ字数が埋まらないといった場合があります。そのような場合、しかも具体例が複数あるような場合には(制限字数に応じて具体例をどの程度入れるかを決めるのですが)、そのどれか1つを抜き出そうとするよりも、すべての具体例を包括する概念[共通項]は何かということを考えてみた方がいい。つまり(抽象度を上げて)具体例を一般化するのです。そのやり方として、以下のようなものがあります。

①同類に属する語を上位の語で代表させる。

(ex) キャベツ	}	⇒ 「野菜」
ニンジン		
タマネギ		
ほうれん草		
トマト		

②個々の行動[事実]を上位の行動[事実]に統合する。

(ex) John left the house.	}	⇒ 「ジョンはロンドンに行った」
He went to the train station.		
He bought a ticket.		
He got on the train.		
He arrived in London.		
お金があればいいものが食べられる	}	⇒ 「お金は大事だ」 「お金は様々な願望をかなえてくれる」
いい服も買える		
いい車にも乗れる		
いい家にも住める		
老後も安泰だ		

③「(様々な)〇〇にも見られるように…」 「〇〇に例証されるように」といったフレーズで簡潔にまとめる。

(ex) 原発といえば、古くはスリーマイル島での事故が思い出される。そして有名なチェルノブイリ。最近では、中越地震による柏崎原発の被害にも寒気がした

「様々な事故にみられるように、原発(事故)恐ろしい」

3.要約の際に削る[捨てる]べきもの。

(1)指定字数が少ない場合はサポート部分は捨てる。

(2)同じ内容を(別の表現などで)繰り返している箇所。付け加え情報的な箇所。

(3)筆者の「主張」とは全く関係ない箇所。

(ex)余談(世間話、言い訳、ぼやき等)、文章冒頭の話のつかみネタ等。

①まず初めに、問題文の「メイン(「テーマ」「主張(結論)」「サポート」「論旨展開」)を整理する。

②要約で入れるべきもの。

1.トピックセンテンス(筆者の主張を一言で述べている文)。

2.トピックセンテンスがなければ、それを自分で作る。

會指定字数が少ない場合は、「テーマ」と「主張」に的をしぼってまとめる。

3.キーワード。

4.指定字数が多い場合は具体例。

制限字数が多く、具体例も書く必要が出てくる場合は、その制限字数に応じて具体例をどの程度入れるかを定める。特に具体例が複数あるような場合は、どれか1つを抜き出すより、すべての具体例に共通する概念[共通項]を抜き出す(「具体例の一般化」)。

③要約で捨てるべきもの。

- 1.指定字数が少ない場合はサポート部分は捨てる。
- 2.同じ内容を(別の表現などで)繰り返している箇所。付け加え情報的な箇所。
- 3.筆者の「主張」とは全く関係ない箇所。

【演習問題】

1.次の英文を20字以内で要約せよ。

Many people are worried about what television has done to the generation of children who have grown up watching it.

For one thing, recent studies tend to show that TV causes us to lose creative imagination. Some teachers feel that television has taken away the child's ability to form mental pictures in his own mind, resulting in children who cannot understand a simple story without visual illustrations.

Secondly, too much TV too early tends to cause children to withdraw from real-life experiences. Thus, they grow up to be passive spectators who can respond to action, but not initiate it.

The third area for concern is the serious complaint frequently made by elementary school teachers that children exhibit a low tolerance for the frustrations of learning. Because they have been conditioned to see all problems resolved in 30 or 60 minutes on TV, they are quickly discouraged by any activity that promises less than instant gratification.

2.次の英文を45字以内で要約せよ。

Thinking depends upon knowledge. It is true that the person who has much knowledge is not necessarily a good thinker. But it is also true that the person who is developing good techniques for thinking will do a better job with much knowledge than he would with little. What is more, improving your knowledge often tempts you to do more thinking by rousing your curiosity and by making you more aware of the areas where thought is necessary.

One of the best examples of the importance of knowledge to good thinking is found in the area of vocational choice. Many high school students think with great care about what vocation they wish to follow. But however good their technique of thinking, they may come to conclusions that are not good for them, because they don't have realistic knowledge about their own potentialities or they don't know about the many kinds of work available or even enough about the kind of work they think they want to do.

It is safe to assume that, to the extent that you increase your knowledge and understanding, you will lay a better base for good thinking. Consequently, read dependable material as widely as you can, and have as much varied and wholesome experience as you can.

The fact that experience and knowledge are a necessary basis for good thinking and that they increase our chances of coming to sound conclusions helps us to understand why age and wisdom so often go together.

【解答&解説】

1. 「テレビは子供たちに様々な悪影響を与える」

【解説】 第二パラグラフ、第三パラグラフ、第四パラグラフが、その書き出しから具体例の列挙であることがわかる。そこから第一パラグラフの内容を要約するのだが、具体例については「様々な(悪影響)」を使ってまとめてみた。キーワードは「テレビ」「(悪)影響」だ。

全訳:

多くの人々は、テレビを見て育った子供の世代に対してテレビが与えた影響について心配している。

1つには最近の研究によると、テレビのおかげで私達は創造的な想像力失ってしまうことが示される傾向にある。一部の教師が感じていることだが、テレビは子供が頭の中で想像する能力を奪ってしまい、その結果、視覚的に示さないと簡単な物語も理解できない子供が生まれてくるというのだ。

第2に、テレビをあまりにも幼いときに見すぎると、子供は現実から逃避しがちになる。こうして子供たちは成長して行動に反応することはできるが、行動を起こすことのできない受身的傍観者になってしまうのである。

第3の心配の種は、小学校の教師がしばしば口にするのであるが、子供は、学習の挫折に耐えられなくなっているという不平だ。子供はテレビで30~60分ですべての問題が解決されるのを見ることに慣れてしまっているので、即座に満足を与えてくれないような活動には、たちまちくじけてしまうのだ。

2. 「知識が増えればそれだけより良い思考ができるようになり、正しい結論に至る可能性が高まる」

【解説】 まず、要約すべき個所を抜き出してみる。まず第一パラグラフ冒頭文。それから「~と思って差し支えない」と筆者の主張が感じられる書き出しの第三パラグラフ冒頭文。そして最後に最終パラグラフだ。第二段落は具体例なので飛ばす。

Thinking depends upon knowledge.

思考は知識に左右される

It is safe to assume that, to the extent that you increase your knowledge and understanding, you will lay a better base for good thinking.

自らの知識と理解力を伸ばせば伸ばすほど、よりよい思考のための基盤を築き上げることができると思ってい

The fact that experience and knowledge are a necessary basis for good thinking and that they increase our chances of coming to sound conclusions helps us to understand why age and wisdom so often go together.

経験と知識は良い思考のための必要不可欠な基盤であり、それらは我々が正しい結論にたどり着くチャンスを広げてくれるという事実は、なぜ年齢を重ねるにつれて知恵が深まっていくのかという理由を我々が理解する手助けとなる

この三ヶ所をまとめれば「知識が増えればそれだけより良い思考ができるようになり、正しい結論に至る可能性が高まる」ということになる。キーワードは「知識」「思考」だ。

全訳:

思考は知識に左右される。なるほど、知識の豊富な人間が必ずしも思考に長けているわけではない。がしかし、思考に長けた人間にもし豊富な知識があるなら、それが無い場合よりもずっとよい仕事をする事が出来るだろう。おまけに、自らの知識を増やすことにより、好奇心を呼び覚まされ、また思考が必要な分野により自身が気がつくようになるので、人はしばしばよりものを考えるようになるのだ。

良い思考にとって、知識が重要であるということの最も良い例の一つは、職業選択の分野の中に見ることができる。多くの高校生達は、自分がつきたいと思う職業について慎重に考える。しかし、いかに彼らの思考方法が良いものであったとしても、自分達にとって良い結論にたどり着くことは出来ないだろう。というのは、彼らは、自分自身の可能性についての現実的な知識を持っていないし、また自分がつくことが出来る仕事の種類がそれほど分かっていないし、自分がやりたいと思っている仕事の種類についても十分には分かっていないからだ。

自らの知識と理解力を伸ばせば伸ばすほど、我々は、それだけよりよい思考のための基盤を築き上げることが出来るのである。それ故、出来るだけ幅広く、ためになるものを読むべきである。そして、できるだけ多様でためになる経験を積むべきである。

経験と知識は良い思考のための必要不可欠な基盤であり、それらは我々が正しい結論にたどり着くチャンスを広げてくれるという事実は、なぜ年齢を重ねるにつれて知恵が深まっていくのかという理由を我々が理解する手助けとなる。

4.論理マーカ―

「論理」というと、なにかそれだけで難しく聞こえるかもしれませんが、実はそんなに大したものではないのです。なぜなら結局のところ「論理」といってもそれは3種類しかないからです。具体的には以下の3つです。

1. $A \Leftrightarrow B$

前後が内容的に「逆（又は対照的）」の関係になる論理。

2. $A = B$

前後が内容的に「イコール」の関係になる論理。

具体的には、「抽象とその具体例」「追加（添加）」「言い換え」等。

3. ① A (原因) \rightarrow B (結果) / B (結果) \leftarrow A (原因)

前後が「原因とその結果」「結論とその原因」の関係になる論理。

② A (問題提起) \rightarrow B (解答)

そして論理マーカ―とは、その前後を上記3種類のいずれかの論理で結びつける語句のことを言います(discourse marker とも呼ばれている)。論理マーカ―は、品詞としては「接続詞」「副詞」「前置詞(句)」等があります。では具体的な論理とそこで用いられる頻出の論理マーカ―を見ていくことにしましょう。

1.前後を「逆(又は対照的)の関係」で結びつける論理マーカ―。

以下にあげた語句によって結びつけられたAとB(前半と後半)は、内容的に「逆(又は対照的)の関係」になります。

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ①A. But B | 「A。しかしB」 |
| Though S + V~, S + V... | 「~だけれど、...だ」 |
| Although S + V~, S + V... | 「~だけれど、...だ」 |
| While S + V~, S + V... | 「~だけれど、...だ」 |

- ②A. However, B 「A. しかしながらB」 =though,
 =A. Yet, B 「A. にもかかわらずB」
 =A. Still, B 「A. それでもなおB」
 =A. All the same, B 「A. それでもなおB」
 =A. Nevertheless, B 「A. にもかかわらずB」
 =A. Nonetheless, B 「A. にもかかわらずB」
- ③A. On the other hand, B 「A. その一方(で) B」
 =A. Meanwhile, B 「A. その一方(で) B」
- ④A. In spite of this, B 「A. これにもかかわらずB」
 ④ in spite のイコール表現に despite, for[with] all などがある。
- ⑤Despite the fact that S+V~, S+V…
 「~という事実にも関わらず、…だ」
- ⑥Opposite to A, B 「Aとは逆に、B」
- ⑥A. On[To] the contrary, B 「A. それどころかB」
- ⑦A. In[By] contrast, B 「A. 対照的にB」
- ⑧A. By comparison, B 「A. 対照的にB」

(ex) 「昔のテレビ番組は楽しかった。しかしながら、今のTVはつまらない」
 「私は、その料理はおいしいと思った。これに反して、妹はまずいと思ったようだ」
 「野球は若者に人気がある。その一方で、相撲は人気がない」
 「彼は裁判で無罪の判決を受けた。それでもなお、彼女は、彼は有罪だと言い張った」
 「彼はおとなしい女の子が好きだ。それとは対照的に、僕はにぎやかな女の子が好きだ」

《注意事項》

- (1)上記の中で ①のbut, though, although, while は接続詞(それ以外は全て副詞)なので、例えば空欄補充問題などで(空欄の)直後にカンマ(,)があったら、そこに入れることはできない。
 ただし、though だけは、文中・文末で、(カンマで区切られてたりして)用いられると、副詞になり、「しかしながら(=however)」という意味になる。

④この(副詞の)though は、however と異なり、文頭に置くことはできない。

(ex) Ted didn't want to tell us the story ; he did, **though**.

テッドは我々に話したがらなかった。でも結局は話してくれた

The most important point, **though**, is to understand the importance of going over your copy more than once.

重要なことは、けれども、メモを2回以上読み返すことの大切さを理解することです

(2)また but はなんの脈絡もなく冒頭で用いられることはない。つまり

1.第一パラグラフの冒頭に But がきたり

2.But S+V~, S+V...

④S+V. But S+V...はOK。

というような使われ方はしない。

(3)「それどころか」という On the contrary は、直前の内容の程度を更に強めた文を導くこともある。

(ex) 「彼のことは好きじゃない。それどころか大嫌いだ」

2.前後を「イコールの関係」で結びつける論理マーカ―。

以下の語句によって結びつけられたAとBは「イコール関係」が成立します。

BはAの内容の「具体例」や「言い換え」や「付け加え」であったりします。内容的には両者は基本的に同じ [イコール]である点がポイントです。

(1)「A(抽象)=B(その具体例)」

①such A as B 「A。たとえばBのような」 「BのようなA」

=A such as B 「A。たとえばBのような」 「BのようなA」

②A. For example, B 「A。たとえばB」

=A. For instance, B 「 " 」

=A. To name (but) a few, B 「 " 」

=A, say, B 「 " 」

(ex) 「彼にはたくさんの長所がある。例えば、頭がいいし、性格も温和だ」

《注意事項》

(1) such as も後ろにカンマ(,)があつたら使えない。逆に for example[instance] は、通例カンマで区切って用いる。

(2) 「たとえば」という say は(let us say の略で)品詞的には間投詞。(動詞の say と異なり)直後がカンマなどで区切られる。ただ Say, ~. で「ねえ、おい、ちょっと」といった意味の呼びかけとして(口語で)用いられることもある。

(2) 「A=B(言い換え)」

①A. That is to say, B 「A。すなわちB」

=A. That is, B 「 ” 」

=A. Namely, B 「 ” 」

=A, or B 「 ” 」

②A. In other words, B 「A。言い換えればB」

③A. In short, B 「A。要するにB」

=A. In a word, B 「 ” 」

=A. In brief, B 「 ” 」

=A. To sum up, B 「 ” 」

=A. (To put it) Briefly, B 「 ” 」

=A. (To put it) Shortly, B 「 ” 」

=A. To make[cut] a long story short, B 「 ” 」

(ex) 「半年前、すなわち今年の四月に彼は大学生になった」

「もう会いたくない。要するに君のこと嫌いなんだ」

(3) 「A=B(Aの付け加え的内容)」

①A~.B also~. 「Aは~だ。Bもまた~だ」

=A~.B~,as well.

②A. Besides, B 「A。更に加えてB」

=A. Moreover, B 「 ” 」
 =A. In addition, B 「 ” 」
 =A. Further(more), B 「 ” 」
 =A. What is more, B 「 ” 」
 =A. Additionally, B 「 ” 」

③In addition to A, B 「Aに加えて、更にB」
 =Besides A, B 「 ” 」
 =Adding to A, B 「 ” 」
 =To add to A, B 「 ” 」

(ex) 「私、夕食にごはん3杯食べちゃった。それに加えて(おまけに)、デザートも食べちゃった」
 「優しさに加えて、彼は誠実さも兼ね備えている」

④Not to mention A, B 「Aは言うまでもなく、B」
 =to say nothing of A, B

(4) 「A=B (Aと類似・同様の内容)」

A. Similarly, B 「A。同様にB」
 =A. Equally, B 「 ” 」
 =A. Likewise, B 「 ” 」
 =A. In the same way, B 「 ” 」

(5)その他

A. more correctly B 「A。より正確にはB」
 ④Bには、Aのより正確な内容[言い換え]がくる。

3.前後を「原因[理由]と結果の関係」で結びつける論理マーカー。

(1) 「原因 ⇨ 結果」の関係

①A. Thus, B 「A。その結果B」 ④A=原因[理由]
 B=結果

- ②A. Therefore, B 「A。それ故B」
 =A. Hence, B 「 " 」
 =A. Accordingly, B 「 " 」
 =A. Consequently, B 「 " 」
- ③A. As a result, B 「A。その結果としてB」
- ④A. This is why S+V... 「A。こういうわけで…だ」
 =A. For this reason, B 「A。このような理由でB」
 =A. Because of this, B 「 " 」
- ⑤Since S+V~, S+V... 「~なので、(その結果)…だ」
 =Because S+V~, S+V... 「 " 」
 S+V~. So S+V... 「~だ。それ故(だから)…だ」
- ⑥Because of A, S+V... 「Aの理由で、S+V…だ」
 =Due to A
 =Owing to A
 =On account of A

(ex) 「彼は宿題をしてくれなかった。その結果、居残りをさせられた」
 「今日は風邪気味だった。それ故学校を休んだ」

(2) 「結果 ⇄ その原因 (理由) 」 の関係

- ①S+V~. This is because S+V... 「~だ。というのは(原因は)…だからだ」
 [結果] [原因]
 =S+V~ , for S+V... 「 " 」

- ②S+V~. [One of] The reason[s] for this is that S+V...
 「~だ。その理由(の一つ)は…だ」

(ex) 「アメリカは殺人事件が多い。というのはアメリカは銃が多いからだ」

- ③A. After all, B 「A。なぜならB」

(ex) It is no use getting angry with him. After all, he is only a child.

彼のことで腹を立てても無駄だ。だって(なぜなら)まだ子供なのだから

④ほとんどの学生は(文頭の)After all が論理マーカーだということを知らない。
要注意だ。

もちろん after all には「[通例文尾で](意図・予想・計画などに反して)結局」
「やはりとうとう」といった意味もある。

(ex) I thought she was going to fail the exam, but she passed after all.

私は彼女が試験に落ちると思ったが結局は受かった(よかった)

So you have come after all. ほう、やっと来てくれたね

4. その他の頻出の論理マーカー。

(1)A. Instead, B

①「A。それよりはむしろB」 [A⇔B]

「A。それどころか(ところが)B」

④AとBは「逆(対照的)」の関係になる。

(ex) 「都会の華やかさもいいが、それよりはむしろ個人的には田舎の静けさが好きだ」

②「A。その代わりにB」 [A⇔B]

④BはAのまさに"代わり"となる内容になる。ただ両者の関係は、対照的に
なることが多い。「Instead of A, B : AをせずにB」という言い方もある。

(ex) 「妹は、母の手伝いはしないで、代わりにテレビを見ていた」

(2)A. Ctherwise, B 「A。さもなければB」

④Aは条件。Bはそれに反した場合の結果。

(ex) 「しっかり勉強しなさい。さもないと、お父さんみたいになっちゃうわよ」
[前半の条件に反した場合の結果]

(3)A. In fact, B

=A. Indeed, B

=A. Actually, B

=A. As a matter of fact, B

①「Aだ。(ところが)実はBだ」 [A⇔B]

ⓂAとBは「逆[対照的]」な内容になる。

(ex)「彼は金には困っていないと言った。ところが実は借金まみれだった」

②「Aだ。それどころか実際Bだ」 [A=B(Aの程度を更に強める内容)]

ⓂBはAの程度をより強めた内容になる。

(ex)「彼女は気にしちやいないよ。それどころか実際、喜んでいるんだよ」

Ⓜ実際の英文では②の用法で用いられることが多い。

(4)A. Rather, B

①「Aだ。それどころかBだ」 [A=B(Aの程度を更に強める内容)]

=On the contrary

ⓂBはAの程度をより強めた内容になる

(ex)「彼を尊敬なんかしちやいない。それどころか軽蔑しているよ」

②「Aだ。むしろその代わりBだ」 [A⇔B]

=Instead

ⓂAとBは「逆[対照的]」の関係になる。

(ex)「自分のことばかり話すのは良くないよ。むしろその代わり人の話をよく聞くようにすべきだ」

③[A. Or rather B]「Aだ。もっと正確に言えばB」 [A=B]

=A. More correctly, B

④AとBは「イコール」の関係になる。

(ex)「僕は野球のことは詳しくない。もっと正確に言えば、ルールもろくに知らないんだ」

(5)結論を導く論理マーカー

①in conclusion 「結論として」

=as a conclusion

②in any case[event] 「いずれにせよ[しても]」

=at any rate

③to sum up 「要約すれば[すると]」

④これらの論理マーカーの後ろには、文字通り「結論」又は「主張の再提示」となる内容がくる。

演習問題14

①以下の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選択肢から選べ。

It's too late to go out now. , it's starting to rain.

- (1)All the same (2)At least (3)Besides (4)Therefore

②次の文章の (1) (2) に入れるのに最も適当な語句を、それぞれ下の選択肢からひとつずつ選べ。

The ancient Romans believed that the right side of the body was the good side, (1) the left side held evil spirits. Their word for "right" *dexter*, gave us *dexterous*, which means "skillful", whereas their word for "left", *sinister*, means "evil" or "wicked". This may have created negative attitudes toward left-handedness.

But today, left-handedness is becoming more and more acceptable in society, and is even considered advantageous in some sports. (2), left-handed people do not have to feel "left out" any more.

(1)

- (1)instead (2)otherwise (3)unless (4)while

(2)

- (1)Because of this (2)Beginning with this (3)Nonetheless (4)Unfortunately

③次の英文を読んで設問に答えよ。

Eating chocolate is often associated with negative health implications such as acne, weight gain or tooth decay. Recent investigations, however,

have proven that these myths are greatly overstated, and that in fact chocolate is rather good for one's health.

First, according to two studies (one done by the Pennsylvania School of Medicine and the other by the U. S. Naval Academy) , chocolate has no connection to acne. Other experts say that acne is not directly linked to diet.

Second, chocolate is not the cause of cavities or tooth decay. On the contrary, cocoa butter, which is an ingredient in chocolate, is actually good for the teeth because it coats them and prevents plaque from forming.

Last, of course, an overload of chocolate might cause weight gain, but so would any other food with a certain amount of sugar in it. Therefore, one cannot simply connect chocolate with weight gain.

Investigations by experts have helped us understand more about how the consumption of cocoa and chocolate affects our health.

One of the most striking findings was that cacao polyphenol, which is found in chocolate, can protect against cancer and other serious diseases. It also promotes resistance to stress and allergies such as hay fever. A survey done by Japan Food Research Laboratories showed that chocolate contains more polyphenols than either green tea or red wine.

An experiment done on rats by Professor Hiroshi Takeda of Tokyo Medical College showed that cacao polyphenols may act on humans to prevent stress or promote recovery from stress. In the experiment, rats were placed in a stressful environment and then fed with food including polyphenol. First, healthy rats were divided into two groups ; one group was raised using food with polyphenol and the other without polyphenol. After that, they were all shut in an environment in which none of them could move freely. Results showed that rats that were given polyphenol were less affected by the stress than those that weren't given polyphenol.

Further study indicated that when cacao polyphenol was given several times to rats that were under continuous stress, they were better able

to recover from the stress.

In still other studies, the distinct aroma of chocolate has been shown to have a beneficial effect on the brain, resulting in the appearance of alpha waves, which appear when the brain is relaxed.

One positive effect of chocolate undoubtedly lies in the sugar content, which is said to sharpen concentration. Glucose, a type of sugar, is the main source of energy for the brain. According to one study, a car-driving simulation to test the effect of glucose showed it improved the concentration levels of the drivers. A liquid including sugar was given to one group and one without sugar to another group. After people drank the liquid, they were made to drive. No difference was observed when they drove in low gear, but there was a distinct difference when driving in high gear. The group that drank the sugary liquid were better drivers.

Consequently, one of the researchers suggests that you should have chocolate as a regular part of your diet, taking into account the total calories consumed during the day.

設問 本文のタイトルとして最も適切なものを、ア.～エ.の中から一つ選びなさい。

- (1) Chocolate and Cancer (2) Chocolate and Eating Habits
(3) Chocolate and Health Benefits (4) Chocolate and Weight Gain

④次の英文を読んで、後の問いに答えよ。

Every day we hear about the problem of hunger in Africa. Many authorities cite causes, (1) drought and overpopulation. They (2) suggest solutions, such as food aid and population control.

It is true that such realities as drought and overpopulation worsen the problem of hunger in Africa. (3), these realities are not the real cause

of Africa's famine, the origin of which is poverty, and only by doing something about poverty itself can we solve the hunger problem in Africa.

I am not suggesting that we ignore the problem of drought and overpopulation. (4), I believe we should study them carefully in order to learn what lies behind them. Let us look, (5), at drought.

Insufficient rainfall is a problem for farmers all over the world. (6) it is only the truly poor who die from it. How, then, did Africans become so poor? In the past several hundred years, with the help of European colonizers, the best farm lands were taken and planted in cash crops for export, with profits going to a few of the wealthy. (7), there has not been enough food produced for the poor majority, and it is these already hungry people who are so affected by drought. (8) food aid treats symptoms, not causes, I suggest that the only longstanding solution to this problem lies, not in food aid, (9) in revising Africa's farming practices.

Now, let's look at the second problem authorities mention, (10), overpopulation. It is true that Africa's population growth rate is higher than that of any other continent. However, having many children is logical for African farmer, (11) need a lot of workers for the family farm and who know that one out of three of these children will die before adulthood. Studies from all over the world show that the best way to raise living standards is to lower birth rates, but it does not mean that lower birth rates produce higher living standards. Therefore, when African parents can be sure their children will survive and that they can earn a decent living, they will not need to have so many of them.

(12), I suggest that when we hear the words drought and overpopulation in connection with famine in Africa, we keep in mind the real enemy, namely poverty.

設問 空欄(1)～(12)に入れるのに最も適した語(句)をそれぞれ①～④から選べ。なお、
選択肢の単語は全て小文字にしてある。

- | | | | |
|----------------------|---------------|----------------|------------------|
| (1) ①either | ②consequently | ③likewise | ④such as |
| (2) ①also | ②but | ③for example | ④nevertheless |
| (3) ①and | ②finally | ③therefore | ④however |
| (4) ①then | ②at least | ③moreover | ④on the contrary |
| (5) ①such as | ②first | ③however | ④though |
| (6) ①even though | ②by the way | ③but | ④then |
| (7) ①on the contrary | ②consequently | ③second | ④at last |
| (8) ①this is because | ②this | ③however | ④since |
| (9) ①but | ②and | ③by the way | ④though |
| (10) ①that is | ②that of | ③about | ④for example |
| (11) ①they | ②who | ③that | ④which |
| (12) ①third | ②at last | ③in conclusion | ④then |

【解答&解説】

①

【解答】(3)

【解説】空欄の前の英文は「今は外出するには遅すぎる」。空欄の後ろの英文は「雨が降りだした」。空欄の後ろは、「遅すぎる」という外出しない方がいい根拠に対するつけ加え的な内容(更なる根拠)になっている。このような(論理)関係で前後を結びつけることができるのは(3)(Besides)しかない。意味は「おまけに」。

(1)(All the same)は「にもかかわらず」という意味で、前後を逆の(論理)関係で結びつける。

(ex) Her parents opposed it - all the same, she got married to Bob.

彼女の両親は反対した。それでも彼女はボブと結婚した

(2)(At least)は「少なくとも」という意味で、単独では論理マーカールとは言えない。but 等とセットで but at least という形で用いられることがあるが、その場合は(but at least ワンセットで)「逆接」の論理マーカールということになる。

(ex) This carpet was not good, but at least it was cheap.

このカーペットは良くはなかったが、とにかく安かった

②

【解答】(1)(4) (2)(1)

【解説】

(1)

まず選択肢を眺めると、(1)と(2)は副詞だけど(3)と(4)は接続詞だ。こんなふうには**選択肢の品詞が何種類かあった場合、入れるべき空欄の前後の「形」がまず第一のヒントになることが多い**。今回もそう。(1)の前後をよく見てみると、

S+V~, (1) S+V...

つまり(1)が2つの「S+V」を結びつけるような構造になっているのに気づ

くはず。こんな構造を導けるのは「接続詞」しかない。答えは(3)か(4)のどちらかだとわかる。

(3)S + V~, unless S + V…。 「…しない限り、～だ」

(4)S₁ + V~, while S₂ + V…。 「S₁は～だ。その一方、S₂は…だ」

どう見ても(1)の前後を結びつけるのにふさわしいのは(4)。while は、このように前後を「逆(対比的)」の関係で結びつける。

「古代ローマ人は体の右側は良い側で、その一方、左側は邪悪な精神を宿していると信じていた」

(2)

こちらは選択肢全て副詞句なので「形」ではなく、「論理」で答えを導く。ただ(2)(このことから始めて)は、ある特定の論理を導くというものではないので正解になる可能性は低いと最初に見切っている。(1)(このような理由)は、前後を「原因と結果」の関係で、(3)(それにもかかわらず)は前後を「逆[対比的)」の関係でそれぞれ結びつける論理マーカ―。(4)(あいにく、残念ながら)は、不本意な(残念な)内容がその後にはくるだろう。

次に(2)の前後の英文を読んでみる。

「しかし今日では、左利きは徐々に社会に受け入れられるようになってきている。そしてある種のスポーツにおいては有利であるとさえみなされている」

(2)

「左利きの人には"仲間外れにされている"という気分をもう味合わなくてもよくなっている」

どうみても両者の関係は「原因と結果」の関係だ。つまり答えは(1)になる。

【全訳】

古代ローマ人は体の右側は良い側で、その一方、左側は邪悪な精神を宿していると感じていた。古代ローマの「右」にあたる語 dexter から現代英語の dexterous ができており、これは"巧みな"を意味する。一方、彼らの「左」にあたる語 sinister は「邪悪な」や「悪意のある」を意味する。このせいで、左利きに対して否定的な態度が生まれたのかもしれない。

しかし今日では、左利きは徐々に社会に受け入れられるようになって来ている。そしてある種のスポーツにおいては有利であるとさえみなされている。このような理由で、左利きの人は"仲間外れにされている"という気分をもう味合わなくてもよくなっている

③

【解答】(3)

【解説】まず第一パラグラフ第二文に However という逆接語が含まれている。あるパラグラフ内で第二文に逆接語が含まれている場合、その第二文に Topic sentence があることが多い(〇〇ページを参照せよ)。

「しかしながら最近の調査によって、こういう俗説はかなり誇張されたものであり、実はチョコレートはむしろ健康によいということが証明されている」

これが第一パラグラフであるので、この文は本文全体を貫く トピックセンテンスとなっていると類推できる。とするとこの時点で正解は(3)とわかってしまう。

- (1)「チョコレートと癌」 (2)「チョコレートと食習慣」
(3)「チョコレートと健康効果」 (4)「チョコレートと体重増加」

一応その後の展開だが、第二～第四パラグラフが「第一に(First)」 「第二に(Second)」 「最後に(Last)」 という、具体例の列挙を示す語句で始まっているところから、これらはすべて、トピックセンテンスをサポートする具体例なのだろうとわかる。

第五パラグラフは、「ココアとチョコレートの消費と我々の健康への影響についてこのあとで述べますよ」と述べることにより、第六パラグラフ以降がその具体的影響の列挙となるであろうことを暗示させている。実際第六～題十パラグラフは、予想通り、ココア、チョコレートを摂取した場合の体への好影響の具体例となっている。

第六パラグラフ…カカオポリフェノールがガンやその他の重篤な病気を防ぐ可能性がある

第七パラグラフ…カカオポリフェノールがストレスを防いだりストレスからの回復を早めたりする

第八パラグラフ…ポリフェノールを与えると、ストレスからよりうまく回復できる

第九パラグラフ…チョコレート特有の芳香が脳にいい影響を与えアルファ波が出る

第十パラグラフ…チョコレートのプラス効果は糖分によるもので、糖は集中力を高める

最終段落の冒頭文が *Consequently*(それ故、結果として)という「主張の再提示」を示す論理語句になっている。

「このようなわけで、研究者のひとは、一日あたり消費する総カロリーを考えながら、毎日の食事の中にチョコレートを取り入れてはどうかと勧めている」

実際これは研究者の言葉を借りてはいるが、要するに「チョコレートは体にいい(から毎日食べよう)」と、第一パラグラフ内容を繰り返している。

【全訳】

チョコレートを食べることは、しばしばにきびや体重の増加や虫歯など、健康への悪影響を連想させる。しかしながら最近の調査によって、こういう俗説はかなり誇張されたものであり、実はチョコレートはむしろ健康によいということが証明されている。

まず第一に、2つの研究(1つはペンシルヴェニア医科大学によるもので、もう1つはアメリカ海軍兵学校によるものである)によると、チョコレートはにきびとは何の関係もないということだ。また別の専門家も、にきびは食べものとは直接関係がないと言っている。

次に、チョコレートは虫歯の原因ではない。それどころか、チョコレートの原材料であるココアバターは、歯をコーティングして歯垢ができるのを防いでくれるから、実は歯にはよいのだ。

最後に、チョコレートを食べすぎるともちろん体重は増えるであろうが、ある程度砂糖が含まれる食べものなら、どんな食べものでも同じことになるだろう。そういうわけで、チョコレートと体重の増加を単純に結びつけることはできないのである。

専門家の研究報告を見ると、ココアとチョコレートの消費が私たちの健康にどのような影響を及ぼしているかを、さらに知ることができる。

最も目覚ましい発見のひとつは、チョコレートに含まれるカカオポリフェノールがガンや

その他の重篤な病気を防ぐ可能性があるというものだ。また、ストレスや花粉症などアレルギー症状に対する抵抗力も高めてくれる。日本食品分析センターで行われた調査によって、チョコレートには緑茶や赤ワインよりも多くのポリフェノールが含まれていることがわかった。

東京医科大学の武田弘志教授によるネズミを使った実験では、カカオポリフェノールがストレスを防いだり、ストレスからの回復を早めたりと、人間に作用することがわかっている。実験では、ネズミはストレスの多い環境に置かれ、ポリフェノールを含むエサを与えられた。まず初めに健康なネズミが2つのグループに分けられて、一方のグループはポリフェノール入りのエサで飼育され、もう一方はポリフェノールが入っていないエサで飼育された。その後で、ネズミは全部自由に動くことができない環境の中に閉じこめられた。その結果、ポリフェノールを与えられたネズミは、与えられなかったネズミに比べてあまりストレスの影響を受けなかったことが証明されたのである。

さらに研究によって、ずっとストレスにさらされているネズミに何度かカカオポリフェノールを与えると、ストレスからよりうまく回復できることがわかった。

また別の研究でも、チョコレート特有の芳香が脳により影響を与え、その結果、脳がリラックスした時に発生するというアルファ波が出ることが明らかになっている。

チョコレートのプラス効果は、間違いなく糖分によるもので、糖は集中力を高めると言われる。糖の一つであるグルコースは脳の主要なエネルギー源だ。ある調査によると、グルコースの効果を試す運転実験をしたところ、グルコースによってドライバーの集中力が高まったという結果が出たそうだ。あるグループは砂糖入りのドリンクをもらい、またあるグループは砂糖の入っていないドリンクをもらった。そして、彼らはそれを飲んだ後で、運転しなければならなかった。低速で運転していたときには何の違いも見られなかったが、高速運転になると明らかな相違があった。砂糖入りドリンクを飲んだグループのほうが運転が上手だったのだ。

このようなわけで、研究者のひとり、一日あたり消費する総カロリーを考えながら、毎日の食事の中にチョコレートを取り入れてはどうかと勧めている。

④

【解答】 (1)④ (2)① (3)④ (4)④ (5)② (6)③ (7)② (8)④ (9)① (10)① (11)② (12)③

【解説】 この問題も、(11)以外は全て論理マーカ―についての知識を問う問題になっている。

(1)空欄直前の cause(原因)とはもちろん「アフリカの飢餓の原因」のこと。そして空欄直後に drought(干ばつ)、overpopulation(人口過剰)とある。ここから両者は「抽象的表現とその具体例」の関係になっていると見る。そんな関係で前後を結びつけられるのは such as(たとえば~のような)のみ。

(2)直前文の

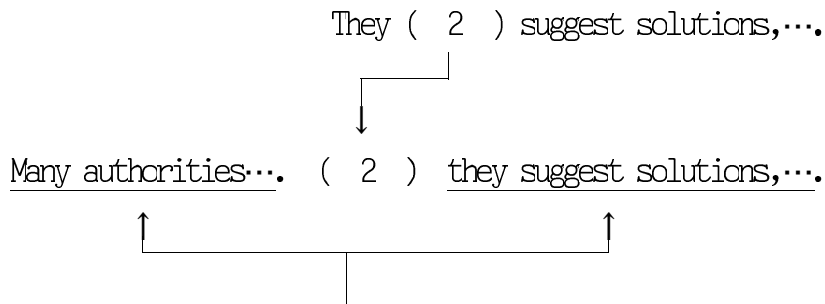
「関係機関の多くは、干ばつや人口過剰といった様々な原因を挙げている」

と直後の文である

「彼らは()食料援助や人口抑制のような解決策も提案している」

は、共に多くの関係機関のアフリカの飢餓問題に対する見解。つまり両者は並列関係にあると見る。そんな関係で前後を結びつけられるのは、also(もまた)のみ。

それから論理を考える上で注意したいのは、(2)のように、論理マーカ―が文中に(カンマなどではさまれて)挿入されてしまっている場合、必ず文頭に移動させて、その前の文と 論理マーカ―を含む文との論理を考えるようにすること。



両英文を結びつけうる論理を考えてみる!

(3)[It is] True [that]~+逆接の論理マーカ―+S+V... で「なるほど~がしかし…」となる(161ページを参照せよ)。

(4)④が正解になる理由は、「それどころか」という On the contrary は、直前の内容の程度を更に強めた文を導くこともあるんだ(「論理マーカ―」についてのページを参照せよ)。本問の空欄前後はまさにそのような内容になっている。

~ for African farmer, { () need a lot of workers for ~
 and
 who know that one out of three of these~

that も主格の関係代名詞になれるが、直前にカンマ(,)や前置詞がある場合には、基本的に使わないというルールがある。

(12)空欄直後には、そこまでの内容をまとめ、全体の結論を述べる内容がきている。そこから結論を提示する論理マーカが入ると判断する。①②④はいくつかの項目を順番に列挙する際に用いる論理マーカだ。

【全訳】

毎日我々はアフリカにおける飢餓の問題について耳にする。関係機関の多くは、干ばつや人口過剰といった様々な原因を挙げている。彼らはまた食料援助や人口抑制のような解決策も提案している。

なるほど干ばつや人口過剰のような現実がアフリカにおける飢餓の問題をより悪化させていることは確かである。しかしながら、これらの現実がアフリカの飢饉の本当の原因ではない。その根源は貧困なのである。そして貧困それ自体に対してなんらかのことで初めて我々はアフリカの飢餓の問題を解決することができるのである。

私は干ばつや人口過剰の問題を無視しようと言っているのではない。むしろそれどころか、それらの背後にあるものを知るために、それら(干ばつや人口過剰)について慎重に調査すべきだと私は思っている。

雨不足は世界中の農家にとっての問題である。しかし、それが原因で死ぬのは本当に貧困な者たちのみなのである。ならばなぜアフリカ人はそんなにも貧しくなったのだろうか？ 過去数百年間において、ヨーロッパの入植者達のせいで、農耕に最も適した土地は取り上げられ、輸出用の換金作物が植えられてしまい、そしてその利益は少数の裕福な者達の元へと行ってしまった。その結果として、大多数の貧しい者達のために生産される十分な食料がなかったのである。そして干ばつによってひどい影響を受けるのは既に飢餓状態にあるこれらの人々なのである。食料援助は原因ではなく、症状に対処するものであるので、唯一の長期的なこの問題に対する解決策は、食料援助にではなくアフリカの農業の慣習を変えることにあると私は提案するのである。

さて、それでは関係当局が口にする二番目の問題、即ち人口過剰の問題について見てみよう。なるほど、アフリカの人口増加率は他のいかなる大陸よりも高い。しかしながら、アフ

リカの農民にとってたくさんの子供を持つことは合理的なことなのである。というのは家族で営む農場ではたくさん労働者が必要であり、子供達の3人に1人は成人になるまでに死んでしまうことを彼らは知っているからなのである。世界中で行われた調査によって、生活水準を上げるための最善の方法は、出生率を下げることだというのはわかっている。しかしそれは、出生率の低下が高い生活水準を生み出すということを意味するものではない。それ故、アフリカの親達が、自分達の子供が生き延びることができると確信を持てたとき、そして自分達がちゃんとした稼ぎができると確信を持てたときに、彼らはそんなにたくさんの子供を持つ必要がなくなるだろう。

結論として、アフリカにおける飢餓に関連して干ばつや人口過剰という言葉が我々が耳にするとき、真の敵、即ち貧困というものを心に留めておくべきだと私は言いたいのだ。

論理マーカーについて、もっと演習を重ねたい人は、「山下りようとのホームページ」内の「頻出論理マーカーのまとめ」を読み込んで、更にこれについての理解を深めよう。

5.実際の長文総合問題の解き方の手順

1.基本的な手順。

長文総合問題を解く上で必ず実行してほしいのは、いきなり本文[問題文]を読み始めるのではなく、まず先に「注釈」や「設問」に目を通すことです。その理由は、それをするにより以下の3つのメリットが得られるからです。

- ①設問の種類がわかる。また(アクセント問題や単語・熟語問題などのような)本文を読まなくても正解が出せる設問がある場合には、先にそれを解いてしておく。
- ②本文[問題文]の(物語・エッセイ・評論文といった)種類、更に「テーマ」「展開」「登場人物」等についての予測が立てられる。
- ③設問の対応箇所を探すつもりで本文を読んでいくことができるので、本文中に設問との対応箇所が見つかった時点で解いてしまえる。つまり「読みながら解きながら」ができ、解答時間の短縮につながる。

そして設問に目を通す際にはキーワード(と思われる語句)に下線を引いておくといいでしよう。

設問が複雑、あるいは数が多い場合には、設問の要旨を余白にメモ書きするのもいい。下線を引いたキーワードが本文[問題文]中に(集中的に)現れ出したら、そこが設問との対応箇所である可能性が高いと判断できます。

キーワードとは、主要品詞、つまり「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」等。中でも最大のキーワードは「名詞」です。

それから選択肢(を読むか読まないか)については、以下が基準となります。

- ①短くて、しっかり目を通してもしさして時間がかからないと判断できる場合には読んでおく。
- ②内容が複雑な場合は、中身までこの時点で詳しく吟味せず、キーワードに下線を引くだけにとどめる。
- ③設問に目を通した段階で、選択肢を見なくても本文[問題文]中の対応箇所を見つけ出すのに十分な情報が手に入った場合は、(時間の無駄なので)あえて選択肢まで目を通

す必要はない。

そして設問の先読みからの本文[問題文]の「テーマ」の類推の仕方ですが、ピックアップしたキーワード同士を大きな枠でとらえ直した時に浮かび上がってくる共通した特徴や概念、あるいは連想されるものを考えてみるといいでしょう。それがその英文の「テーマ」である可能性が高いのです。

2.内容一致問題の解き方。

内容一致問題の解き方の手順は以下になります。

①選択肢はキーワードに下線を引くくらいにとどめる。

尙他の設問から本文の「テーマ」が予測できてしまった場合には、時間がなければこの時点で選択肢は全く目を通さなくてもいいくらい。

②本文[問題文]をある程度(たとえば2パラグラフとか、15行とか自分で決めておく)読んだところで、その時点の情報で解ける設問(あるいは消せる選択肢)がないか、選択肢をチェックしてみる。この「2パラ[10行・15行...]読んでは選択肢のチェック」を繰り返して解いていく。

③消去法で正解をあぶり出していく。

これは、内容一致問題以外でも言えること。本文[問題文]中に明確な正解の対応箇所が見つからない場合には、確実に不正解だと分かる選択肢から消していくやり方(つまり消去法)で正解をあぶり出していくといい。

④(これも内容一致問題以外でも言えることだが)、「最も」「唯一の」「必ず」「絶対」「決して～ない」等の語(要する程度があまりに著しい語)が使われている選択肢は×であることが多い。

(ex) absolutely「絶対に」 all/every 「すべての」 invariably「いつも」
only「唯一の」 few/little 「ほとんどない」 never「決してない」
without exception「例外なく」 (almost) always「(ほとんど)いつも」
necessarily/certainly/definitely「必ず」 without fail「間違いなく」

3.その他の設問の解き方。

空欄穴埋め問題、タイトル選択問題、指示語説明問題など、その他の設問についての考え方については、このあと(「実践演習」で)具体的に問題を解く中で説明をしていきます。

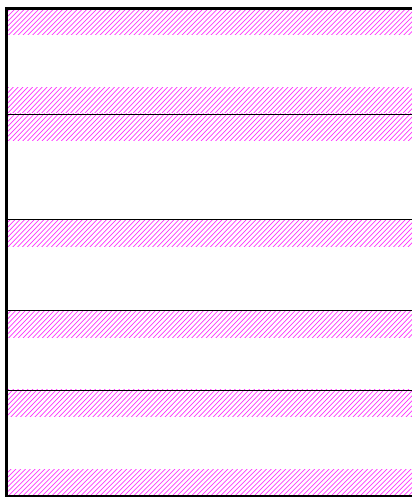
4.本文[問題文]を読み進めていく手順。

さて設問の先読みがすんだら、次に本文[問題文]を読み進めていくわけですが、その際の手順が以下になります。

(1)第一パラグラフと最終パラグラフだけは第一文[冒頭文]と最終文。それ以外のパラグラフは第一文[冒頭文]のみをまず読む。

④第一パラグラフと最終パラグラフについては、2～3行程程度の短い構成のものなら、この時点で(冒頭と最終文のみと言わず)全部読んでしまってもいい。

(2)大文字の逆接語を含む英文、I think[In my opinion...]のようなトピックセンテンスを暗示させるようなフレーズ(158ページを参照)を含む英文もあれば、そこも読んでおく。



- +
- ①大文字の逆接語を含む英文。
 - ②I think[In my opinion...]などのフレーズを含む文。

(3)ここまでをしたところで設問に目を通し、解ける設問、消せる選択肢がないかチェックする。具体的に言うと「テーマ[タイトル]選択問題」などはこれで解けてしまうこ

とが結構ある。(内容一致問題などの)それ以外の設問も、この段階で選択肢を限定できたり、場合によっては解けてしまうこともあったりする。

ただこの読み方は、全てのジャンルの英文に使えるわけではありません。評論文[論説文]では100%使えますが、小説[物語文]では使えません。

エッセイについては、パラグラフがあまりにも細かすぎるようなものには使えません(そうでない場合は使えることが多いですね)。

評論系長文問題の解き方の手順

1. まずざっと本文に目を通し、「全読み」「部分読み」どちらで対処すべき問題なのかをチェックする。

① 「全読み」タイプの英文とは以下の3種類。

① 数多くの設問が本文中に分散されており、全ての設問を解こうと思ったら、結局英文すべてに目を通さなければならないようなもの。

② パラグラフ(段落)があまりに細かく分かれすぎているような英文。

※パラグラフは一定のボリュームがあっても、設問とのからみ上、「全読み」が要求されるような問題もある。

③ 小説・物語。本文中に「人名」「セリフ」が多用されることが多い。

④ 会話長文。

2. 「部分読み」タイプの攻略の手順。

① 設問の読み解き方や本文の内容の類推の仕方などは「全読み」タイプにも適用可。

(1) 注釈をチェックする。

(2) 設問をチェックする。

① 目的

1. 設問の種類やタイプを探る。

2. 本文の種類(「評論文」「説明文」「エッセイ」「小説・物語」とテーマ

を探る。

- (1) 評論文[論説文]…「テーマ」「主張」「サポート(具体例・論拠)」を持つ文。選挙演説や(綱の)社説もこれにあたる。現代入試英文の約90%はこのタイプ。
- (2) 説明文……………「主張」がない。ある事物[現象・人物など]について淡々と(時系列などに沿って)説明をする文。
- (3) エッセイ…………… 個人的な体験[見聞したこと]について書きながら、それについての筆者の思いを語る文。
- (4) 小説・物語……………
- (5) その他(会話文など)

② キーワードのチェック

キーワードとは「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」といった主要品詞。中でも名詞は最大のキーワード。「名詞は嘘をつかない」という原則がある。名詞の中でも特に「数詞」と「固有名詞」は二重線を引いておく。

☞ 「数詞」「固有名詞」は、具体例に属する英文中に含まれることが多い。つまり段落中盤部(ボリュームゾーン)に現れることが多い。

③ 「テーマ」の探し方

1. 「テーマ」…抽象度が高い
「具体例」…抽象度が低い ☞裏を返せば「具体性が高い」。
2. チェックしたキーワードを頭の中で並べてみた場合(抽象度を上げてみる)に、それを包括する概念が見えたら、それが本文のテーマである可能性が高い。注釈をチェックする際にも、これをしてみるといい。
3. 大学受験で用いられる英文は、社会通念や世間一般の常識から逸脱するような「テーマ」のものはないと思ってい。

④ 各設問の解き方

1. 下線部和訳問題。
まずは下線部だけの情報で訳してみる。もしそれで訳せない場合は、下線部の前後を膨らませて補足情報を手に入れる。
2. 空欄穴埋め問題。

空欄穴埋め問題のタイプは以下の5種類。

- (a)単語・イディオム問題
- (b)文法・語法問題
- (c)「論理」がヒントになる問題
- (d)「形(構造)」がヒントになる問題
- (e)文脈問題

④(c)は、論理マーカ―が選択肢となる設問と、空欄前後の論理(マーカ―)をヒントに解くものの2タイプがある。

- (a)や(b)は、本文の内容に関係なく解けてしまうので、このタイプは本文に本格的取りかかる前に目を通し、解けるなら先に解いてしまうといい。
- (c)は「論理マーカ―」自体を問うものと、それをヒントとするものがある。

3.下線部説明問題

(a)下線部が指示語やそれを含む語句であった場合。

パラフレーズや(解答の)対応箇所は、下線部の前後にあることが大半。中でも下線部が it, this, that などの指示語だったり、the+名詞だったりしたら直前でそれを指すものを探せばいい。

④ただし this の後にコロン(:)があったときは、その this はコロンの後ろの内容を指していることもあるので注意。

(ex) I'll say this : he's completely honest.

このことは言うておこう。彼はまったく正直だ

④「その理由を書け」というような設問の場合、下線部の後ろに解答のカギがあることが多い(ただし、そうでないこともあるので注意は必要)。

④「それ[それら]」という意味の it[they]が文[節]の主語になっている場合、その it[they]は、直前の文[節]の主語を指していることが多い(ただし、そうでないこともあるので注意は必要)。

また this[these]、that[those]や、such (a) の付いた名詞は、直前の内容を抽象的に(一言で)言い換えたもの。したがって、その名詞の意味がわからなかったら[問われていたら]、直前の内容をその名詞に当てはめて[はめ込んで/代入して]、文全体の訳[解答]をまとめてしまえばいい。

會代入して(正しいかどうかを)確認する作業は必ず行うこと。

直 前でその名詞が指しているであろう内容をそこにはめ込んで意味を取る。

this[these] }
that[those] } + 名詞
such (a)

this[these]、that[those]、such (a) の付いた名詞は、(直前の内容を抽象的に言い換えた表現のために)抽象度の高い難語[表現]であることが多い。それだけにこの類推法を知っておくと、(語句の)知識だけで勝負しようとするライバルに勝つスキルとなりうる。

(b)下線部が単語やイディオムなどだった場合、以下の2つ可能性がある。

- (1)単純な知識問題 ☞このタイプは、本文を読む前に解けてしまう。
- (2)文脈・論理問題 ☞簡単な単語にあえて下線が引かれている場合、その語の「意外な意味」「その文脈での特殊[比喩的]な意味」が問われていることが多い。あるいは逆に(単語集にも載っていないような)難解な語に下線が引かれている場合は、文脈からその意味を類推させる設問だと見たらいい。

4.内容一致問題。

(a)選択肢は事前に読まない(読んだとしてもキーワードに下線を引くくらいにとどめる)。

(b)消去法で正解をあぶり出していく。

これは、内容一致問題以外でも言えること。本文[問題文]中に明確な正解の対応箇所が見つからない場合には、確実に不正解だと分かる選択肢から消していくやり方(つまり消去法)で正解をあぶり出していくといい。

(c)正解の選択肢と本文中の対応箇所は、内容的には一致するが、表現方法は必ず異なる。これを「同一内容異表現の原則」と言う。

(d)(これも内容一致問題以外でも言えることだが)、「最も」「唯一の」

「必ず」「絶対」「決してない」等の語(要する程度があまりに著しい語)が使われている選択肢は×であることが多い。これを「極論不一致の原則」と言う。

(ex) absolutely「絶対に」 all/every「すべての～」 invariably「いつも」
only「唯一の～」 few/little 「ほとんど～ない」 never「決して～ない」
without fail「間違いなく」 (almost) always「(ほとんど)いつも」 any「いかなる」
without exception「例外なく」 necessarily/certainly/definitely「必ず」

(e)(〇〇段落の内容に一致する選択肢を選べといった)ある段落限定の内容一致問題は、その段落の冒頭文と最終文を読むと、正解が得られることが多い。

5. タイトル選択型問題。

タイトル選択型問題の選択肢は、先に全部読んでおいた方がいい。なぜなら間違っている選択肢も、部分的に本文の内容を語ってくれている可能性が高いから。これは本文のテーマ予想に役立つ。

④タイトル選択問題以外の設問の選択肢の先読みに関するアドバイス。

(a) 選択肢が短い、又は読みやすい場合(日本語の場合も)読んでおく。

(b) 選択肢が長い、構造が複雑な場合には、キーワードに下線を引くだけに留める。

(c) 設問だけで対応箇所を探す十分な情報が手に入った場合には、読まない。

6. 要約問題。

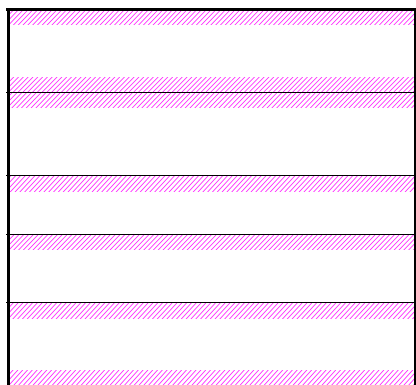
これについては、172ページを参照せよ。

(3) 本文[問題文]のまずここを読み。

- ① 第一パラグラフと最終パラグラフだけは第一文[冒頭文]と最終文。それ以外のパラグラフは第一文[冒頭文]のみをまず読む。
 1. 第一パラグラフと最終パラグラフについては、2～3行程度の短い構成のものならこの時点で(冒頭と最終文のみと言わず)全部読んでしまってもいい。
 2. 第一文が情報として不完全だったり、曖昧だった場合は、その前後を読んで不足している情報を補うのはかまわない。

- ② 大文字の逆接語を含む英文、「私は思う」系のフレーズ(I think[believe]..., In my opinion など)のような、トピックセンテンスを暗示させるようなフレー

ズを含む英文もあれば、そこも読んでおく。



- + ①大文字の逆接語を含む英文。
②I think[In my opinion…]
などのフレーズを含む英文。

罫冒頭文の後にすぐ設問が続いている場合には、(情報的に連続している可能性が高いので)その設問は解いてしまった方がいい。

- ③「Firstly(まず第一に), Secondly(第二に)…」といった論理マーカ―は、具体例[理由]を列記する際に用いる。こういったフレーズを含む箇所も、あらかじめ、(あくまでザックリ)読んでおくのはかまわない。
- ④本文[問題文]が長い場合には、部分読みの途中でも、いったん(部分読みを)止めて、そこまでの情報で解ける設問を探してみるのもいい。

(4)それ[部分読み]が終わったら。

- ①設問に目を通し、解ける設問、消せる選択肢がないかチェックする。

具体的に言うと「テーマ[タイトル]選択問題」などはこれで解けてしまうことが結構ある。(内容一致問題などの)それ以外の設問も、この段階で選択肢を限定できたり、場合によっては解けてしまうこともあったりする。

- ②解けない設問については、この時点でもう一度キーワードを(この時点では選択肢も含め)チェックし、本文中にそれを探し、対応箇所をあぶりだしていく。

- ③その結果、ある段落を全読みしなければならなくなった場合は、

- 1.基本は「読みながら解きながら」。つまり設問の対応箇所が見つかった時点で設問を解いてしまう。
- 2.その段落を「分割読み」し、分割した所まで一旦読みを止め、そこまでの情報で正解となる選択肢や消せる選択肢を探してみる。

のいずれかの手法で正解を導き出していく。

3. 「全読み」タイプの設問へのアプローチ。

(1)基本は「読みながら解きながら」。

本文を読んでいく中で、設問の対応箇所が見つかった時点で(その場で)解く。

つまり「読む」作業と、「解く」作業を同時進行で行っていく。

(2)「分割方式」で。

本文を複数分割し、その分割した箇所まで読んだところで、(一旦読みを止め)解ける設問、消せる選択肢がないかチェックをする。

演習問題15 以下の英文を読んで、設問に対する最も適当な答えを選択肢①～④から選べ。

If you're hoping to lose weight, it's okay to think about eating your favorite candy bar. In fact, go ahead and imagine devouring every last bite of your candy. A new study by researchers at Carnegie Mellon University (CMU) shows that when you imagine eating a certain food, it reduces your actual consumption of that food. This landmark discovery changes the popular assumption that thinking about something desirable increases desire for it and its consumption.

The CMU research team tested the effects of repeatedly imagining the consumption of a food on its actual consumption. They found that simply imagining the consumption of a food decreases one's appetite for it.

"These findings suggest that trying to control one's thoughts of desired foods in order to lessen desire for those foods is a fundamentally mistaken strategy," said Carey Morewedge, an assistant professor and lead author of this study. "Our studies found that instead, people who repeatedly imagined the consumption of a small piece of food such as an M&M (a small piece of chocolate candy) or cube of cheese subsequently consumed less of that food than did people who performed a different but similarly engaging task. We think these findings will help develop future methods to reduce desire for things such as unhealthy food, drugs and cigarettes, and hope they will help us learn how to help people make healthier food choices."

For the study, the research team ran a series of experiments that tested whether mentally stimulating the consumption of a food reduces its subsequent actual consumption. In the first experiment, participants imagined performing 33 repetitive actions, one at a time. A control group imagined inserting 33 coins into a laundry machine. Another group imagined inserting 30 coins into a laundry machine and then imagined eating 3 M&Ms, while a third group imagined inserting 3 coins into a laundry machine and then imagined eating 30 M&Ms. Next, all participants ate freely from a bowl filled with M&Ms. Participants who imagined eating 30 M&Ms actually ate significantly fewer M&Ms than did participants in the other two groups.

To ensure that the results were due to imagined consumption of M&Ms rather than the control task, the next experiment adjusted the experience imagined (inserting

coins or eating M&Ms) and the number of times it was imagined. Again, the participants who imagined eating 30 M&Ms subsequently consumed fewer M&Ms than did the participants in the other groups.

The experiments showed that the reduction in actual consumption following imagined consumption was due to habituation — a gradual reduction in motivation to eat more of a food. Specifically, the experiments demonstrated that only imagining the consumption of the food reduced actual consumption of the food. Merely thinking about the food repeatedly or imagining the consumption of a different food did not significantly influence the actual consumption of the food that participants were given.

"Habituation is one of the fundamental processes that determine how much of a food or a product we consume, when to stop consuming it, and when to switch to consuming another food or product," the researcher said. "Our findings show that habituation is not only governed by the sensory inputs of sight, smell, sound and touch, but also by how the consumption experience is mentally represented. To some extent, merely imagining an experience is a substitute for actual experience. The difference between imagining and experiencing may be smaller than previously assumed."

(Raube, Shilo. "Thought for Food." <http://www.cmu.edu/> 2010)

[1] According to the passage, if you want to lose weight,

- ① increase your intake of certain foods.
- ② think about eating less of your favorite food.
- ③ decrease your appetite for a certain food.
- ④ think about eating your favorite food.

[2] What was the common assumption in thinking about something desirable ?

- ① Thinking about something desirable decreases your desire for it.
- ② Thinking about something desirable makes you want more of it.
- ③ People who desire something strongly spend too much money on it.
- ④ People who desire something cannot lose weight.

[3] What did the **CMU** researchers find ?

- ① Avoiding thinking about food in order to reduce your appetite is a mistake.
- ② Eating as much of your favorite food as you can will decrease your desire for it.
- ③ Keeping a lot of delicious food around the house will make you want it more.
- ④ Repetitive eating is beneficial to ensure a healthy life.

[4] Carey Morewedge believes the research will

- ① prevent people from beginning smoking.
- ② teach people about the dangers of drugs.
- ③ develop healthier choices among food producers.
- ④ show the way to help people eat less harmful food.

[5] What two actions were imagined in the **CMU** study?

- ① Washing clothes and going shopping.
- ② Eating candy and putting money into a washing machine.
- ③ Losing money and eating **M&Ms**.
- ④ Doing laundry and eating freely from a bowl of **M&Ms**.

[6] Which of the following sentences is true?

- ① Imagining consumption of the food reduces consumption of that food.
- ② Thinking about food reduces consumption of the food.
- ③ Thinking about a different food reduces consumption of the food.
- ④ Imagining not eating any food reduces consumption of the food.

[7] In the study, habituation led to

- ① becoming full soon after eating the food.
- ② eating the same food every day.
- ③ a slow reduction in desire for food.
- ④ a dislike for a food because of the taste.

[8] The writer of the passage wants to emphasize

- ① the importance of sight, touch, smell and sound.
- ② the close connection between imagining and experiencing.
- ③ the effects of sweets on appetite.
- ④ the increase of food consumption.

(日本大学)

【解答&解説】

【解答】 [1]④ [2]② [3]① [4]④ [5]② [6]① [7]③ [8]②

【解説】

(1)設問から得られるヒント。

まず設問の意味は以下の通り。

- [1]「本文によると、減量したければ…」
- [2]「欲しいものについて考えるということに対する世間一般の思い込みは何だったか？」
- [3]「CMU(カーネギーメロン大学)の研究者が発見したことは何か？」
- [4]「ケアリー・モアウェジは、この調査は…だろうと信じている」
- [5]「CMU(カーネギーメロン大学)の調査で想像された2つの行動は何か？」
- [6]「次のそれぞれの文のうち正しいのはどれか？」
- [7]「調査によると、習慣作用は…をもたらす」
- [8]「この記事の筆者が強調したいのは…」

ここから少なくとも以下のことがわかる。

効果的な減量法について言及され、更に何らかの調査がカーネギーメロン大学で行われ、そこで何らかの発見があり、また habituation(習慣作用)の何らかの効果がわかった。

(2)パラグラフ冒頭文中心の先読み。

第一パラグラフ

冒頭文「痩せたいと思うなら、好きな棒キャンディーを食べているところを想像すればよい」

最終文「この画期的な発見は、欲しいもののことを考えるとそれをもっと欲しくなり、もっと食べたくなる、という世間一般の思い込みを変えることになる」

第二パラグラフ冒頭文

「カーネギーメロン大学の研究チームは、食べ物の摂取を何度も想像することが実際の飲食に及ぼす影響を調査した」

第三パラグラフ冒頭文

「これらの結果から、欲しい食べ物に対する欲求を低下させるために、その食べ物について考えることを制御してしまうのは根本的に間違った方法だとわかります」と、准教授で本調査の筆頭研究者であるケアリー・モアウェッジは言う」

第三パラグラフ内に We think を含む英文があるのでここも読んでおきます。

「これらの発見は今後、健康に悪い食べ物や麻薬、たばこなどに対する欲求を低下させる方法を考え出すのに役立つと思います」

第四パラグラフ冒頭文

「今回の調査のために、研究チームは一連の実験を行った」

第五パラグラフ冒頭文

「この結果が control task によるものではなく、エムアンドエムを食べるのを想像したことが原因であることを確認するために、次の実験では想像の内容（コインを入れることや、エムアンドエムを食べること）と、それを想像する回数が調整された」

第六パラグラフ冒頭文

「これらの実験によって明らかになったのは、食べ物の摂取の想像に続いて実際に食べる量が減るのは、習慣作用、すなわちある食べ物をもっと食べたいという気が漸進的に低下することによる、というものである」

第七パラグラフ

冒頭文「「習慣作用とは、我々がどの程度食べ物や商品を消費し、それをいつやめ、別の食べ物や商品の消費にいつ切り替えるかを決める基礎的なプロセスです」と研究員は言う」

最終文「想像と体験の差は、以前に考えられていたよりももっと小さいのかもしれない

ん」

(3)設問の解法。

まずこの時点で、第一パラグラフの情報から、[1]の正解は④(好きなものを食べることについて考える)、[2]の正解は②(欲しいもののことを考えるともっと欲しくなる)とわかってしまう。

そして第三パラグラフの情報から、[3]の正解は①(食欲を低下させるために食べ物について考えることを避けるのは間違いだ)、[4]の正解は④(人々が体に良くないものを食べるのを減らすのに役立つ方法を教える)とわかってしまう。

更に第一、第三、第六パラグラフの情報から、[6]の正解は①(ある食べ物を食べているところを想像すれば、その食べ物の摂取は減る)とわかってしまう。

また第六パラグラフの情報から[7]の正解は③(食べ物に対する欲求のゆるやかな減少)とわかってしまう。

また第七パラグラフの情報から、[8]の正解は②(想像と体験の密接な関係)とわかってしまう。

愈ちなみに③で使われている the effect of A on B は「AがBに対して与える影響」という意味。

どうでしょうか。この手順によって、本格的な本文[問題文]の読解を始める前の段階で[5]以外の全ての設問の正解が出てしまいました。あとは[5]の対応箇所となっているであろう第四パラグラフを読んで、その答えを出せばいいだけです。

愈つまり残った設問もピンポイントで対応箇所(パラグラフ)のみに目を通す作業をするだけで、他は読む必要はない。

そうすれば正解は②(キャンディーを食べることと洗濯機にコインを入れること)とわかります。

【全訳】

痩せたいと思うなら、好きな棒キャンディーを食べているところを想像すればよい。むしろ、キャンディーを最後の一口までむさぼり食べているところまで想像しよう。カーネギーメロン大学の研究者達による新たな研究では、ある食べ物を食べているところを想像すると、その食べ物の実際の摂取量が減るといふ。この画期的な発見は、欲しいもののことを考え

るとそれをもっと欲しくなり、もっと食べたくなる、という世間一般の思い込みを変えることになる。

カーネギーメロン大学の研究チームは、食べ物の摂取を何度も想像することが実際の飲食に及ぼす影響を調査した。チームは、ある食べ物の摂取を単に想像することでも、それに対する食欲が低下することを発見したのだった。

「これらの結果から、欲しい食べ物に対する欲求を低下させるために、その食べ物について考えることを制御してしまうのは根本的に間違った方法だとわかります」と、准教授で本調査の筆頭研究者であるケアリー・モアウェッジは言う。「逆にエムアンドエム（小さいチョコレートキャンディー）や固形チーズといった小型の食べ物を食べるのを何度も思い浮かべた人の方が、また別の同じように楽しいことをやった人よりも食べる量があとで減ったことが、我々の調査でわかりました。これらの発見は今後、健康に悪い食べ物や麻薬、たばこなどに対する欲求を低下させる方法を考え出すのに役立つと思います。また皆さんが健康によりよい食べ物をどう選ぶのかについて我々が知るのにも役立つでしょう」

今回の調査のために、研究チームは一連の実験を行った。その実験とは、食べ物の摂取を精神的に刺激すれば、あとで実際にそれを食べる量が減るか否かを調べる、というものである。最初の実験では、参加者は一度に1つ、合計33回繰り返し行う動作を思い浮かべた。対照グループは、33枚のコインを洗濯機に入れる動作を思い浮かべた。別のグループは、30枚のコインを洗濯機に入れてエムアンドエムを3個食べる動作を、対して第3のグループは、3枚のコインを洗濯機に入れ、エムアンドエムを30個食べる動作を思い浮かべた。次に、参加者全員は、エムアンドエムが満杯入ったボウルから好きなだけ食べた。エムアンドエムを30個食べる動作を思い浮かべたグループは、他の2つのグループよりも実際に食べる量が明らかに少なかった。

この結果が対照課題(=コインを洗濯機に入れること)によるものではなく、エムアンドエムを食べるのを想像したことが原因であることを確認するために、次の実験では想像の内容(コインを入れることや、エムアンドエムを食べること)と、それを想像する回数を調整した。やはり、30個のエムアンドエムを食べている姿を思い浮かべた参加者たちが、あとでそれを食べる量が他のグループの参加者よりも少ないという結果が出た。

これらの実験によって明らかになったのは、食べ物の摂取の想像に続いて実際に食べる量が減るのは、習慣作用、すなわち、ある食べ物をもっと食べたいという気が漸進的に低下することによる、というものである。明確に言うと、ある食べ物の摂取を想像するだけで実際にそれを食べる量が減るということがこれらの実験で証明されたのである。単にその食べ物

のことを何度も考えたり別の食べ物を食べているところを想像したりするだけでは、参加者が与えられたものを実際に食べる量はさほど影響を受けなかった。

「習慣作用とは、我々がどの程度食べ物や商品を消費し、それをいつやめ、別の食べ物や商品の消費にいつ切り替えるかを決める基礎的なプロセスです」と研究員は言う。「習慣作用は、見る、嗅ぐ、聞く、触れるといった知覚による感覚的情報によって支配されるだけでなく、あるものを消費する体験を心の内にいかに思い描くかによっても決まるということが、我々の調査結果からわかります。ある程度ではありますが、単に想像するだけでも実際に食べることの代わりにはなりません。想像と体験の差は、以前に考えられていたよりもっと小さいのかもしれない」

第三章

読解で役立つその他のルール

「『その他のルール』とはいえ、これらをマスターすれば未知の単語の意味の類推力・読解力・英文和訳力に更に磨きがかかること請け合いです。キラリと光る上手い和訳の作り方を、13項目に渡って紹介していきます。

1.品詞編

1. 「一般の人」を表す one, we, you, they の対処法。

「一般の人」を表す one, we, you が文中に現れた場合の対処法は2通りあります。

①「我々・私達」「人」「自ら・自分」などと訳す。

(ex) One must do one's duty. 人は自らの義務を果たさなければならない

We are not bad in nature. 人は生まれつき悪人なのではない

②訳さない。

(ex) Unless you cultivate your land, you can't get good crops.

土地を耕さなければ、よい作物は得られない

It is easy to lose one's way in the city. 都会では道に迷いやすい

実際の英文の訳出ではどちらが多いかというと、「訳さない」方がすっきりとしたい訳になることが多いのです。

なお、噂とか限定された地域に用いられる they は、どんな場合でも訳出しません。

(ex) They say that Jenny will marry. ジェニーは結婚するといううわさだ

What language do they speak in Canada? カナダでは何語を話すのですか

They grow wheat in this part of the country. この地方では小麦を作ります

また they は「(店・事務所・学校などの特に明示されない)関係者(たち)」の意味で用いられることがありますが、この場合も普通訳出しません。

(ex) They sell good shirts at that store. あの店ではよいシャツを売っている

ときに「世間(の人々)」「当局」という意味で訳出することもあります。

(ex) Whatever they say, I'll finish it.

世間の人になんと言おうと、私はそれをやりとげます

The newspaper says they arrested the politician last night.

新聞によれば当局はその政治家を昨夜逮捕したそうだ

2.文修飾の副詞のうまい対処法。

下の英文、一見訳しづらいですね。その原因は obviously(明らかに)、reasonably(理にかなって)という副詞です。

① Obviously, he was one of the people who formed[企てる] the conspiracy[陰謀].

② Jim reasonably refused their offer.

このように、文頭で主節とはカンマで区切られた副詞 (①) や、修飾している語句が一見よくわからないような副詞 (②) は、文全体にかかっているのではないかと判断するのです。そして、これらの副詞のうまい訳出法は、それを形容詞化し文全体を仮主語構文にしてしまうことです。上例の英文も、以下のように書き換えると訳しやすくなります。

① → It was obvious that he was one of the people who formed the~.
(形)

② → It was reasonable that Jim refused their offer.
(形)

このように書き換えれば①は「彼がその陰謀を企てた人たちのうちの一人だということとは明らかだった」、②は「ジムが彼らの申し出を断ったのも無理はない(もっともだ)」となり、先程より格段に日本語にしやすく、またらしくなりますね。

他にもいくつか例をあげておきましょう。

(ex) Dick was naturally dismissed.

→ It was natural that Dick was dismissed. 彼が解雇されたのは当然だ

You are evidently in the wrong.

→ It is evident that you are wrong. 君が間違っているのは明白だ

Luckily, they got here on time.

→ It was lucky that they got here on time.

彼らが時間通り着いたのは運がよかった

3.名詞にかかる形容詞をうまく訳せないときの対処法。

(1)主語と述語の関係で言い換える。

以下の英文、直訳ではなかなかうまい日本語になりません。

(ex) There is a growing awareness that we should do something about global warming.

問題は「growing awareness」。「成長している意識」「高まっている意識」では日本語になりません。このような和訳しづらい「形容詞[分詞]+名詞」をうまく処理するテクニックは、「形容詞[分詞]+名詞」の部分を(be動詞を加えて)「主語と述語」の形で書き直してしまうことです。たとえば、The kind girl(親切な女子)は The girl is kind.(その女子は親切だ)と書き換えられます。

The kind girl ⇨ The girl is kind.
(形) (名) (主) (述)

同じ要領で上の問題文も

An awareness [that we should do something about global warming] is growing.
(主) ↑ (述)

と書き直せば「地球温暖化に対して何かすべきだという意識が高まって(きて)いる」とカンタンに訳せてしまいます。

(2)品詞を転換させる。

簡単な例を1つあげてみましょう

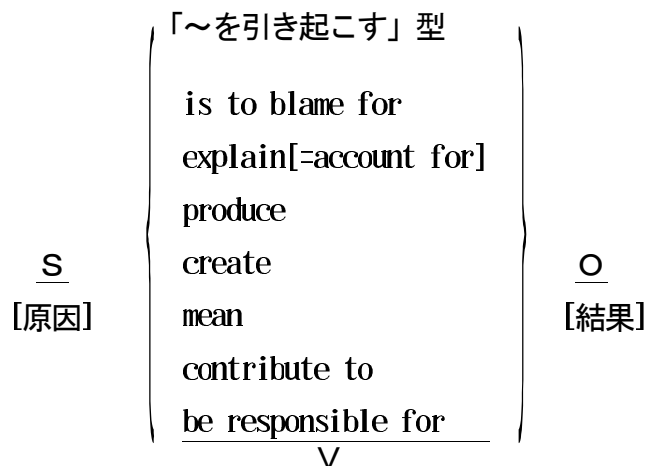
(ex) the whole story

「全ての話」では意味がよく分かりません。この場合、名詞の story の方を形容詞的に、形容詞の whole の方を名詞的に訳してみるといいのです。すると「話の全て(一部始終)」とうまく訳せます。

4. 「S=原因」「O=結果」の関係になる動詞達。

「～を引き起こす」型の動詞、(主語が「物・事」だった場合の)explain, account for [～について説明する]や contribute to[～に寄与する], produce, create, mean[意味する], be responsible for[～に対して責任がある], is to blame for等は、「S=原因」「O=結果」という意味関係になることが多く、「Sが原因となって結果としてOが生じる」と訳せることが多いのです。

會「～を引き起こす」型の動詞には bring about, cause, lead to, give rise to, result in 等がある。



上であげた動詞を用いた例をいくつか紹介しておきましょう。すべてSとOは「原因と結果」の意味関係になっているのがわかるはずです。

(ex) The typhoon caused a lot of damage to the area.

その台風はその地域に多大な損害をもたらした
[原因]
[結果]

Too much work often leads to illness.

働き過ぎはしばしば病気をもちます
[原因]
[結果]

To eat too much will result in a weight problem.

食べ過ぎは肥満の問題をもたらす
〔原因〕 〔結果〕

That explains his absence. 彼が欠席した訳はそれでわかった
〔結果〕 〔原因〕

His personality explains much of his failure.

彼の失敗の大部分は性格を見れば分かる
〔結果〕 〔原因〕

Too much salt can contribute to high blood pressure.

塩分の摂りすぎは高血圧をひき起すことがある
〔原因〕 〔結果〕

Those clouds mean rain. あの雲だと雨になる
〔原因〕 〔結果〕

會ただし、mean の場合「S=O」の意味関係になることもある。

(ex) The Japanese word 'inu' means 'dog' in English.

日本語の「犬」は英語では dog の意味である

上の英文では確かに「犬 = dog」の関係になっている。

That landslide produced a lot of misery.

あの地すべり事故は多くの不幸を生んだ
〔原因〕 〔結果〕

The plans created economic chaos. その計画は経済的混乱を生み出した
〔原因〕 〔結果〕

「原因と結果」の関係になる他の構文に A is to blame for B (AはBに対して責任がある)があります。「A=原因」「B=結果」の関係になります。

(ex) Who is to blame for this blunder? 誰がこの失態に対して責任があるのか
〔原因〕 〔結果〕

5.depend on[upon] A / be dependent on[upon] A のうまい訳出法。

depend on[upon] A / be dependent on[upon] A を「Aに依存している[頼っている]」と訳すことについては知っている受験生も多いのですが、それだけでは長文ではうまい日本語にならないことが多いのです。つまり以下のような訳し方をすべき depend on, be dependent on があります。

「Aに左右される」

「Aにかかっている」

「Aによる」

「Aで決まる」

「A次第だ」

(ex) I think it depends on the weather[天候]. それは天気次第だと思おう

Price depends on supply[供給] and demand[需要].

価格は需要と供給に左右される

Success in the exam[試験] depends on how hard you study.

試験での成功は君がどれくらい一生懸命勉強するかにかかっている

文章によって訳し方を使い分けると、よりこなれた日本語訳を作ることができるようになります。

更に depend on の応用形として以下のような語法もおさえておきたいですね。

①depend on A to do[原形]～:Aが～するのをあてにする

(ex) I depend on you to be punctual.

ボクは君が時間を守ってくれると当てにしている

②depend on it that S+V～:～することをあてにする ☞ itは仮目的語。thatが真目的語。

(ex) Tim depends on it that I will do what I promised.

=Tim depends on me to do what I promised.

ティムは私が約束したことをすると当てにしている

③depend on A for B: BのことでAに頼る[をあてにする]

(ex) We depend on the Internet for information about the development of the affair.

我々は事件の進展に関する情報をインターネットに頼っている

④That (all) depends.:それは情況次第さ、時と場合によるね ☞ on circumstancesが =It all depends. dependsの後に省略されている。 =Depends.

6.this[these], such (a) のついた名詞について。

下の英文を訳せますか。

Ted canceled his wife's purchase without telling her. This recklessness was the cause of their quarrel.

たった1つだけ難解な単語が含まれています。それは recklessness 。しかしこの単語、たとえその意味を知らなくても、直前についた this を手がかりに読み解くことが可能なのです。それは this[these], that[those], such (a) がついた名詞は、直前の内容を一言で(抽象的に)言い換えたものだからです。その名詞の意味がわからなかったら、直前の内容をその名詞に当てはめて(はめこんで)文全体の訳をまとめてしまえばいいのです。

直前でその名詞が指しているであろう内容をそこにはめ込んで意味を取る。



たとえば上の英文も、recklessness 部分に直前の内容を当てはめてしまえばいい。つまり「テッドが無断で奥さんの買い物をキャンセルしてしまったことが夫婦喧嘩の原因だった」と訳せば、recklessness を「無茶、無謀」という意味だとわからなくても問題なく訳せてしまいます。もう一例みてみましょう。

It has been said in Japan that hard work always brings the best results.
Yet, in today's high-tech society, this premise does not always hold true.

この英文の this のついた premise(前提) は確かに難解な単語ですが、this がついて
いるので、直前の内容をそこに当てはめて訳をまとめてしまえばいい。すると「勤勉(一
生懸命働くこと)が常に最善の結果をもたらしてくれるということが必ずしもあてはまら
ない」と、なんとなってしまう。ちなみに hold true は「あてはまる」という熟
語ですが、この英文がSVCなので hold を be動詞で置き換えてしまえばいい。つまり
~is not always true(常に正しいというわけではない)と読み解けばいいのです

☞LESSON BOOK REVIEW Rule-21 を参照せよ。

なお問題文全体の訳は「日本では勤勉[一生懸命働くこと]が常に最善の結果をもたら
してくれると言われてきた。しかし、今日のハイテク社会ではこの前提が必ずしも成り立
つとは限らない」。

2.構文編

1.比較で大切なこと。

(1)省かれた部分を補って訳す。

原級比較や比較級において than 以下、(so[as] ~as の後半の)as 以下が省かれてしまっていることがあります。理由は、(それについては既に述べられていたり、また社会的常識であるという理由で)分かりきっているからなのですが、和訳の際には、その省かれている than 以下、 as 以下がなんなのかを(たとえ実際には和訳に出さなくても)意識して訳すことが大切です。

(ex) My grandfather is much better this morning.

上の英文の場合、「祖父は今朝は、ずっと具合が良くなりました」と訳せます。この内容から「昨日[昨夜]よりも(than yesterday[last night])」あたりが省かれているのではないかと類推するのです。

特に否定の原級比較・比較級で as以下、 than以下が省かれた場合の対処法については LESSON BOOK REVIEW Rule-54 を参照してください。

(2)強調の as~as。

「as[so] ~ as A」の「A」の部分に「時」「数」「量」「程度」などを表す語句があった場合、as[so]~as は、「同じくらい」という意味ではなく、その「時」「数」「量」「程度」がいかにか「多い(少ない)」「早い(遅い)」「はなはだしい」のかを強調する意味で使われていることが多いのです。いくつかその例をあげてみましょう。

①as[so] early as A[時・時代等]:早くもAには

(ex) The scientist discovered it as early as the 15th century.

その科学者は早くも15世紀にそれを発見していた

②as[so] late as A[時・時代等]:Aになってもまだ

(ex) The custom remained[残っていた] until as late as the 19th century.

その習慣は19世紀になってもまだ残っていた

③as[so] recently as A[時・時代]:ついAのことだ

(ex) The earthquake in Mexico happened as recently as last year.

メキシコでその地震が起きたのはつい去年のことだ

④as[so] many[much] as A[数・量・金額]:Aほどもたくさん

(ex) He has as many as 1,000 comic books.

彼はコミック本を1,000冊も持っている

He has as much as 1,000 dollars in his wallet[財布].

彼は財布の中に1,000ドルも持っている

(3)than に関する注意事項。

than の後の倒置や代動詞に注意しましょう。

①than や as の後の倒置。

Sが長すぎる場合(あるいは比較の対象を明確にしようして)に、以下のようにSとVがひっくりかえる倒置が起きることがあります。

(a)~er than V+S

(b)as ~ as V+S

②比較構文等に用いられる代動詞の種類と選び方。

(a)as/than 以下にhave[has,had]があったら

☞ そのhave[has,had]は、(as/thanの)左側の完了形(を含む節)の代わりと判断。

(b)as/than 以下にbe動詞[am, is, are, was, were]があったら

☞ そのbe動詞は、(as/thanの)左側のbe動詞(を含む節)の代わりと判断。

(c)as/than 以下にdo[does, did]があったら

☞ そのdo[does, did]は、(as/thanの)左側のその他すべての動詞(を含む節)の代わりと判断。

(ex) He loves her more than does his big brother. ☞ doesは直前のlove (her)の代用と見る。

→ than his big brother loves (her)

(4)関係代名詞的に用いられる than(先行詞に比較級がついている場合に用いられる)。

関係代名詞として使われているかどうかの見極めはカンタンで、than の後ろに「S(主語)」「O(目的語)」「C(補語)」のどれか一つが欠けた、いわゆる「不完全な文」が続いていたら、その than は関係代名詞。関係代名詞だとわかれば、比較級が前についている名詞(つまり先行詞)に than以下をかけて訳したらいいでしょう。和訳は否定的な訳し方がピッタリはまることが多いですね。

(ex) Bill eats more food than is good for him.



ビルは自分にとって健康に良い以上にたくさん食べる

⇒ ビルは体によくないほどたくさん食べる

☞ thanはmore foodという名詞を先行詞にとる主格の関係代名詞と見ることができる。

The universe is made of more stars than anybody can count.



宇宙は誰もが数えられるよりもっと多くの星々からできている

⇒ 宇宙は数えきれないほど多くの星からできている

☞ thanはmore stars(それ以上に多くの星)を先行詞にとる、目的格の関係代名詞と見ることができる。

(5)than を用いたセット表現。

- ①than usual :いつもより
- ②than A used to :昔(のA)より、ほど
- ③than A (really) is :実際(のA)より、ほど
- ④than A looks :見た目より、ほど
- ⑤other than A :A以外の

(ex) You can marry any person other than Romeo.

ロミオ以外のどんな男とでも結婚していい

2.形式目的語[仮目的語]構文。

目的語が長すぎるような場合に、本来目的語を置く位置に、仮の目的語(仮目的語、又は形式目的語)、it を置いて、本当の目的語(真目的語)を節の後半に持ってくるという、いわゆる形式目的語[仮目的語]構文というものがあります。その3大代表選手が以下の3つです。

① 「consider[think] O(名) C(形・分・名):OはCだと思う(みなす)」

⇒ consider[think] it $\underbrace{\text{(形・分・名)}}_C$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \\ \text{doing} \sim \\ \text{that節等} \end{array} \right. \sim\text{するのはCだと思う(みなす)}$

(ex) The politician considered it rude to say such a thing in public.

その政治家は、そんなことを人前で言うのは失礼だと思った

② 「make O(名) C(形・分・名):OをCにする」

⇒ make it $\underbrace{\text{(形・分・名)}}_C$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \\ \text{doing} \sim \\ \text{that節等} \end{array} \right. \sim\text{するのをCにする}$
Ⓢmakeの場合、Cに入る分詞は、過去分詞のみ。

(ex) The computer system will make it easier to do our business.

そのコンピュータシステムのおかげで業務がより容易になるだろう

③ 「find O(名) C(形・分・名):OはCだと思う(分かる)」

⇒ find it $\underbrace{\text{(形・分・名)}}_C$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \\ \text{doing} \sim \\ \text{that節等} \end{array} \right. \sim\text{するのをCだと思う(分かる)}$

(ex) We found it very hard going back to our basecamp in the storm.

その嵐の中をベースキャンプに戻るのは大変苦労だった

更にこの形式目的語構文には慣用的なものもあり、それらは文法・作文問題で頻出です。

以下のものはしっかり覚えましょう。

Ⓢ特に(1)~(4)は頻出。

(1)see [to it] that S+V～:～するよう取り計らう、気をつける

(ex) I'll see to it that there is no such mistake again.

私はそんなまちがいが二度と起こらないように気をつけよう

(2)take it for granted that S+V～:～するのを当然とみなす

(ex) I took it for granted that my close friend would agree.

私は親友が同意するのは当たり前だと思った

(3)make it a rule[habit] to do[願]～:～するのを習慣にする

(ex) I make it a rule to go for a walk before breakfast.

私は朝食前に散歩することになっている

(4)owe it to A that S+V～:～する(した)のはAのおかげだ

owe it to A to do[願]～ :Aに対して～する義務を負っている

(ex) You owe it to your friends that you have been able to redeem your honor.

君が名誉を回復できたのは友人たちのおかげです

We owe it to society to make our country a better place.

我々は社会に対してこの国をよりよい所にする義務がある

(5)have it that S+V～:～だと言う

(ex) Rumor has it that she was an actress when young.

うわさでは彼女は若いころ女優だったそうだ

(6)depend on it that S+V～:～するということを当てにする

(ex) You should not depend on it that your parents offer financial aid.

君は両親が財政的な援助をしてくれるのを当てにすべきでない

(7)take it that S+V～:～だと思う

(ex) I take it that she is the criminal. 私は彼女が犯人だと思う

會これらは、目的語が長すぎるからというよりは、直接後ろに節等を目的語をとることができないので、仮の目的語 it を立てて、その後に本当の目的語を置いたというものが多い。

3.否定の落とし穴。

(1)否定語を含まない否定表現に注意。

以下は、どこにも否定語(not, never等)がついていないので、知らないと意味をとりまちがえてしまいかねません。頻出の表現ばかりなのでしっかり覚えましょう。

①anything but ～:全く～ない

(ex) The man was anything but a gentleman.

その男は全く紳士なんかではなかった

②far from ～:全く～ない

(ex) She is far from (being) satisfied with the result.

彼女はその結果には全く満足していない

③free from ～:～がない

(ex) The plan is free from danger. その計画には全く危険がない

《「far from A:全くAではない」と「free from A:Aがない」の見分け方》

1.far from A は「Aから遠い」という意味から転じて「Aからはほど遠い → 全くAではない」という否定の意味を表す。far from の後には「名詞(の仲間)」以外に「形容詞[分詞]」もこれる。

(ex) He is far from (being) happy.彼は全く幸せではない

2.free from の後には「嫌なもの、あってほしくないもの」(具体的には「不安・苦痛・心配など」)を表す名詞が入る。

(ex) Her composition is free from mistakes.

彼女の作文には間違いがない

上の英文の from の後ろの mistake だが、確かに composition(作文)にとって mistake(間違い)は「あってほしくないもの」だ。

④the last (person/thing等) to do[彫]~/関係詞節~:決して~ない

(ex) James is the last man to betray you.

ジェームズは決して君を裏切りはしない

Tom was the last person (that) I expected to see there.

そこでトムに会うなんて全く予想外だった

⑤fail to do[彫]~:1.~しない 2.~できない

(ex) She failed to appear. 彼女は現われなかった

=She didn't appear.

I fail to see the reason. その理由が僕には分からない

=I cannot see[=understand] the reason.

⑥beyond ~:~を超越している

above ~

(ex) What he did is beyond[=above] my understanding.

=more than I can understand

彼のしたことは私の理解を超越している[越えている]

⇨ 彼のやったことは理解できない

She is above[=beyond] telling a lie.

=She never tells a lie.

彼女は嘘をつくような次元を超越している

⇒ 彼女は決して嘘をつくような人ではない

④ beyond[above]～の元々の意味は「～を超越している」。そこから「～の力が及ばない」、「(非難・賞賛等)を超越している」という意味が出てきた。more than S+V～で書き換えられる。

(ex) beyond belief 信じられない

beyond possibility ありえない

beyond doubt 疑いもない、確実だ

beyond description 言葉にできない、筆舌にしがたい

beyond comparison 比較できない(ほどいい)

beyond (all) hope 絶望的で

⑦ know better than to do[原形]～:～するほどバカではない

(ex) I know better than to drink and drive.

俺は飲酒運転をするほど馬鹿じゃないよ

⑧ remain to do[原形]～:いまだ～していない

=be[have] yet to do[原形]～

(ex) Most of the task is completed, but a few things remain to be done.

その仕事はほとんど完成したが、まだ2、3しなければならないことがある

He is[has] yet to hear the truth. 彼はまだ真実を聞いていない

(2) 修辞疑問に注意。

形は疑問文なのに、内容は疑問文ではないという英文があります。これを修辞疑問と言います。漢文でいうところの'反語表現'のことです。

(ex) 「やつが負けるなんてことがあるだろうか(いやない)」

上記の日本語も、形は(肯定の)疑問文ですが、意味的には否定文です。英語にもこのような表現があります。

(ex) Who knows what will become of the world?

この世界がどうなるかなんて誰が知っていようか(いや誰も知らない)

この英文は以下のような否定文で書き換えられます。

=No one knows what will become of the world.

修辞疑問については、例文をたくさん見ることのできるのが一番。そこで以下に修辞疑問の例をあげてました。

(ex) What is the use of asking him for help?

彼に助けを求めて何の役に立つだろうか(いや何の役にも立ちたくない)

→ 彼に助けを求めても無駄だ

=It is no use[good] asking him for help.

How can I ever thank you?

どうしたらあなたに感謝の気持ちを表せるだろう(いやできない)

→ お礼の申し上げようもありません

=I don't know how to thank you.

=I cannot thank you enough.

Who would believe such gossip?

誰がそんなゴシップを信じるだろうか(いや誰も信じない)

=No one would believe such gossip.

Can we ever forget his devotion?

彼の献身的行為を忘れることができようか(いやできない)

=We can never forget his devotion.

Does it matter?

それは重要だろうか(いや重要ではない)

→ そんなことかまうもんか

=It doesn't matter.

ただ、単なる疑問文という場合もありえます。これは、先程の「やつが負けるなんてことがあるだろうか」という日本文もそうですね。単なる疑問文なのか修辞疑問なのかは前後の文脈次第となります。

(3)二重否定の構文に注意。

数学で「マイナス×マイナス＝プラス」になるように、英語でも二重の否定は、(強い)肯定になります。代表的な二重否定の構文を以下にあげてみました。

①never[can't] do[願]～ without doing… : 「～すれば必ず…する」

(ex) They never meet without quarreling.

彼らは会えばいつも喧嘩する

=They can't meet without quarreling.

=Whenever they meet, they quarrel.

②never fail to do[願]～ : 「必ず～する」[習慣的行為]

hardly[scarcely] fail to do[願]～ : 「必ずと言っていいほど～する」

(ex) He never fails to go for a walk before breakfast.

彼は必ず朝食前に散歩する

③don't fail to do[願]～: 「必ず～する」[一回限りの行為]

(ex) Don't fail to post this letter on your way to school.

学校に行くときに、必ずこの手紙をポストに入れてくれ

=Be sure to post this letter on your way to school.

=Don't forget to post this letter on your way to school.

=Remember to post this letter on your way to school.

(4)部分否定に注意。

部分否定とは「～というわけではない」と訳すもののことですが、どういう場合にこれが起きるかということがわかっているならば、部分否定の表現をすべて暗記する必要はありません。では、それはどういう場合かというと、「例外がない(例外を認めない)ような形容詞・副詞(「すべて」「完全に」「いつも」「必ず」等)に not がついたとき」に起きる(つまりその場合に「～というわけではない」という意味がつけ加わる)のです。

(1)not+all 「全て～というわけではない」

(2)not+every 「 ” ” 」

(3)not+both 「両方～というわけではない」 ☞ ちなみに「両方(とも)～ない」は neither。

- (4)not+always 「いつも～というわけではない」
 (5)not+necessarily 「必ずしも～というわけではない」
 (6)not+altogether 「まったく～というわけではない」
 (7)not+entirely 「 ” 」
 (8)not+wholly 「 ” 」
 (9)not+quite 「 ” 」

[その他]absolutely:「完全に」 exactly :「正確に」 each :「それぞれの」
 whole :「全体の」 completely:「完全に」 generally:「たいてい」

(ex) You don't need to be afraid of all snakes. **Not all** of them are poisonous.

全てのヘビをこわがる必要はない。全てのヘビが毒があるというわけではない

I don't know **both** his parents, but I do know his father.

私は彼の両親とも知っているわけではないが、実際、父親の方は知っている

4.If節のない仮定法に注意。

A close friend would not say such a thing to you.

この英文、if節が見当たりませんが、助動詞の過去形を使っている点から、仮定法ではないかと判断できます(もちろんwouldには「過去の習慣」や「過去の意志」を表す用法もあるが、そう考えて訳しても意味不明になってしまう)。この英文は、主語になっている名詞(a close friend)が、if節の代わりをしているのです。つまりこの英文の直訳は「親友が君にそんなことを言いはしないだろう」ですが、これは「もし彼[彼女]が親友であるなら、君にそんなことを言いはしないだろう」と表現し直すことが可能です。

=If he[she] were a close friend, he[she] would not say such a thing to you.

したがって英文中において、if節は見当たらないないが

- ①現在の内容を述べている中に、突然「助動詞の過去形+V[原]～」が現れた
- ②過去の内容を述べている中に、突然「助動詞の過去形+have+p.p.～」が現れた

ら、仮定法ではと判断し、if節にあたる内容が、文中のどこかにもぐり込んでいると考えてみることで。そして、if節の代用をしていると思われる語句を見つけたら、それ

を和訳の際には if節のように訳出するといいい訳になります。

以下に if節以外の語句が、if節の代わりをしている様々な例をあげてみましょう。

(1) 「名詞」が if節の代用をしている例。

(ex) It was so silent there that a pin drop might have been heard.

とてもそこは静かだったので、ピンが一本落ちても[でも落ちたら]聞こえたかもしれなくらいだった

(2) 「副詞」の otherwise がif節の代用をしている例。

(ex) Mr. Smith is very rich; otherwise he could not buy such an expensive car.

スミス氏は大変な金持ちだ。さもなければそんな高価な車を買えないだろう

(3) 「不定詞」がif節の代用をしている例。

(ex) To hear him talk, you might think of him as our leader.

もし彼が話すのを聞けば、君はひょっとしたら彼を我々のリーダーと思うかもしれない

會不定詞が「もし～なら」と、条件(仮定)の意味を表す場合の見極めは、**主節に助動詞の過去形や推量の助動詞[will/may/can等]が使われている**ということ(別の言い方をすれば「**強制力の弱い助動詞**」と言ってもいい。LESSON BOOK REVIEW Rule-32 を参照せよ)。

(4) 「前置詞+名詞」がif節の代用をしている例。

(ex) What would you do in my place? もし私の立場なら、あなたはどうするだろうか

With a little more care, you wouldn't have made such a silly mistake.

もう少し注意していたら、君はこんなばかな間違いはしなかったろうに

(5) 「(比較級の付いた)名詞句+and S+V(仮定法)～」の名詞(句)部分がif節の代用をしている例。

(ex) A few more steps and he would have stumbled on the root.

もしあと2、3歩歩いていたら、彼は木の根につまずいていたことだろう

④andは省略され「名詞，S+V～」という形になることもある。

5. 「理由」「条件」を表す意外な接続詞。

(1) 「理由」を表す意外な接続詞。

①, for S+V～ 「というのは～だからだ」

(ex) It was just twelve o'clock, for I heard the time signal then.

ちょうど12時だった。というのは[なぜなら]私はその時時報を耳にしたからだ

②now (that) S+V～ 「(今はもう)～だから」

(ex) Now (that) we are all here, we can start.

みんな集まったから出発できるぞ

③seeing (that) S+V～ 「～だから」

(ex) Seeing (that) he didn't know about it, nobody can blame[非難する] him.

それについて彼は知らなかったのだから、誰も彼を非難することはできない

④on the ground(s) (that) S+V～ 「～という理由で、～なので」

(ex) My cousin was excused on the ground that he was inexperienced.

私のおいしは経験がなかったという理由で許された ④ground:「根拠」

⑤in that S+V～ 「～という点において、～だから」

(ex) Human beings differ from other animals in that they can speak.

人は話せるという点で、他の動物とは違う

(2) 「条件」を表す意外な接続詞。

①in case S+V～ 「もし～の場合に(備えて)」

(ex) In case I'm late, start lunch without me.

もし私が遅れたら、待っていないで昼御飯を始めて下さい

Take your umbrella with you in case it rains.

雨が降る場合に備えて傘を持って行きなさい

②suppose[supposing] (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Suppose[Supposing] your mother saw us together, what would she say?

あなたの母さんが私達が一緒にいるのを見たら、なんて言うでしょう

③Assuming (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Assuming (that) you are right, I will withdraw my previous remarks and apologize.

もし君が正しいなら、私は前言を撤回して謝罪するつもりだ

④on condition (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) You can go out on condition (that) you come home by 10.

10時までに帰宅するのなら出かけてもよい

⑤unless S+V～ 「～でない限り」

(ex) You will miss the first train unless you walk more quickly.

もっと早く歩かない限り、始発列車に乗り遅れますよ

⑥providing[provided] (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Providing[Provided] you accept my offer, I will do anything for you.

もしあなたが僕の申し出を受け入れてくれるなら、君のためになんでもします

⚠(1)「supposed (that) S+V～」や、「provide (that) S+V～」という形はない。

(2)「Suppose (that) S+V～」は命令文なので、基本的に文頭で用いる。

(3)「suppose[supposing]」「in case」以外は仮定法で使うことはない。

3.その他

1. 「(a/the) + 名詞 + of」の形で1つの形容詞の働きをするもの。

① a number of A / numbers of A: 多くのA = many A

= a crowd of A / crowds of A

= a host of A / hosts of A

= scores of A

④ numberの前にgood, large, great, amazing(驚くほど), increasing[growing](ますます)等、
いろいろな形容詞がつくことも多い。

(ex) An increasing number of people are giving up smoking.

たばこをやめる人の数がますます増えている

④ the number of Aは「Aの数」。要意。

(ex) What is the number of people present? 出席者(の数)は何人ですか

② a large amount[quantity] of A: 多量のA = much A

= large amounts[quantities] of A

= a good[great] deal of A

(ex) He spent a large amount of money during the trip.

彼は旅行中に多額のお金を使った

④ the amount of Aは「Aの総額、総計」。要意。

(ex) What is the amount of money you spent?

君が使った金額は全部でいくらですか

= a volume of A / volumes of A

④ the volume of Aは「Aの量」

(ex) the volume of water in a container 容器の中の水の量

③ a lot of A / lots of A: 多くのA ③は可算名詞、不可算名詞両方に使える。

= plenty of A

= a mass of A / masses of A

(ex) a mass of e-mails 電子メールの山

masses of treasure たくさんの宝

=a body of A

(ex) a large body of information 大量の情報

a body of water 水塊 (池・湖・海など)

large body of the people 国民の大多数

=no end of A (切りがないほど) たくさんのA

(ex) I have no end of trouble 私はとても悩み事が多い

=loads of A

=a bunch of A

(ex) I asked him a bunch of questions 彼にたくさんの質問をした

Ⓢ a bunch of Aは「束のA」という意味になることもある。

=an abundance of A

(ex) an abundance of valuable information たくさんの貴重な情報

④ a handful of A: わずかのA =a few[little]

(ex) Only a handful of people came to the ceremony.

ほんの数えるほどしかその式典には来なかった

⑤ a spot of A: 少量のA、ごくわずかのA =a little

=a trace of A / traces of A

(ex) I had a spot of whisky. 少量のウイスキーを飲んだ

=a hint of A

(ex) a hint of garlic ニンニク少々

=a bit of A

Ⓢ a bit of Aで「一つのA」という意味になることもある。

⑥ a (certain) kind[sort] of A: 一種のA

=a form of A

(ex) He had a kind of feeling that his son would soon come back.

彼はなんとなく息子がすぐにでも戻って来るような気がした

Ⓢ a kind[sort] of Aを「Aの一種」、a form of Aを「Aの一形態」と訳す場合もある。

(ex) Ice is a form of water. 氷は水の一形態である

また all kinds[sorts / manner] of A は「あらゆる種類のA」となる。

⑦ a series of A:一連のA、相次ぐA

=a sequence of A

=a chain of A

=a succession of A

=a train of A / trains of A

(ex) A series of rainy days made our vacation spoilt.

一連の雨(続き)で我々の休暇は台無しになった

⑧ a variety of A:さまざまなA、多様なA

=various A

=varied A

=different A

=diverse A

=a diversity of A

(ex) The US has a variety of races. アメリカは多様な人種がいる

④ the variety of Aは「Aの多様性」。ただ、場合によっては a variety of A が、「Aの種類(一種)」となることもある。

(ex) I was surprised at the variety of his interests.

彼の関心事の多様性には驚いた

He discovered a new variety of dragonfly.

彼はトンボの新種を発見した

④ large, great, wide 等が variety の前につくこともある。

(ex) There were a large variety of flowers. 種々さまざまな花があった

⑨ a wide[large] range of A:広範囲のA

(ex) shoes in a large range of sizes

いろいろなサイズをとりそろえた靴

an area with a narrow range of temperatures 気温変化の小さい地域

a range[chain] of mountains 山脈、山並み

④ただし「the range of A」は「Aの幅」と訳す。

(ex) The range of prices for gasoline was narrow in Japan.

日本では、ガソリンの価格の上下の幅はわずかだった

⑩ dozens of A:何十ものA

hundreds of A:何百ものA

thousands of A:何千ものA

millions of A:何百万ものA

(ex) This home page links directly dozens of useful sites.

このホームページは、何十もの便利なサイトと直接リンクしています

⑪ a bit of A: 1. 少々 of A

(ex) a bit of money 少しの金

2. ひとつのA

(ex) a bit of luck ひとつの幸運

⑫ a couple of A: 1. 2つの

1対の

(ex) a couple of eggs[girls] 2つの卵 [2人の少女]

a couple of players 2人1組の競技者

2. 2、3の =a few

いくつかの

(ex) a couple of days ago 数日前に

① of が省略されることもある。

⑬ an array of A: ずらりと並んだA

(ex) an array of actors[umbrellas] ずらりと並んだ俳優[かさ]

⑭ a minimum of A: 最小限(度)のA

(ex) at a minimum of expense 最小限度の費用で

⑮ 物質名詞(不可算名詞)を数える際に使う表現。

1. a cup of coffee 「一杯のコーヒー」

2. a glass of water 「一杯の水」

3. a slice of bread 「一枚のパン」

4. a loaf of bread 「一塊のパン」

5. a bottle of ink 「1本のインク」

- 6. a sheet of paper 「一枚の紙」
- 7. a spoonful of sugar 「(スプーン) 一杯の砂糖」
- 8. a lump of sugar 「(一個の) 角砂糖」
- 9. a cake[bar] of soap 「(一個の) 石けん」
- 10. a piece of baggage[luggage] 「(一個の) 荷物」
- 11. a piece of furniture 「(一個の) 家具」
- 12. a piece of information 「1つの情報」
- 13. a piece of advice 「1つの忠告」

- 14. a pair of
 - glasses[spectacles] 「眼鏡」
 - scissors 「はさみ」
 - trousers 「ズボン」
 - chopsticks 「箸 (はし) 」
 - pajamas 「パジャマ」
 - pants 「パンツ」
 - shoes 「靴」
 - socks 「靴下」
 - gloves 「手袋」

④ informationやadvice, news等の抽象名詞を数える場合には「a piece of～」を用いる。

④ 「a pair of～」が前につく名詞は、常に複数形で用いる名詞である。

2. いろいろな「～について」とそのニュアンスの違いについて。

「Aに関して(の)」「Aについて(は)」という意味になる前置詞には以下のようなものがあります。

on A	concerning A	in[with] regard to A	involved in A
about A	concerned with A	with respect to A	related to A
as to A	regarding A	as for A	in[with] relation to A

このうち about が最も一般的な語です。

onは内容が専門的で高度な場合に用います。つまり同じ「について」でも about は、

「(拡散的に)周辺」がその『核』のイメージなので、talk about A といった場合、「A について(話題を広げて)あれこれ話す」という「拡散的」なニュアンスになります。on の場合、「接触」がその『核』のイメージなので、あるテーマについてより密に(近づいた)、つまり「専門的な」という意味が生じるのです。

(ex) 「日本についての本」 → a book about[on] Japan

會about では一般的内容。on では専門的内容を暗示。

「核融合についての論文」 → a paper on[×about] nuclear fusion

會論文は専門的なので通例 on を用いる。

of は about としばしば交換できます、ofは(全般的に)軽く触れる場合に用いられます。talk of A といった場合、「Aについてちょっと話す」といったニュアンスになります。over は「~をめぐって」の意で、しばしば(長期にわたる)意見の対立・不一致を含意します。

(ex) The couple quarreled over money. その夫婦は金のことをめぐってけんかした

concerning[concerned with], with regard[respect] to はabout, on の堅い語です。as toは、書き言葉で多く用いられ、疑問詞節が続く場合に好まれますが、それ以外ではabout, on, of が普通です。

(ex) Jim wrote to me concerning the matter. ジムはその事について手紙をよこした

As regards oil, prices are shooting up.

石油についていえば、価格は暴騰している

What kind of opinion do you have with[in] regard[respect] to the subject?

その問題に関してどんなご意見がおりますか

The criminal knew nothing regarding the lost money.

なくなった金については犯人は何も知らなかった

As regards the proposal, I am totally against it.

その提案について私は全面的に反対です

I can't decide (as to) which to choose. どちらを選ぶべきか決められない

as forは、既に出た話題に関連して別のことを述べる場合に用います。通例次の文、又は

節の初め(つまり文頭、節頭)に置かれます。時に軽蔑や無関心を含意します。

(ex) Nancy has few close friends. As for [=As to] her brother, he is always surrounded by friends.

ナンシーには親友がほとんどいない。彼女の兄はどうかと言えば、いつも友人に囲まれている

第四章

実践演習

実際の過去の入試問題を通して、本書で学んだルールを演習していきます。ここまでで培った知識と実力を、思う存分本章で発揮してください。

Part I

英文読解編

以下の英文を和訳せよ。

1. Less than perfect recall of most events in our lives rarely has serious consequences.

recall: 思い出すこと [能力] rarely: めったに～ない consequence: (悪い)結果、大変な目

2. Some people consider the ability of computers of so little value that no matter how quick a computer is and how impressive its solutions are, they see it only as a giant calculator with no true intelligence at all. (小樽商科大)

no matter how (形/副) S+V, たとえどんなにSが(形/副)だとしても impressive: 印象的な solution: 解決策
calculator: 計算機

3. ①Our understanding of the worlds of stars and of atoms has expanded beyond belief.
②The gods of the Greeks were like helpless children compared to humankind today and the powers we now have. (お茶の水大)

atom: 原子 expand: 拡大する、広がる Greeks: ギリシア人 compare A to B: AをBと比較する、にたとえる

4. It is said that where many different kinds of plants and animals live together, there will be a better balance than where there are only a few kinds.

(広島県立大)

5. ① "It is not that I'm so smart," Einstein once said, "It's just that I stay with problems longer." ② Whatever the reason for his greatness, there is no doubt that this determination allowed him to invent new physics and explore areas that nobody else had dared to investigate.

(神戸大)

Einstein: **アインシュタイン** stay with A: Aに取り組む

there is no doubt that S+V ~: ~に疑いの余地はない、~なのは間違いない determination: 断固たる決意(信念)

invent: ~を生み出す、発明(考案)する physics: 物理学 explore: ~を探求する、詳しく調べる area: 分野

dare to do [原形] ~: あえて~する investigate: ~を詳しく調べる、研究する

6. None of the pockets of his jacket were large enough to accommodate a pack of cigarettes without its sticking out the top.

accommodate: ~を収納する、入れる stick out the top: 先端を突き出す、先端が突き出る

7. Dr. Huntington argues that drinking Coca-Cola does not make Russians think like Americans any more than eating sushi makes Americans think like Japanese.

(鳥取大)

8. Glaciers are melting over an area as large as one-fourth of the United States a year. (鳥取大)

glacier:氷河 melt:溶ける

9. ①Learning words increases the size of a child's vocabulary. ②Behind this obvious truth lies a set of complex issues concerning the wide range of information that children employ in learning new words. (名古屋大)

vocabulary:語い a set of A:-連のA complex:複雑な concerning:～に関する
range:幅 employ:～を使用する in ~ing:～する際には

10. To accuse technology of bringing ills to humanity is no less absurd than accusing the hammer you made of smashing your thumb. (東京農大)

accuse A of B:Bの理由でAを非難する absurd:バカげた smash:～をたたく

11. ①Bullying can be described as the systematic abuse of power. ②There will always be power relationships in social groups, by virtue of strength or size or ability, force of personality, sheer numbers or recognized hierarchy. ③Power can be abused ④; the exact definition of what constitutes *abuse* will depend on the social and cultural context, ⑤but this is inescapable in examining human behavior. (信州大)

bullying:いじめ systematic:組織的な abuse:乱用(する) relationship:関係
by virtue of A:Aに基づく[いて]、Aが原因となった[て] =because of A strength:(体の)強さ、体力
size:(体の)大きさ force of personality:人格的影響力 sheer:単なる～ number:(人の)数
hierarchy:上下関係 exact:正確な definition:定義 constitute:～を構成する、形成する
context:背景 inescapable:逃れられない behavior:行動

12. The discovery of the structure of DNA and the way in which it is copied from generation to generation made life itself, and evolution, seem simple at the molecular level. (東北大)

structure:構造 copy:～を複製する generation:世代 evolution:進化 molecular:分子の

13. ①If you are fighting to win an argument, the temptation is great to deny facts that support your opponent's views and to hold back what you know, saying only what supports your side. ②In the extreme form, it encourages people to tell half-truths or even to lie. ③We accept this risk because we believe we can tell when someone is lying. ④The problem is, we cannot. (お茶の水大)

fight to do[原形]～:～するために戦う argument:議論 temptation:誘惑 deny:～を否定する
support:～を支持する、裏付ける view:見解、物の見方 hold back A:Aを言うのを差し控える、Aを言わずにおく
in the extreme form:極端な形においては、極端な場合 half-truth:真実の一部(しか伝えない話)
accept:～を受け入れる tell:～がわかる、～を識別する lie:嘘(をつく)

14. ①It is frequently said that the world is growing smaller due to modern transportation and communication technology. ②It may be only partially true ③, for while one can travel halfway around the world from Tokyo to Rio de Janeiro in less than one used to require to travel from Edo to Kyoto, one also becomes more aware of how much there is to learn upon arrival. (小樽商科大)

due to A:Aのおかげで、Aによって transportation:交通手段 partially:部分的に、不十分に
travel halfway around the world:地球を半周する from A to B:AからBまで
used to do[原形]～:(昔は)～したものだ require:～を必要とする
become aware of A:Aを意識するようになる upon arrival:到着すると(すぐに)

15. ①The successful launching of artificial satellites ushered in the Space Age.
 ②The placing of instrumented satellites in orbit led to greatly increased knowledge of the earth, the moon and the solar system.

usher in A:Aの到来を告げる launching:打ち上げ instrumented:(測定など各種のテストのための)試験用機器を装備した
 orbit:軌道 lead to A:Aをもたらす the solar system:太陽系

16. ①The debate over global warming is both scientific and political in nature. ②Not only is there disagreement over whether and how much global warming is occurring, but even greater debate over what to do about it if it occurs. (福岡大)

in nature:実際は、本来 both A and B:AとB両方 disagreement:(意見の)不一致
 global warming:地球温暖化

17. ①A surprising number of people have at some time in their lives imagined with dread the thought of being buried alive. ②Some even have recurring nightmares about it ③, whereas relatively few are afraid of dying from influenza, ④even though it is a far more common experience.
 ⑤Irrational fears are intimately linked with our ideas of risk. ⑥No doubt many people who smoke — by far the single biggest avoidable risk — or who go rock climbing or bungee jumping will be among the same people who drink bottled water ⑦on the grounds that it is safer than the stuff from the tap.

(お茶の水大)

bury:~を埋める recur:~を繰り返す relatively:比較的 be afraid of A:Aを恐れる
 die from A:Aが原因で死ぬ common:よくある、一般的な irrational:馬鹿げた intimately:密接に
 on the grounds that S+V~:~という理由で stuff:飲み物、食べ物 tap:蛇口

18. ①Four and a half billion years ago, the earth was formed. ②Perhaps a few hundred million years after that, life arose on the planet. ③For the next four billion years, life became steadily more complex, more varied, and more ingenious, until, around a million years ago, it produced mankind — the most complex and ingenious species of them all. ④Only six or seven thousand years ago — a period that is to the history of the earth as less than a minute is to a year — civilization emerged, enabling us to build up a human world, and to add to the marvels of evolution marvels of our own: marvels of art, of science, of social organization, of spiritual attainment. (大阪大)

form:～を形成する a few hundred million years:数億年 arise - arose - arisen:生じる
 billion:10億 steadily:着実に complex:複雑な varied:多様な ingenious:独特な、精巧な
 emerge:現れる build up:作り上げる marvel:驚異(なるもの) organization:組織
 attainment:業績、偉業

19. ①Although as a girl growing up forty years ago in the U.S. Midwest I was passionately fond of reading, I can't say that I ever read much — or any — Japanese literature. ②For the most part content with American children's classics like Little Women, the Laura Ingalls Wilder series, and Tom Sawyer, I had no more desire to sample the literature of Japan than I had to eat fish and rice for breakfast instead of cereal and milk. ③Despite a ten-day visit to Japan that I made in spring 1960, Japanese literature did not enter my awareness until high school, and then only in the most tangential way, when we were assigned to compose haiku in my freshman English class. ④If the teacher introduced us to immortal masterpieces of Basho and others, they made no impression on me. ⑤All I really remember is the haiku that I myself produced after desperate efforts — something about snow on a bush looking like frosting on a cupcake.

⑥It was the summer before my senior year in high school, in the course of a nine-week intensive exposure to Japanese language and culture, that I had my

first memorable encounter with Japanese literature. ①At my high school in Evanston, Illinois, every morning from Monday to Friday our class of twelve studied the Japanese language. ②One afternoon Professor Edwin McClellan of the University of Chicago delivered a lecture on Japanese poetry which so inspired me that later, wide-eyed with excitement, I was able to repeat it almost word for word to a friend. (名古屋大)

passionately:熱烈に be fond of A:Aが好きになる be content with A:Aに満足している
classic:古典的作品 sample:～を試してみる instead of A:Aの代わりに awareness:意識
tangential:わずかに触れるだけの compose:～を作る immortal:不滅の masterpiece:傑作
desperate:死に物狂いの、必死の frosting:糖衣 senior year:最終学年 exposure:さらわれること
encounter:出会い deliver a lecture:講義をする inspire:～を刺激する wide-eyed:目を見開いて
word for word:-言一句、一語一語

1.of importance	= important	「重要な」
2.of equal value	= equally valuable	「同様に価値のある」
3.of great use	= very useful	「とても役に立つ」
4.of no use	= useless	「役に立たない」
5.of some use	= a little useful	「いくらか役に立つ」
6.of worldwide fame	= famous in the world	「世界的に有名な」
7.of courage	= courageous	「勇気のある」
8.of help	= helpful	「役に立つ」
9.of learning	= learned	「学識のある」
10.of sense	= sensible	「分別のある」
11.of promise	= promising	「前途有望な」

上例のように、この形で用いられる抽象名詞の前には no, little, great, much 等の形容詞がつくことが多いのもその特徴だ。

次に so little value の so と、後ろの that はいわゆる so ~ that構文(とても～なので…)を作っていたことに気づいたか。

そしてその that節内の文構造だが、以下のようにになっている。

no matter	$\left\{ \begin{array}{l} \text{how quick a computer is} \\ \text{and} \\ \text{how impressive its solutions are} \end{array} \right\}$	$\left. \begin{array}{l} \text{they see it only as~} \\ \text{S} \quad \text{V} \quad \text{O} \end{array} \right\}$

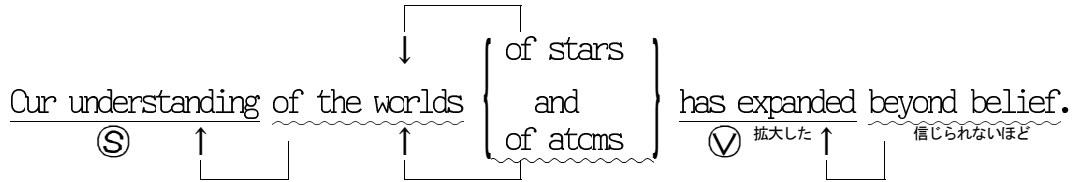
and に結ばれた2つの how節が、共通して no matter にかかっていることがわからないといけない。なお as は後ろに名詞のみをとっているので「～として」と訳せばいい。それから with ~ all の with は having で言い換えられる、つまり「～を持っている」と訳せばいい with だ(「with のマスター」のページを参照せよ)。

3. 「①宇宙や原子の世界に対する我々の理解は信じられないほど進んだ。②ギリシア人の神々は、現代人や我々[現代人]が持っている力に比べれば、無力な子供のようなものだった」

【解説】

①

㊸は Our understanding、㊹は has expanded。beyond belief は「信じられないほど」と訳す（「否定の落とし穴」のページを参照せよ）。

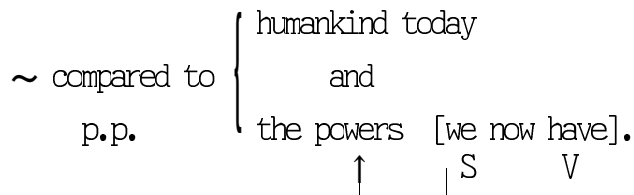


②

㊸は The gods、㊹は were。直後の like は「～のような・に」と訳す前置詞。compared 以下は、文章後半の分詞構文と見る。文章後半の分詞構文は「そして…する」「…しながら」と訳すことが多いのだが、本問ではそれでは今一ついい訳にならないので「～と比較すると」と、「時」又は「条件」で訳すといい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-37 を参照せよ。

compared以下の構造は下の通り。



4. 「多種多様な動植物が共に生息する場所では、ほんのわずかな種類の動植物しか生息していない場所に比べて、よりよく調和がとれていると言われる」

【解説】

文頭の It は仮主語。that節が真主語。全体を「～(=that節)だと言われている」とまとめればいい。

まず問題はthat節内の where。LESSON BOOK REVIEW 85ページ(注3)の①の意味(～な所では)で訳せばいい。

many different kinds of は「多くの異なった(様々な)種類の」と、全体で形容詞のように訳す。これについては「(a/the)+名詞+of の形で一つの形容詞の働きをするもの」のページを参照せよ。

それから文末の only a few kinds だが、本来 only a few kinds of plants and animals とすべきところを繰り返しを避けてこうなっている。

會 LESSON BOOK REVIEW Rule-49 を参照せよ。

このような省略された語句を補って読み解く英文の例をもう1つあげてみよう。

(ex) If this trouble is solved, we can carry out the plan; if not, not.

下線部の if not, not. は確かに意味不明だ。そこで左側の英文で下線部と対応する語句を、上下に並列するよう並べてみて、上にはあって下にはないものを補ってみる。そうすると意味が見えてくる。

If this trouble is solved, we can carry out the plan

↓

If **this trouble is not solved**, we can not carry out the plan.

もしこの問題が解決されなければ、その計画は実行できません

このように前後関係から明白だと判断された場合、日本人の目から見ると一見「何だこれは…?」と思うような大胆な省略が行われるのも珍しくないので注意しよう。

5. 「①アインシュタインはかつて、『私がそれほど頭がよかったということじゃないんです。ただいろいろな問題に他の人より長く取り組んだということだけなんです』と語った。
②彼の偉大さの理由がたとえなんであるとしても(なんであれ)、間違いなく、この断固とした信念のおかげで、彼は新たな物理学を生み出し、他には誰もあえて研究しようとしなかった分野を探求することができたのだ」

【解説】

①

It is not that S+V~, It is that S+V~については32ページを参照せよ。

just は「単に~(な)だけ」と訳し、only と同じ意味。それから longer という比較級の後ろに than 以下が省略されている。その理由については「比較で大切なこと」のページ

を参照せよ。ここは文脈から、自分と他の人[科学者]とを比較していると判断し、「他の人よりも」と言葉を付け足すといい。

②

Whatever節は、後ろに主節(there is以下)をとっているので副詞節と判断し、「たとえ～しても」型、つまり「たとえ彼の偉大さの理由が何であるとしても」で訳す。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-60 を参照せよ。

greatness の後ろに is が省略されている。その理由は

「whatever節が副詞節(つまり「たとえ～しても」型)で主語が抽象的な名詞(句)で、かつ whatever が be動詞の補語の場合は be動詞は省略できる」

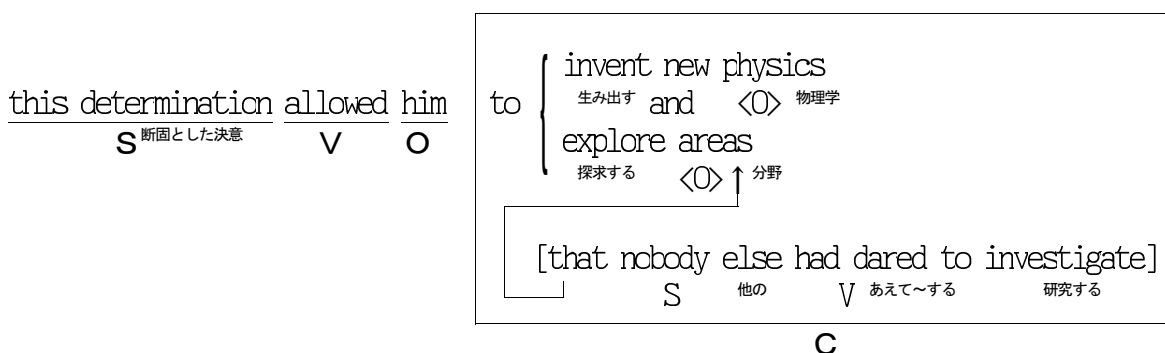
というルールがあるため。要するに「たとえ～しても」型の whatever は、節内の be動詞が省略されやすいということ。そのような例文を1つあげておこう。

(ex) Whatever your problems (are), they are less serious than his.

あなたの問題が何であろうと、彼の(かかえている)問題よりはましだよ

主節部分は allow が作る S V O C、「Oが～するのを許す」がその意味だが、たとえそれがわからなくても allow は「知覚」「思考」以外の動詞なので、「Sのおかげで(Sが原因となって)、結果としてOはCする」型で訳をまとめてしまえばいい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-23の2. を参照せよ。



次に this determination だが、この determination を「断固とした決意」という意味だとわからなくてもなんとかなる方法がある。それは determination に this がついていいるからだ(「this[these], such (a) のついた名詞について」のページを参照せよ)。つまり(this が直前についているので)直前の内容をここに当てはめてしまえばいいのだ。

る。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-23の2. を参照せよ。

「コカコーラを飲んだおかげでロシア人がアメリカ人のように考えることはない → コカコーラを飲んだからといってロシア人がアメリカ人のように考えることはない」とまとめたらいい。

次に than 以下だが、thanは「～と同じだ」という意味で、前後をイコールで結ぶ記号と考えるんだ。そこで左側がマイナス(否定)なので、than以下もマイナス、つまり否定的に訳をまとめる。すると「寿司を食べたからといってアメリカ人が日本人のように考えないのと同じだ」と than以下の訳がまとまる。

8. 「氷河は1年間につき、アメリカ合衆国の4分の1にあたるほども(の)広い範囲で溶けている」

【解説】

⑤は Glaciers、⑥は are で問題ないのだが、わかりにくかったのは an area以下。as large以降は、直前の an area を後置修飾している。

Glaciers are melting over an area
⑤ 氷河 ⑥ ↑ 溶ける
↑
as large as one-fourth of the United States a year.
一年につき

この as ~ as は、強調の as ~ as。詳しくは「比較で大切なこと」を参照せよ。そうすると as large as one-fourth of the United States は「アメリカ合衆国の4分の1にあたるほども(の)広い」と訳す。a year の a は「～につき」という意味。per で書き換えられる。

9. 「①単語を増やすことは子供の語彙力を伸ばす[高める]。②この明らかな事実の背後には、新しい言葉を学ぶときに子供が利用する広範な情報に関する一連の複雑は問題がある」

【解説】

①

文頭の Learning は動名詞。Learning words が㊸になっている。

📖LESSON BOOK REVIEW Rule-58 を参照せよ。

increase が㊹、the size がOのSVO構文。

Learning words increases the size of a child's vocabulary.
㊸ ㊹ O ↑ 語彙

②

Behind this obvious truth は「前置詞+名詞」なので㊸にはなれない。その後の lies は㊹。ということは、その後ろにある a set of complex issues が㊸ということになる。これは MVSの倒置構文。

📖LESSON BOOK REVIEW Rule-39 を参照せよ。

Behind this obvious truth lies a set of complex issues concerning ~ words.
~の背後に M(前置詞+名詞) 明白な事実 ㊹ 一連の ㊸(複雑な) ↑(問題) ~に関する

a set of は「一連の」と訳し、ワンセットで1つの形容詞とみなす（「(a/the)+名詞+of の形で一つの形容詞の働きをするもの」のページを参照せよ）。lie は「ある、いる」と訳す自動詞。

concerning は「~についての」と訳す前置詞（「いろいろな「~について」とそのニュアンスの違いについて」のページを参照せよ）。

the wide 以降は、以下のような構造になっている。that は後ろに不完全な文(employ のOがない)が続いているので関係代名詞と判断し、information にかける。

📖LESSON BOOK REVIEW Rule-9 を参照せよ。

the wide range of information [that children employ in learning new words].
(名) ↑ ↑ 関・代 S V(利用する) ↑ <O>

the wide range of information は、直訳は「情報の広範な幅」だが、「広範な情報」と意識したらいい。

10. 「人類に災いをもたらすという理由で(科学)技術を非難することは、親指をたたいたことで自分の作ったハンマーを非難するのと同じように馬鹿げている」

【解説】

まず文頭の To accuse という不定詞だが、㊟になっており「～すること」と訳せばいい。

㊟LESSON BOOK REVIEW Rule-57 を参照せよ。

全体は以下のようにSVC構文になっている

㊟absurdという形容詞がCである理由については LESSON BOOK REVIEW Rule-1の3. を参照せよ。

To accuse technology of bringing ills to humanity is no less absurd
非難する <O>技術 ㊟ 災い 人類 ㊞ C 馬鹿げた

bring A to B は「AをBにもたらす」だが、LESSON BOOK REVIEW Rule-26の7. を用いての類推が可能だ。illについては「①病気 ②(邪)悪 ③不幸、災い」と3つの意味があるが、ここでは「不幸、災い」の意味と見るのが妥当だろう。

次に全体が「A is no less ~ than B is C」のクジラ構文になっている点に注目。まず than の手前で区切ってそこまでの意味をまとめるんだった。no less は「マイナス×マイナス」で「プラス」、つまり肯定の意味で訳せばいい。

「人類に災いをもたらすという理由で(科学)技術を非難することは馬鹿げている」

次に than 以下だが、than の左側が「プラス」つまり肯定の意味だったので、この部分も肯定的に訳せばいい。than はもちろん「～と同様に」と訳す。

「親指をたたいたという理由で自分の作ったハンマーを非難するのと同じように」

ちなみに the hammer you made は「名詞+S+V」の構造なので LESSON BOOK REVIEW Rule-52 にある通り、you made を the hammer にかけて訳せばいい。

11. 「①いじめとは、力を組織的に乱用することであると言うことができる。②社会集団の中には、体力や大きさや能力、人格的影響力、単なる人数の多さ、あるいは認識された上下関係が原因となった力関係が常に存在するだろう。③力は乱用され(ることがあり)

詞句となっている。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-11の3. を参照せよ。

③

この can は「可能性」。長文中(特に評論文系)の can は、本問のように「可能性(～の可能性がある、～でありうる、～しうる)」の意味で使われていることが多い。

④

⑤は the exact definition、will depend が⑥。

the exact definition of what constitutes abuse
正確な ⑤ ↑ 定義 V~を形成する ⑥ 乱用

will depend on the $\left\{ \begin{array}{l} \text{social} \\ \text{and} \\ \text{cultural} \end{array} \right\}$ context.
⑥ 背景

depend on の訳し方については「depend on[upon] A / be dependent on[upon] A のうまい訳出法」を参照せよ。

⑤

この英文自体解説の必要もないだろう。ただ、文中の inescapable という形容詞だが「逃れられない」でいいのだけれど、その覚え方について一言アドバイスしておきたい。このような形容詞は分解して覚えるのだ。つまり

in(否定の意味の接頭辞) + escap(e)(逃れる) + able(～できる)

こう考えれば、「inescapable = 逃れられない」と丸暗記しなくてもすんでしまう。同じような例をもう1つ。inconceivable だ。「考えられない」という意味なのだが、これも分解すると

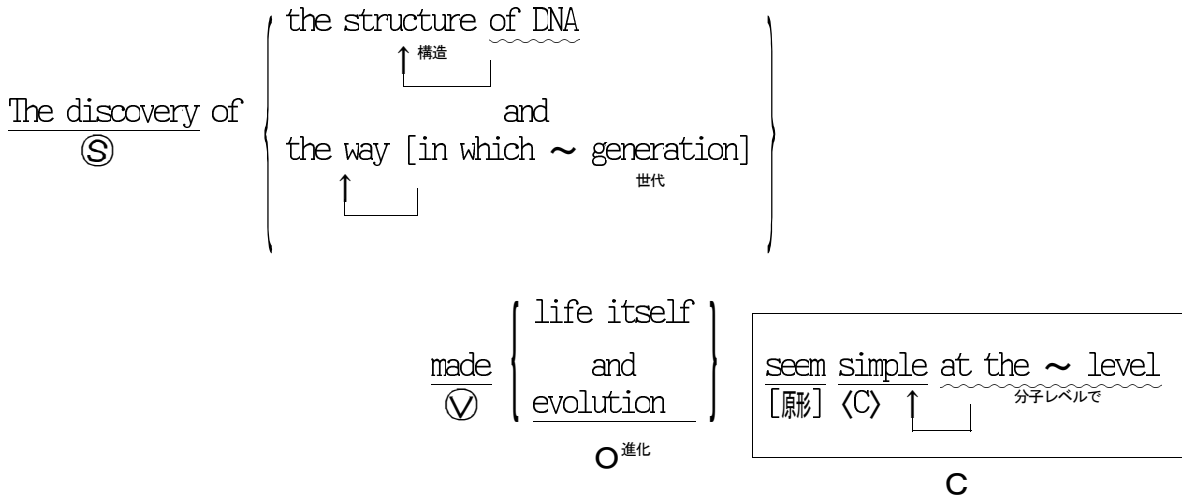
in(否定の意味の接頭辞) + conceiv(e)(考える) + able(～できる)

丸暗記しなくても「考えられない」という意味は自然に出てくるはずだ。conceive という核になっている語を覚えておけば何から何まですべて覚えなくてもいい(この単語は concept(考え)の動詞形と考えると覚えやすい)のだ。

12. 「DNAの構造と、それが世代から世代へどのように複製されていくのかということを発見したおかげで、結果として生命それ自体と進化というものが分子レベルで単純に見えるようになった」

【解説】

㉓は The discovery、㉔は made、life itself と evolution が共通してO、seem ~ level がCのSVOC構文。made は「知覚」「思考・認識」以外の動詞なので「Sのおかげで、結果としてOはCする」型で訳をまとめればよい。



discovery の後の of はこれまた目的格なので「～を発見したこと」と、「他動詞+目的語」の形で置き換えて訳してもいい。

the way in which は how で言い換えることができる。「どのように」「～の仕方」と訳せばいい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-56 を参照せよ。

13. 「①もし議論に勝とうとして[勝つために]戦っているとするなら、相手の見解を支持する事実を否定し、自分が知っていることを言うのを控えたいという誘惑は大きく、自分の側を支持することしか言わなくなる。②極端な形をとった場合、それは真相の一部しか伝えなかったり、あるいは嘘をついたりさえするように人を仕向ける。③我々は、誰かが嘘をついているときにはわかると考えているため、この危険を受け入れる。④問題は誰かが嘘をついてもわからないことなのだ」

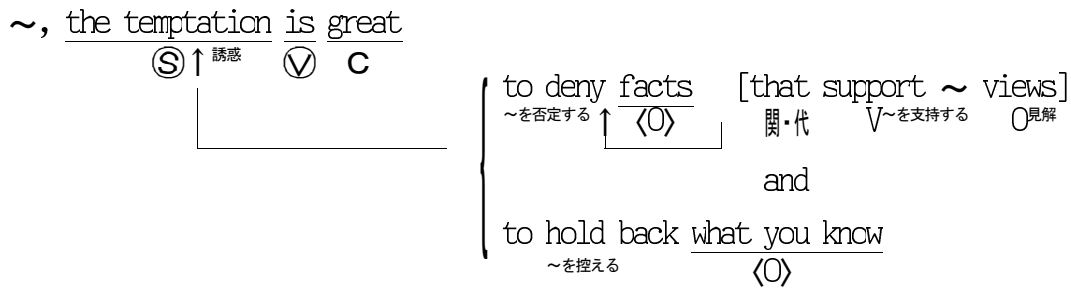
【解説】

①

If～argument までは主節よりも左側にあるので副詞節、つまり文の主要素にはならない。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-5 を参照せよ。

⑤は the temptation、isが④、great がCのSVC構文。to deny～views、to hold～know の不定詞句が(並列して) the temptation と同格になっているのだが、temptation と離ればなれになっているので分かりにくかったという人もいたかもしれない。



temptation to do[原形]～ で「～したいという誘惑」となる。

facts の後の that は(後ろにはSのない不完全な文が続いているので)関係代名詞で facts を修飾している。

saying～は文章後半の分詞構文。「そして～する」でまとめればよい。

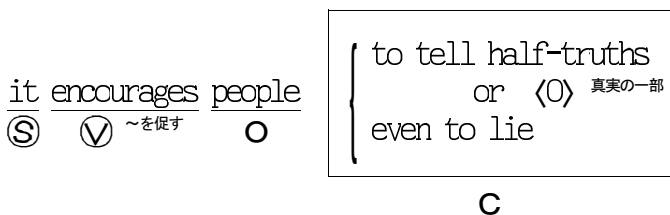
📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-37の2. を参照せよ。

②

⑤は it(=the temptation)、encourages が④、people がO、to tell～、to lieが共通してCになっている。

In the extreme form, //

極端な形をとった場合



全体が「S+V+O+to do[原形]～」型なので「SはOが～する方向に仕向ける」と訳せばいい。

④ LESSON BOOK REVIEW Rule-23の3. を参照せよ。

③

We が㉔、accept が㉕、this risk が㉖のSVO構文で問題ないはず。

because節内の tell について解説しておこう。この tell は「わかる」「区[識]別する」という意味。「言う」という tell との区別は以下の通り。

1. 「区(識)別する/わかる」という tell は can(not)とセットで使うことが多い。
2. 「言う」という tell は「人」しか基本的に目的語にとれないが、「区[識]別する/わかる」という tell は「人」「物(事)」どちらも目的語にとれる。疑問詞節や that節、whether節を目的語にとることもある。

(ex) I can't tell why he did it. なぜ彼がそれをしたのか分からない

④

The problem is の後に接続詞の that が省略されたSVC構文。

④ LESSON BOOK REVIEW Rule-50 を参照せよ。

The problem is (that) we cannot.
㉔ ㉕ C

問題は we cannot. 不完全な文構造だ。これも LESSON BOOK REVIEW Rule-49 に基づいて省略された語を補ってみる。直前で同じ構造となると

we can tell when someone is lying

この英文を参考に we cannot を完全な文に戻して④を書き直せば以下ようになる。

The problem is that we cannot tell when someone is lying.

問題は、私達がいつその人が嘘をついているのかわからないということだ

(問題は、誰かが嘘をついていても(それが)いつなのかわからないことだ)

that節内のSの we だが、これは「一般の人」を表している。we のように「一般の人」を表す代名詞として you, one 等があるが、これらの訳し方には以下の2種類がある。

1. 「私達・我々」「人」「自分・自ら」などと訳す
2. we, you, one は訳さない

意外に2.、つまり訳さない方が簡潔でいい訳になることが多い。

14. 「①世界は現代の交通手段や通信技術のおかげで昔[以前]より狭くなってきているとよく言われる。②それは部分的な真実でしかないかもしれない。③というのは、かつて江戸から京都まで旅をするのに要した時間よりも少ない時間で東京からリオデジャネイロまで地球を半周することができる一方で、到着すると学ぶことがどれほどたくさんあるのかを昔[以前]よりも意識することにもなるからである」

【解説】

①

冒頭の It は仮主語で、that節全体が真主語の仮主語[形式主語]構文。「～(=that節)だとよく言われ(ている)」と訳せばいい。あと smaller と比較級が使われているのに than 以下が省かれている理由については「**比較で大切なこと**」を参照せよ。ここは文脈から、今と昔を比べていると判断し、「昔[以前]よりも」と言葉を付一け足すといい。

②

先頭の It は直前の内容を指す代名詞の it。「それ」と訳す。

③

先頭の for が「, for S+V～:というのは～だからだ」という意味の接続詞であることに気づいたか。見極めのポイントは for の後ろに S+V… の構造がくる点。ただ本問の場合、

, for while S+V～, S+V…

と、for と S+V… の間に while節(副詞節)が割り込んでしまっていたのが、for の見極めを更に難しくしていた。

接続詞の while には大きく分けて

1. 「～の間(時)」
2. 「～けれど」「～のに」 ≒though
3. 「その一方(で)」 ≒but

③は主に文中盤でカンマと共に用いられることが多い。

(ex) Wise men seek after truth, while fools despise it.

賢者は真理を求めるが、その一方愚者はこれを侮る

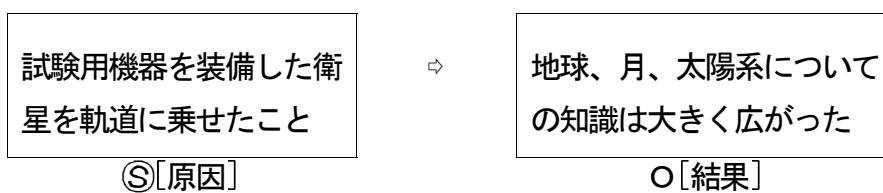
の3つの意味があるが、ここでは2の意味で訳せばいい。

$$\underbrace{\text{knowledge of}}_{\text{(主)}} \left\{ \begin{array}{l} \text{the earth} \\ \text{the moon} \\ \text{and} \\ \text{the solar system} \end{array} \right\} \underbrace{\text{was greatly increased}}_{\text{(述)}}$$

と読み替え、「地球、月、太陽系についての知識が大きく増大した」と訳せばいい。

最後に lead to についてだが、これについては「『～を引き起こす』型の動詞…」のルールを使えばいい。

本問においてもやはり㊸と○の間に「原因と結果」の意味関係が成立している。



16. 「①地球温暖化についての論議は、本来科学に関するものでもあり、同時に政治的なものもある。②地球温暖化が生じつつあるのか、そして(また)どの程度生じつつあるのかについての意見の不一致があるだけでなく、もし地球温暖化が生じているとするなら、それに対して何をすべきかについて、更にいっそう大きな論議があるのだ」

【解説】

①

全体構造は以下のような SVC。

$$\underbrace{\text{The debate over global warming}}_{\text{㊸ 議論}} \underbrace{\text{is both scientific and political}}_{\text{㊹}} \sim.$$

over は「～について、～をめぐる」という意味(「いろいろな『～について』とそのニュアンスの違い」を参照せよ)。

②

この英文は「Not only A but (also) B: AだけでなくBもまた」の構文だが、not only が文頭に出て、Aにあたる部分が「疑問文の語順」になってしまっている

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-38 を参照せよ。

Not only is there disagreement over $\left\{ \begin{array}{l} \text{whether} \\ \text{and} \\ \text{how much} \end{array} \right\}$ global warming is occurring
[疑問文の語順] 意見の不一致 S V生じる

whether は前置詞(over)の後ろに置かれているので「~かどうか」でいい。how much は「どの程度」と訳し、上の図のように whether と how much が共通して直後の S+Vをとっている。それから is occurring だが「生じつつある」と訳す。「生じている真っ最中だ」では訳にならない。進行形を「~しつつある」と訳す際のポイントは、

1. 瞬間的に終わる動作(「die(死ぬ)」「drown(溺死する)」等)
2. ある時点での達成[完了]を表す動詞(「stop(止まる)」「occur(起こる)」等)

が進行形になると、その動作・達成[完了]への接近、つまり「~しかかっている」「~しつつある」という意味を表す。

(ex) My grandfather is dying. 祖父は死に瀕している
The train was stopping. その列車はとまりかけていた

📖 進行形がこのような意味を表す理由は、進行形は元々、

1. 比較的短い期間に起こったこと[行為・動作]を述べる
2. その出来事[行為・動作]はまだ終わっていない(している最中[進行中]・途中である)

といったことを暗示するから。

そうしてみると、上例の die, stop も「出来事(行為・動作)」だが、be dying, be stopping はその「出来事(行為・動作)」がまだ終わっていない(その途中である)。つまり「死にかかっている」「止まりかけている」という意味になるのだ。

さて but 以下だが、本来なら

but there is even greater debate over what to do about it if it occurs.

となるべきところが、but の後ろ[右側]で繰り返しを避けるために there is が省略されてしまっている。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-14 を参照せよ。

even は比較級を強調する副詞で「更に」と訳す。「～でさえ」ではない。
what to do は「疑問詞+to do[願]～」で「疑問詞+(す)べきか」と訳す。

比較級を強調する副詞について

特に文法問題用等で覚えておきたいのは「much」「far」「by far」「a lot」。「はるかに、ずっと」等と訳す。

(ex) He looks much better. 彼は(前より)ずっと元気そうですね
He is far taller than his uncle. 彼はおじよりはるかに背が高い
This one is by far the better.
=This one is better by far. (2つのうちで)こちらがはるかによい
☞by farは比較級の後ろに置かれることもある。
He is a lot wiser than he was. 彼は以前よりたいそう賢い

上記以外に代表的なものには even や still がある。これらは「更に」等と訳す。

(ex) She is tall enough, but her brother is still taller.
彼女はずいぶん背が高い。が彼女の兄さんはさらに高い
We had an earthquake last year, but the one this time was bigger still.
去年地震があったが、今回はさらに大きかった
☞stillも比較級より後ろに置かれることがある。
It was hot yesterday, but it's even hotter today.
昨日は暑かったが、今日はいっそう暑い

ただし注意したいのは「more+A(複数名詞)」を、much で強調することはできない点。この場合、必ず「many+more+A(複数名詞)」の形にしなければならない。ちなみに「more+A(不可算名詞)」の場合は much で強調することができる。

(ex) There are many more women smokers today than 30 years ago.
30年前と比べて、女性の喫煙者が今でははるかに多くなっている」
It will take much more time to finish this task than you imagine.
その仕事を終えるのには君が想像するよりはるかに多くの時間がかかる

17. 「①驚くべき数の人々が一生のある時に、自分が生き埋めにされることを恐怖と共に想像したことがある。②そのことで幾度となく悪夢に悩まされる人さえいる。③その一方、インフルエンザにかかるというのははるかに一般的な経験であるが、インフルエンザで死ぬのではないかと恐れる人は比較的少ない。馬鹿げた恐怖感、我々の危険という考えと密接に関係している。おそらく、喫煙 — これは避けることのできる唯一最大の危険であるが — この喫煙をする人やロッククライミングやバンジージャンプをする人の多くは、水道水よりも安全だという理由で瓶入りの水を飲むような人たちであろう」

【解説】

①

a surprising number of は a number of A(数多くのA)の言ってみれば強調形。このような「(a/the)+名詞+of」の形でワンセットで形容詞のように働くものについては「(a/the)+名詞+of」の形で一つの形容詞の働きをするもの」を参照せよ。

更に難しいのが have 以下の文構造。「前置詞+名詞」を()でくくるとそれがみえてくる (LESSON BOOK REVIEW Rule-5 を参照せよ)。

A surprising number of people have (at some time) (in their lives)

驚くべき数の

⑤

ある時期

一生の(うちの)

imagined (with dread) the thought (of being buried alive).

④

恐怖と共に

○

生きたまま埋められること

こうして骨組み以外を()でくくってみると、上記のように単なる SVO だったのだ。at some time in their lives は「一生(人生)のある時期に」、with dread は「恐怖と共に」と訳せばいい(共に have imagined を修飾)。the thought of being buried alive は「生きたまま埋められるという考え」が直訳。of は「同格」。

☞ LESSON BOOK REVIEW Rule-61 を参照せよ。

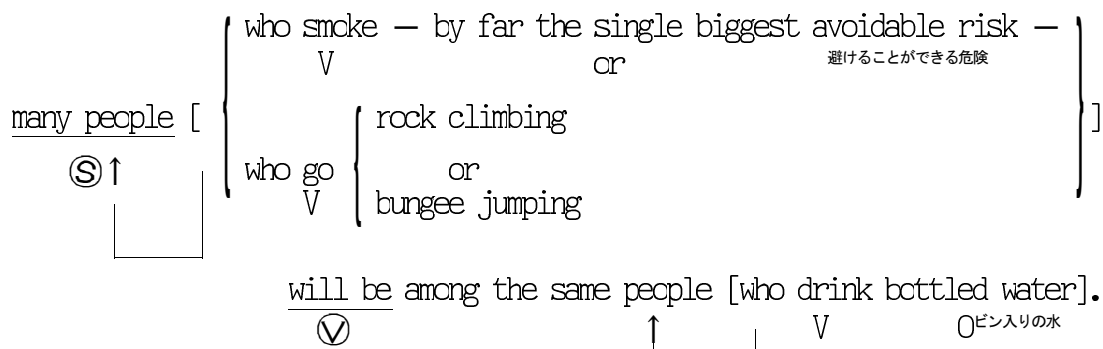
alive(生きたまま) は形容詞でありながら buried を修飾している珍しい用法。

に(intimately)に結びついている」と訳せば正解になる。ideas of risk の of は同格。

⑥

No doubt は「おそらく」という意味の副詞。

全体の構造は以下の通り。



by far~risk はsmoke(たばこを吸う)と同格になっている。by far は最上級を強調する副詞で「ずば抜けて」等と訳す(本問では「唯一」という single で強調しているので、あえて和訳に出さなくてもいい)。by far と同じ意味・用法の副詞に much, far, very 等がある(ただしveryだけはtheの右側に置かれる)。

(ex) This is the very best reference book. これはずば抜けて最高の参考書だ
=This is much[(by) far] the best reference book.

among には2つの意味がある。

1.~の間で[の・に]

2.~のうちの1つ[一人] = one of~

このうち2.の among を知らない学生が非常に多い。要注意だ。本問も2.の意味で使われている。

⑦

on the ground(s) that S+V~は「~という理由で」という意味の接続詞(「『理由』『条件』を表す意外な接続詞」を参照せよ)。it は bottled water を指す。

the stuff from the tap の直訳は「蛇口から出てくる飲み物」だが、要するに「水道水」の意味。

18. 「45億年前、地球は形成された。おそらくその数億年後、生命が地球に誕生した。それからの40億年の間に、生命は着実により複雑に、より多様に、そしてより精巧になった。そしてついに、約100万年前に、地球は人類、すなわち全てのうちで最も複雑で最も精巧な種を生み出したほんの6,7千年前に—すなわち地球の歴史からすれば、1年に対しての1分にも満たない程のわずかな間であるが—文明が出現し、我々に人間世界を築きあげることを可能にさせ、それとともに進化の驚異に人間独自の進化の驚異、すなわち芸術、科学、社会組織、精神的偉業という(進化の)驚異をつけ加えたのであった。

【解説】

①②は解説はいらないだろう。

③

ポイントは文章中盤の , until。このような until は「そしてついに」と訳すことがある。mankind の後ろのダッシュ(—)は同格。「つまり、すなわち」と訳せばいい。

④

㉓は civilization、㉔は emerged。Only six or seven thousand years ago と a period は、ここも同格の関係。ただ直後の that節が難しかった(thatは関係代名詞、a periodが先行詞)。「A is to B as[what] C is to D: AとBの関係はCとDの関係と同じだ」が使われていた。

📖 LESSON BOOK REVIEW 84ページを参照せよ。

that に先行詞の a period を代入して書き直せばこうなる。

the period is to the history of the earth as less than a minute is to a year
 その期間(6,7千年)と地球の歴史との関係は、1分未満と1年の関係と同じだ
 → 地球の歴史からみれば、その期間は1年に対する1分にも満たない

enabling は文章後半の分詞構文。「そして～」で訳せばいい。enable O to do[彫]～ は「Oが～することを可能にした」だが、LESSON BOOK REVIEW Rule-23の2. を利用し、「Sのおかげで(結果として)OはCできた」つまり「文明のおかげで我々は～することができた」と訳してもいい。enabling 以下の構造は以下の通り。

enabling us { to build up a human world
 , and
 to add to the marvels of evolution marvels of our own:...

add to the~ の部分は「SVOM ⇨ SVMO」の倒置。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-47 を参照せよ。

本来なら「add A to B: AをBに与える」だったものが、Aが長すぎたために「add to B A」の語順になってしまっている。

add to the marvels of evolution marvels of our own (evolution)
B 進化の驚異 A 人間独自の進化の驚異

直後のコロン(:)は、「すなわち」と訳せばいい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-64 を参照せよ。

コロン以下は marvels of our own (evolution) を同格として説明して[言い換えて]いる。

19. 「①40年前アメリカ中西部で育った少女時代は、本を読むことが熱烈に好きであったものの、日本文学はそれほど読んだとは—それどころか多少なりとも読んだことがあるとすら—言えません。②たいていの場合は『若草物語』や『大草原の小さな家（ローラ・インガルス物語）』シリーズや『トム・ソーヤー』のようなアメリカ児童文学の古典的作品に満足していたので、私には朝食にシリアルとミルクの代わりにご飯と魚を食べたいという願望がないのと同じように、日本文学を試みに読んでみたいという願望もなかったのです。③1960年の春に日本へ10日間旅行したにもかかわらず、日本文学は高校に入るまで私の意識の中に入ることはありませんでしたし、それも、私たちが1年生の国語の時間に俳句を作るように先生から課題を出されたときになってやっと、ごくわずかに触れる程度のものでしかなかったのです。④その時先生が芭蕉や他の俳人の不滅の傑作を私たちに紹介したとしても、私には何の印象も与えませんでした。⑤私が実際に覚えているのは、自分が必死に努力した結果作り出した俳句のことだけで、茂みに降った雪がカップ・ケーキの白い糖衣に似ているとかいうものでした。⑥私の最初の記念すべき日本文学との出会いは、高校3年生になる前の夏で、9週間にわたって日本語と日本文化に集中して触れた間のことでした。⑦イリノイ州エヴァンストンの私が通っていた高校では、月曜から金曜まで毎日午前中、12名の私たちのクラスは日本語の勉強をしました。⑧ある日の午後のこと、シカゴ大学のエドウィン・マッ

ここでは「理由(～なので)」と訳すといい。

そして主節部分だが、ここは「クジラ構文」になっている。これまで通り、than の手前で区切って、まずそこまでの意味をまとめてみる。

I had no more desire to sample the literature of Japan

no more は掛け算をすればトータル「マイナス」つまり否定の意味になるのはもうわかるはず。そうすると「日本文学を試してみようという願望はなかった」となる。

続いて than 以下だが、I had to~ を「～しなければならなかった」と訳しては意味不明だ。ここは had の後ろに desire が繰り返しを避けるために省略されているのではと気づいてほしかった。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-49 を参照せよ。

$$\begin{array}{c} \text{than I had (desire) to eat} \\ \text{S V O} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} \text{fish} \\ \text{and} \\ \text{rice} \end{array} \right\} \text{ for breakfast instead of } \left\{ \begin{array}{l} \text{cereal} \\ \text{and} \\ \text{milk} \end{array} \right\} .$$

than の左側が「マイナス」つまり否定の意味だったので、than 以下も否定的に訳をまとめる。「シリアルとミルクの代わりに、朝食に魚とご飯を食べたいという願望がなかったのと同様に」と訳す。

③

先頭に Despite(～にも関わらず)という前置詞がある。前置詞を文章冒頭に見かけたら、パッと以下のような全体構造を頭に予想できなければならない。

Despite + 名詞 , (S)+(V)~
(前) ~にも関わらず

そこで以下のような分析ができる。

Despite a ten-day visit to Japan [that I made in spring 1960],
(前) (名) S V

Japanese literature did not enter my awareness until ~.
(S) 文学 (V) 入る (O) 意識 ~まで

ただ難しいのはuntil以下。特に then only in the most tangential way の訳出だ。この部分が and という等位接続詞の右側にある点に着目し LESSON BOOK REVIEW Rule-14

を思い出せたか。

等位接続詞の後ろが「不完全な形」で、その意味がとりにくい場合、同構造になっているその直前の文[箇所]を参考に、繰り返しによる省略によって生じた「不完全な形」を元の「完全な形」に戻してみる。

この部分を元の「完全な形」に戻すと以下のようになるはず。

Japanese literature entered my awareness then only in the most tangential way.

日本文学はその時(でさえ)ほんのわずかに私の意識の中に入ってきたにすぎなかった

, when は「そしてその時」くらいの訳でいい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-62の3. を参照せよ。

were assigned to の部分は、assign A to B の受け身。つまり「動詞+ A to B」型。

「AをBに与える」の受け身と考えたらいい。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-26の7. を参照せよ。

④

先頭の If だが、「もし~なら」と訳しても意味が繋がらない。ここは前に Even が省略されているとみて「たとえ~としても」と訳す。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-51 を参照せよ。

introduce A to B も「AをBに与える」型。

⑤

the haiku と something はダッシュ(-)によって結ばれ、同格となっている。

⑥

これが強調構文とわかったか。その理由は It was と that の間にはさまれている語句が the summer という「副詞」だからだ(〇〇ページを参照せよ)。summer のような「時」を表す名詞は、大半は副詞として文中で機能するんだった。

It was the summer (before my senior year in high school), (in~culture,)
副詞

that I had my first memorable encounter with Japanese literature.
⑤ ⑥ 記念すべき ○ ↑ 出会い

⑦

「前置詞+名詞」や「副詞」を()でくくっていくと our class が㊸、studiedが㊹、
the Japanese language が〇と見えてくる。

(At my high school) (in Evanston, Illinois), (every morning)

(from Monday to Friday) our class (of twelve) studied the Japanese language.
㊸ ㊹ 〇

⑧

㊸は Professor Edwin McClellan、㊹が delivered、a lecture が〇のSVO構文にな
っているのはいいとして、問題は which で始まる関係詞節。

実際関係詞節(特に関係詞節が長い場合など)は、直前にカンマがあろうがなかろうが、そ
こで/で区切って訳し下げるのがいいだった。本問でも which so inspired me…の部
分を、「そしてその講義はとても私を刺激してくれたので…」と訳し下げるといい和訳に
なる。

Part II

長文総合問題編

次の英文を読み、設問1～10に答えよ。

It has long been believed that long-distance walking played an important role in the evolution of mankind. Many of the features that distinguish the various species of Homo are useful for walking: long legs, narrower waists, shorter toes. Now Dennis M. Bramble, a biologist at the University of Utah, and Daniel E. Lieberman, an anthropologist at Harvard University, claim that running also played an important role in shaping our species.

(1) If you have ever chased a cat that is trying to avoid a bath, you have every right to conclude that, for our size, we humans are pretty poor runners. Chasing a cat, however, is sprinting. (2) Where we excel is endurance running. Moreover, we run long distances at fast speeds: many joggers do a mile in seven and a half minutes, and top male marathon runners can string five-minute miles together for more than two hours. A jogger could keep up with the trotting speed of a thousand-pound horse. Good endurance runners are rare among animals. Although humans share the ability with some other groups, such as wolves and dogs, hyenas, and horses, we alone among primates can run long distances [A].

What evidence can support the idea that endurance running by itself gave early humans an evolutionary advantage? Many traits, after all, are useful for walking [B] running, such as long legs and the long stride they enable. Running and walking, however, are mechanically different. A walking person is aided by gravity, with his hip swinging over the planted foot. In contrast, a runner bounces along, aided by tendons and ligaments that act as springs, which (3) alternately store and release energy.

(4) Differences in the bodies of humans and chimpanzees highlight the human

adaptations for long-distance running. There are fewer muscle connections between the head and the shoulders in the human than in the chimpanzee. The weaker connection enables the head to move independently of the shoulder, which rotates while running. Both the Achilles tendon of the heel and the tendon of the arch of the foot are much smaller in chimpanzees than they are in humans; in a running person they act like springs, absorbing and releasing energy.

Bramble and Lieberman's wide-ranging analysis makes important corrections to the scientific picture of early humans. Our ancestors may have ranged across large distances in the heat of the African savanna in relatively short spurts of long-distance running, [C] by walking. They [D] dead animals before other scavengers did, or perhaps they were adapted to running down prey before spear throwers or bows were invented. (5) Our current appetite for jogging is made possible by the early selective pressures that made humans one of the most accomplished endurance-running animals.

(注) hyenas :ハイエナ primates :霊長類 tendons :腱(Achilles tendon :アキレス腱)
ligaments :靭帯(じんたい) scavengers:腐肉を食べる動物

1. 下線部(1)の内容と合うように下の英文を完成させたい。最も適したものを a ~ d から一つ選べ。

Chasing a cat that is trying to avoid a bath,

- a. we can say that cats are much smaller but cleverer than we are.
- b. we find that running along with it makes us exhausted but better looking.
- c. we seldom catch up with it even though we are much bigger in size,
- d. we might think that it runs fastest when we are following.

2. 下線部(2)の内容を表すのに最も適したものを a ~ d から一つ選べ。

- a. Our disadvantages in chasing cats
- b. Our primary duties as human beings
- c. Our superior characteristics
- d. The places where we can overtake cats

3.空所[A]に入れるのに最も適したものをa～dから一つ選べ。

- a. at a loss b. for nothing c. in vain d. under weight e. with ease

4.空所[B]と[C]には同じ語句が入る。最も適したものをa～eから一つ選べ。

- a. as long as b. as well as c. in spite of
d. rather than e. regardless of

5.下線部(3)の内容を表すものとして最も適したものをa～dから一つ選べ。

- a. at a distance b. at the same time c. by far d. in turn

6.下線部(4)が言及している人体の特徴に最も合致するものをa～dから一つ選べ。

- a. a bigger Achilles tendon
b. a head that rotates while walking
c. a smaller arch of the foot
d. strong muscle connections between the head and the shoulder

7.空所[D]に、次の【 】内の単語をすべてふさわしい順序に並べ替えよ。

【been, chance, encountering, have, maximize, may, of, the, to, trying】

8.下線部(5)の内容を表すものとして最も適したものをa～dから一つ選べ。

- a. Our desire for jogging nowadays b. Our preference for walking nowadays

- c. Our present advantage in running d. Our recent preparations for jogging

9.本文の内容に合致するものを a～d から一つ選べ。

- a. By examining the Achilles tendon of the chimpanzee, we can conclude that chimpanzees are also endurance runners.
b. Humans overcame climate change not by endurance running but by walking long distance.
c. Our long legs and long stride are more useful for endurance running than for walking.
d. Wolves and dogs share the ability of endurance running with humans.

10.この文章のタイトルとして最も適したものを a～d から一つ選べ。

- a. Humans are Natural Walkers b. Humans are Born to Run
c. The Fastest Runner among Animals d. The Origin of Mankind and Other Animals

(早稲田大学)

次の英文を読んで下の問に答えよ。

America's advantage in higher education has been increasing and will not be challenged by other nations for many decades. It is possible that U.S. universities could decay, but if that happens it is likely to be a slow process and will not, at least for a long time, endanger the U.S. claim to primacy in higher education. Foreign competitors are slowed by the fact that a great university takes decades to be established. To do so requires not only money but also institutional arrangements to attract good students and teachers and dismiss bad ones, management structures to run the university efficiently, effective funding mechanisms, and a host of policies and procedures to ensure excellence. Even in a society as fast-moving as America's, rankings move slowly. Some schools have improved and others have declined, but, of the top ten universities in America, most were already prominent fifty years ago and all are at least one century old.

Japan and Europe could challenge the United States' dominance in higher education. They have the money, cultural resources, and the educated population that are required for such an effort. They already have some excellent universities. To successfully challenge American leadership, however, they would need to carry out dramatic reforms that would be opposed by many groups with special interests, including powerful education ministries, academic administrators, unions representing faculties and staff, and students and their parents. To reenergize their university systems, these countries would need to set up new institutions free from the rules and regulations of the current system. In any case, success is unlikely to be rapid in this field.

The U.S. lead in higher education should therefore continue well into the twenty-first century. The dramatic reversal in the balance of university and research power between the United States and Europe in the twentieth century had several causes. First, the U.S. population and GDP grew at a much higher rate than Europe's. The United States could consequently devote ever-greater resources to education compared with other nations. Second, wars and dictatorships greatly weakened the German cultural sphere. Third, the United States benefited from the enormous investment of the federal government in university education for defense-related

research during World War II and the Cold War and from the GI Bill, which gave millions of Americans the opportunity to attend college. Fourth, the United States developed institutions that are more effective in managing universities and encouraging excellence. Fifth, the openness of the United States to the outside world and the dominant position of the English language have given American education a global reach unmatched anywhere else. Sixth, American universities benefit, in many ways, as a result of being considered number one. For example, the more that U.S. universities dominate academia, the more costly it becomes not to be familiar with research carried out in the United States; and thus more overseas students and scholars seek to come to America for study. This, in turn, further enhances the U.S. position as the center of academic work in the world.

(注)GI BILL:復員兵援護法

1. According to this article, which one of the following is true?
 - a. American universities, especially those in the top rank, are for the most part all less than one hundred years old.
 - b. Foreign universities are not hindered by any outside groups that have particularly strong special interests.
 - c. It is increasingly essential for foreign scholars to know about the research being done in the United States.
 - d. For foreign universities to improve their educational systems, they will merely have to make a few minor adjustments.
 - e. In most societies, including that of America, the rankings of individual universities change quite rapidly.

2. According to this article, which one of the following is true?
 - a. Higher education in the U.S. has not been helped to any significant degree by the global power of English.

- b. Government investment did not play an important role in the development of university education in the U.S.
- c. There is no relationship between economic and population growth and the excellence of university education.
- d. The U.S. has not always been the undisputed leader in the quality of university education and research power.
- e. The way that universities are managed is unrelated to the level of excellence achieved by those universities.

3. Which one of the following best describes the main point of this article?

- a. America has an advantage in higher education, but that advantage is going to be challenged in the very near future.
- b. Foreign universities can, and should, make every effort to overcome the strong lead held by American universities.
- c. It takes many decades to build a world-class university system that is the envy of people all over the world.
- d. The main things that are needed in developing an excellent university system are money and solid administrative arrangements.
- e. There is little chance that the U.S. will lose its prominent lead in higher education for quite a while.

4. According to this article, which one of the following is most likely to occur?

- a. American universities will probably become less attractive in spite of being ranked number one in the world.
- b. The excellence of U.S. higher education ensures that more and more foreign students will want to study in America.
- c. Universities in the U.S. hold many advantages at the present time, but those

advantages will surely decline over time.

- d. It is only a matter of time before European and Japanese universities will overtake the top universities in the U.S.
- e. American universities will be able to hold on to the top position because foreign universities no longer wish to compete.

(早稲田大学)

【解答&解説】

【解答】 1.c 2.c 3.e 4.b 5.d 6.a

7.may have been trying to maximize the chance of encountering

8.a 9.d 10.b

【設問から得られるヒント】

長文問題を解く上で必ずまずやってほしいのは「注釈」や「設問の先読み」。特に「設問の先読み」をすることにより、以下の2つのメリットが得られる。

- ①本文の「テーマ」「展開」「登場人物」等についての予測が立てられる。
- ②設問の対応箇所を探すつもりで本文を読んでいくことができるので、本文中に設問との対応箇所が見つかった時点で解いてしまえる。つまり「読みながら解きながら」ができ、解答時間の短縮につながる。

今回大きなヒントになるのは設問の9.と10.だ。

9.のような内容一致問題については、その選択肢の全てを読んで訳す必要はない。「名詞」を中心にキーワードをピックアップし、それらを大きな枠でとらえ直した時に浮かび上がってくる共通した特徴や概念、あるいは連想されるものを考えてみるといい。それがその英文の「テーマ」である可能性が高いのだ。

9.の場合、

「チンパンジーのアキレス腱（を調べること）」

「チンパンジー」

「持久走(の能力)」

「人間」

「気候変化」

「長距離を歩くこと」

「人間の長い足と長い歩幅」

「歩行」

「狼や犬」

これらから、

- ①「人間」と「他の動物」が、「(長距離を)走る・歩く」能力の点から比較されているのではないか？
- ②「進化」に関する話ではないか？

と予測が立てられる。

10.のような「タイトル選択問題」の場合は、選択肢を全て先読みすることをお薦めする。なぜなら、間違っている選択肢も、本文の語られている内容の一部は表してくれているからなのだ(本文で語られる内容全体を一言で表していないから不正解にはなるのだが)。では訳してみよう。

- a. 人間は生まれつき歩くものである
- b. 人間は走るように生まれついている
- c. 動物の中で最も速く走るもの
- d. 人類と他の動物の起源

これらから「(人間の)進化」「人間と歩行(走ること)」について語られるのであろうことが予測できる。

【展開】

第一パラグラフ

まず第一パラグラフの第一文に着目する。多くの場合、第一パラグラフの第一文には本文の「テーマ」あるいは「トピックセンテンス」が来るものだが、この第一文は現在完了で書かれている。

It has long been believed that long-distance walking played an important role in the evolution of mankind.

長距離歩行は人類の進化に重要な役割を果たした、と長年考えられてきた

「トピックセンテンス」を探す際のその他の注意点でも述べたように、現在完了を主節に用いて筆者の主張が述べられることはまずない。特にここでは「～と長年考えられてきた」とあるので、「もしかしたら現在はそうは考えられていないという展開になるのでは…」と予測がまずできる。

第二文は、第一文の内容を補足する働きをしている。「ヒト属のさまざまな種を(他の種と)区別する特徴の多くは、歩行に役立つものである」から、「歩行」こそ人類の進化に役立ったのだ(と考えられてきた)、と第一文をサポートしている。

その後、第三文に Now で始まる文章が現れる。「過去と現在[代]」が1つの英文で語られる場合、対照的な意味関係になることが多いんだ。ただ、ここで はその後の also という「付け加え」を表す論理マーカから、

「長距離歩行」+「走ること」

が「人類の進化に重要な役割を果たした」というのが、「今」の人類進化に対する考え方なのか、と予想を修正する。そしてこれが「トピックセンテンス」になっているのはいかんと予想する。この時点でもう「10.の答えは b. ではないか」と予測できてしまう。そして「人間は走るように生まれついている(Humans are Born to Run)」を「テーマ」として念頭に置きながら、これ以降の展開をおさえていけばいいと判断できる。

第一パラグラフのまとめ

「長距離歩行だけではなく、走ることも、人類の進化において、重要な役割を果たした」

第二パラグラフ

第二文に however という(大文字ではないが)逆接語が見つかる。筆者の主張は第二文以降にあるのではないかと予想する。すると第三文に

Where we excel is endurance running.

私達が優れている点(ところ)は持久走である

と、先程の「トピックセンテンス」につながる英文が見つかる。そして第四文は Moreover という「付け加え」を表す論理マーカで始まっており、文字通り、人類の、他の種よりすぐれている点についての付け加えが、この後書かれていることが予想できる。実際、

we run long distances at fast speeds

私達は高速で長距離を走る

という内容でそれが確認できる。many joggers 以降は「個別的な事例」であり、直前の内容をサポートする具体例だろうと予想できる。

このパラグラフの最終文で、「長距離を楽々走れる霊長類は、人類だけだ」と「主張の再

提示」をしている。

第二パラグラフのまとめ

「人類が(他の種よりも)優れている点は持久走(長距離を楽に走れること)である」

第三パラグラフ

このパラグラフは、第一文が疑問文だ。パラグラフ冒頭の疑問文は、そのパラグラフの論証すべき「テーマ」を表していることが多いんだ。そこで、

「持久走それ自体が初期の人間に進化上の優位を与えたという考えを裏付ける証拠とは」が本パラグラフの「テーマ」だろうと予想できる。あるパラグラフの冒頭が疑問文の場合、それに対する解答は、基本的にそのパラグラフ内に示されているものである。したがってその「答え(つまりその具体的証拠)」を探るつもりでこのパラグラフを読んでいく。第二文に

「長い脚やそれによって可能となる大きなストライドなどの特徴の多くは、走ることだけでなく歩くことにも役立つ」

といているが、第三文に however という逆接の論理マーカ―があり、第三文以降の方が重要なのだろうと判断できる。

ちなみに、第三文以降の however は、直前の(文の)内容を逆転させる働きをするのみで、そこまでの展開全てをひっくり返すほどの力はない。そのような力を持つ逆接の論理マーカ―は、大文字の But である。But で始まる文を見つけたら、そこまでの展開が、ひっくり返されるのではないかと予測を立ててみるといい。

さて、第三文以降は「人間の腱と靭帯が、人が走るのに多いに役立っている」という内容。どうやら、「持久走それ自体が初期の人間に進化上の優位を与えたという考えを裏付ける証拠」は「人間の腱と靭帯」のようだ。

第三パラグラフのまとめ

「人間の腱と靭帯が、人が走る際に多いに役立っている」

第四パラグラフ

第一文の「人間とチンパンジーの体の違いによって、人間の長距離走への適応が強調されている」がこのパラグラフの「トピックセンテンス」だ。これ以降は、その具体的な体の違いが述べられており、第一文のサポートになっている。

また、第四パラグラフは「人間の腱と靭帯」がどのようにチンパンジーと違うのかが具体的に述べられており、このパラグラフ全体が、第三パラグラフをサポートする働きをしている。

第四パラグラフのまとめ

「人間は頭と肩の筋肉のつながりが少なく(弱く)、また腱が大きいために長距離走がチンパンジーなどよりも得意だ」

第五パラグラフ

第一文でリーバーマンの分析、つまり「走ることも、人類の進化において、重要な役割を果たした」を支持している。important という「主観的な判断を表す形容詞」から、これが「トピックセンテンス」と判断できる。第二文と第三文は、「人間が(長距離を)走ることができたことが、具体的にどのように初期の人間にメリットをもたらしたのか」が書かれており、第一文(「トピックセンテンス」)のサポートになっている。

第五パラグラフのまとめ

「人間は進化の途上ですぐれた長距離を走ることができるようになったおかげで、大きな恩恵を被った」

【設問解説】

1. 《ポイント》

(1) have every right to do[駭]~:~するのはもっともだ[当然だ]

(2) poor には「(…が) 下手な、不得意な」「[能力が] 劣った」という意味がある。

poor runner は「走るのが不得意な者」が直訳。

(ex) I am poor at speaking German. 私はドイツ語がよくできない

a poor correspondent 筆無精

a poor crop[harvest] 不作

(3) for A's size[age]:大きさ[年齢]の割に(は)

(4) conclude は「~だと結論づける」だが、後ろに that節を目的語にとっているので「思う[みなす]」型と判断できる(LESSON BOOK REVIEW Rule-21 を参照せよ)。

(5) それぞれの選択肢の訳は以下の通り。

- a. 「ネコは私達よりもはるかに小さいが、私達より頭がいいとすることができる」
- b. 「それ(ネコ)と一緒に走ることによって私達はヘトヘトになるが見た目が良くなる」
- c. 「私達は大きさの点でははるかに大きい、めったにネコに追いつくことができない」
- d. 「私達が追いかけているとき、ネコは一番速く走ると私達は考えているかもしれない」

2. 《ポイント》

(1) 文頭の Where は、元々関係副詞で、本来「The point where」だったものが先行詞(The point)が省かれたと考えるといい。「~な点」と訳す。

(2) excel の意味は「優れている、勝っている」。

(3) それぞれの選択肢の訳は以下の通り。

- a. 「ネコを追いかける際における私達の短所」
- b. 「私達の人間としての主要な義務」
- c. 「私達の優れた特徴」
- d. 「私達がネコに追いつくことができる場所」

3. 《ポイント》

(1) 第二パラグラフ第三文~第五文の内容から正解が導き出せるはず。

(2) 選択肢の意味は以下の通り。

a. 「途方に暮れて、困ってしまって」

(ex) I was at a loss to explain his absence.

彼が同席していないことをどう説明しようか困ってしまった

b. 「無料で」「無駄に」

(ex) I cannot give this information for nothing.

ただではこの情報はあげられません

She has not read the book for nothing.

彼はその本をむだには読まなかった (読んだだけのことはあった)

c. 「無駄に」

(ex) It was in vain that they tried to rescue the climber.

その登山者を救助しようとしたが無駄だった

d. [under the weight of…で] 「…の重みで、…のせいで」

(ex) Her health failed under the weight of years.

年のせいで彼女の健康は衰えた

e. 「カンタンに、容易に」

4. 《ポイント》

(1) 「歩くこと」「走ること」の両方を初期の人間は行い、それが(進化に)役に立ったことは、筆者は第一パラグラフにおいて既に述べている。

(2) 選択肢の意味は以下の通り。

a. as long as A(時を表す名詞): Aの間, Aもの長い間

(ex) as long as five years 5年もの間

b. A as well as B: BだけでなくAもまた

(ex) The lady gave me clothes as well as money.

その女性は金ばかりでなく着物もくれた

c. in spite of A: Aにもかかわらず

(ex) In spite of the accident, she is quite cheerful.

その事故にもかかわらず、彼女はいたって元気だ

d. A rather than B: BというよりもむしろA

(ex) I would live in a small village rather than in a big city.

私は大都会よりむしろ小さな村で生活をしたい

e. regardless of A: Aと関係なく、Aにもかかわらず

(ex) They will do it regardless of expense.

彼らは費用にかまわずやるつもりだ

5. 《ポイント》

(1) alternately は「交互に」という意味。

(2) それぞれの選択肢の意味は以下の通り。

a. 「ある距離を置いて」

b. 「同時に」

c. ① 「大変、ひどく」

② 「はるかに」 ㊦比較級・最上級を強調する。

d. 「交互に、順番に」

(ex) They sang in turn. 彼らは順番[交互]に歌った

6. 《ポイント》

(1) 下線部(4)の直訳は「人間とチンパンジーの体の違い」。

(2) 本問のようにパラグラフ第一文に下線が引かれている場合、以下のどちらかの可能性が高い。

① 下線部は直前の内容を指している。その場合、冠詞の the, this [these], that [those] などがついていることが多い。

② 下線部の具体的内容は、直後の文章で説明されている。

今回は、下線部の直後の文章をヒントにする、②のタイプだった。それに気づけば a. (より大きなアキレス腱) が正解だとわかったはず。

7. 《ポイント》

(1) may have+p.p. ~: ~した(だった)かもしれない

㊦助動詞の直後の have+p.p. は「過去の目印」と考えるといい。たとえば must(～にちがいない)に have+p.p. がくっつけば「～した(だった)に違いない」、cannot(～するはずがない)に have+p.p. がくっつけば「～した(だった)はずがない」である。

ちなみに should+have+p.p.～は「～すべきだった(のに実際にはしなかった)」、
need not have+p.p.～は「～する必要はなかった(のに実際にはした)」という意味
になる。

- (2)try to do[彫]～:～しようとする
- (3)maximize:～を最大にする
- (4)the chance of doing～:～する可能性
- (5)encounter:～に出くわす、遭遇する

8. 《ポイント》

- (1)appetite for A:Aに対する欲求、興味、好み
直後にfor をとる appetite は「食欲」ではない。
- (2)current:現在の、今日の
- (3)選択肢の意味は以下の通り。
 - a. 「私達が今日ジョギングを好むこと」
 - b. 「私達が今日歩くことを好むこと」
 - c. 「私達が走ることにける現在の強みをもっていること」
 - d. 「私達が最近ジョギングの準備をしていること」

9. 《ポイント》

- (1)d. は、本文第二パラグラフの最終文の内容と一致している。
- (2)選択肢の意味は以下の通り。
 - a. 「チンパンジーのアキレス腱を調べることによって、私達は、チンパンジーもまた持久走者である(長距離を走ることができる)と結論づけることができる」
 - b. 「人間は長距離を走ることによってではなく、長距離を歩くことによって気候の変化を克服した」
 - c. 「私達の長い足と長い歩幅は歩くためよりむしろ持久走に役立つ」
 - d. 「オオカミやイヌは、人間と、長距離を走ることができる能力を共有している」

【全訳】

長距離歩行は人類の進化に重要な役割を果たした、と長年考えられてきた。ヒト属のさまざまな種を区別する特徴の多くは、歩行に役立つものである。すなわち、長い脚、より細いウエスト、より短い足指である。ところが今、ユタ大学の生物学者デニス M. ブランブルとハーバード大学の人類学者ダニエル E. リーバーマンは、私たちの種を形作るにあたって、走ることも重要な役割を果たしたと主張している。

水浴びさせられるのを避けようとする猫を追いかけたことがあれば、私たち人間は、大きいわりには走るのがとても苦手だと結論づけるのも当然だ。ただし、猫を追いかけるには全力疾走がいる。私たちがすぐれているのは持久走である。しかも、私たちは高速で長距離を走る。ジョギングする人の多くは1マイルを7分半で走り、男子マラソンの一流選手は1マイル5分のペースを2時間以上続けられる。ジョギングする人は1,000ポンドの馬が速歩するスピードについていけるだろう。動物で持久走が得意なものはめったにいない。人間はオオカミや犬、ハイエナ、馬等、他のいくつかのグループとこの能力を共有しているが、長距離を楽々走れるのは霊長類では私たちだけである。

持久走それ自体が初期の人間に進化上の優位を与えたという考えを裏付ける証拠としてはどんなものがあるだろうか。長い脚やそれによって可能となる大きなストライドなどの特徴の多くは、走るだけでなく歩くことにも役立つ。ただし、走ることと歩くことには力学的な違いがある。歩く人は地面につけた足に体重をかけて腰をひねり、重力に助けられる。対照的に、走る人は、スプリングの役目を果たしてエネルギーの貯蔵と放出を交互に行う腱と靭帯に助けられて、はずみながら進むのである。

人間とチンパンジーの体の違いによって、人間の長距離走への適応が強調されている。人間はチンパンジーより頭と肩の筋肉のつながりが少ない。つながりが弱いおかげで、頭は走行中に回転する肩とは独立して動くことができる。チンパンジーのアキレス腱と土踏まずの腱は、どちらも人間よりずっと小さい。人間が走る場合、それらはスプリングの役目を果たし、エネルギーを吸収して放出するのである。

ブランブルとリーバーマンの幅広い分析は、初期の人間に対する科学的な見方に重要な訂正を加えるものだ。私たちの祖先はアフリカのサバンナの暑さの中で、歩くだけでなく、比較的短時間の長距離走をしながら広い範囲を動き回っていたのかもしれない。彼らは、ほかの死骸清掃動物に先んじて、動物の死体に出くわす可能性を最大限にしようとしていたのかもしれないし、槍投げ器や弓が発明される前は、獲物を追いかけて捕まえるのに適応していたのかもしれない。現在私たちがジョギングを好むのは、人間をすぐれた持久走動物にした

初期の淘汰（とうた）圧力のおかげなのである。

【words&phases】

第一パラグラフ

play a ~ role in A: Aにおいて～な役割を果たす
evolution: 進化
feature: 特徴
distinguish: ～を区別する
various: 様々な
species: 種
Homo: ヒト属
anthropologist: 人類学者 cf; anthropology: 人類学
claim that S+V ~: ～だと主張する
shape: ～を形作る

第二パラグラフ

chase: ～を追いかける
avoid: ～を避ける
sprint: (短距離を) 全速力で走る
endurance: 耐久性[力] cf; endure: ～に耐える
string: 一続き[一列]になって進む[動く]
keep up with A: Aに遅れずについていく
trot: (馬が) 速歩で進む
rare: めずらしい
primate: 霊長類

第三パラグラフ

evidence: 証拠
support: ～を裏付ける、支持する
by oneself: それ自体

advantage:利点、強み、メリット

trait:特徴

stride:歩幅

mechanically:力学的に

aide:～を助ける

gravity:重力

swing:振る

planted foot:(地面に)しっかりと立った足 cf; plant:しっかりと立たせる

in contrast:(それとは)対照的に

bounce:跳ねる

act as A:Aとして(の)役目を果たす、機能する

spring:バネ

store:～を貯蔵する、貯める

release:～を開放する

第四パラグラフ

highlight:～を強調する

adaptation for A:Aへの適応

muscle:筋肉

connection:つながり

enable O to do[願]～:Oが～するのを可能にする

independently (of A):(Aから)独立して、別個に

rotate:回転する

heel:かかと

the arch of foot:土踏まず

absorb:～を吸収する

第五パラグラフ

wide-ranging:幅広い

analysis:分析

make corrections:訂正する、直す

picture: イメージ、見方

ancestor: 祖先

range: ～を歩き[動き]回る

relatively: 比較的(に)

spurt: 力走

adapt to A: Aに順応[適応]する

run down prey: 獲物を追いかけて回す

spear thrower: 槍(やり)投げ器

bow: 弓

invent: ～を発明する

selective pressure: 淘汰の圧力

accomplished: 優れた、熟達した

【解答】 1.c 2.d 3.e 4.b

【設問から得られるヒント】

まずは、選択肢の「名詞」を中心にキーワードをピックアップして、そこから浮かび上がってくる共通した特徴や概念、あるいは連想されるものを考えてみる。すると見えてくるのは「アメリカの大学教育[高等教育]の優秀性」だ。

【展開】

第一パラグラフ

まず第一パラグラフの第一文に着目する。

America's advantage in higher education has been increasing and will not be challenged by other nations for many decades.

高等教育におけるアメリカの優位は高まり続けており、この先何十年も他国を寄せつけないだろう

前半は現在完了進行形で書かれているが、and の後ろの will に着目し、この英文が、このパラグラフのトピックセンテンスであると同時に、本文全体を貫くトピックセンテンスになっているとみる。「現在完了進行形+未来時制」で「過去(のある時期から)・現在・未来」に渡ってアメリカの高等教育における優位に揺るぎがないことが強調されているのだらうとみる(したがってこれは「現在完了進行形を用いた英文があったら、その逆の内容が筆者の主張であることが多い」というルール例外)。そしてこれは、設問の先読みからのテーマ予想とも一致する。

この後はサポートで、「アメリカの大学の衰退の可能性」についても言及しながらも、優秀な大学を作ることの難しさが

- ①資金
- ②優秀な学生や教師を引きつけ、劣った者は辞めさせる制度上の取り決め
- ③大学を効率的に運営する経営構造や、効果的な資金集めの仕組み
- ④優秀さを保証する多くの方策や手続き

などの点からも難しいことが指摘されている。

第一パラグラフのまとめ

「高等教育におけるアメリカの優位は高まり続けており、諸々の点からかんがみて、この先何十年も他国を寄せつけないだろう」

第二パラグラフ

第一文は、本文全体を貫いているトピックセンテンス(第一パラグラフ第一文)の内容と明らかに矛盾する。

Japan and Europe could challenge the United States' dominance in higher education.

日本とヨーロッパは、高等教育におけるアメリカの優勢に挑戦することができるであろう

それに第三パラグラフの第一文では、また「高等教育におけるアメリカの優位は21世紀になっても続くであろう」と、言っているところから、この部分は「譲歩」の内容で、この後「逆接の論理マーカー」が現れ、その後で筆者の先程の主張へとまた戻っていくのではないかと予想する。すると第四文に *however* という、予想通りの「逆接の論理マーカー」が登場する。

To successfully challenge American leadership, *however*, they would need to carry out dramatic reforms that would be opposed by many groups with special interests, including powerful education ministries, academic administrators, unions representing faculties and staff, and students and their parents.

しかし、アメリカの指導的立場に挑んで成功するには劇的な改革を実行する必要があるが、それは多くの特別権益団体、例えば有力な教育省、教育分野の行政担当者、教員や職員を代表する組合、学生と親たちの反対にあうだろう。

と、日本とヨーロッパの大学の前に立ちはだかるハードルをあげ、アメリカの優位を揺るがすことの難しさを暗に述べている。

ちなみに *including* だが、「～をふくめて」と訳すのもいいが、速読のためには

「including は for example と同じで『例えば~のような』と訳すといいことが多い。
including の後ろには直前の内容の具体例が来る」

と覚えておくといい。たしかに including 以降は many groups with special interests(多くの特別権益団体)の具体例になっている。そしてそのことがわかれば、many groups with special interests(を含む部分)の意味が(たとえ)わからなくても、(具体例となっている including 以下の内容をそこに当てはめて)「有力な教育省、教育分野の行政担当者、教員や職員を代表する組合、学生と親たちの反対にあうであろう劇的な改革」と訳せばこの箇所をなんとか切り抜けてしまうことができるのだ。ぜひ覚えておこう。

このパラグラフは最終文で、日本とヨーロッパの大学がアメリカの優位を揺るがすことの難しさを述べて締めている。これがこのパラグラフのトピックセンテンスと見ていい。

In any case, success is unlikely to be rapid in this field.

いずれにしても、この分野ですぐに成功することは考えにくい

第二パラグラフのまとめ

「日本やヨーロッパの大学が、アメリカの高等教育における優位を揺るがすのは難しい」

第三パラグラフ

第一文で therefore という、前後を「原因と結果(結論)」の関係で結ぶ論理マーカーが使われている。つまり第二パラグラフの内容を「原因」とする「結果[結論]」が第三パラグラフの主旨であると判断できる。

The U.S. lead in higher education should therefore continue well into the twenty-first century.

それ故、高等教育におけるアメリカの優位は21世紀になっても続くであろう

これは本文全体を貫くトピックセンテンスの内容とも一致する。この英文がこのパラグラフのトピックセンテンスと見ていい。その後の第二文だが、

The dramatic reversal in the balance of university and research power between the United States and Europe in the twentieth century had several causes.

20世紀にアメリカとヨーロッパの間で大学と研究に関する力関係のバランスが劇的に逆転したのには、いくつか原因があった

と、これ以降は、なぜアメリカの高等教育がヨーロッパのそれをしのぐようになったのか、その理由(原因)が語られることが予想できる。

ここで着目したいのが「いくつかの」という意味の *several* だ。

「*several, different, various, a variety of, some* など、「いくつかの(いろいろな・様々な)」「ある」といった形容詞のついた(複数)名詞は、直後で詳しく(具体的に)言い換えられる[説明し治される]可能性が高い」

というルールがある。そこで *several causes* はこの後、具体的に説明されるであろうことを予想する。すると直後に *First*、それ以降で *Second, Third, Fourth, Fifth, Sixth* と「具体例の列挙[記]を表す論理マーカー」が見つかる。「アメリカの高等教育がヨーロッパのそれをしのぐようになった理由[原因]」が6つに渡って具体的に述べられているのであろうことがわかる。以下がその理由のまとめだ。

- ①アメリカの人口とGDPの急激な増加（結果としてアメリカは他国よりもはるかに大きな資源を教育につぎ込むことができた）。
- ②戦争と独裁政権によるドイツ文化圏の弱体化。
- ③第2次世界大戦と冷戦中の連邦政府による防衛関連研究のための大学教育への多大な投資。
復員兵援護法（多くのアメリカ人に大学進学の手助けを与えた）。
- ④大学の効果的運営、と諸制度の整備。
- ⑤外国に対する門戸の開放と英語の支配的な地位によるアメリカ教育の世界への拡大。
- ⑥アメリカの大学はナンバーワンと見なされていることによる恩恵。

第三パラグラフのまとめ

「諸々の理由から、高等教育におけるアメリカの優位は21世紀になっても続くであろう」

【設問解説】

1. 《ポイント》

(1)設問の意味は「本文によれば、以下の選択肢のうちどれが正しいか」。

(2)各選択肢の意味は以下の通り。

- a. 「アメリカの、特にトップ10に入る大学は、たいていみな100年未満の歴史である」
※第一パラグラフ最終文に不一致。
- b. 「外国の大学は、非常に強い特別権益をもついかなる外部団体によっても邪魔されることはない」
※第二パラグラフ第四文に不一致。
- c. 「外国の学者にとって、アメリカでなされた調査研究について知ることは、ますます必要不可欠になってきている」
※第三パラグラフ第10文に一致。
- d. 「外国の大学が、自らの教育制度を改善するためには、2、3の小さな調整をしさえすればいい」
※第二パラグラフ第四～五文に不一致。
- e. 「アメリカを含むほとんどの社会において、個々の大学のランキングは極めて急速に変わる」
※第一パラグラフ第五文に不一致。

2. 《ポイント》

(1)設問の意味は「本文によれば、以下の選択肢のうちどれが正しいか」。

(2)各選択肢の意味は以下の通り。

- a. 「アメリカの高等教育は、英語のもつ世界的な力によって全く助けられていない」
※第三パラグラフ第八文に不一致。
- b. 「政府の投資は、アメリカにおける大学教育の発展に重要な役割を果たさなかった」
※第三パラグラフ第六文に不一致。
- c. 「経済と人口の成長と大学教育の優秀性の間には関連性がない」
※第二パラグラフ第二文に不一致。
- d. 「アメリカは大学教育の質と研究能力の点においてこれまで常に議論の余地のないリーダーであったわけではない」
※第三パラグラフの第二文に一致。この第二文で筆者は、「20世紀に、アメリカとヨ

ヨーロッパの間で、大学と研究に関する力関係のバランスが劇的に逆転した」と述べている。書かれていることの裏側を読めば、「20世紀のある時点まではヨーロッパの大学の方がアメリカよりも優位に立っていた」ということ。つまり選択肢は本文と矛盾しないのである。

- e. 「大学の運営の仕方は、その大学によってなし遂げられる優秀さのレベルと無関係である」

※第三パラグラフ第七文に不一致。

3. 《ポイント》

(1)設問の意味は「以下の選択肢のうちどれが本文の主旨を最もよく説明しているか」

(2)選択肢の意味は以下の通り。

- a. 「アメリカは高等教育における優位を誇っているが（勝っている）が、その優位は近い将来脅かされることだろう」
 - b. 「外国の大学は、アメリカの大学によって保たれている大きな優位を克服する（はねのける）ためにあらゆる努力をすることができるし、またそうすべきだ」
 - c. 「世界中の人たちがうらやむような世界クラスの大学制度を作りあげるのには、何十年がかかる」
 - d. 「優秀な大学制度を発展させるのに必要となる主要なものは、資金としっかりとした行政上の取り決めである」
 - e. 「長いことアメリカが、高等教育における大きな優位を失う可能性はほとんどない」
- (3)本文の第一文（トピックセンテンス）が理解できればカンタンにe. が正解とわかったはず。

4. 《ポイント》

(1)設問の意味は「本文によれば以下の選択肢のうち、どれが最も起こる可能性が高いか」

(2)選択肢の意味は以下の通り。

- a. 「世界ナンバーワンにランクされているにも関わらず、アメリカの大学はおそらく魅力的でなくなっていくだろう」
- b. 「アメリカの高等教育の優秀性は、確実に、ますます多くの外国の学生たちがアメリカで勉強したいと思うようにせしめるであろう」
- c. 「アメリカの大学は現時点で多くの優位な点を持っている。しかしそれらの優位は時

がたてば確実に低下するだろう」

- d. 「ヨーロッパや日本の大学がアメリカのトップの大学に追いつくのは、単に時間の問題だ」
- e. 「アメリカの大学はトップの地位を保ち続けることができるであろう。というのは外国の大学はもはや競争したいと思っていないからだ」

(3)b. が第三パラグラフ第10文、11文に一致する。よってこれが正解。

【全訳】

高等教育におけるアメリカの優位は高まり続けており、この先何十年も他国を寄せつけないだろう。アメリカの大学が衰退することはあり得るが、そうなるとしてもそれは徐々に起こることであり、少なくとも、長期にわたって高等教育におけるアメリカの優位が脅かされることはないであろう。すぐれた大学を確立するには何十年もかかるので、外国の競争相手はなかなか追いつけない。そうするには、資金だけでなく、優秀な学生や教師を引きつけ、劣った者は辞めさせる制度上の取り決めや、大学を効率的に運営する経営構造や、効果的な資金集めの仕組みや、優秀さを保証する多くの方策や手続きが必要である。アメリカのように動きの激しい社会でも、序列はなかなか変わらない。向上した学校もあれば衰退した学校もあるが、アメリカの大学の上位10校のほとんどは、50年前にはすでに傑出していたし、どの大学も少なくとも1世紀の歴史を持っている。

日本とヨーロッパは、高等教育におけるアメリカの優勢に挑戦することができるであろう。両者にはそのような行動に必要な資金も、文化的資源も、教育程度の高い人物もそろっている。既にいくつか優秀な大学もある。しかし、アメリカの指導的立場に挑んで成功するには劇的な改革を実行する必要があるが、それは有力な教育省、教育分野の行政担当者、教員や職員を代表する組合、学生と親たちを含む多くの特別権益団体の反対にあうであろう。大学別度を再活性化するには、これらの国々は現行制度の規則や規制から自由な新しい機関を設立する必要がある。いずれにしても、この分野ですぐに成功することは考えにくいのである。

それ故、高等教育におけるアメリカの優位は21世紀になっても続くであろう。20世紀にアメリカとヨーロッパの間で大学と研究に関する力関係のバランスが劇的に逆転したのは、いくつか原因があった。まず第一に、アメリカの人口とGDPはヨーロッパよりはるかに急激な率で増加した。その結果、アメリカは他国よりもはるかに大きな資源を教育につぎ込む

ことができた。2番目に、戦争と独裁政権がドイツ文化圏を大いに弱体化させた。3番目に、第2次世界大戦と冷戦の間、アメリカは、連邦政府による防衛関連研究のための大学教育への多大な投資や、何百万人もアメリカ人に大学進学の手を渡した復員兵援護法の恩恵を受けた。4番目に、アメリカは大学をより効果的に運営し、長所を伸ばすような制度を発達させた。5番目に、アメリカの外の世界に対する公開の程度と、英語の支配的な地位のおかげで、アメリカの教育はほかに類を見ないほど世界的に広がった。6番目に、アメリカの大学はナンバーワンと見なされているのおかげで、多くの点で利益を得ている。例えば、アメリカの大学が学術的世界を支配すればするほど、アメリカで行われている研究をよく知らないことは高つくようになる。したがって海外のますます多くの学生や研究者たちがアメリカに研究をしに来ようとする。今度はそれが世界の学問の中心としてのアメリカの地位をいっそう高めるのである。

【words & phrases】

第一パラグラフ

advantage: 優位(な点)

challenge A: A(陳述・資格など)に対して(その妥当性を)争う、Aに挑む

decade: 十年

decay: 腐敗する、衰退する

be likely to do[駢] ~: ~する可能性がある

at least: 少なくとも

endanger A: Aを危険にさらす

claim to A: Aに対する資格、権利

primacy: 第1位

competitor: 競争相手

slow A: Aの速度を遅くする[落す]、Aを遅らせる

establish A: Aを確立する

institutional arrangement: 制度上の取り決め

attract A: Aを引きつける

dismiss A: Aを辞めさせる

management structure: 経営構造

run A: Aを運営する
efficiently: 効率的に
effective: 効果的な
funding mechanism: 資金集めの仕組み
a host of A: 多くのA
policy: 方策、方針
procedure: 手続き
ensure A: Aを確実にする
excellence: 優秀性
improve: 向上する、改善する
decline: 衰退する
prominent: 傑出した

第二パラグラフ

dominance: 支配、優勢
resources: 資源
educated: 教養のある、教育程度の高い
leadership: 指導的な立場
carry out A: Aを実行する
reform: 改革
oppose A: Aに反対する
interest: 権益、利権
education ministry: 教育省
academic administrator: 教育分野の行政担当者
union: 組合
represent A: Aを代表する
faculty and staff: 教職員
reenergize A: Aを再活性化する
set up A: Aを設立する
institution: ①機関 ②制度
regulation: 規制

current:現在の
in any case:いずれにせよ
rapid:急速な
field:分野

第三パラグラフ

lead:優位
reversal:逆転
cause:原因
consequently:その結果
devote A to B:AをBに捧げる[注ぐ]
compared with A:Aと比較して
dictatorship:独裁政権
weaken A:Aを弱める
cultural sphere:文化圏
benefit:利益を得る
enormous:巨大な
investment:投資
federal government:連邦政府
defense-related:防衛関連の
Cold War:冷戦
opportunity:機会
encourage A:Aを促す、伸ばす
openness:開かれていること、開放
dominant:優位な、支配的な
global:世界的な
reach:(知力・勢力・理解などの)及ぶ範囲
unmatched:無比の、匹敵する相手がいない
in many ways:多くの点で
as a result of A:Aの結果として
consider O C:OをCとみなす

overseas:海外の

seek to do[願]～:～しようとする

in turn:今度は

enhance A: Aを高める

academic work:学問[研究]